

令和元年度（2019年度）健康福祉に関する意識調査の実施結果について

1 内容

区民の健康福祉に関する関心や健康福祉サービスに対する意見を把握し、事業や施策の達成状況の評価や、見直し・改善に活用するため、毎年実施している。

このたび、調査結果を取りまとめたので報告する。

2 調査の概要

調査対象者	20歳以上の区民
調査標本数	3,000名
有効回収数（率）	1,028名（回収率34.3%）
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	令和元年（2019年）5月9日～5月31日

3 調査項目

調査項目は、調査回答者の属性の他、（1）地域活動、（2）医療・健康、（3）制度等、（4）相談窓口の4項目について、基本設問から分岐した設問を含め全61問を設定した。

4 調査結果

集計は、単純集計及び回答者属性とのクロス集計を行った。各項目について、調査結果の一部を以下に記載する。

（1）地域活動について

- 地域活動への参加状況は「参加していない」が75.1%で最も高く、20歳～30歳代で約9割となっている。
- 近隣同士の見守り・支えあい活動は「必要だと思う」が71.0%で、必要だと思う見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が64.8%で最も高くなっている。
- 最近1年間に、街で困っている人の手助けをしたことが「ある」が46.9%、「ない」が51.8%で、行った手助けのうち「乗り物等で席を譲った」、「道を教えた」は過半数に達している。
- 民生委員の地域での活動の認知度は、「活動内容を知っている」、「活動内容は知らないが、委員がいることは知っている」を合わせて69.2%となっている。性別にみると女性（73.1%）が男性（63.5%）を約10%上回っている。

(2) 医療・健康について

- 現在の健康状態について、「健康である」、「どちらかといえば健康である」を合わせて79.9%であり、健康であると感じている人の割合は年代が上がるにつれ減少している。
- 1回30分以上の連続した運動を週に1～2回以上「継続的に行っている」、「ときどき行っている」を合わせた割合が最も高いのは70歳代で61.7%となっている。
- 喫煙状況について「毎日吸っている」、「ときどき吸う日がある」を合わせて14.9%であり、そのうち「禁煙をしたい」、「吸う本数を減らしたい」が59.1%となっている。
- 長期療養が必要になった際、「医療機関や施設に入院・入所したい」が42.4%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が32.3%で、入院・入所を希望する理由は「家族に負担をかけるから」が70.9%となっている。

(3) 制度等について

- ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」、「あることは知っているが、意味は知らない」を合わせて64.5%で、年代別にみると20歳代で85.6%と最も高くなっている。
- 認知症の症状について知っている人は73.8%で、そのうち基本的な対応方法を知っている人は27.6%となっている。
- 「成年後見制度」という言葉やしくみについて「知っている」、「だいたい知っている」を合わせて37.4%で、年代別にみると60歳代が49.0%で最も高くなっている。

(4) 相談窓口について

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別にみると、20歳代と40歳代～50歳代では「区民活動センター」、30歳代では「すこやか福祉センター」、60歳代以上では「地域包括支援センター」となっている。

(5) その他

健康福祉行政全体や今回の調査についての意見・要望欄の記載は229件あり、本調査についてが49件と最も多く、健康福祉全般に関するものが37件、情報提供に関するものが30件となっている。

5 今後の予定

調査結果を区ホームページに掲載するとともに、調査報告書を区政資料センター、すこやか福祉センター、区民活動センター、図書館に備え、区民の閲覧に供する。

**令和元年度（2019年度）
健康福祉に関する意識調査
報告書**

**令和元年（2019年）9月
中野区**

はじめに

区は「健康福祉都市なかの」の実現に向け、住まい、健康づくり、予防、見守り、介護、生活支援、医療等が一体的に提供される「すべての区民を対象とする地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。

この調査はその一環として毎年実施しているものであり、区民の方々に健康福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区の実践が区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。健康福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民の皆様に対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

令和元年（2019年）9月

中野区健康福祉部

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の内容.....	3
3. 調査の設計.....	3
4. 回収状況.....	3
5. 報告書を読む際の留意点.....	3
II 調査対象者の属性	5
1. 性別.....	7
2. 年齢.....	7
3. 職業.....	8
4. 世帯構成.....	8
5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）.....	9
6. 日常的に家族の介護をしているか.....	10
7. 住居形態.....	11
8. 居住年数.....	12
9. 居住地域.....	13
10. 母集団と調査回答者の推移.....	17
III 調査結果の分析	19
1. 地域活動について.....	21
1.1. 地域の活動への参加.....	21
1.2. 近所とのつきあいの程度.....	23
1.3. 近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性.....	27
1.3.1. 必要だと思う見守り・支えあい活動.....	29
1.3.2. 見守り・支えあい活動の実施状況.....	30
1.3.3. 見守り・支えあい活動をしていない理由.....	32
1.3.4. 見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけ.....	33
1.3.5. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無.....	34
1.4. 地域における住民同士の交流の場の有無.....	35
1.5. 街で困っている人の手助けをしたことの有無.....	37
1.5.1. 手助けをした人.....	39
1.5.2. 行った手助け.....	40
1.6. 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策.....	42

1. 7. 民生委員の活動の認知度.....	45
1. 8. 高齢者会館の利用状況.....	47
1. 8. 1. 高齢者会館を利用していない理由.....	49
2. 医療・健康について.....	51
2. 1. 健康感.....	51
2. 2. 健康増進のための運動習慣.....	53
2. 2. 1. 運動・スポーツを続けている期間.....	55
2. 2. 2. 運動・スポーツを行う場所.....	57
2. 2. 3. 運動・スポーツを行わない理由.....	60
2. 3. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと.....	63
2. 4. 積極的に体を動かすことを心がけているか.....	68
2. 5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して、どのような形で関わりたいか.....	70
2. 6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと.....	73
2. 7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容.....	74
2. 8. 食生活で心がけていること.....	75
2. 9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか.....	77
2. 10. 健康診断の受診頻度.....	79
2. 10. 1. 健康診断の受診場所.....	82
2. 10. 2. 健康診断結果の活用方法.....	85
2. 10. 3. 健康診断を受けなかった理由.....	87
2. 11. かかりつけの診療所の有無.....	90
2. 11. 1. かかりつけの診療所からのアドバイス.....	92
2. 12. かかりつけの歯科診療所の有無.....	94
2. 12. 1. かかりつけの歯科診療所での受診内容.....	96
2. 13. かかりつけの薬局の有無.....	97
2. 14. 地域の救急医療体制が整っているか.....	99
2. 15. 医療・介護サービスや見守り環境の状況.....	101
2. 16. 長期療養が必要になった場合の生活.....	103
2. 16. 1. 長期療養の際、入院・入所したい理由.....	106
2. 17. 「摂食・えん下障害」の認知度.....	110
2. 18. 自身や家族がうつ病になった際の相談先.....	112
2. 19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか.....	114
2. 20. 今後必要な自殺対策.....	116
2. 21. 感染症の予防で心がけていること.....	119
2. 22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか.....	121
2. 23. 食中毒に関する認識.....	123

2. 24. 喫煙の状況.....	125
2. 24. 1. 今後禁煙したいか.....	126
3. 制度等について.....	127
3. 1. 「障害者差別解消法」についての認知度.....	127
3. 1. 1. 「障害者差別解消法」の認知方法.....	129
3. 2. 障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと.....	131
3. 3. ヘルプマークの認知度.....	133
3. 4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度.....	134
3. 5. 認知症についての理解度.....	136
3. 6. 「成年後見制度」の認知度.....	138
4. 相談窓口について.....	140
4. 1. 健康福祉の相談窓口の身近さ.....	140
4. 2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度.....	142
5. その他.....	144
5. 1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）.....	144
IV 調査票と単純集計.....	151

I 調査の概要

1. 調査の目的

健康福祉に係わる関心や健康福祉サービスに対する意見などを把握し、区の事業や施策の達成状況の評価や、見直し・改善を図る指標として活用するため、20歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

2. 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康について
- (4) 制度等について
- (5) 相談窓口について
- (6) その他

3. 調査の設計

- ・調査対象：満20歳以上の区民（基準日：平成31年4月1日時点 293,435人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：令和元年5月9日～5月31日
- ・調査機関：株式会社アイアールエス

4. 回収状況

標本数	有効回収数	回収率
3,000	1,028	34.3%

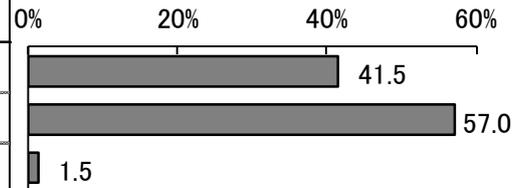
5. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数値は回答者数（単位：人）を、下段の数値は割合（単位：%）を表す。
- 年齢とのクロス集計において、90歳以上については母数が少ないため、統計学的に有意のものとは言えないが、参考として数値を明示している。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。

Ⅱ 調査対象者の属性

1. 性別

	基数	構成比(%)
男性	427	41.5
女性	586	57.0
無回答	15	1.5
全体	1,028	100.0



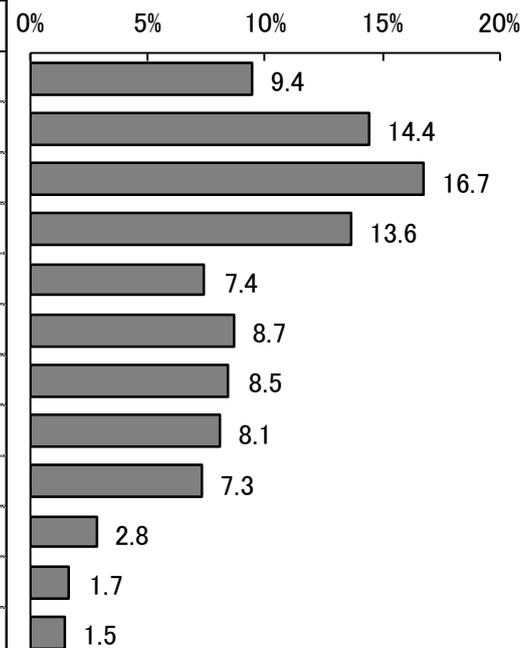
■年代別

上段:人、下段:%

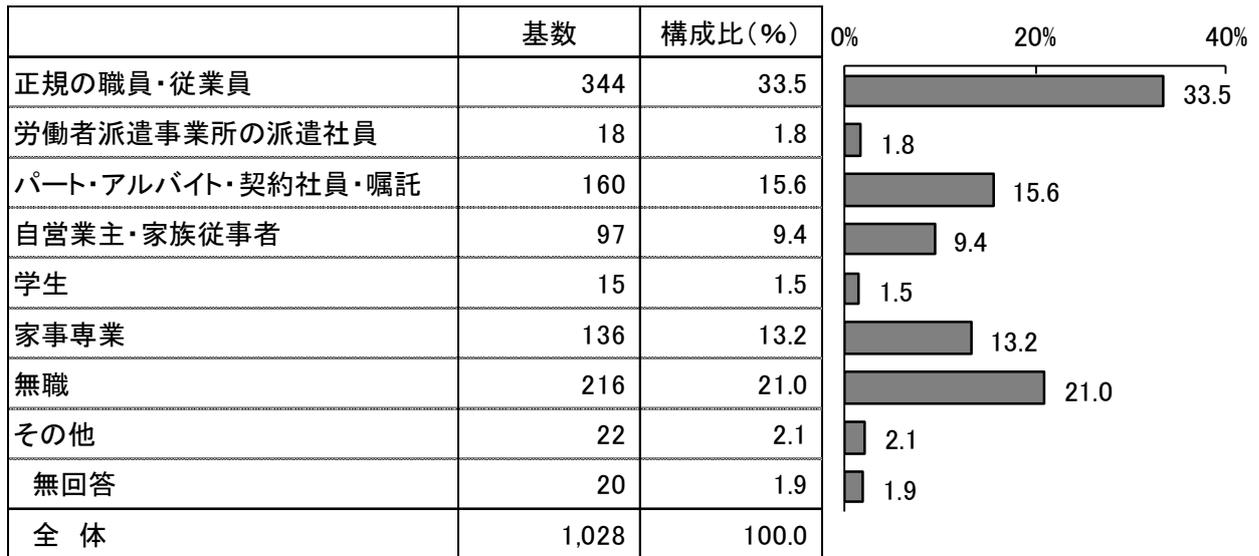
	n	男性	女性	無回答
全体	1028	427	586	15
	100.0	41.5	57.0	1.5
20歳代	97	40	57	-
	100.0	41.2	58.8	-
30歳代	148	64	84	-
	100.0	43.2	56.8	-
40歳代	172	70	102	-
	100.0	40.7	59.3	-
50歳代	140	53	87	-
	100.0	37.9	62.1	-
60~64歳	76	41	35	-
	100.0	53.9	46.1	-
65~69歳	89	34	55	-
	100.0	38.2	61.8	-
70~74歳	87	46	41	-
	100.0	52.9	47.1	-
75~79歳	83	39	44	-
	100.0	47.0	53.0	-
80~84歳	75	25	50	-
	100.0	33.3	66.7	-
85~89歳	29	12	17	-
	100.0	41.4	58.6	-
90歳以上	17	3	14	-
	100.0	17.6	82.4	-

2. 年齢

	基数	構成比(%)
20歳代	97	9.4
30歳代	148	14.4
40歳代	172	16.7
50歳代	140	13.6
60~64歳	76	7.4
65~69歳	89	8.7
70~74歳	87	8.5
75~79歳	83	8.1
80~84歳	75	7.3
85~89歳	29	2.8
90歳以上	17	1.7
無回答	15	1.5
全体	1,028	100.0



3. 職業

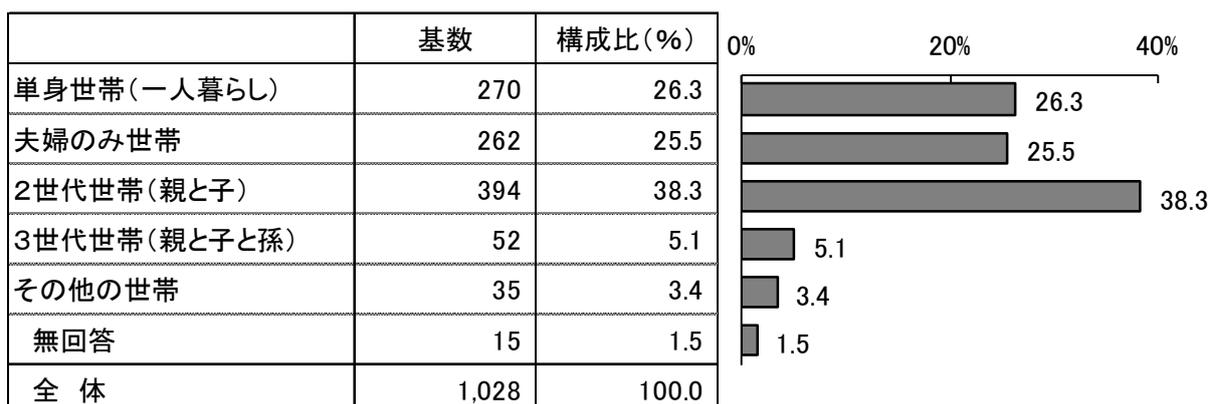


■年代別

上段: 人、下段: %

	n	正規の職員・従業員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト・契約社員・嘱託	自営業主・家族従事者	学生	家事専業	無職	その他	無回答
全体	1,028	344	18	160	97	15	136	216	22	20
	100.0	33.5	1.8	15.6	9.4	1.5	13.2	21.0	2.1	1.9
20歳代	97	55	-	14	5	15	2	6	-	-
	100.0	56.7	-	14.4	5.2	15.5	2.1	6.2	-	-
30歳代	148	98	2	22	13	-	8	3	2	-
	100.0	66.2	1.4	14.9	8.8	-	5.4	2.0	1.4	-
40歳代	172	93	7	31	18	-	14	6	2	1
	100.0	54.1	4.1	18.0	10.5	-	8.1	3.5	1.2	0.6
50歳代	140	60	3	36	13	-	16	9	2	1
	100.0	42.9	2.1	25.7	9.3	-	11.4	6.4	1.4	0.7
60～64歳	76	20	1	21	8	-	10	13	3	-
	100.0	26.3	1.3	27.6	10.5	-	13.2	17.1	3.9	-
65～69歳	89	8	2	17	11	-	20	26	5	-
	100.0	9.0	2.2	19.1	12.4	-	22.5	29.2	5.6	-
70～74歳	87	4	3	11	10	-	17	40	2	-
	100.0	4.6	3.4	12.6	11.5	-	19.5	46.0	2.3	-
75～79歳	83	3	-	7	8	-	24	40	-	1
	100.0	3.6	-	8.4	9.6	-	28.9	48.2	-	1.2
80～84歳	75	2	-	1	7	-	18	44	3	-
	100.0	2.7	-	1.3	9.3	-	24.0	58.7	4.0	-
85～89歳	29	1	-	-	3	-	5	18	2	-
	100.0	3.4	-	-	10.3	-	17.2	62.1	6.9	-
90歳以上	17	-	-	-	1	-	2	11	1	2
	100.0	-	-	-	5.9	-	11.8	64.7	5.9	11.8

4. 世帯構成



■年代別

上段:人、下段:%

	n	単身世帯 (一人暮らし)	夫婦のみ世帯	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
全体	1,028	270	262	394	52	35	15
	100.0	26.3	25.5	38.3	5.1	3.4	1.5
20歳代	97	42	11	38	3	3	-
	100.0	43.3	11.3	39.2	3.1	3.1	-
30歳代	148	39	36	66	3	4	-
	100.0	26.4	24.3	44.6	2.0	2.7	-
40歳代	172	43	34	81	7	7	-
	100.0	25.0	19.8	47.1	4.1	4.1	-
50歳代	140	28	19	81	9	3	-
	100.0	20.0	13.6	57.9	6.4	2.1	-
60～64歳	76	16	27	29	3	1	-
	100.0	21.1	35.5	38.2	3.9	1.3	-
65～69歳	89	19	35	26	6	3	-
	100.0	21.3	39.3	29.2	6.7	3.4	-
70～74歳	87	29	32	19	2	5	-
	100.0	33.3	36.8	21.8	2.3	5.7	-
75～79歳	83	22	36	12	10	3	-
	100.0	26.5	43.4	14.5	12.0	3.6	-
80～84歳	75	18	23	25	6	3	-
	100.0	24.0	30.7	33.3	8.0	4.0	-
85～89歳	29	8	9	10	1	1	-
	100.0	27.6	31.0	34.5	3.4	3.4	-
90歳以上	17	6	-	7	2	2	-
	100.0	35.3	-	41.2	11.8	11.8	-

5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）

	基数	構成比(%)
いる	185	38.5
いない	290	60.3
無回答	6	1.2
全体	481	100.0

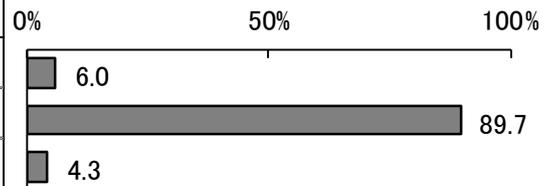
■年代別

上段:人、下段:%

	n	いる	いない	無回答
全体	481	185	290	6
	100.0	38.5	60.3	1.2
20歳代	44	12	32	-
	100.0	27.3	72.7	-
30歳代	73	56	16	1
	100.0	76.7	21.9	1.4
40歳代	95	65	30	-
	100.0	68.4	31.6	-
50歳代	93	35	58	-
	100.0	37.6	62.4	-
60～64歳	33	4	29	-
	100.0	12.1	87.9	-
65～69歳	35	3	31	1
	100.0	8.6	88.6	2.9
70～74歳	26	1	24	1
	100.0	3.8	92.3	3.8
75～79歳	25	5	20	-
	100.0	20.0	80.0	-
80～84歳	34	4	29	1
	100.0	11.8	85.3	2.9
85～89歳	12	-	11	1
	100.0	-	91.7	8.3
90歳以上	11	-	10	1
	100.0	-	90.9	9.1

6. 日常的に家族の介護をしているか

	基数	構成比(%)
はい	62	6.0
いいえ	922	89.7
無回答	44	4.3
全体	1,028	100.0



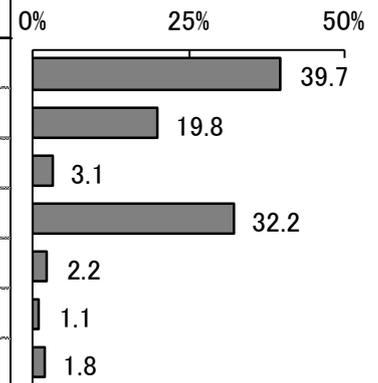
■年代別

上段:人、下段:%

	n	はい	いいえ	無回答
全体	1,028	62	922	44
	100.0	6.0	89.7	4.3
20歳代	97	-	94	3
	100.0	-	96.9	3.1
30歳代	148	2	144	2
	100.0	1.4	97.3	1.4
40歳代	172	2	164	6
	100.0	1.2	95.3	3.5
50歳代	140	11	127	2
	100.0	7.9	90.7	1.4
60～64歳	76	10	64	2
	100.0	13.2	84.2	2.6
65～69歳	89	9	76	4
	100.0	10.1	85.4	4.5
70～74歳	87	4	79	4
	100.0	4.6	90.8	4.6
75～79歳	83	12	67	4
	100.0	14.5	80.7	4.8
80～84歳	75	9	66	-
	100.0	12.0	88.0	-
85～89歳	29	3	25	1
	100.0	10.3	86.2	3.4
90歳以上	17	-	16	1
	100.0	-	94.1	5.9

7. 住居形態

	基数	構成比(%)
持ち家(一戸建て)	408	39.7
持ち家(分譲マンション等の集合住宅)	204	19.8
公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)	32	3.1
民営の賃貸住宅	331	32.2
社宅、社員寮、公務員住宅	23	2.2
その他	11	1.1
無回答	19	1.8
全体	1,028	100.0



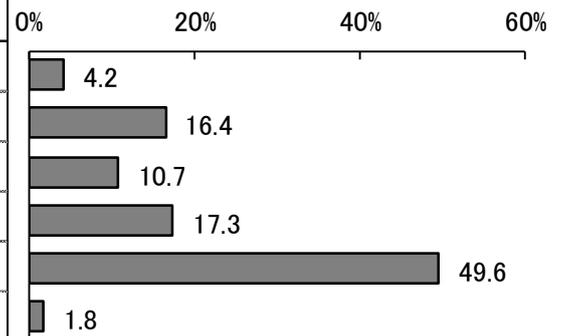
■年代別

上段:人、下段:%

	n	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等の集合住宅)	公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)	民営の賃貸住宅	社宅、社員寮、公務員住宅	その他	無回答
全体	1,028	408	204	32	331	23	11	19
	100.0	39.7	19.8	3.1	32.2	2.2	1.1	1.8
20歳代	97	19	10	3	59	5	1	-
	100.0	19.6	10.3	3.1	60.8	5.2	1.0	-
30歳代	148	28	22	1	90	6	-	1
	100.0	18.9	14.9	0.7	60.8	4.1	-	0.7
40歳代	172	53	32	4	76	5	1	1
	100.0	30.8	18.6	2.3	44.2	2.9	0.6	0.6
50歳代	140	64	30	1	36	6	2	1
	100.0	45.7	21.4	0.7	25.7	4.3	1.4	0.7
60~64歳	76	41	18	3	14	-	-	-
	100.0	53.9	23.7	3.9	18.4	-	-	-
65~69歳	89	46	26	3	12	1	1	-
	100.0	51.7	29.2	3.4	13.5	1.1	1.1	-
70~74歳	87	37	24	5	21	-	-	-
	100.0	42.5	27.6	5.7	24.1	-	-	-
75~79歳	83	52	15	4	10	-	1	1
	100.0	62.7	18.1	4.8	12.0	-	1.2	1.2
80~84歳	75	35	19	7	10	-	4	-
	100.0	46.7	25.3	9.3	13.3	-	5.3	-
85~89歳	29	21	4	1	2	-	1	-
	100.0	72.4	13.8	3.4	6.9	-	3.4	-
90歳以上	17	12	4	-	1	-	-	-
	100.0	70.6	23.5	-	5.9	-	-	-

8. 居住年数

	基数	構成比(%)
1年未満	43	4.2
1年以上5年未満	169	16.4
5年以上10年未満	110	10.7
10年以上20年未満	178	17.3
20年以上	510	49.6
無回答	18	1.8
全体	1,028	100.0

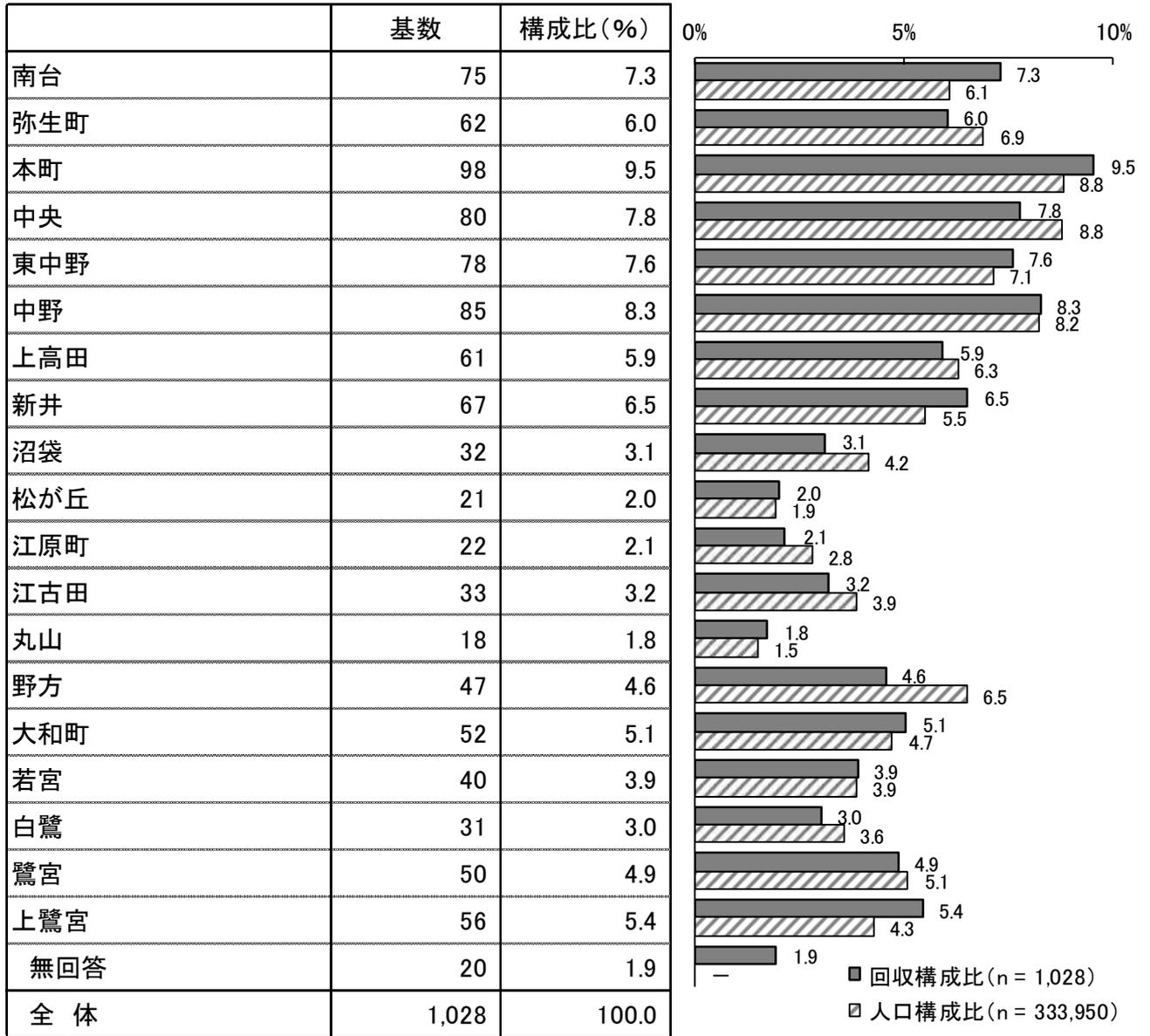


■年代別

上段:人、下段:%

	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	1,028	43	169	110	178	510	18
	100.0	4.2	16.4	10.7	17.3	49.6	1.8
20歳代	97	14	45	9	10	19	-
	100.0	14.4	46.4	9.3	10.3	19.6	-
30歳代	148	15	60	34	23	15	1
	100.0	10.1	40.5	23.0	15.5	10.1	0.7
40歳代	172	9	36	37	49	40	1
	100.0	5.2	20.9	21.5	28.5	23.3	0.6
50歳代	140	2	10	8	47	73	-
	100.0	1.4	7.1	5.7	33.6	52.1	-
60～64歳	76	1	5	3	14	53	-
	100.0	1.3	6.6	3.9	18.4	69.7	-
65～69歳	89	-	4	11	5	69	-
	100.0	-	4.5	12.4	5.6	77.5	-
70～74歳	87	-	3	2	13	69	-
	100.0	-	3.4	2.3	14.9	79.3	-
75～79歳	83	-	2	4	6	71	-
	100.0	-	2.4	4.8	7.2	85.5	-
80～84歳	75	1	3	1	10	60	-
	100.0	1.3	4.0	1.3	13.3	80.0	-
85～89歳	29	-	-	1	-	27	1
	100.0	-	-	3.4	-	93.1	3.4
90歳以上	17	1	1	-	1	14	-
	100.0	5.9	5.9	-	5.9	82.4	-

9. 居住地域



(中野区町丁別人口 令和元年(2019年)5月1日現在)

※人口構成比には20歳未満の人口も含むため、対象者の割合とは異なる。

■年代別

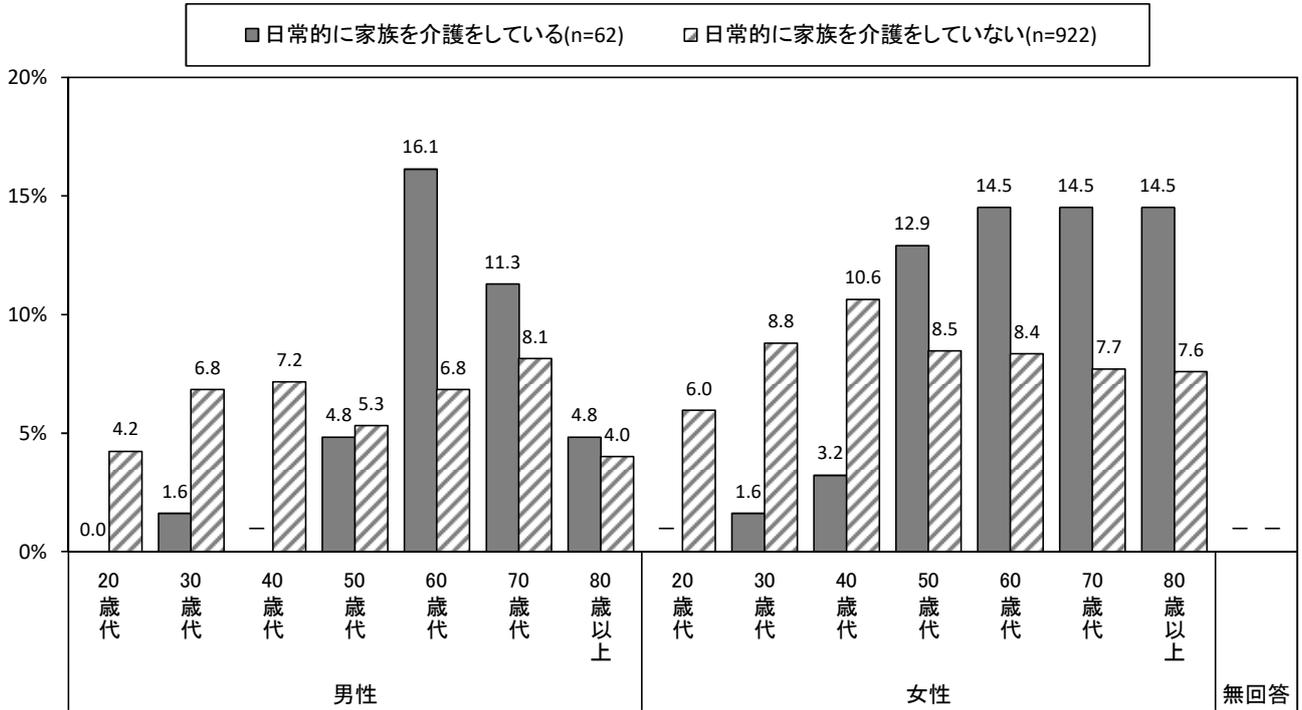
上段:人、下段:%

	n	南台	弥生町	本町	中央	東中野	中野	上高田	新井	沼袋	松が丘
全 体	1,028	75	62	98	80	78	85	61	67	32	21
	100.0	7.3	6.0	9.5	7.8	7.6	8.3	5.9	6.5	3.1	2.0
20歳代	97	10	3	9	4	10	19	6	3	2	1
	100.0	10.3	3.1	9.3	4.1	10.3	19.6	6.2	3.1	2.1	1.0
30歳代	148	12	11	12	14	12	12	7	18	5	5
	100.0	8.1	7.4	8.1	9.5	8.1	8.1	4.7	12.2	3.4	3.4
40歳代	172	13	10	14	17	11	8	17	10	8	2
	100.0	7.6	5.8	8.1	9.9	6.4	4.7	9.9	5.8	4.7	1.2
50歳代	140	8	8	17	6	13	9	8	13	3	2
	100.0	5.7	5.7	12.1	4.3	9.3	6.4	5.7	9.3	2.1	1.4
60～64歳	76	4	5	8	7	6	7	3	4	1	1
	100.0	5.3	6.6	10.5	9.2	7.9	9.2	3.9	5.3	1.3	1.3
65～69歳	89	1	5	9	10	9	6	4	7	4	4
	100.0	1.1	5.6	10.1	11.2	10.1	6.7	4.5	7.9	4.5	4.5
70～74歳	87	8	8	5	10	4	7	5	8	2	2
	100.0	9.2	9.2	5.7	11.5	4.6	8.0	5.7	9.2	2.3	2.3
75～79歳	83	6	5	9	3	6	8	6	2	5	-
	100.0	7.2	6.0	10.8	3.6	7.2	9.6	7.2	2.4	6.0	-
80～84歳	75	10	2	10	8	4	6	3	2	-	4
	100.0	13.3	2.7	13.3	10.7	5.3	8.0	4.0	2.7	-	5.3
85～89歳	29	1	3	3	1	1	1	2	-	2	-
	100.0	3.4	10.3	10.3	3.4	3.4	3.4	6.9	-	6.9	-
90歳以上	17	2	2	2	-	2	2	-	-	-	-
	100.0	11.8	11.8	11.8	-	11.8	11.8	-	-	-	-

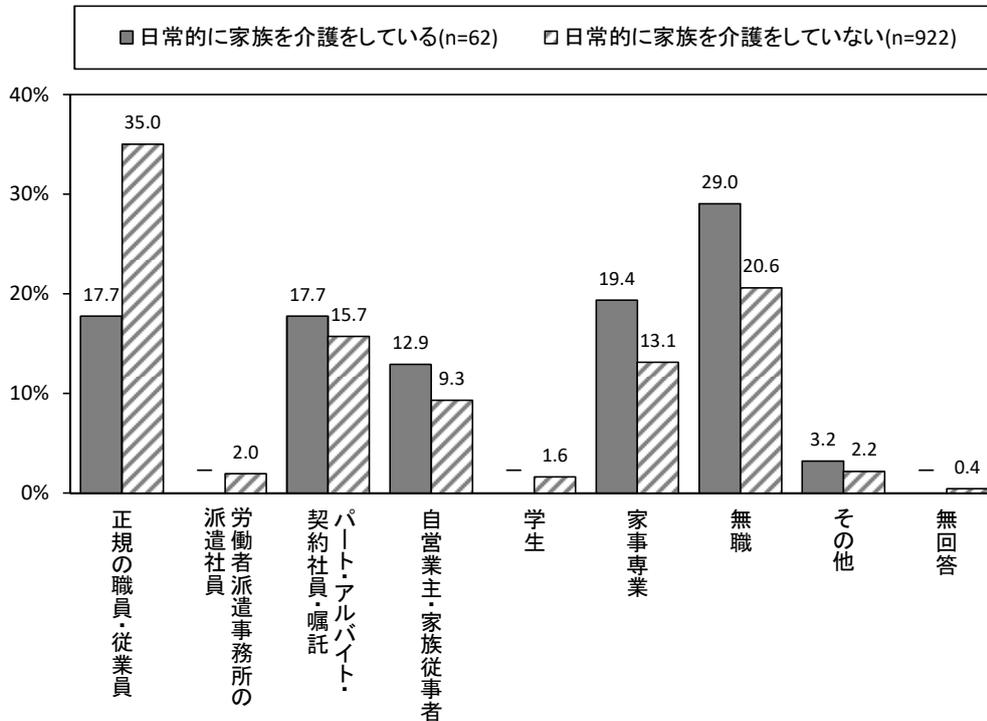
	n	江原町	江古田	丸山	野方	大和町	若宮	白鷺	鷺宮	上鷺宮	無回答
全 体	1,028	22	33	18	47	52	40	31	50	56	20
	100.0	2.1	3.2	1.8	4.6	5.1	3.9	3.0	4.9	5.4	1.9
20歳代	97	2	2	1	5	6	3	-	3	7	1
	100.0	2.1	2.1	1.0	5.2	6.2	3.1	-	3.1	7.2	1.0
30歳代	148	3	3	1	7	8	3	2	5	7	1
	100.0	2.0	2.0	0.7	4.7	5.4	2.0	1.4	3.4	4.7	0.7
40歳代	172	1	3	6	13	8	8	5	8	9	1
	100.0	0.6	1.7	3.5	7.6	4.7	4.7	2.9	4.7	5.2	0.6
50歳代	140	3	8	4	3	9	5	5	11	4	1
	100.0	2.1	5.7	2.9	2.1	6.4	3.6	3.6	7.9	2.9	0.7
60～64歳	76	-	2	1	3	5	4	4	4	7	-
	100.0	-	2.6	1.3	3.9	6.6	5.3	5.3	5.3	9.2	-
65～69歳	89	3	4	-	2	4	5	2	4	6	-
	100.0	3.4	4.5	-	2.2	4.5	5.6	2.2	4.5	6.7	-
70～74歳	87	2	3	1	4	1	5	4	5	3	-
	100.0	2.3	3.4	1.1	4.6	1.1	5.7	4.6	5.7	3.4	-
75～79歳	83	4	3	1	3	3	2	5	6	6	-
	100.0	4.8	3.6	1.2	3.6	3.6	2.4	6.0	7.2	7.2	-
80～84歳	75	2	4	2	5	4	2	3	-	4	-
	100.0	2.7	5.3	2.7	6.7	5.3	2.7	4.0	-	5.3	-
85～89歳	29	2	-	-	1	3	2	1	3	2	1
	100.0	6.9	-	-	3.4	10.3	6.9	3.4	10.3	6.9	3.4
90歳以上	17	-	1	1	1	1	1	-	1	1	-
	100.0	-	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-

【日常的な家族の介護の有無別】対象者の属性

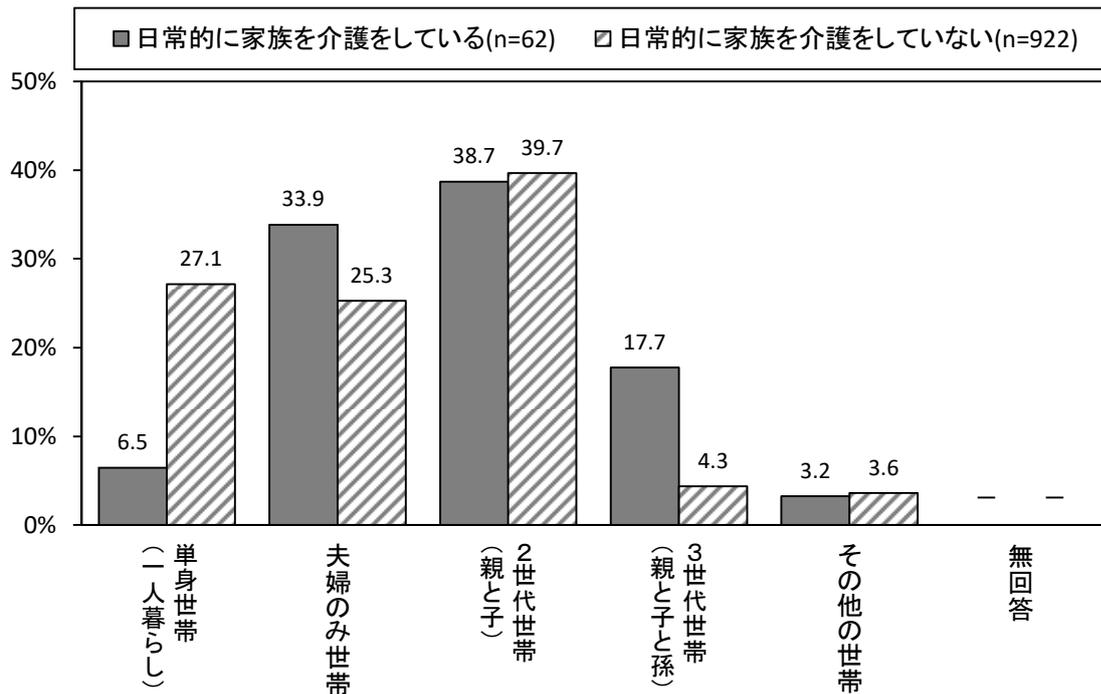
■【介護の有無別】性別・年齢



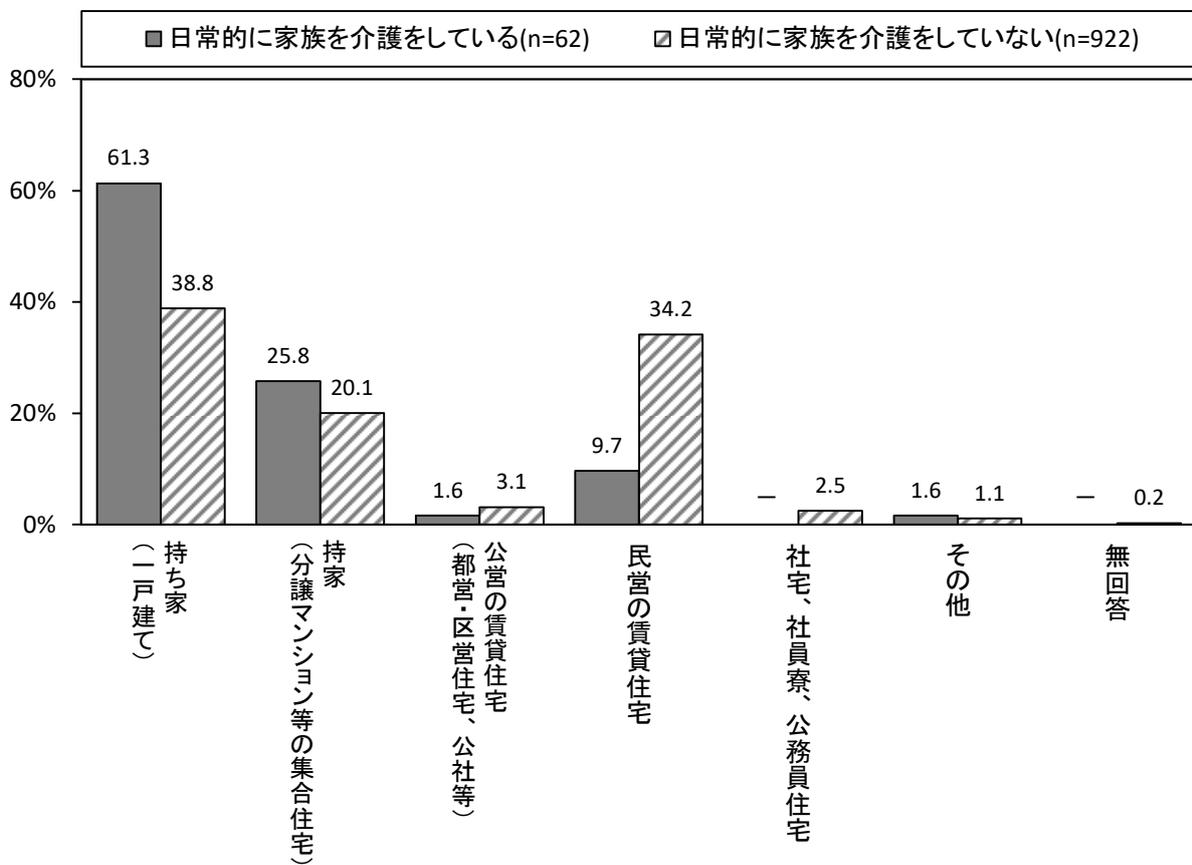
■【介護の有無別】職業



■ 【介護の有無別】世帯構成

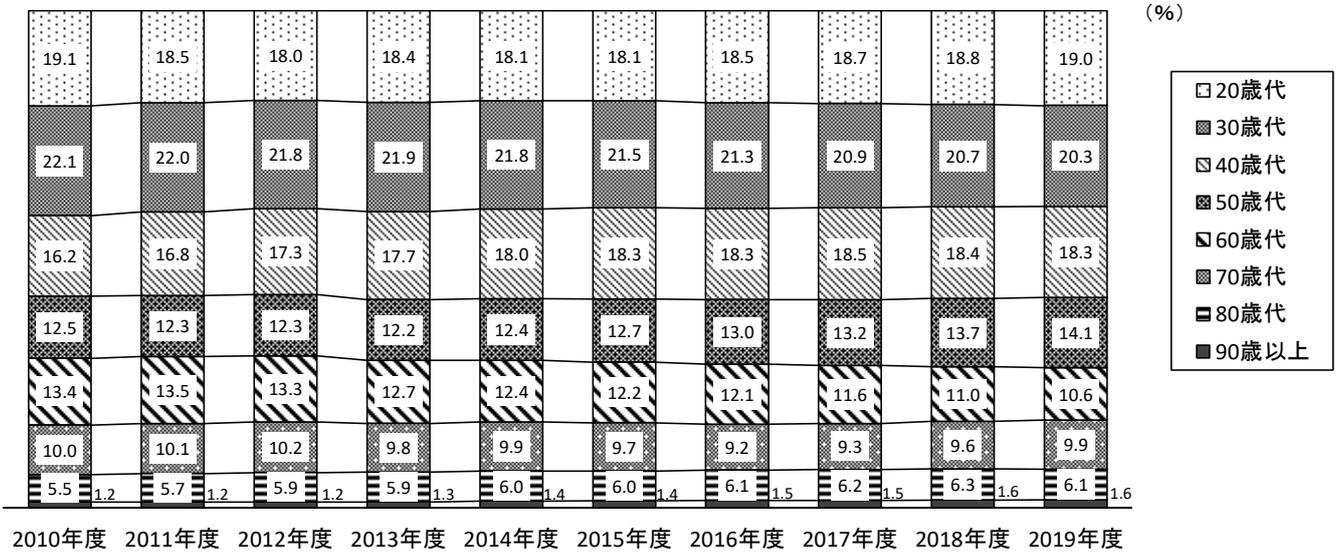


■ 【介護の有無別】住居形態

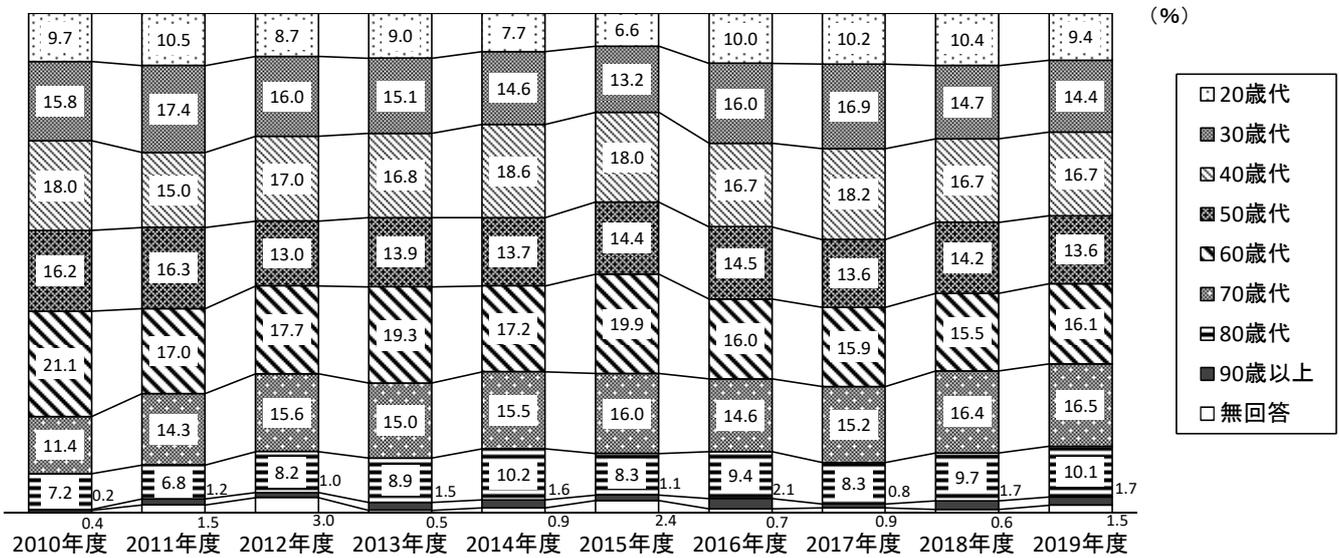


10. 母集団と調査回答者の推移

■ 【年代別】母集団



■ 【年代別】回答者（調査対象者全体）



Ⅲ 調査結果の分析

1. 地域活動について

1.1. 地域の活動への参加

◆参加している地域活動の中で、最も高いのは「町内会・自治会の活動」

問1. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

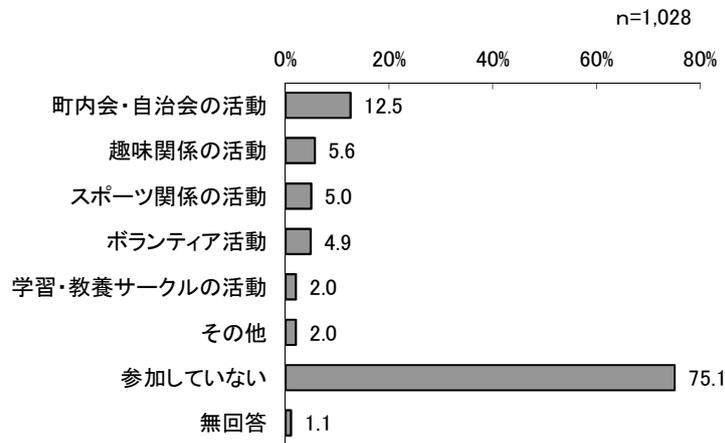


図 1-1 参加している地域活動

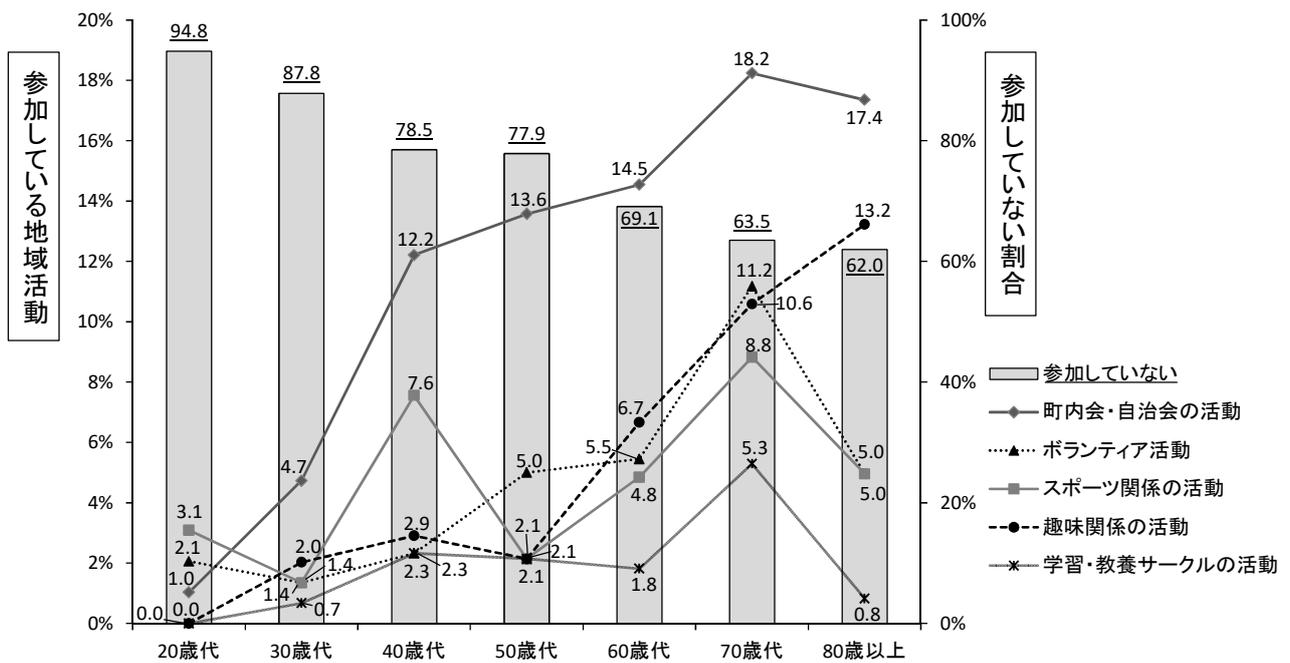
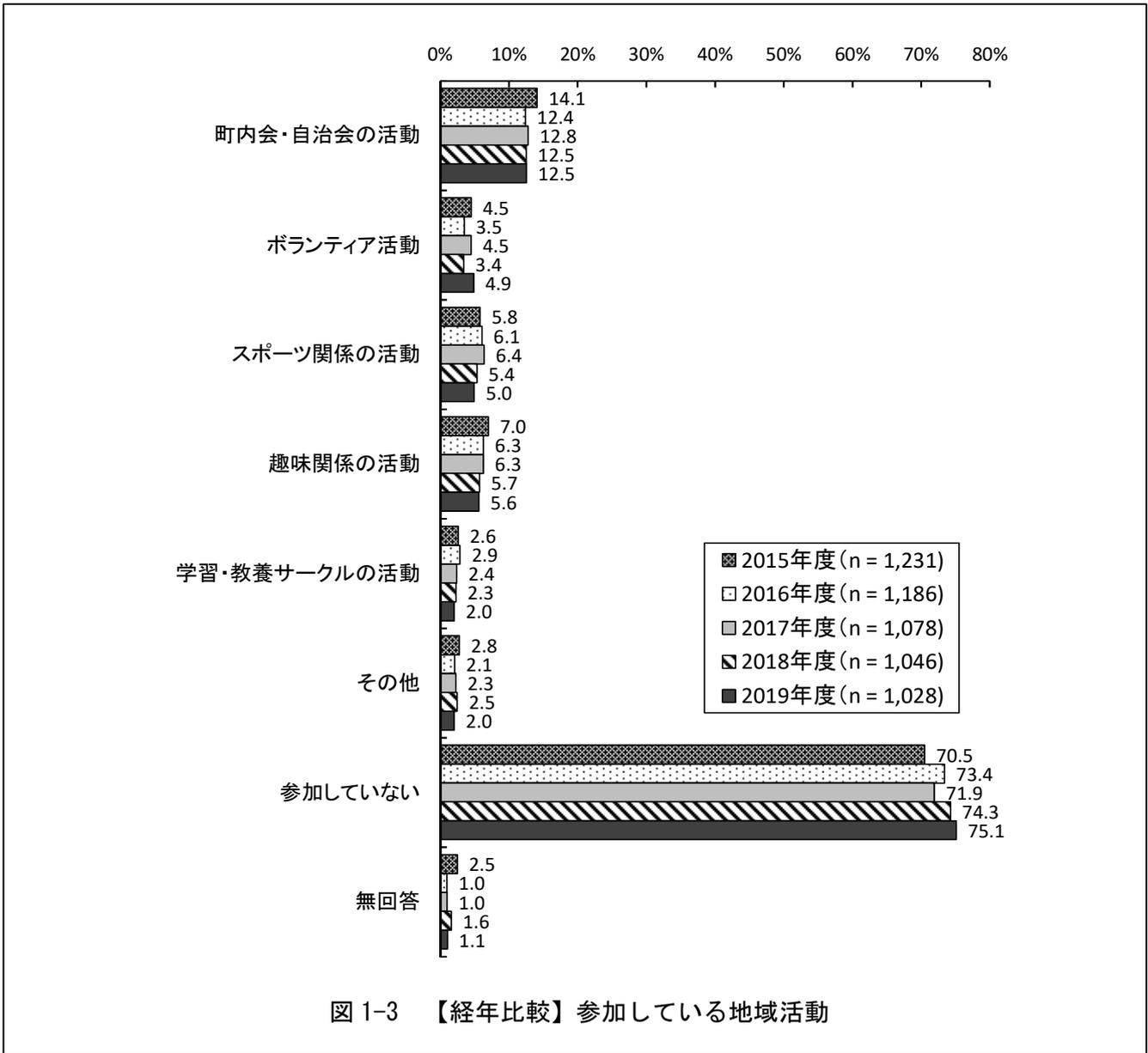


図 1-2 【年代別】参加している地域活動

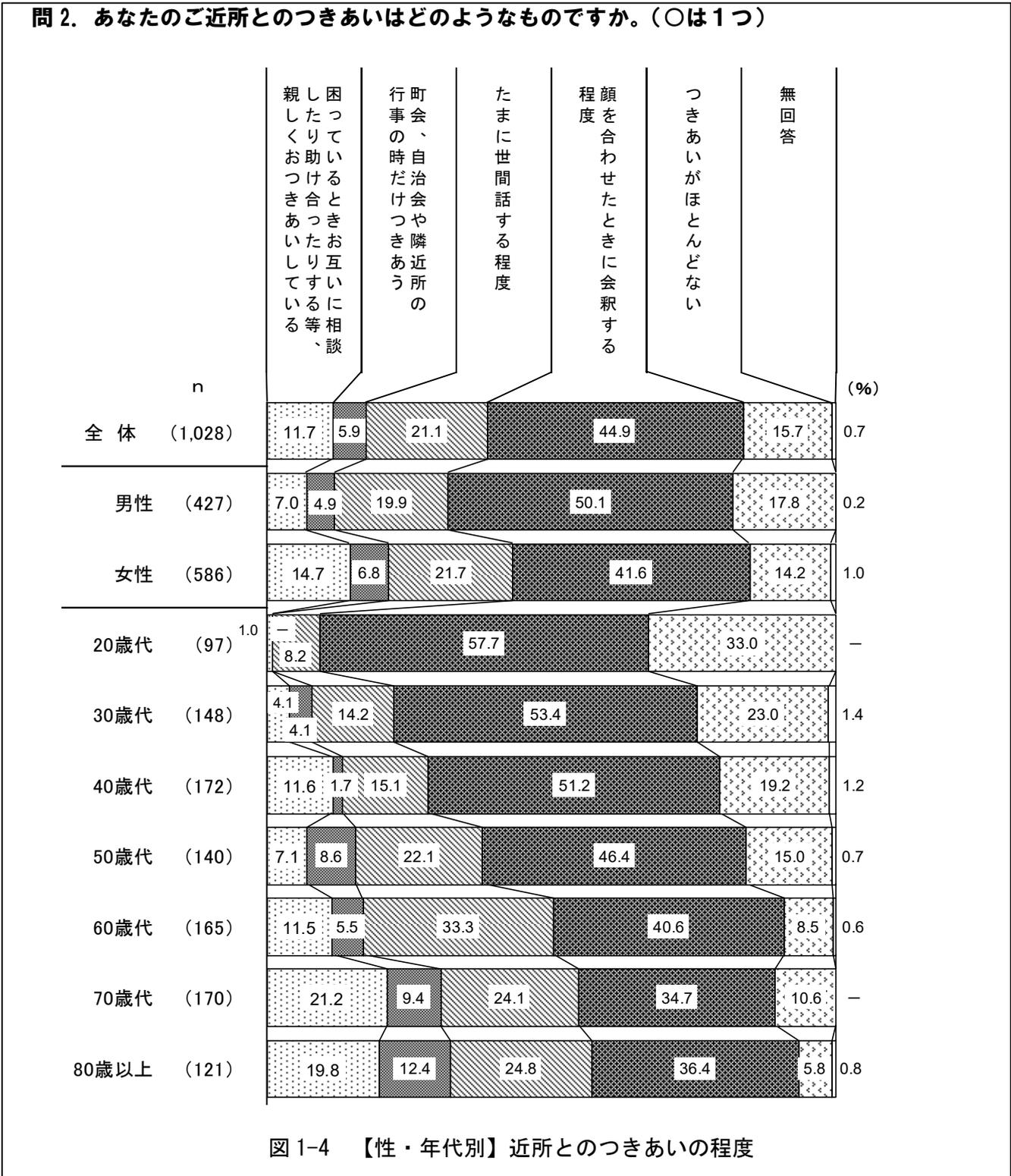
地域活動への参加状況は、「参加していない」(75.1%)が最も高くなっている。年代別にみると、若い年代ほど「参加していない」の割合が高くなっている。参加している地域の活動としては「町内会・自治会の活動」が70歳代以上で1割台後半と他の年代と比較して高くなっている。そのほか、「趣味関係の活動」は80歳以上、「ボランティア活動」は70歳代で最も高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「参加していない」の割合は増加傾向にある。

1.2. 近所とのつきあいの程度

◆親しくおつきあいしている割合は70歳代以上で約2割



ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」(44.9%)が最も高くなっている。性別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、女性(14.7%)が男性(7.0%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、70歳代以上で約2割と高くなっている。

■年代別 「つきあいがほとんどない」の割合

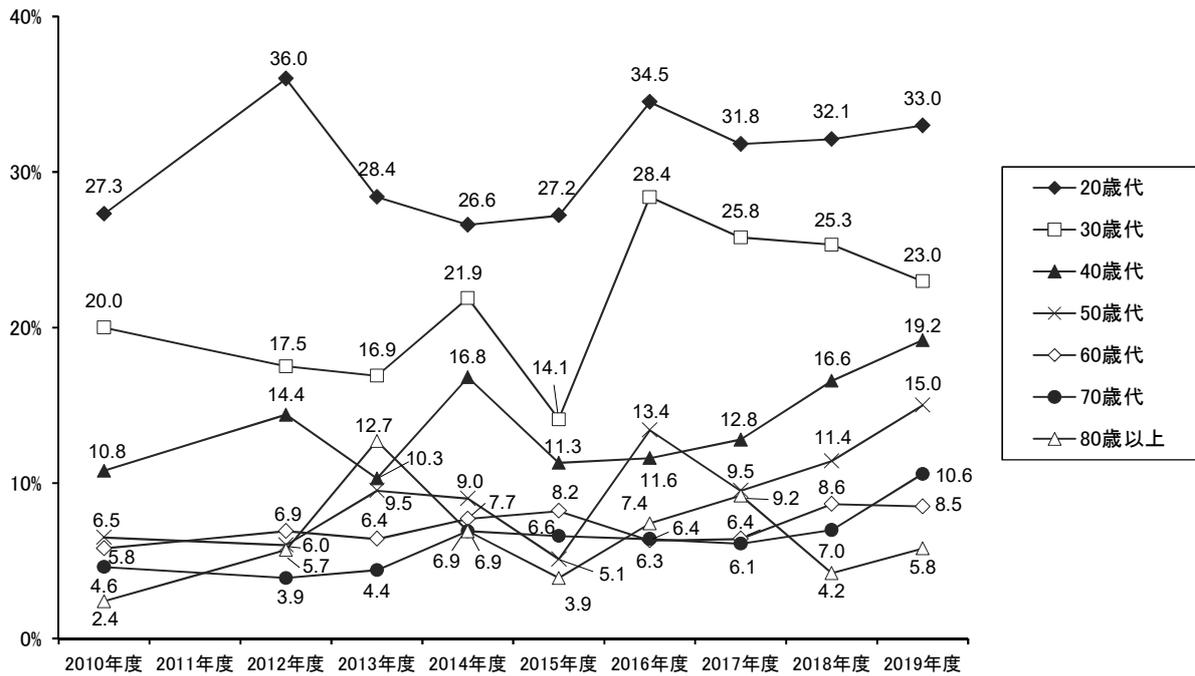


図 1-5 【経年比較】近所とのつきあいの程度

経年で比較すると、いずれの年度も「つきあいがほとんどない」の割合が20歳代で最も高くなっており、次いで30歳代の割合が高くなっている。

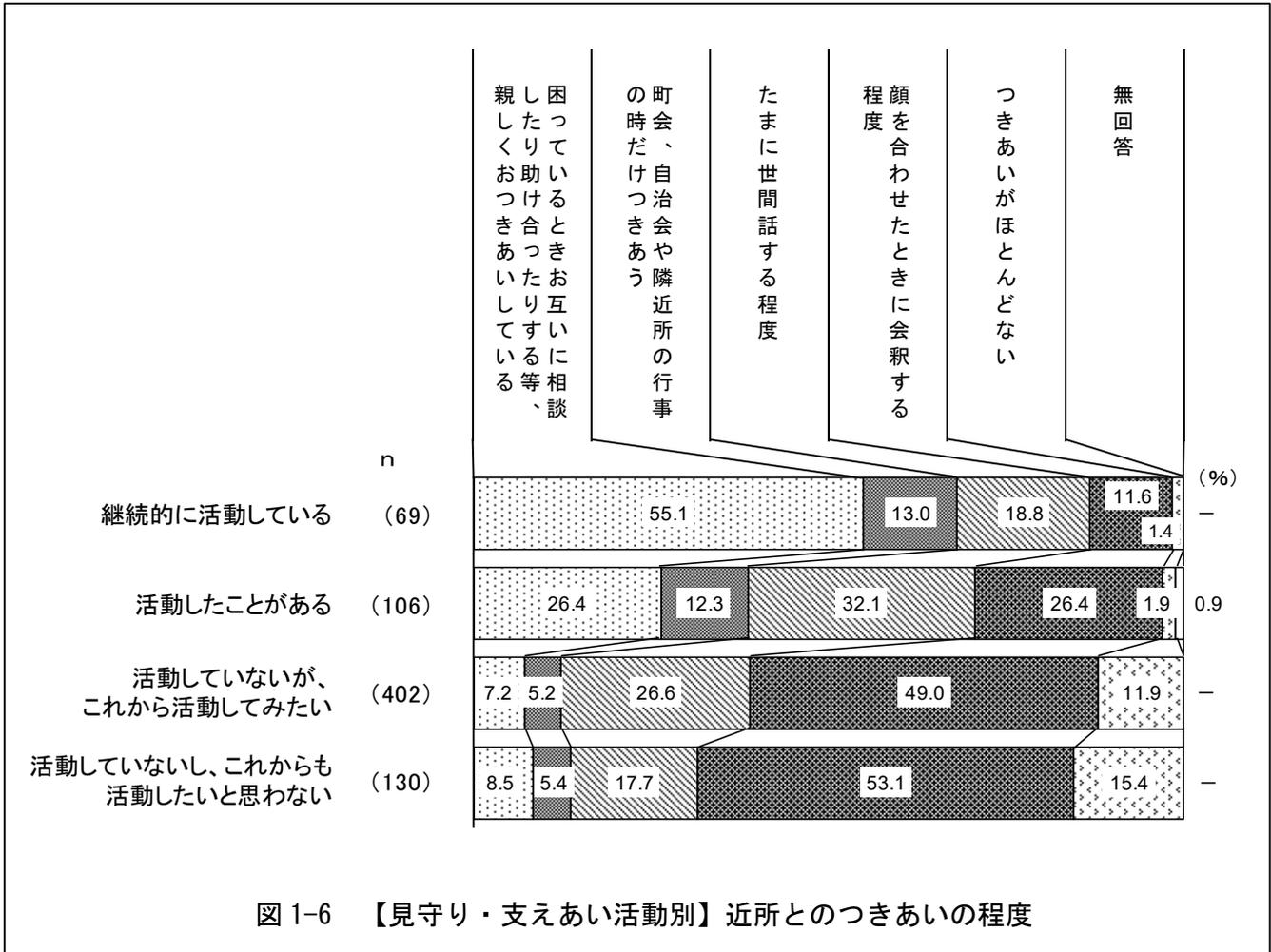


図 1-6 【見守り・支えあい活動別】近所とのつきあいの程度

見守り・支えあい活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、継続的に活動している人や活動したことがある人で高くなっており、継続的に活動している人で5割台半ば、活動したことがある人で2割台半ばとなっている。

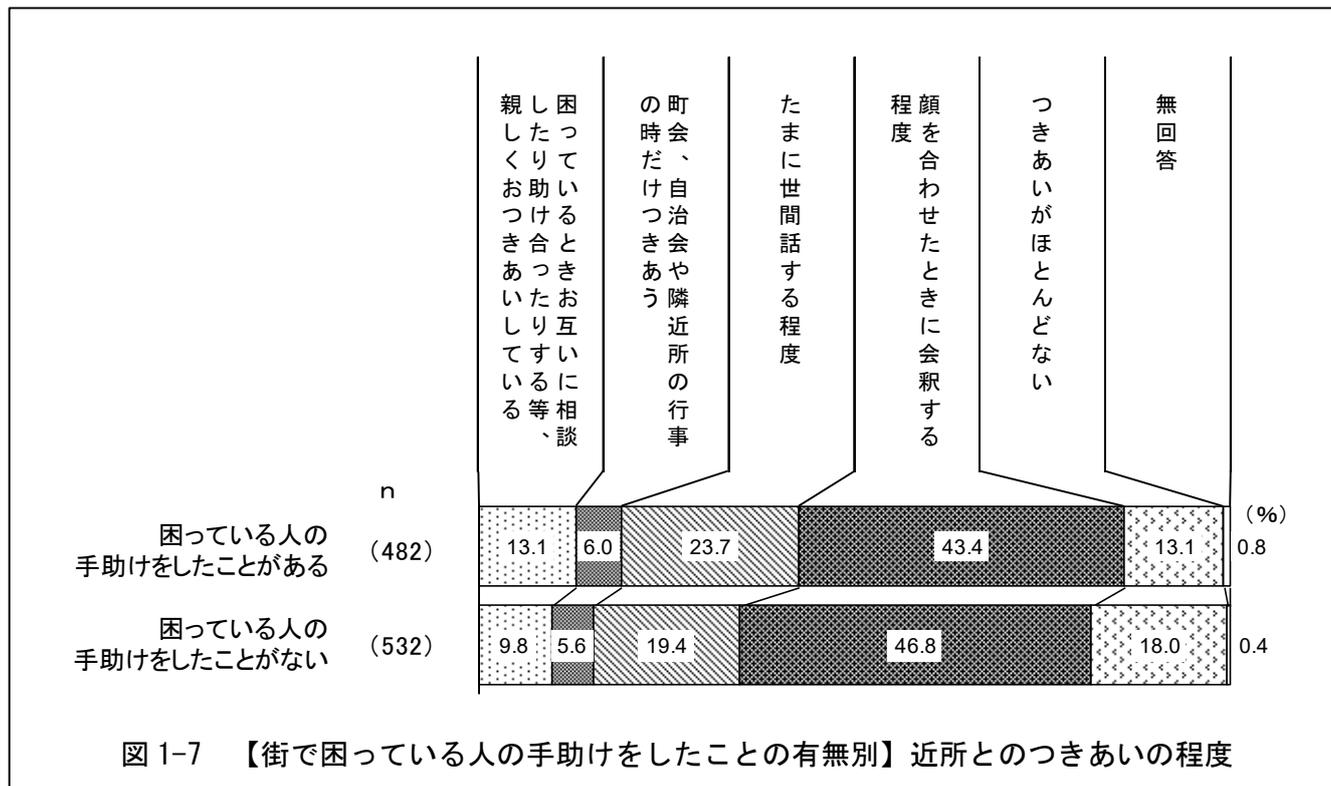


図 1-7 【街で困っている人の手助けをしたことの有無別】近所とのつきあいの程度

街で困っている人の手助けをしたことの有無別にみると、困っている人の手助けをしたことがある人の方が「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」、「たまに世間話する程度」の割合が高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」と「顔を合わせたときに会釈する程度」の割合については、困っている人の手助けをしたことがない人の方が高くなっている。

1.3. 近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

◆近隣同士の見守り・支えあい活動は「必要だと思う」が約7割

問3. あなたは、地域で生活していくうえで近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(○は1つ)

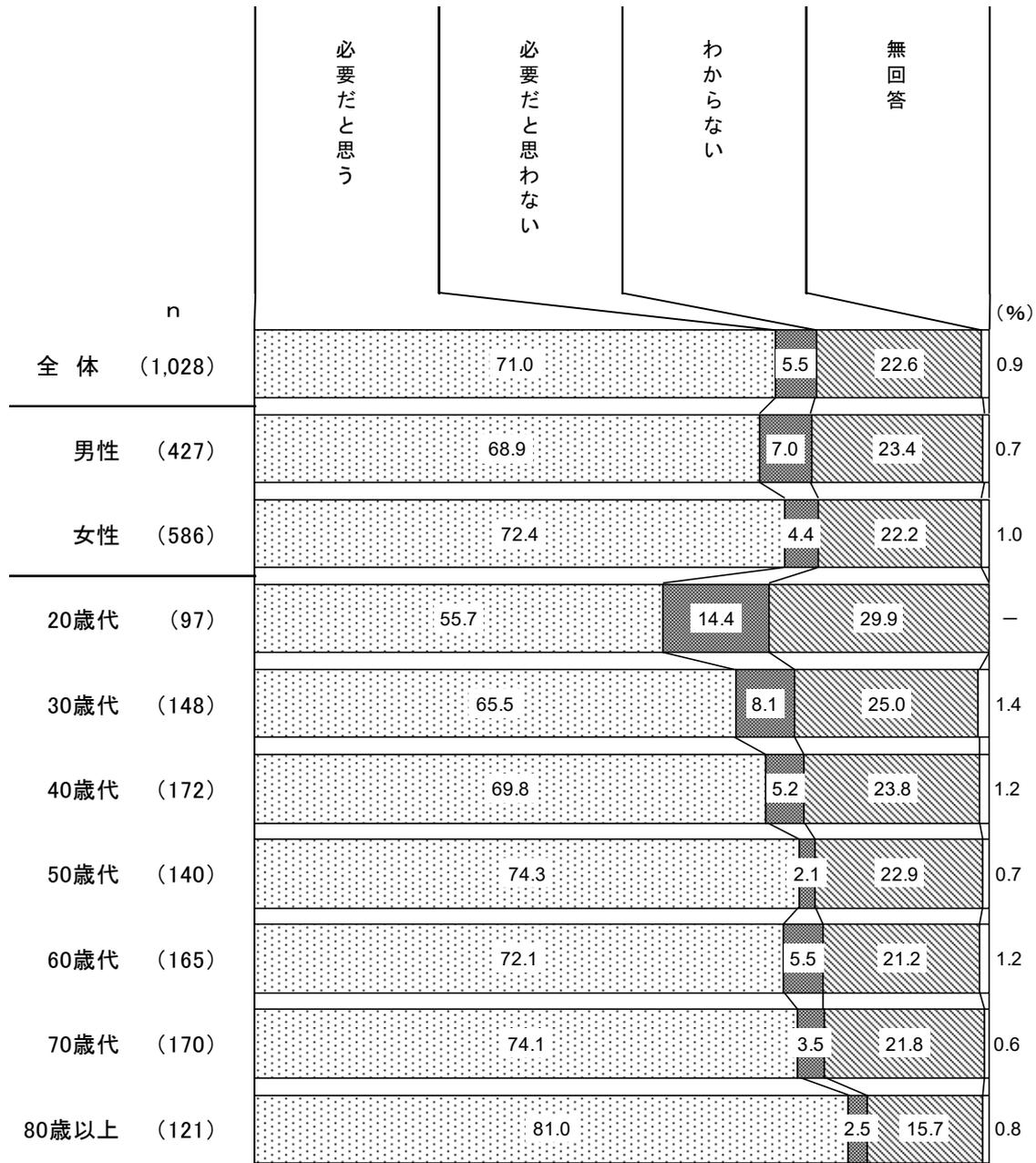


図 1-8 【性・年代別】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

近隣同士の見守り・支えあい活動は、「必要だと思う」が71.0%で最も高くなっている。年代別にみると、「必要だと思う」が20歳代で55.7%と他の年代と比較して低くなっている。

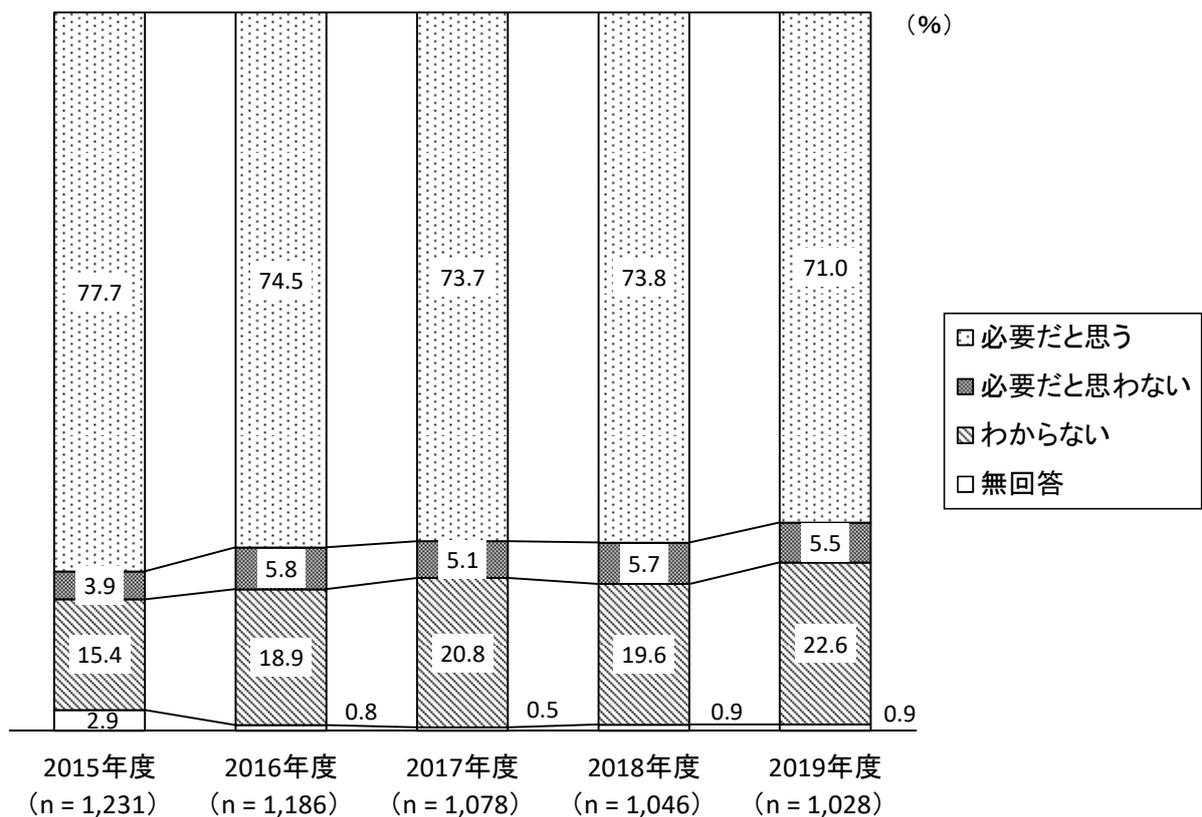


図 1-9 【経年比較】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

経年で比較すると、「必要だと思う」が減少傾向にあり、「わからない」が増加傾向にある。

1.3.1. 必要だと思う見守り・支えあい活動

◆必要だと思う見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が6割台半ば

(問3で「1. 必要だと思う」に○をつけた方に)

問3-1. あなたは、どのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

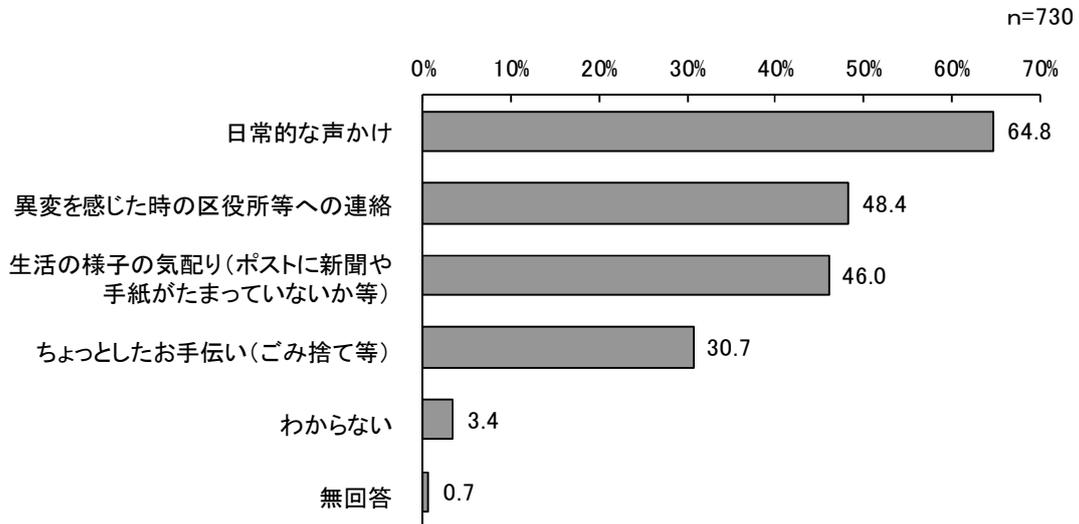


図1-10 必要だと思う見守り・支えあい活動

近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思う方に、どのような見守り・支えあい活動が必要だと思うか聞いたところ、「日常的な声かけ」が64.8%と最も高くなっている。

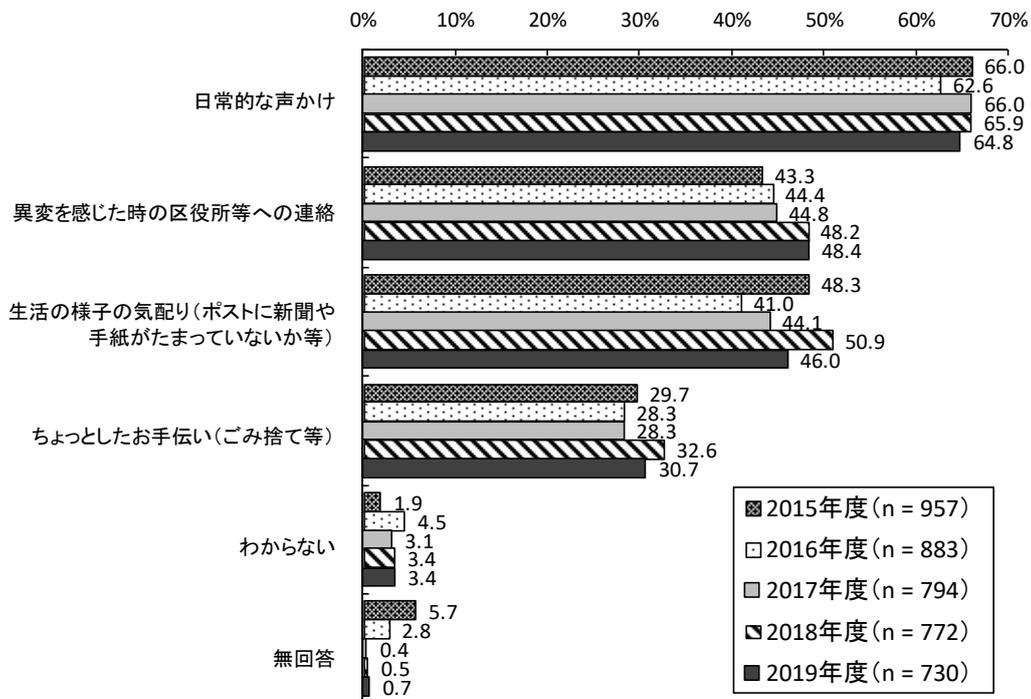
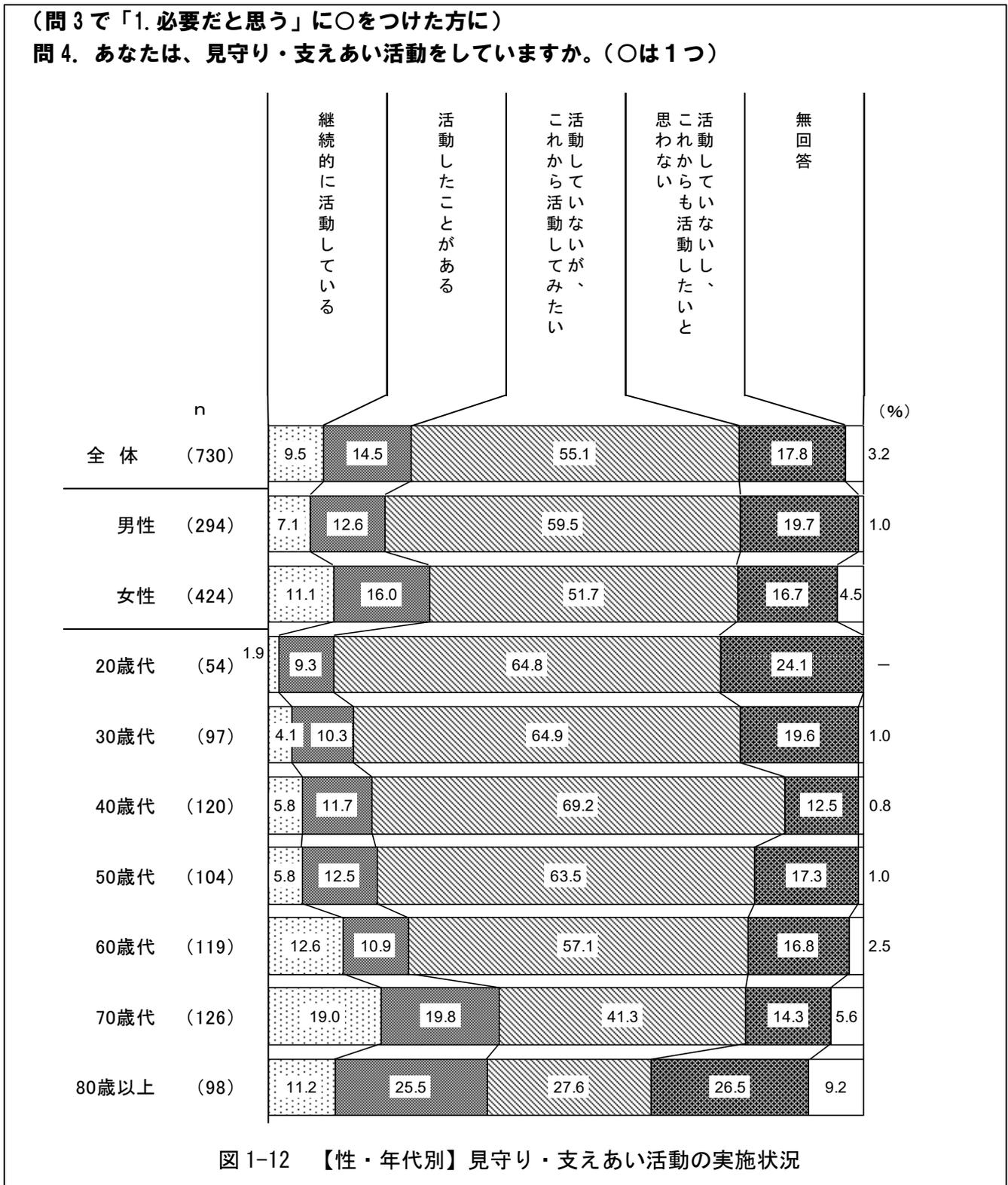


図1-11 【経年比較】必要だと思う見守り・支えあい活動

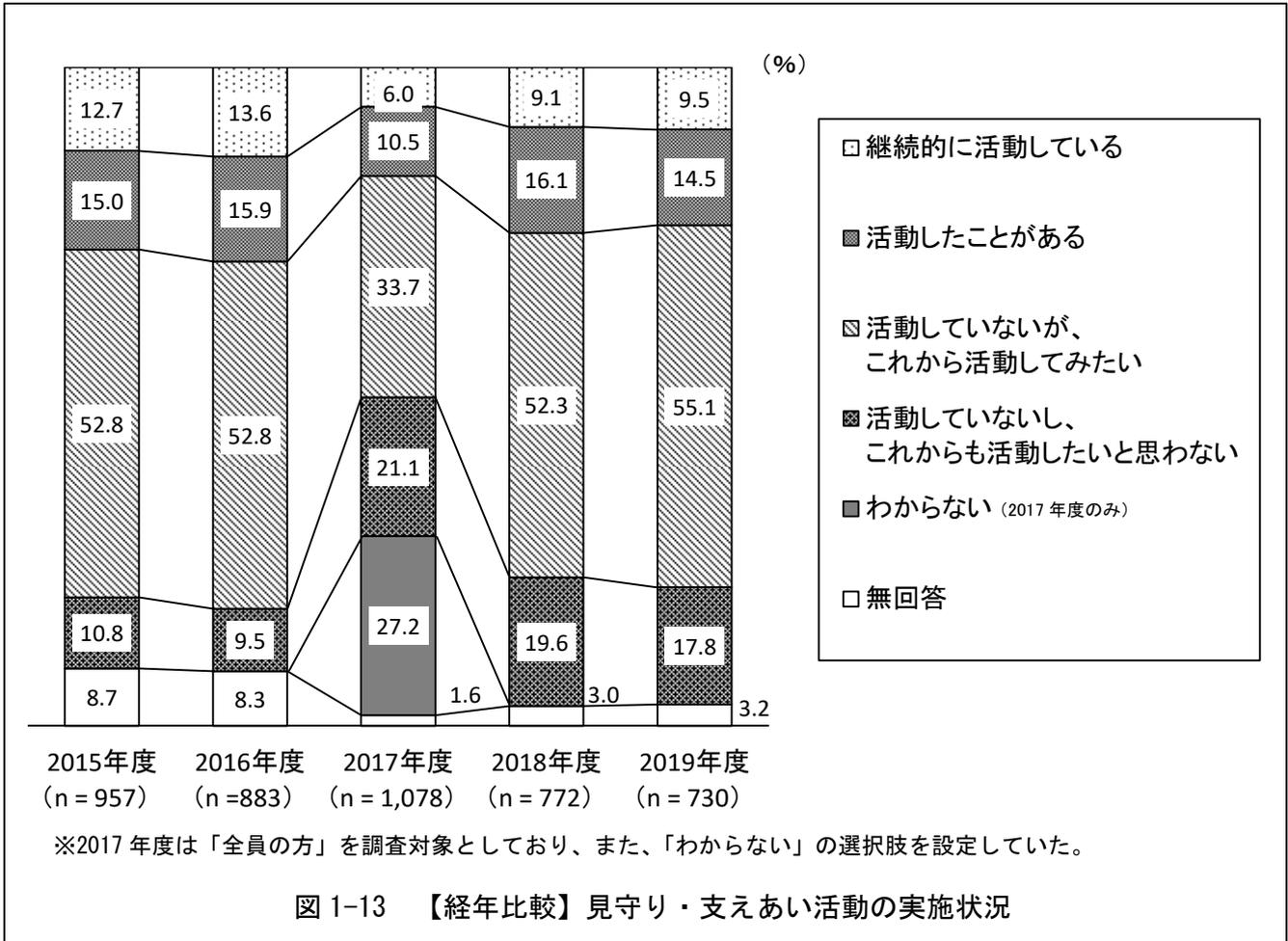
経年で比較すると、「日常的な声かけ」の割合が最も高いことに変化はない。

1.3.2. 見守り・支えあい活動の実施状況

◆見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が5割台半ば



見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないが、これから活動してみたい」(55.1%)が最も高くなっている。性別にみると、女性の方が「継続的に活動している」と「活動したことがある」の割合が高くなっている。年代別にみると、いずれの年代でも「活動していないが、これから活動してみたい」の割合が最も高く、特に40歳代では約7割と高くなっている。



経年で比較すると、2019年度は前年度と比較して、「継続的に活動している」、「活動していないが、これから活動してみたい」の割合が増加している。

1.3.3. 見守り・支えあい活動をしていない理由

◆見守り・支えあい活動をしていない理由は、「時間的な問題」が4割前半

(問4で「3. 活動していないが、これから活動してみたい」に○をつけた方に)
 問4-1. 活動をしていない理由はなんですか。(○は1つ)

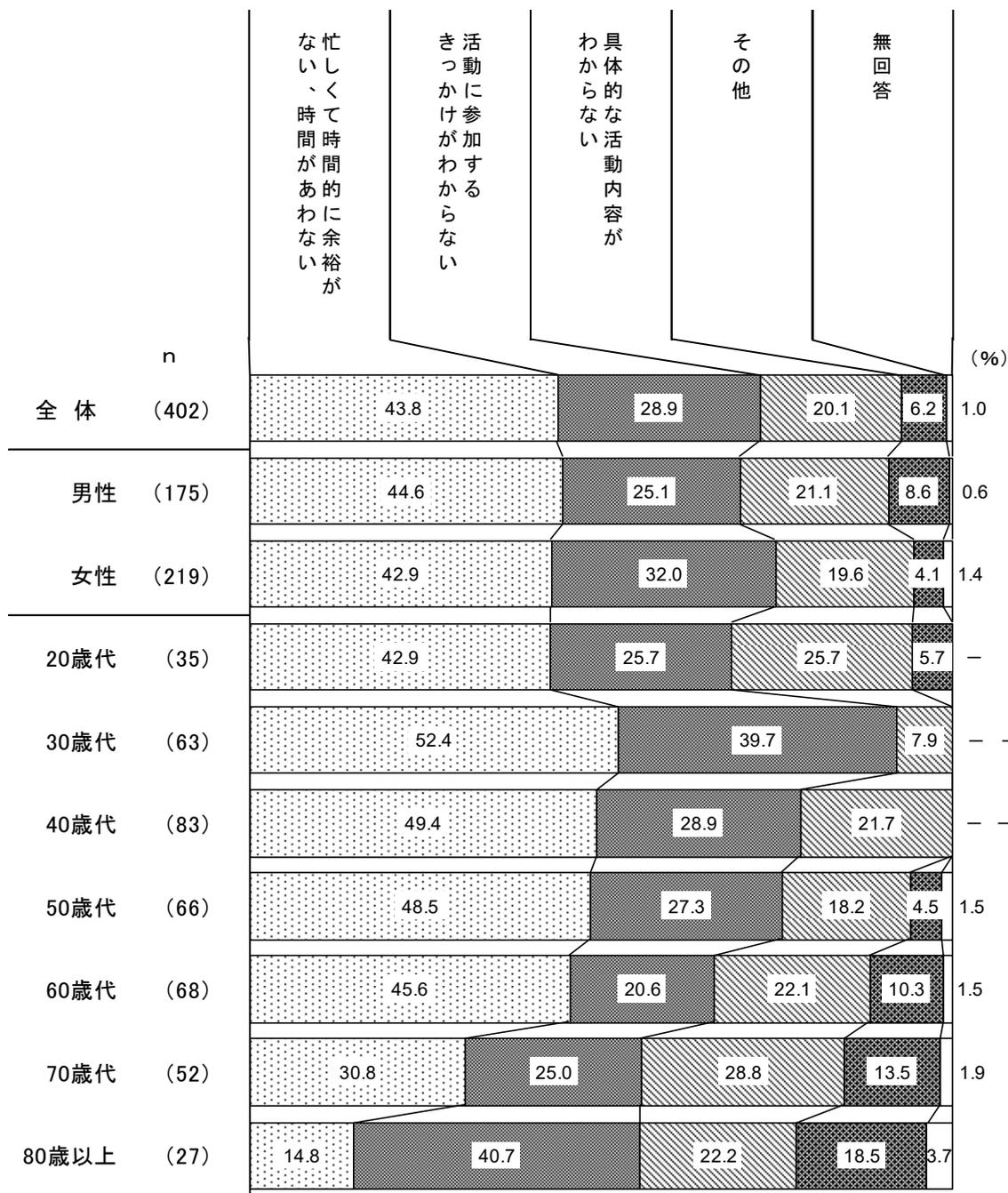


図1-14 【性・年代別】見守り・支えあい活動をしていない理由

見守り・支えあい活動をこれからしてみたい方に、活動をしていない理由を聞いたところ、「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」(43.8%)が最も高くなっている。年代別にみると、30歳代で「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」の割合が5割前半と高くなっている。

1.3.4. 見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけ

◆見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけは、「情報誌やホームページ」が約6割

(問 4-1 で「2. 活動に参加するきっかけがわからない」「3. 具体的な活動内容がわからない」に○をつけた方に)

問 4-2. どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思いませんか。

(あてはまるものすべてに○)

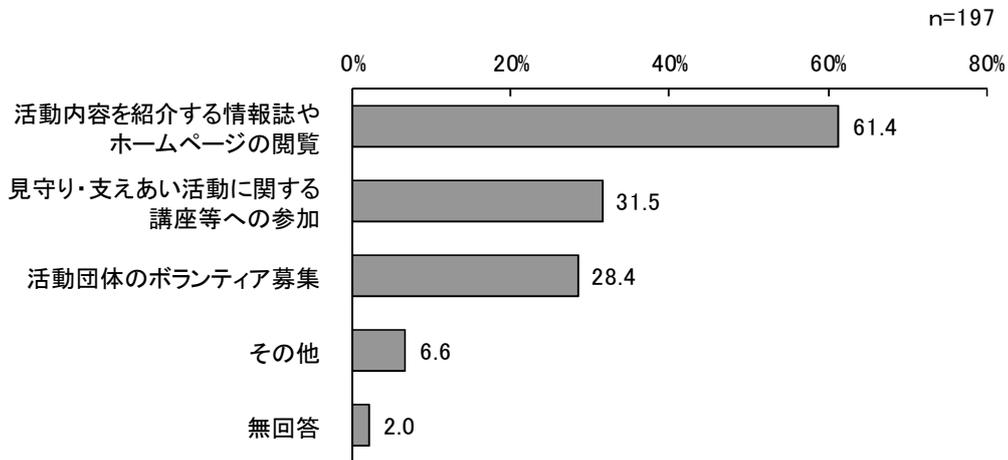


図 1-15 活動に参加するためのきっかけ

見守り・支えあい活動に参加するきっかけや活動内容が分からない方に、どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思うか聞いたところ、「活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧」が 61.4%と最も高くなっている。

表 1-1 【性・年代別】活動に参加するためのきっかけ

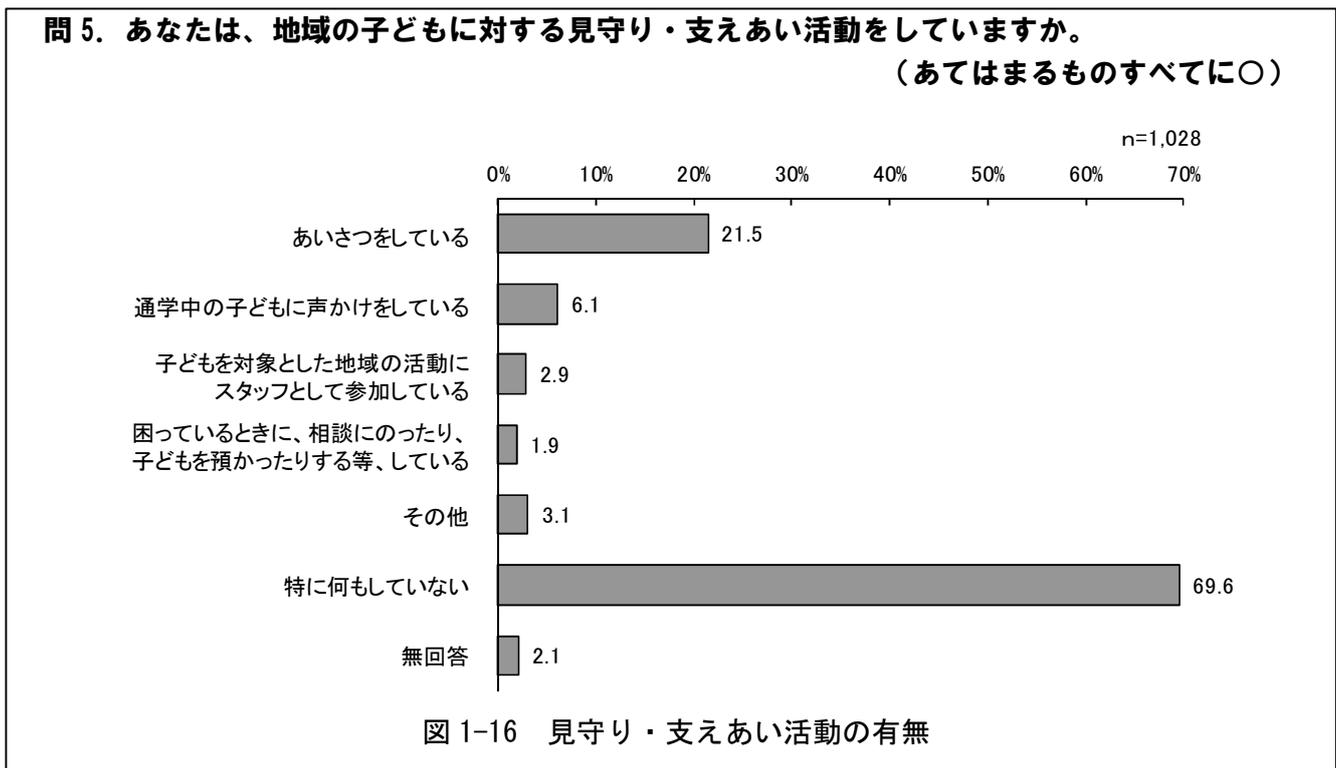
単位: %

区分	有効回答数 (件)	講座等への参加	見守り・支えあい	情報誌やホームページの閲覧	ボランティア募集	その他	無回答
全体	197	31.5	61.4	28.4	6.6	2.0	
男性	81	28.4	55.6	29.6	4.9	4.9	
女性	113	33.6	65.5	27.4	8.0	—	
20歳代	18	22.2	66.7	27.8	11.1	—	
30歳代	30	23.3	66.7	30.0	6.7	3.3	
40歳代	42	23.8	66.7	23.8	11.9	—	
50歳代	30	43.3	76.7	30.0	—	—	
60歳代	29	37.9	51.7	34.5	3.4	3.4	
70歳代	28	28.6	60.7	21.4	—	7.1	
80歳以上	17	47.1	23.5	35.3	17.6	—	

年代別にみると、20歳～70歳代で「活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧」、80歳以上で「見守り・支えあい活動に関する講座等への参加」の割合が高くなっている。

1.3.5. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無

◆子どもに対する見守り・支えあい活動を「特に何もしていない」が約7割



地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無は、「特に何もしていない」が69.6%と最も高く、次いで「あいさつをしている」(21.5%)となっている。

表 1-2 【性・年代別】見守り・支えあい活動の有無

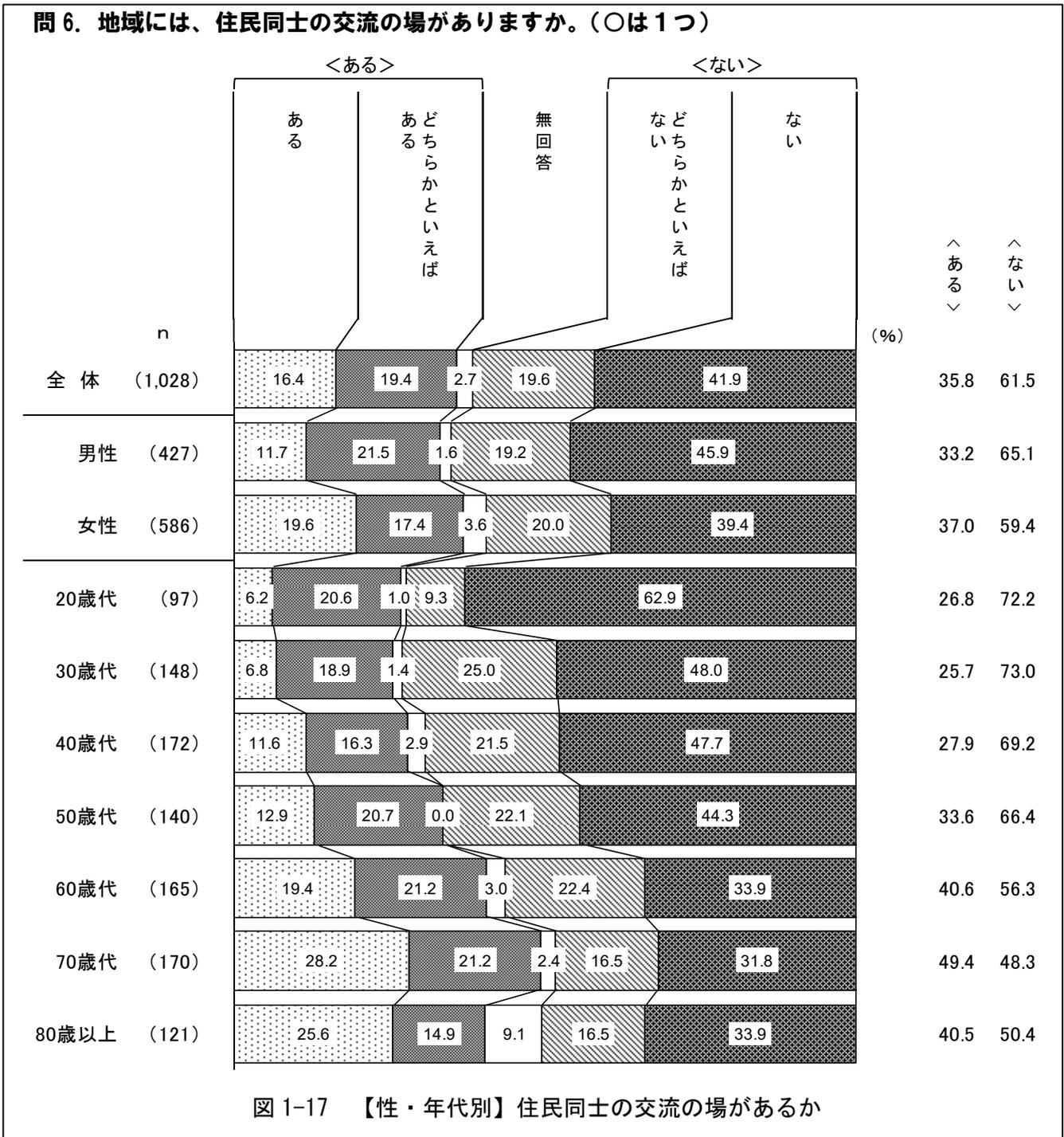
単位: %

区分	有効回答数(件)	困っているときに、子どもを預かたり、相談にのったりしている	子どもを対象とした地域活動に参加している	通学中の子どもに声をかけている	あいさつをしている	その他	特に何もしていない	無回答
全体	1,028	1.9	2.9	6.1	21.5	3.1	69.6	2.1
男性	427	1.4	1.6	3.0	17.3	1.6	78.7	1.4
女性	586	2.4	3.8	8.5	24.6	3.9	63.1	2.6
20歳代	97	—	—	—	7.2	5.2	86.6	1.0
30歳代	148	3.4	2.0	2.0	14.9	—	81.8	0.7
40歳代	172	5.8	6.4	7.0	21.5	2.3	68.6	1.2
50歳代	140	—	2.9	2.9	17.9	2.9	75.7	0.7
60歳代	165	2.4	2.4	5.5	24.8	2.4	67.9	1.2
70歳代	170	0.6	2.4	12.9	30.6	3.5	57.1	1.8
80歳以上	121	—	2.5	10.7	28.1	5.8	56.2	9.1

性別にみると、「特に何もしていない」は男性(78.7%)が女性(63.1%)を約16ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「特に何もしていない」の割合が最も高く、また、40歳代を除き若い年代ほどその割合が高くなっている。

1.4. 地域における住民同士の交流の場の有無

◆住民同士の交流の場が<ない>が約6割



地域における住民同士の交流の場の有無は、「どちらかといえはない」(19.6%)と「ない」(41.9%)を合わせた<ない>が約6割であるのに対し、「ある」(16.4%)と「どちらかといえはある」(19.4%)を合わせた<ある>は3割台半ばとなっている。年代別にみると、70歳代を除いて<ない>が<ある>を上回っている。

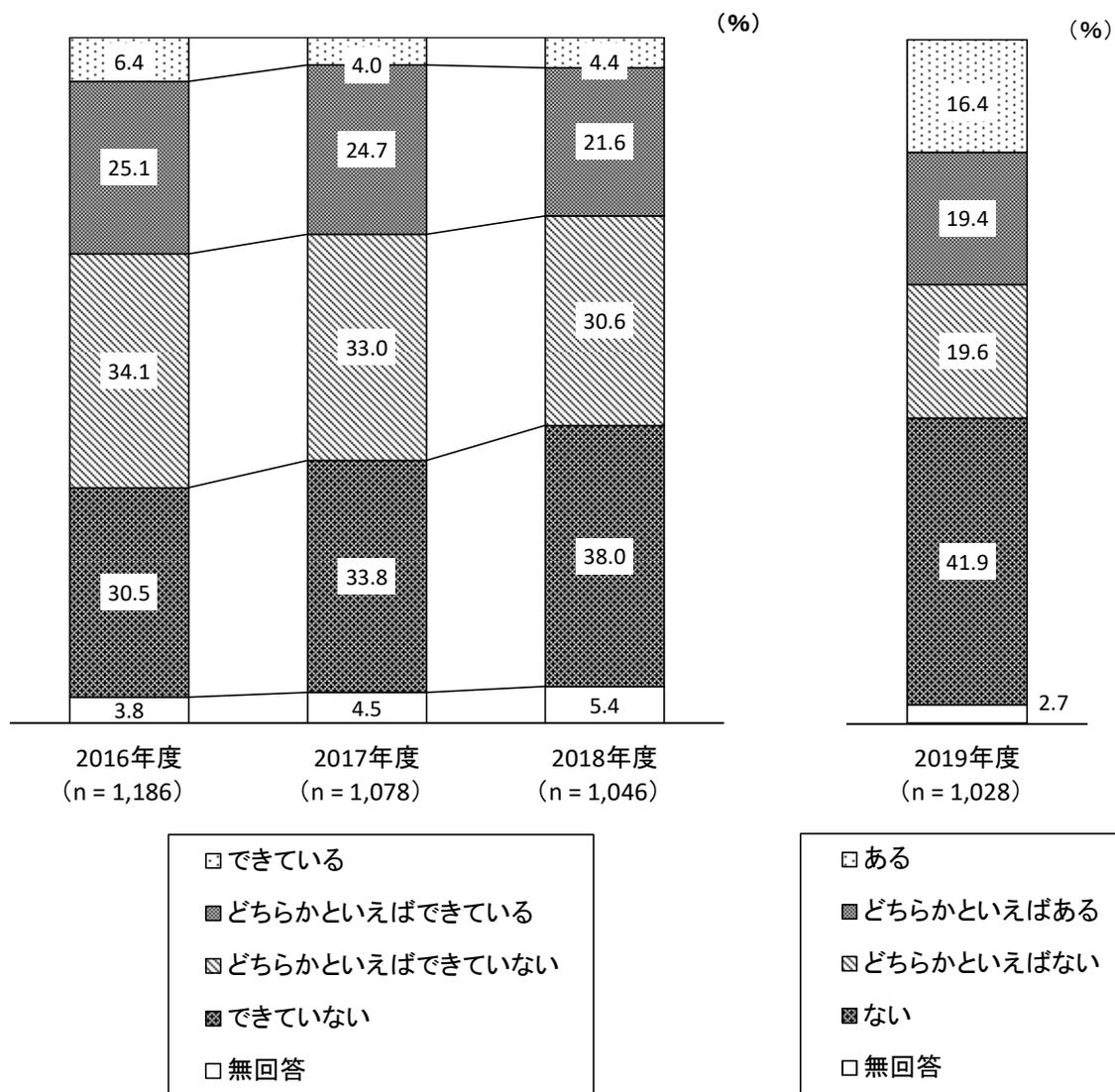
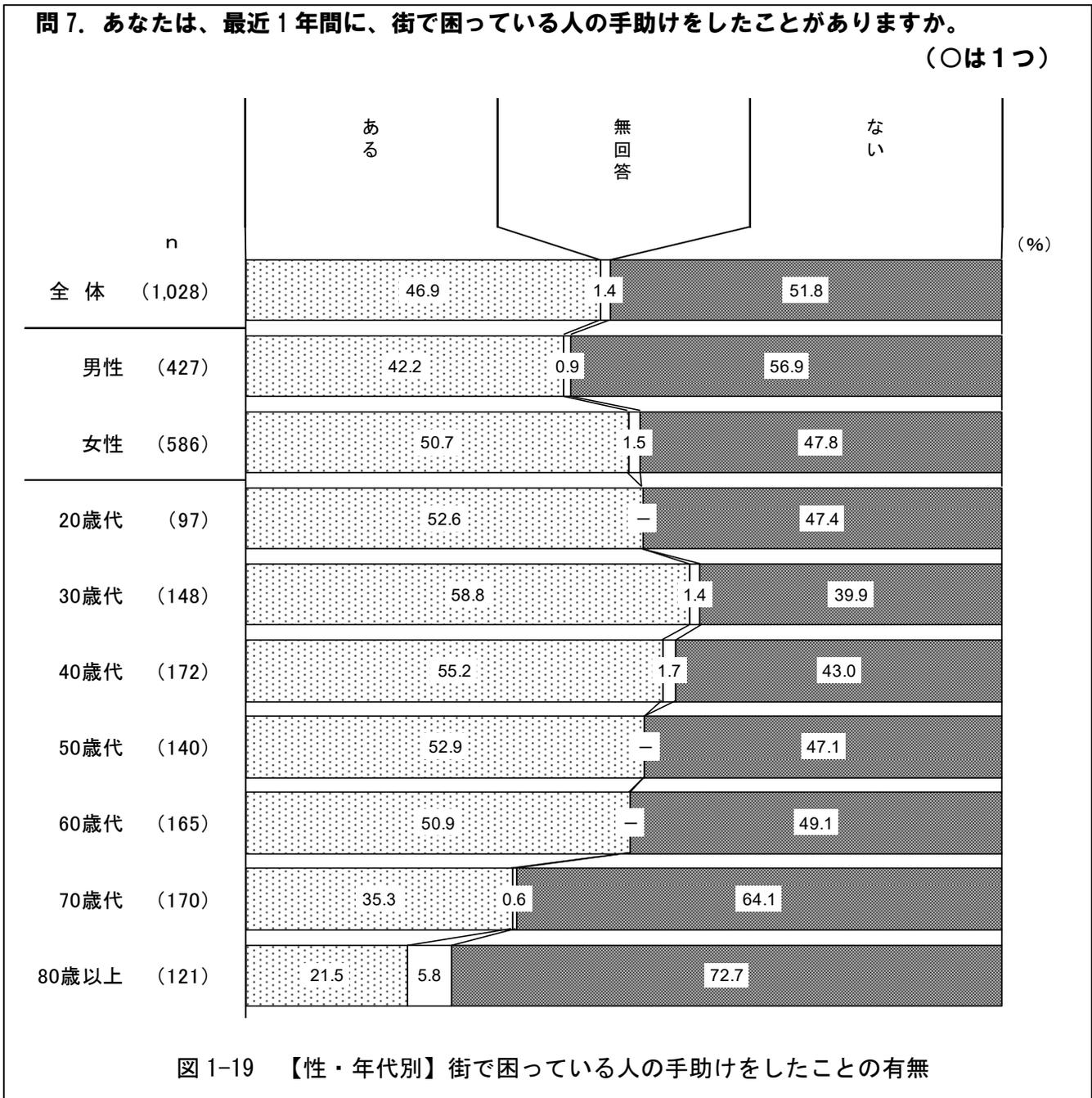


図 1-18 【経年比較】住民同士の交流の場があるか

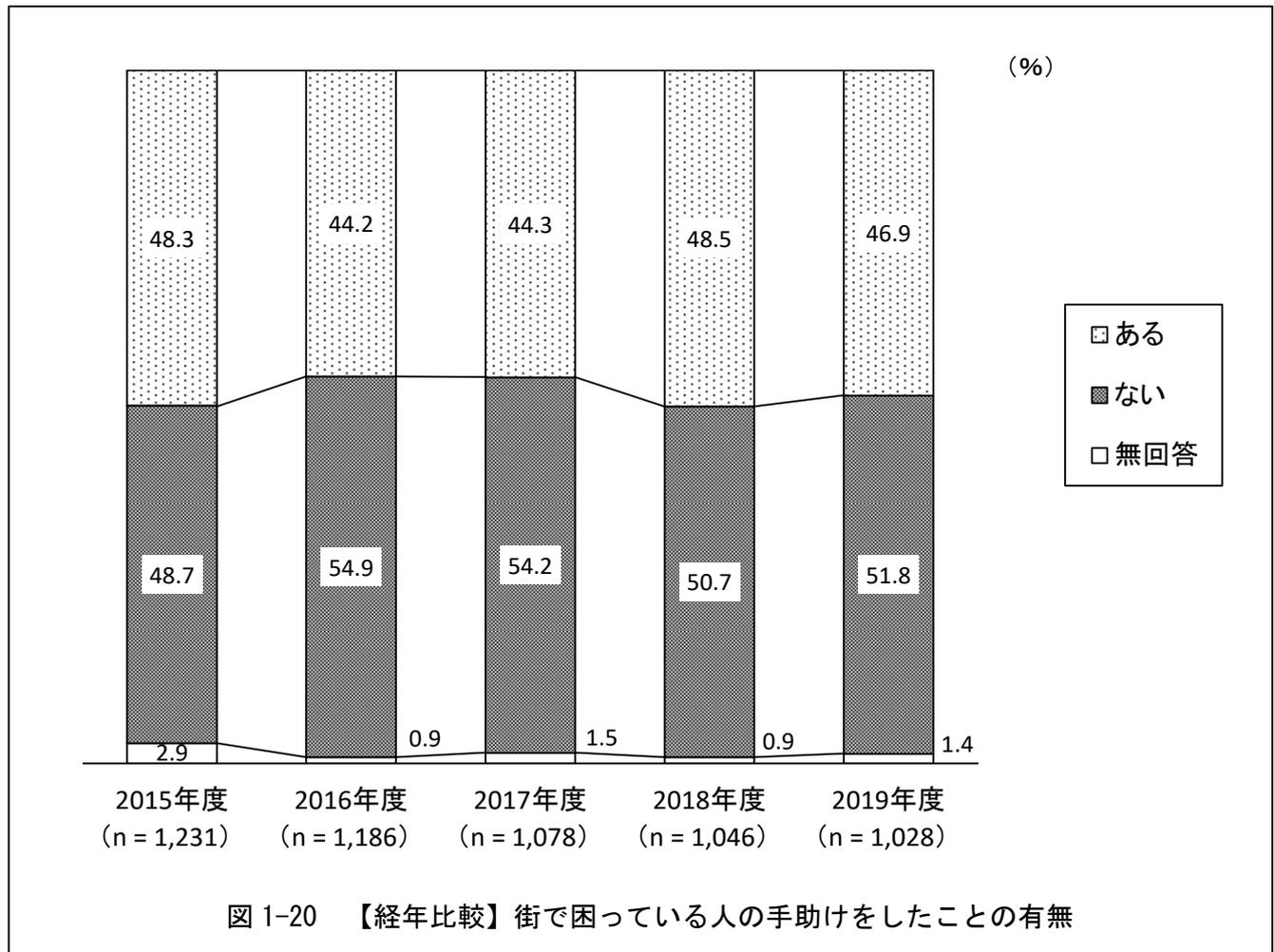
2018年度までは「交流する『場づくり』ができていないか」について調査しているため、参考として2016年度から2018年度までの結果を掲載する。

1.5. 街で困っている人の手助けをしたことの有無

◆街で困っている人の手助けをしたことが「ある」が4割台半ば



最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことの有無は、「ある」が46.9%、「ない」が51.8%となっている。性別にみると、「ある」は女性（50.7%）が男性（42.2%）を約9ポイント上回っている。年代別にみると、20歳～60歳代で「ある」が5割を超えており、特に30歳代では5割台後半と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.5.1. 手助けをした人

◆手助けをした人は「高齢者」が約7割

(問7で「1. ある」に○をつけた方に)

問7-1. あなたが手助けをしたのはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

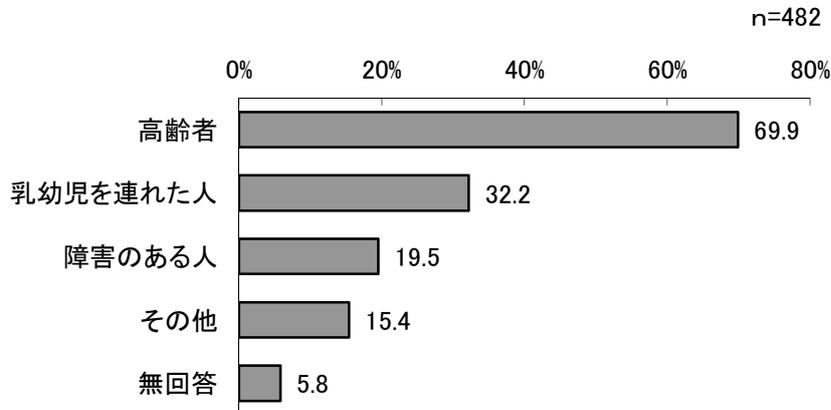


図 1-21 手助けをした人

最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことがある方に、どのような人を手助けしたかを聞いたところ、「高齢者」が69.9%で最も高く、次いで「乳幼児を連れた人」(32.2%)となっている。

「その他」(15.4%)のうち半数以上は「外国人」となっている。

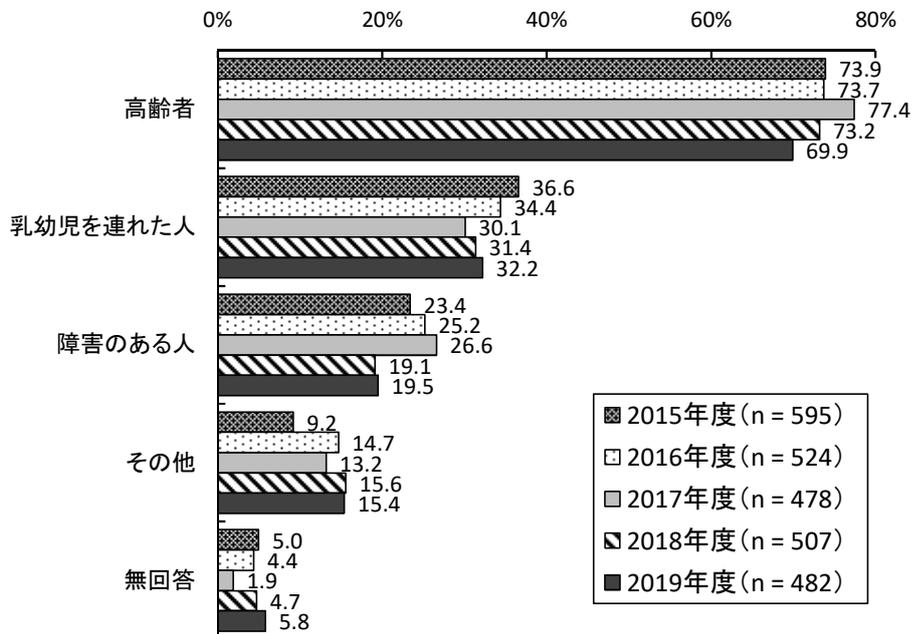
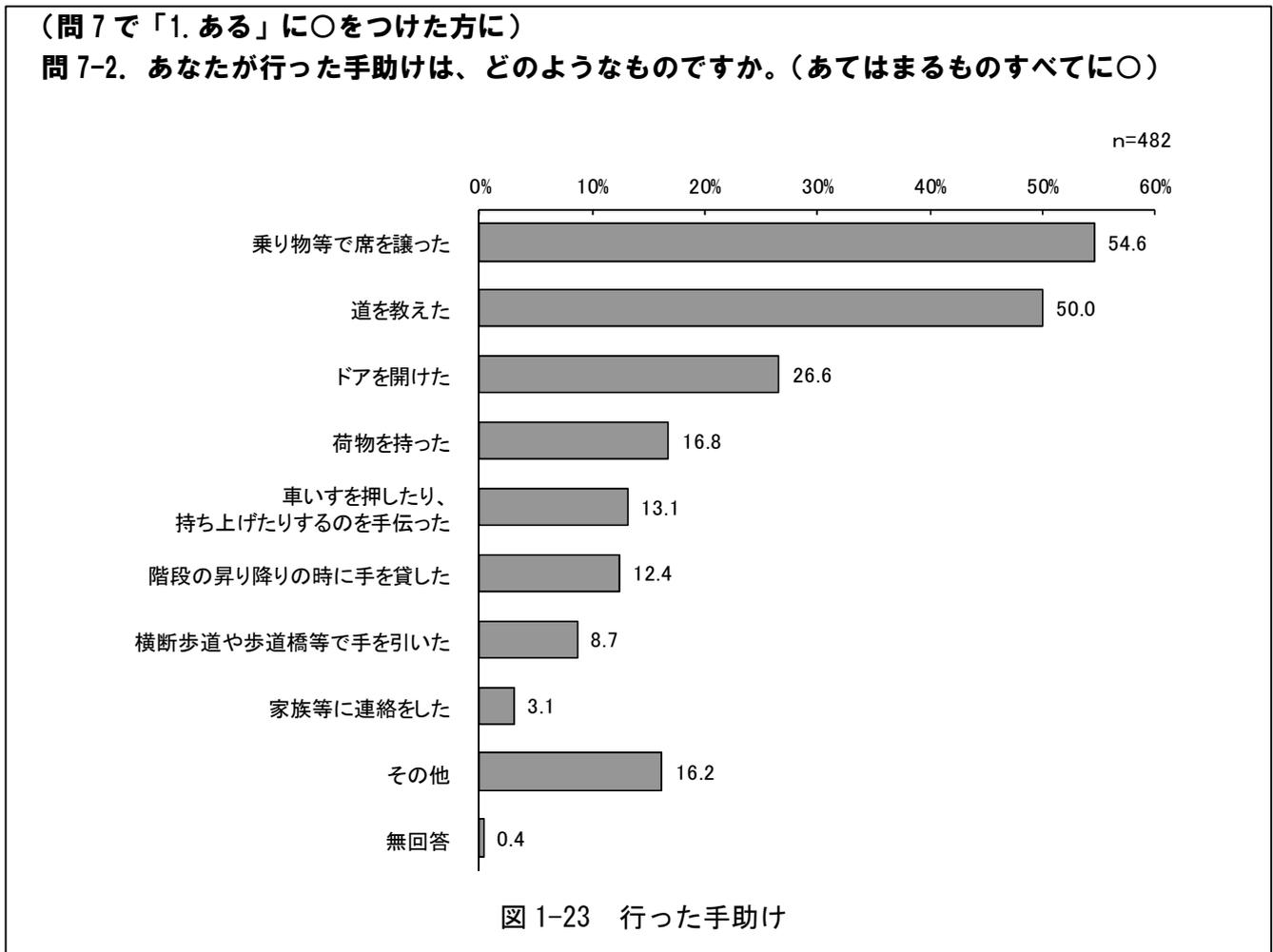


図 1-22 【経年比較】手助けをした人

経年で比較すると、2017年度までは「高齢者」と「障害のある人」が増加傾向となっていたが、2018年度以降、「高齢者」は減少傾向にある。

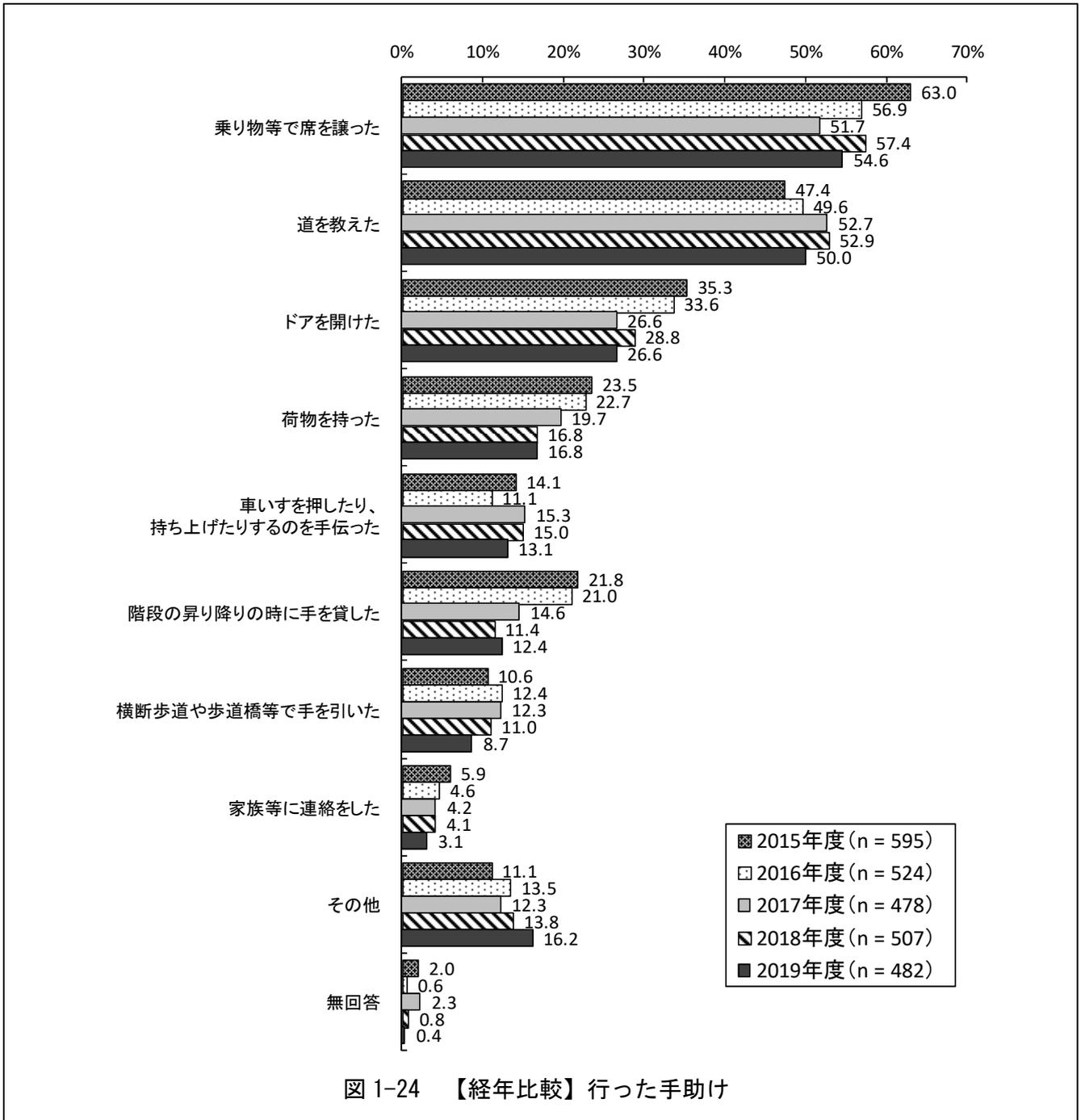
1.5.2. 行った手助け

◆行った手助けは「乗り物等で席を譲った」「道を教えた」が5割超



最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことがある方に、行った手助けを聞いたところ、「乗り物等で席を譲った」が54.6%で最も高く、次いで「道を教えた」(50.0%)、「ドアを開けた」(26.6%)となっている。

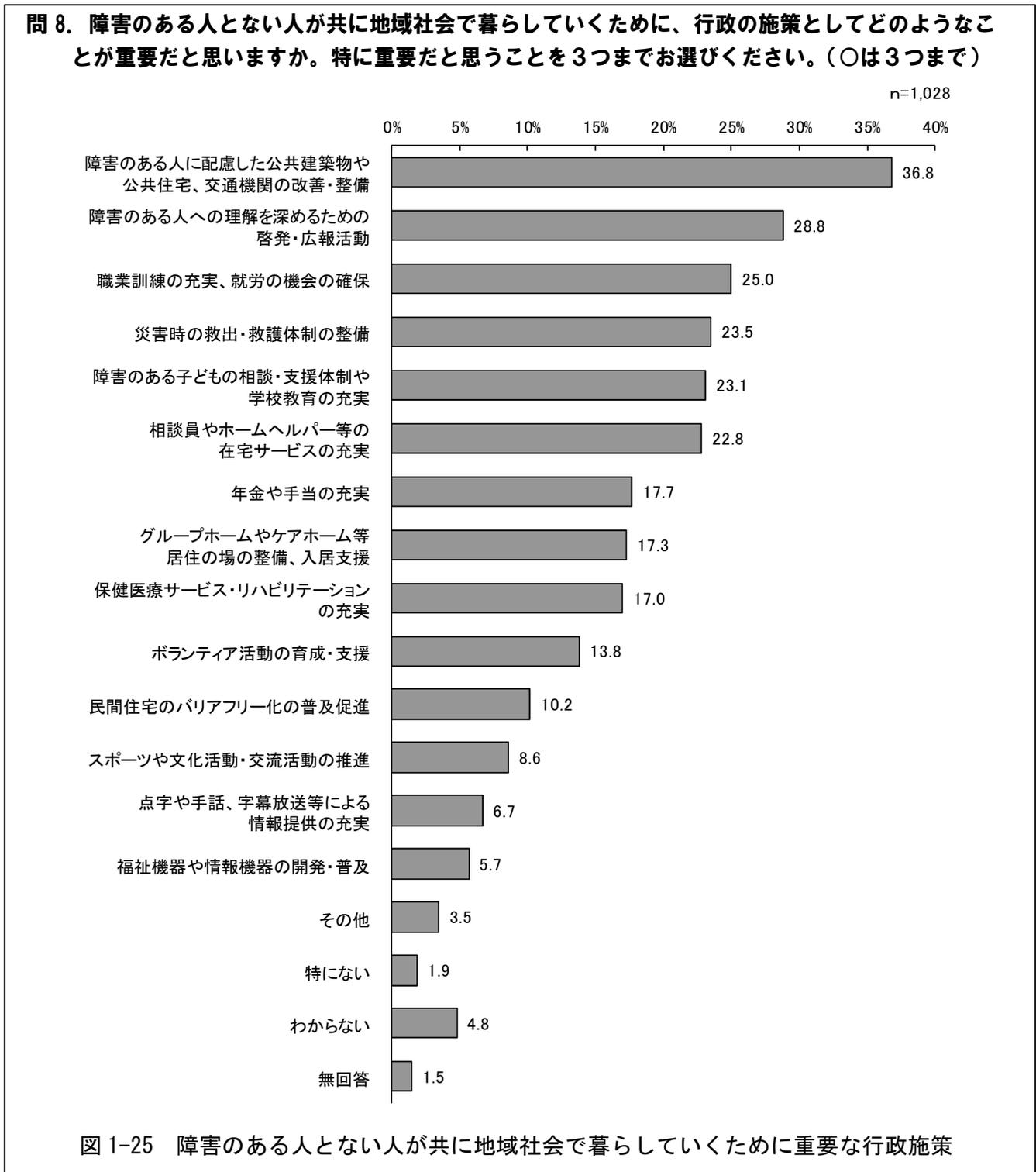
「その他」(16.2%)としては「体調不良の人やけが人の介助・救助」、「転倒した人の手助け」、「落とし物を拾った」、「ベビーカーの移動の手助け」などがあがっている。



経年で比較すると、2019年度は全体的に減少傾向にあり、「乗り物等で席を譲った」、「ドアを開けた」、「階段の昇り降りの時に手を貸した」は5年前と比べて8ポイントを超えて減少している。

1.6. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

◆障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が3割台半ば



障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は、「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が36.8%で最も高く、次いで「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」(28.8%)、「職業訓練の充実、就労の機会の確保」(25.0%)、「災害時の救出・救護体制の整備」(23.5%)などが続いている。

表 1-3 【年代別】上位5項目 障害のある人となない人が
共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=97	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 49.5	職業訓練の充実、就労の 機会の確保 26.8	障害のある子どもの相談・ 支援体制や学校教育の充 実 25.8	年金や手当の充実／災害時の救出・救護体制の整備	24.7
30歳代 n=148	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 45.3	障害のある子どもの相談・ 支援体制や学校教育の充 実 35.8	職業訓練の充実、就労の 機会の確保 29.1	障害のある人への理解を 深めるための啓発・広報 活動 27.7	相談員やホームヘルパー 等の在宅サービスの充実 ／災害時の救出・救護体 制の整備 23.0
40歳代 n=172	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 37.2	職業訓練の充実、就労の 機会の確保 30.8	障害のある人への理解を 深めるための啓発・広報 活動 29.1	災害時の救出・救護体制 の整備 26.2	障害のある子どもの相談・ 支援体制や学校教育の充 実 24.4
50歳代 n=140	障害のある人への理解を 深めるための啓発・広報 活動 40.7	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 37.9	相談員やホームヘルパー 等の在宅サービスの充実 25.0	グループホームやケア ホーム等居住の場の整 備、入居支援 24.3	障害のある子どもの相談・ 支援体制や学校教育の充 実 22.1
60歳代 n=165	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 40.6	障害のある人への理解を 深めるための啓発・広報 活動 26.1	職業訓練の充実、就労の 機会の確保 25.5	相談員やホームヘルパー 等の在宅サービスの充実 24.8	障害のある子どもの相談・ 支援体制や学校教育の充 実／災害時の救出・救護 体制の整備 23.6
70歳代 n=170	障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 28.2	障害のある人への理解を 深めるための啓発・広報 活動 26.5	災害時の救出・救護体制 の整備 25.3	相談員やホームヘルパー 等の在宅サービスの充実 24.7	職業訓練の充実、就労の 機会の確保 23.5
80歳以上 n=121	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活 動／相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充 実 26.4		保健医療サービス・リハビリテーションの充実／災害 時の救出・救護体制の整備 20.7		障害のある人に配慮した 公共建築物や公共住宅、 交通機関の改善・整備 19.8

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策を年代別にみると、20歳～40歳代と60歳～70歳代では「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が、50歳代と80歳代では「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」が1位となっている。

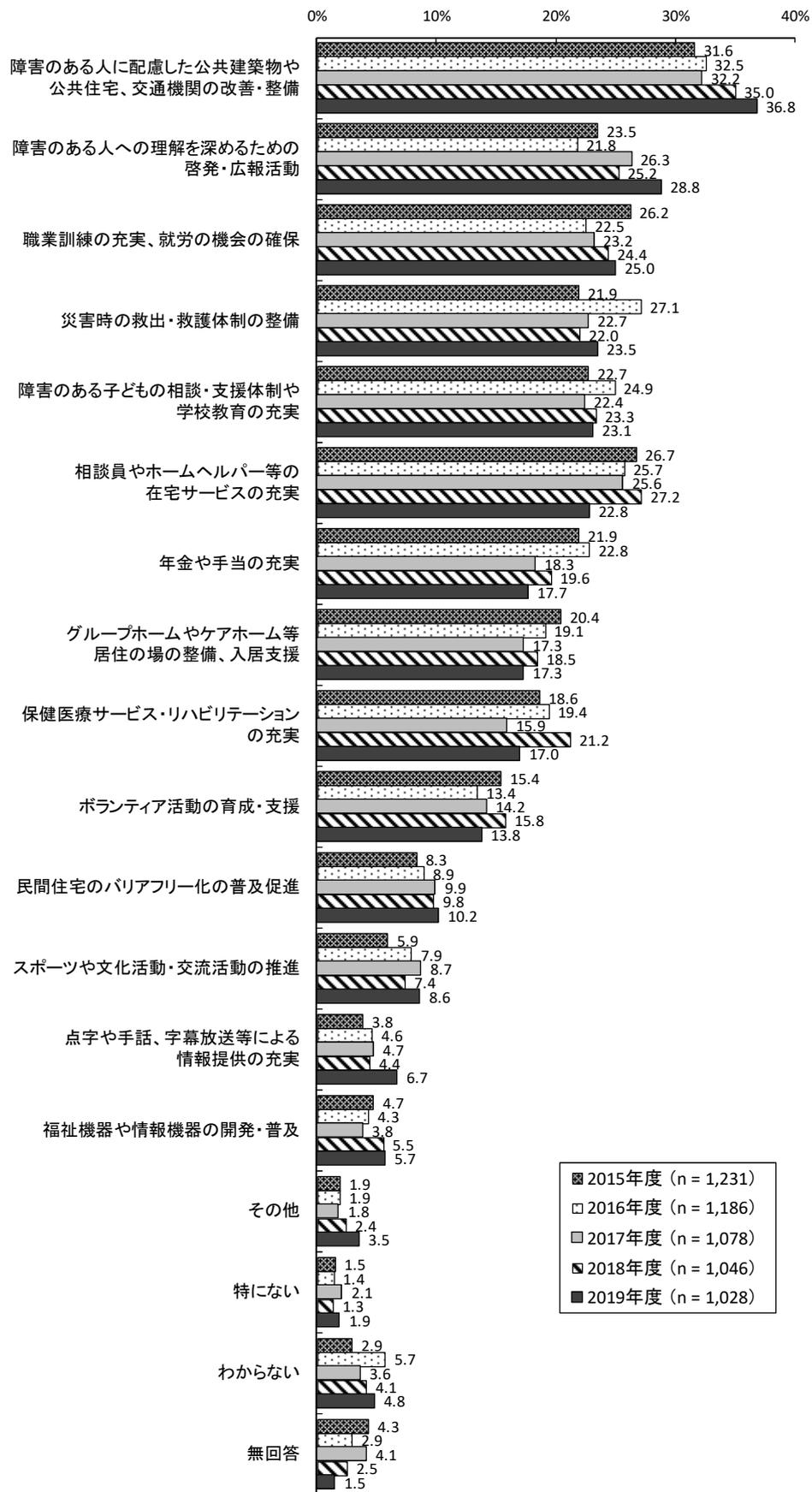


図 1-26 【経年比較】障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.7. 民生委員の活動の認知度

◆民生委員を<知っている>割合は、80歳代以上で最も高く約9割

問9. 身近な相談相手として、民生委員（児童委員も兼ねます）が地域で活動していることをご存じですか。（○は1つ）

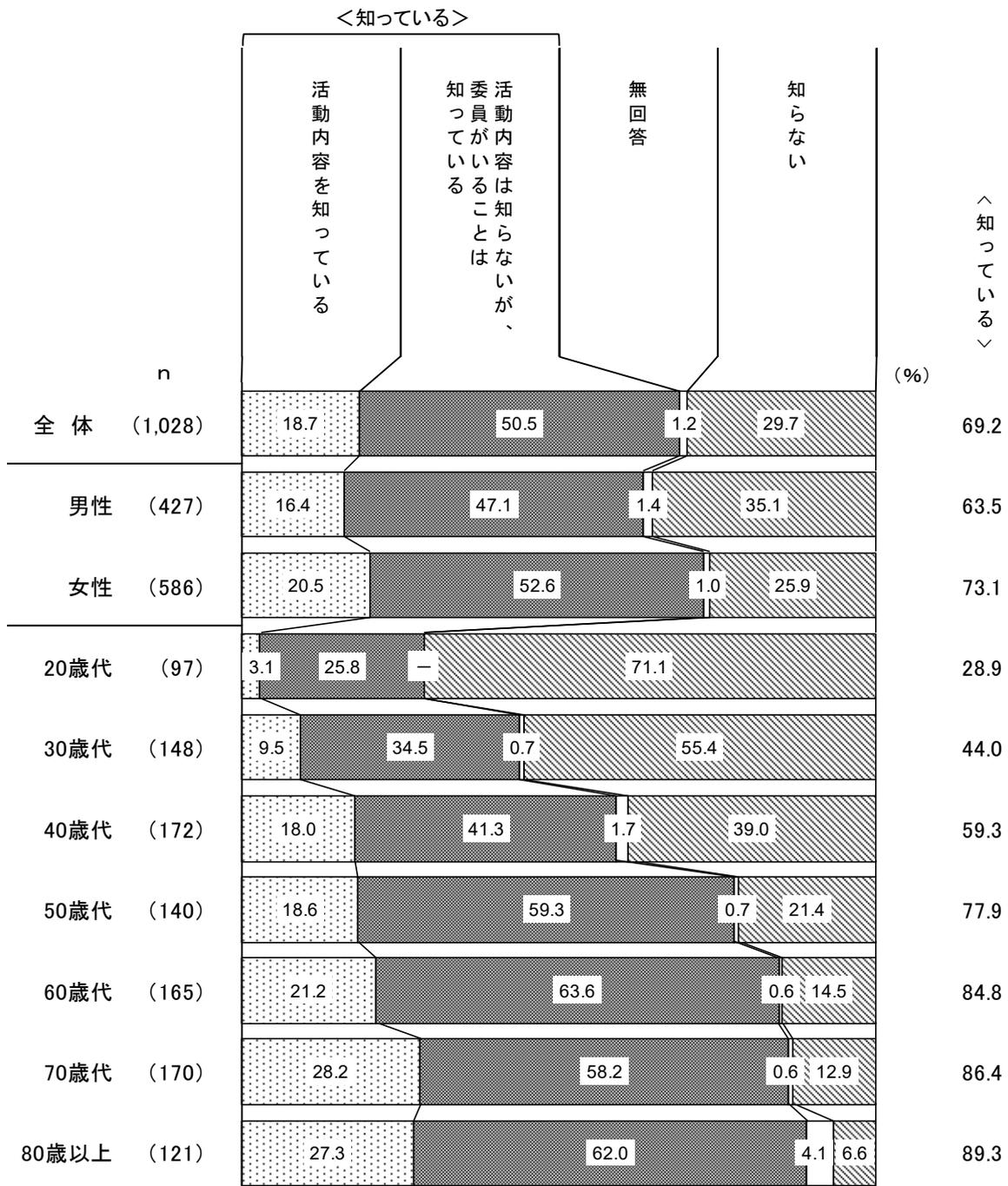


図 1-27 【性・年代別】民生委員の活動の認知度

民生委員の活動の認知度は、「活動内容を知っている」(18.7%)と「活動内容は知らないが、委員がいることは知っている」(50.5%)を合わせた<知っている>で69.2%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(73.1%)が男性(63.5%)を約10ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は年代が上がるほど増加しており、60歳代以上では8割を超えている。

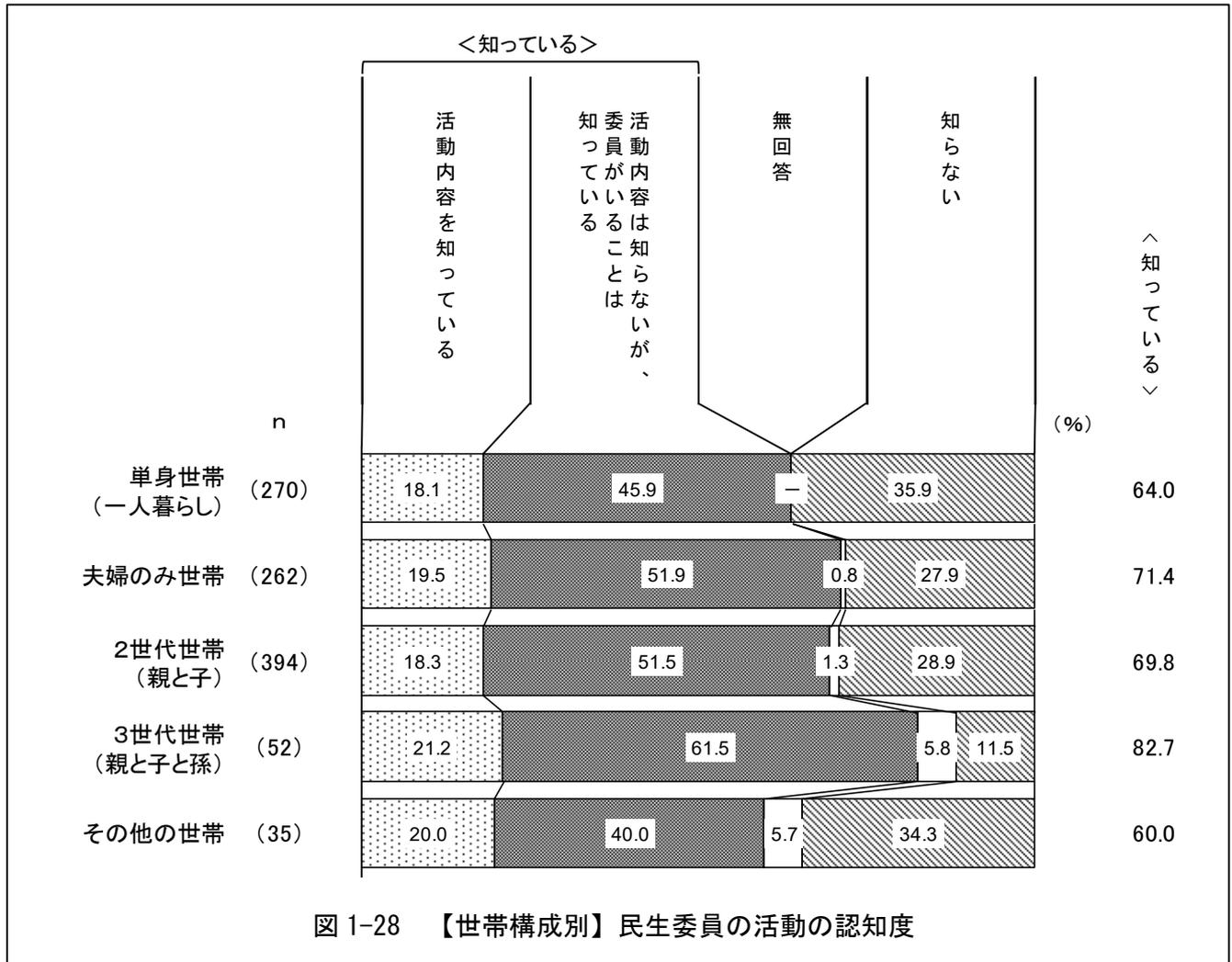


図 1-28 【世帯構成別】民生委員の活動の認知度

世帯構成別にみると、3世代世帯（親と子と孫）で<知っている>が8割台前半と高くなっている。

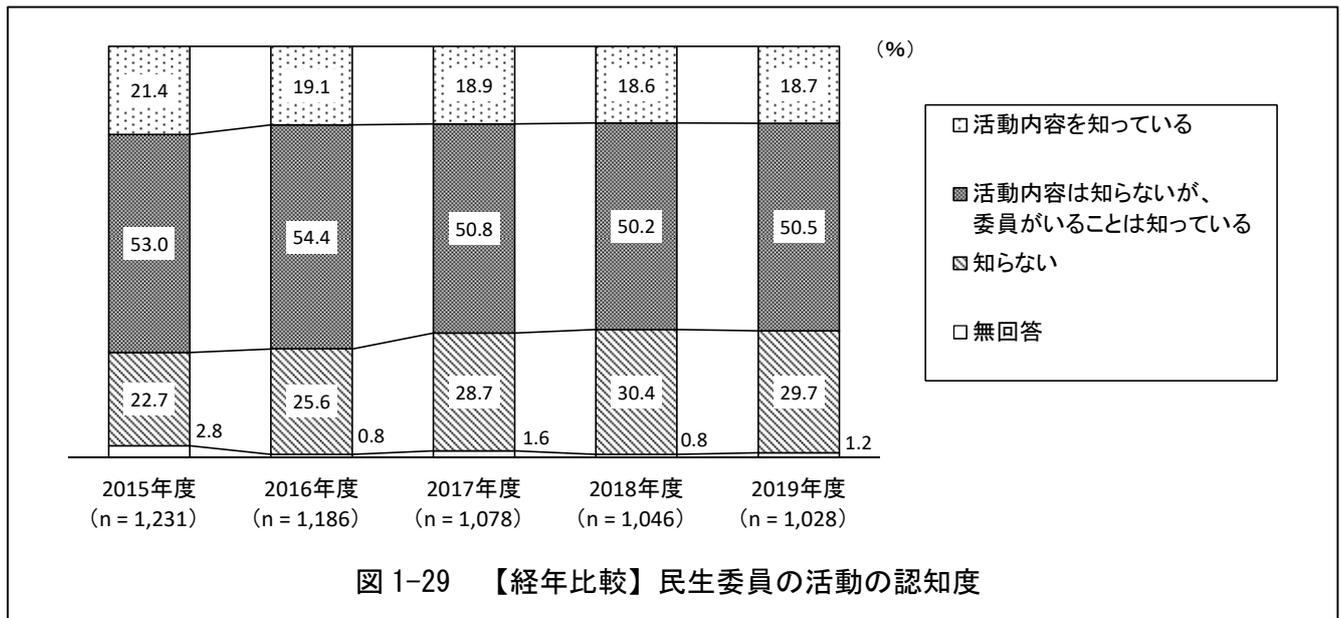
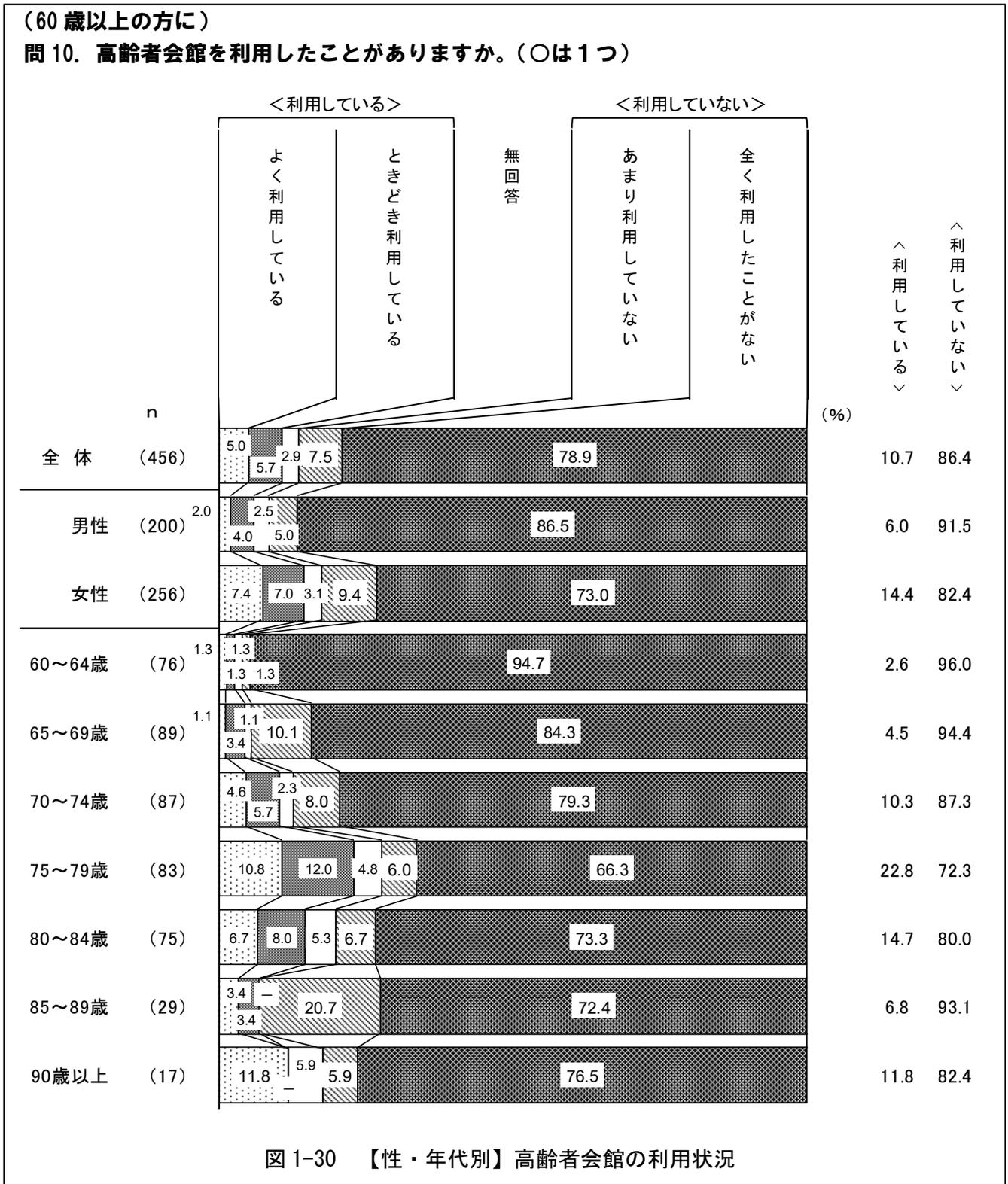


図 1-29 【経年比較】民生委員の活動の認知度

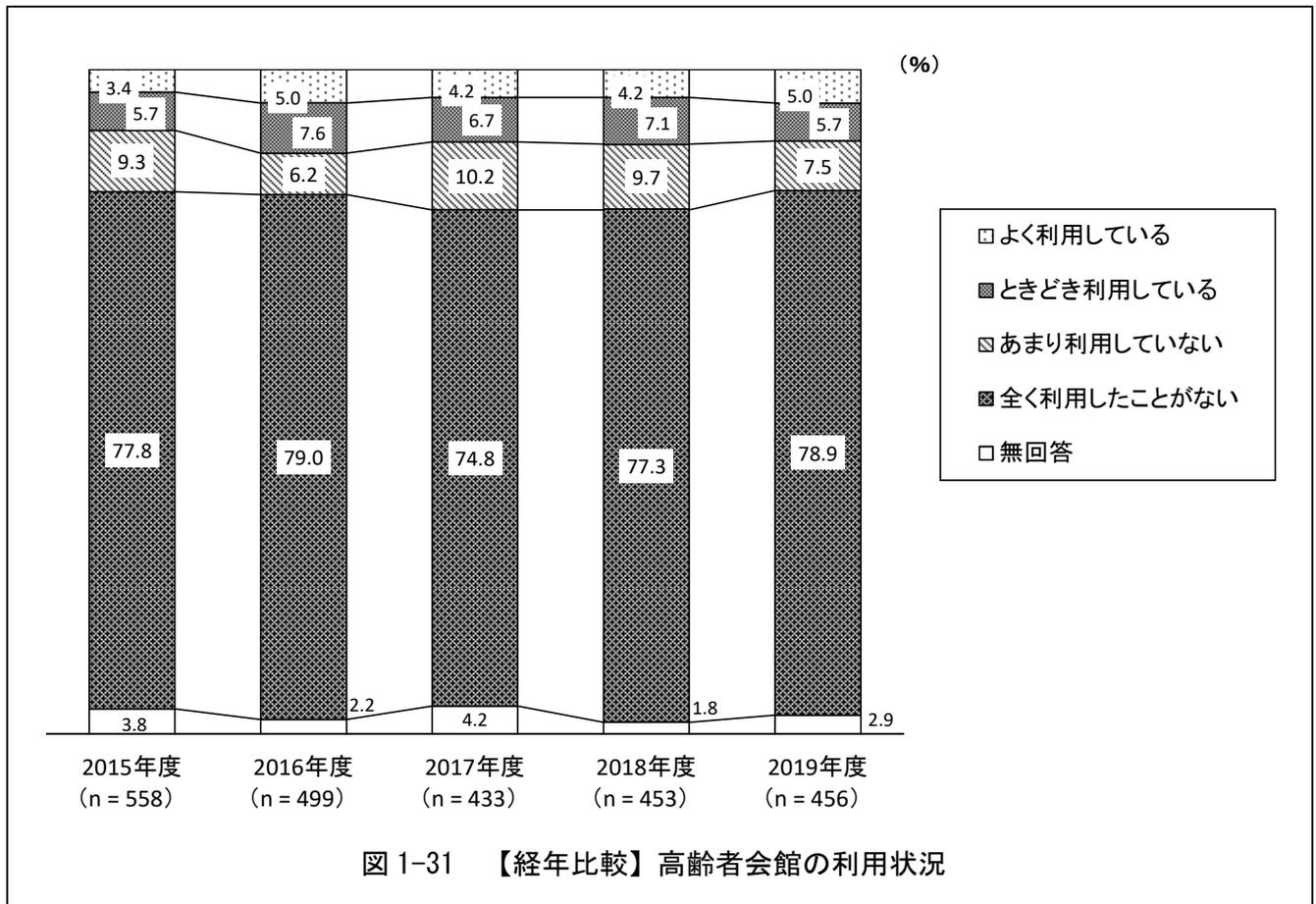
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.8. 高齢者会館の利用状況

◆高齢者会館を<利用している>は約1割



60歳以上の方に高齢者会館の利用状況を聞いたところ、「よく利用している」(5.0%)と「ときどき利用している」(5.7%)を合わせた<利用している>は10.7%となっている。性別では、<利用している>は女性(14.4%)が男性(6.0%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、75歳~79歳で<利用している>が2割台前半と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.8.1. 高齢者会館を利用していない理由

◆高齢者会館を利用していない理由は「行く必要を感じないから」が5割台半ば

(問10で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)
 問10-1. 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

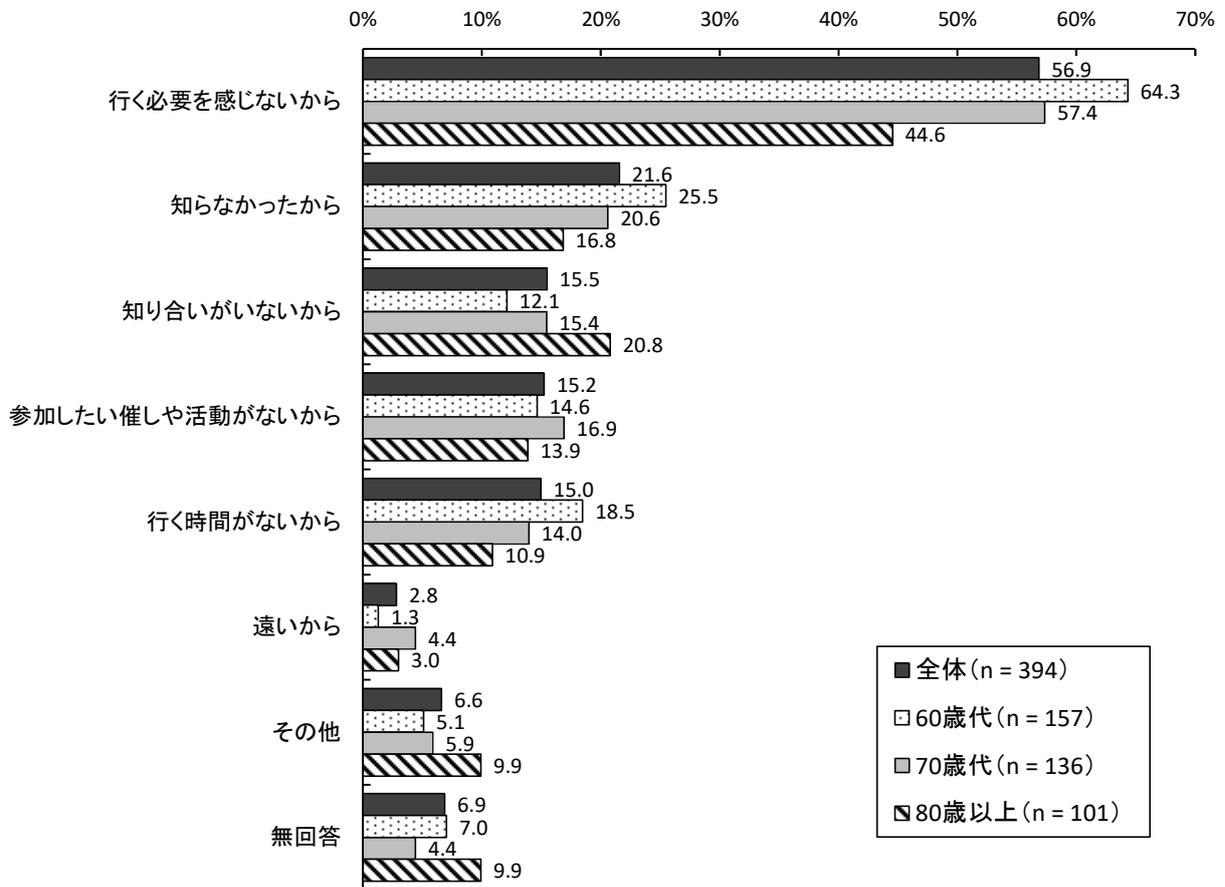


図 1-32 【年代別】高齢者会館を利用していない理由

高齢者会館を利用していない方にその理由を聞いたところ、「行く必要を感じないから」が56.9%で最も高く、次いで「知らなかったから」(21.6%)、「知り合いがいないから」(15.5%)などとなっている。年代別にみると、いずれの年代でも「行く必要を感じないから」が最も高く、特に60歳代で6割台半ばとなっている。

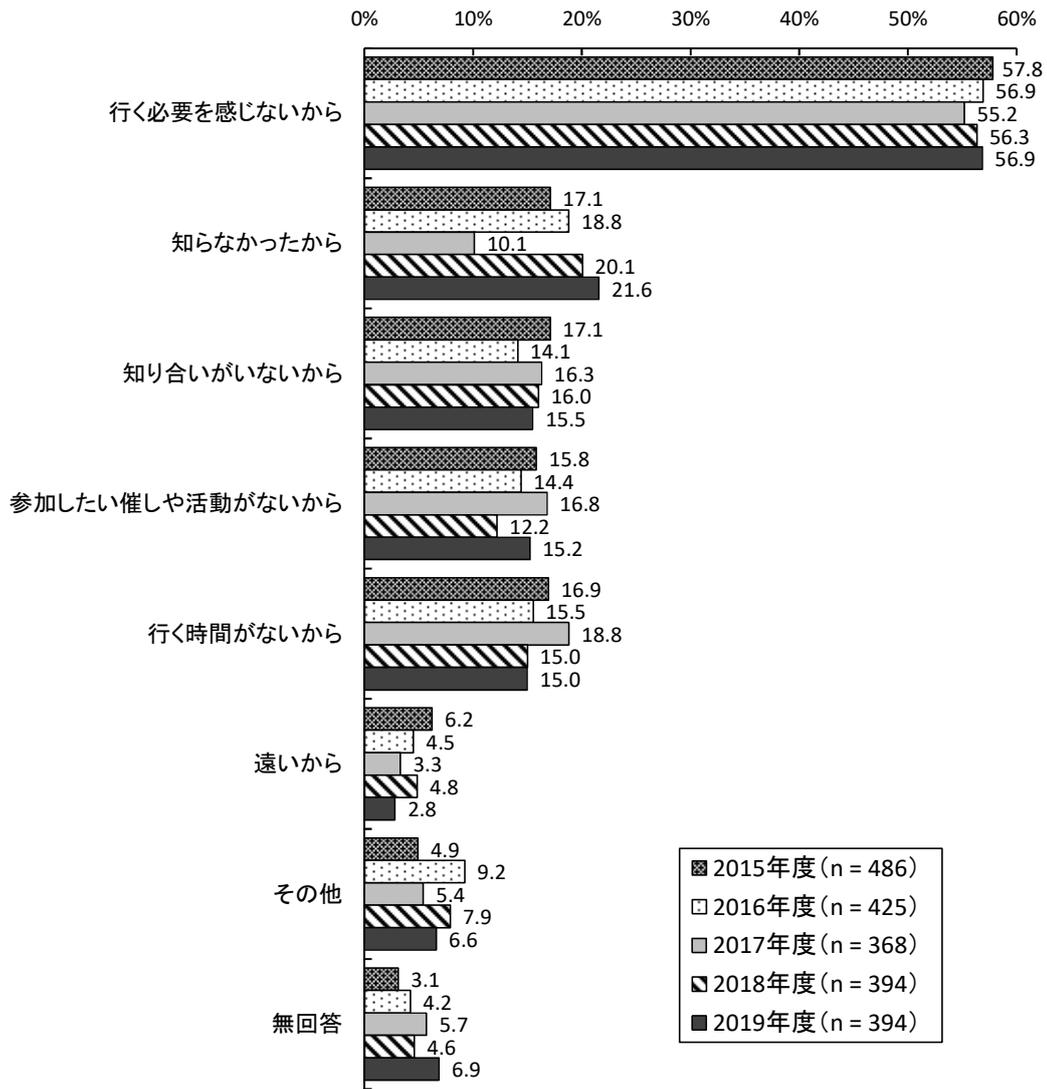


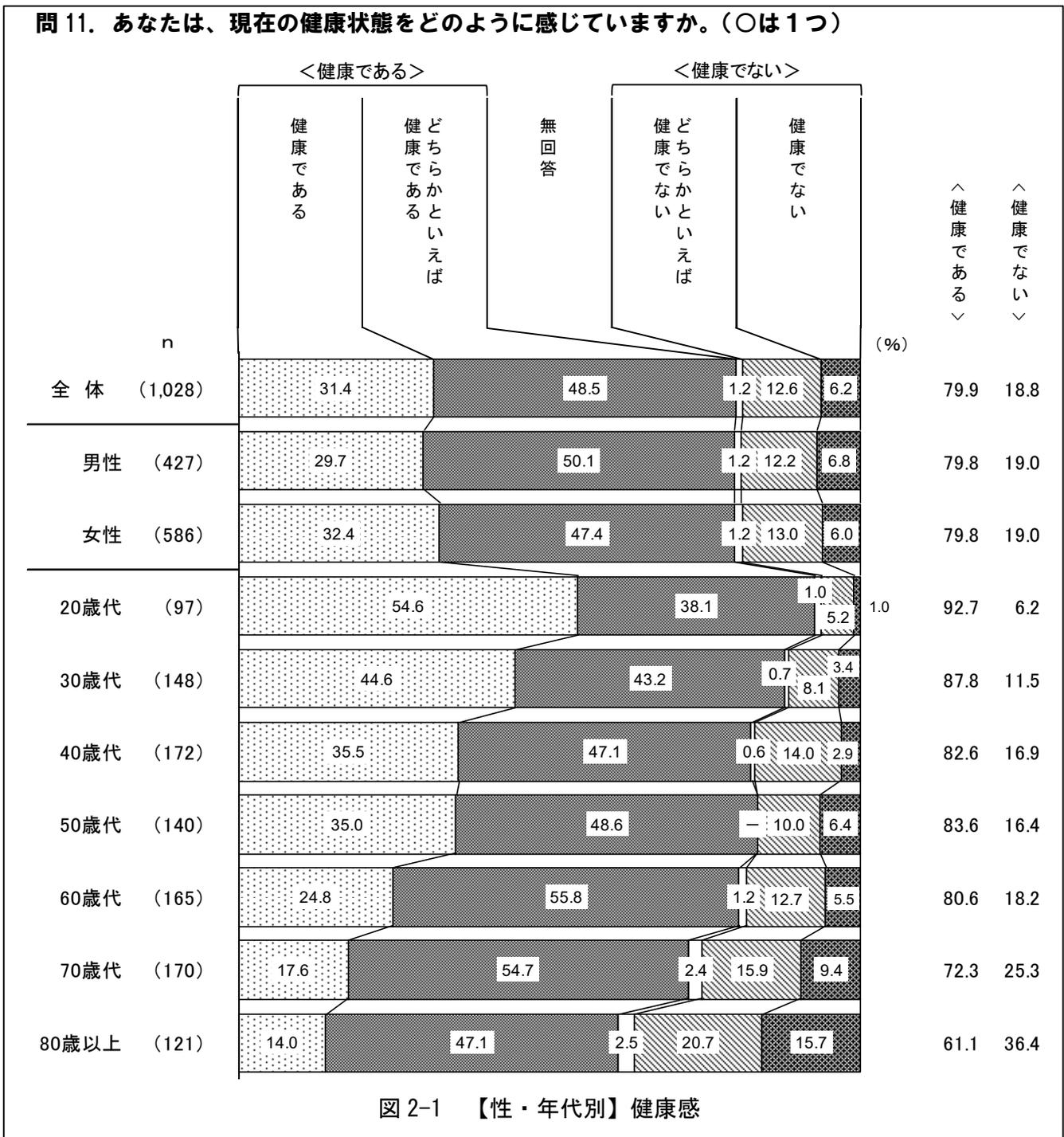
図 1-33 【経年比較】高齢者会館を利用していない理由

経年で比較すると、「行く必要を感じないから」は5割台半ばから後半で推移している。また「知らなかったから」については、2017年度に10.1%まで減少したが、2018年度以降は2割を超え増加に転じている。

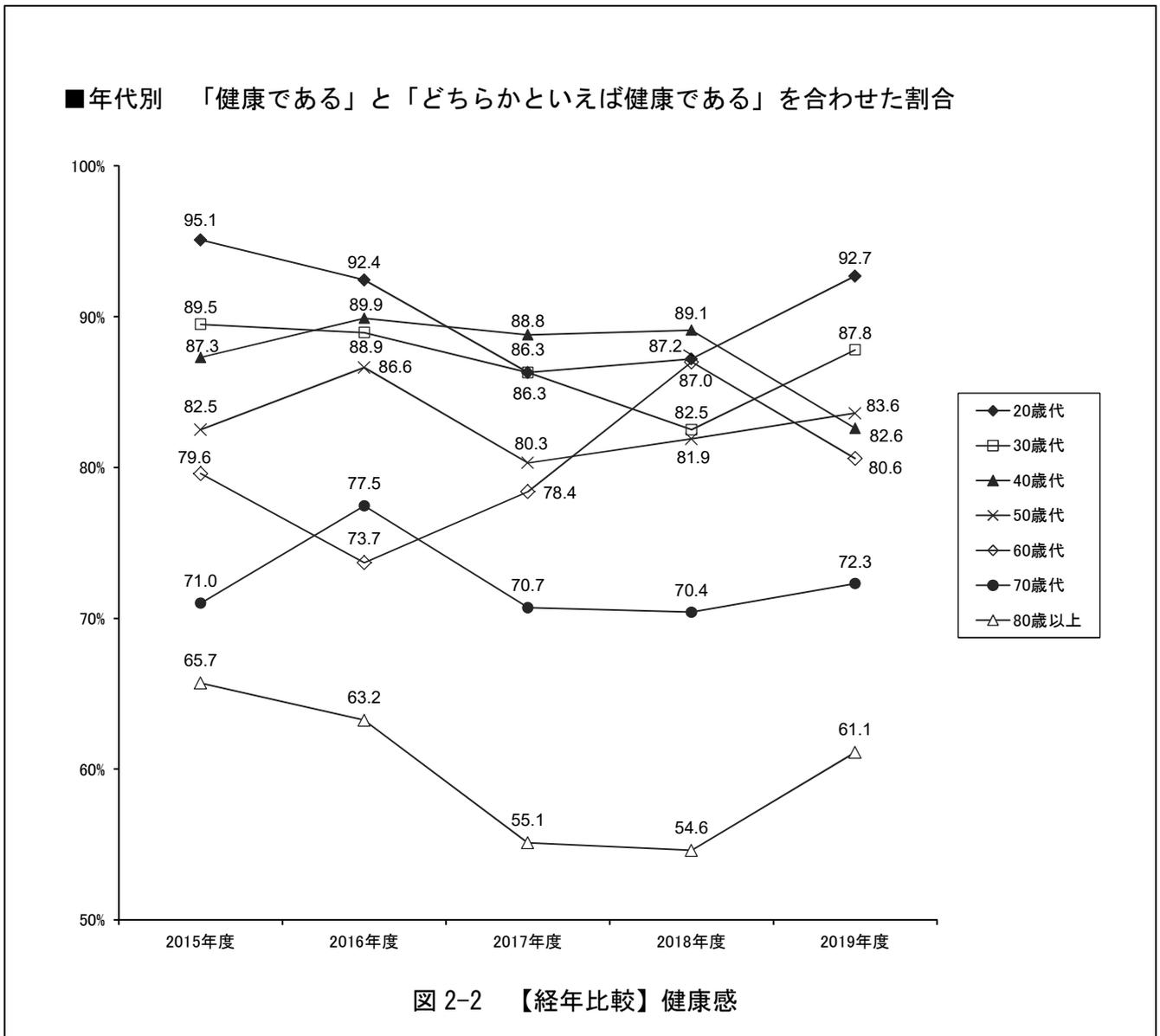
2. 医療・健康について

2.1. 健康感

◆「健康である」と感じる人の割合は年代が上がるにつれ減少



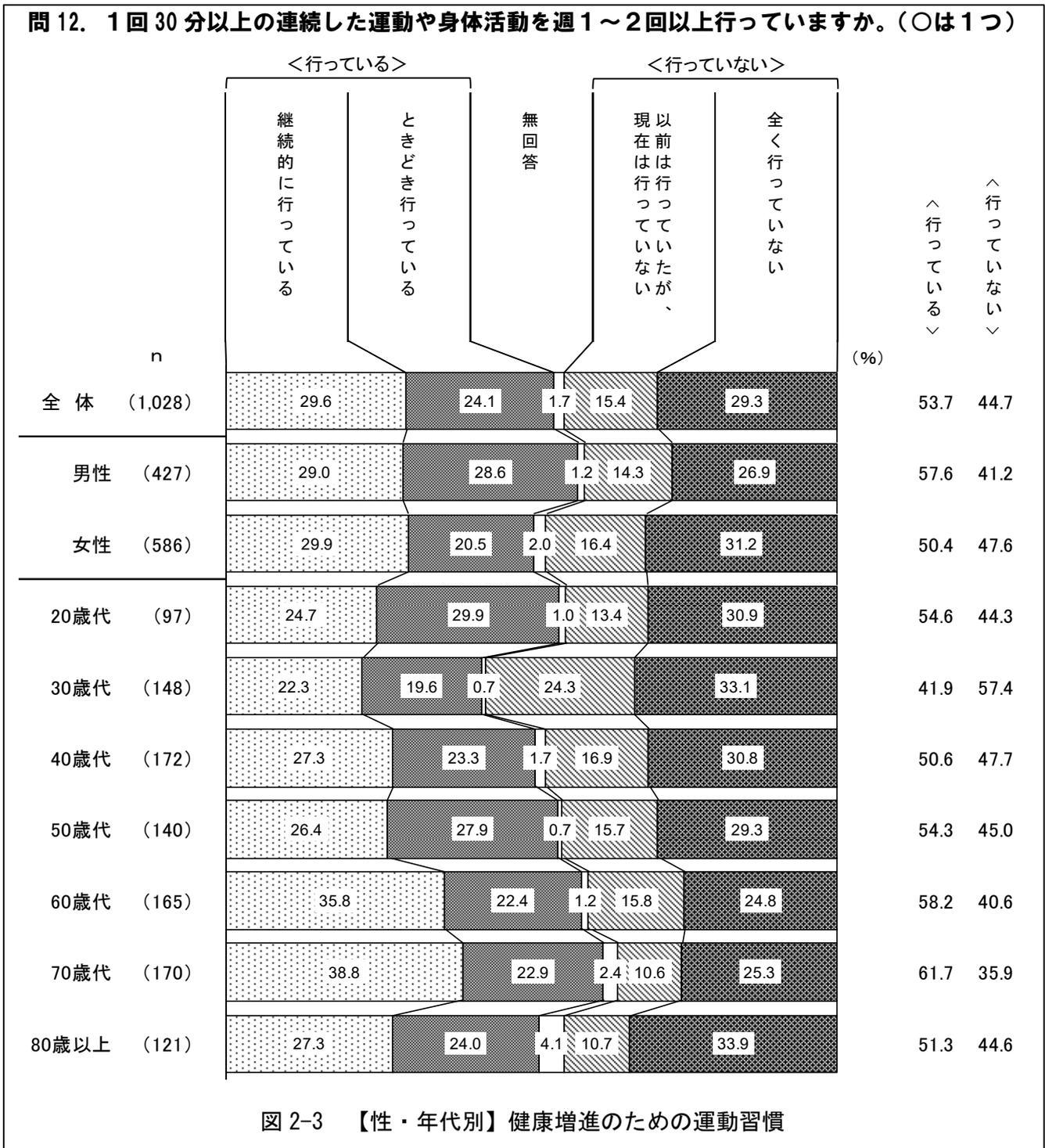
現在の健康状態をどのように感じているかについては、「健康である」(31.4%)と「どちらかといえば健康である」(48.5%)を合わせた<健康である>で79.9%となっている。性別にみると、「健康である」は女性(32.4%)が男性(29.7%)を約3ポイント上回っている。年代別にみると、<健康である>は20歳代で9割を超え、30歳~60歳代でも8割台と高くなっているが、70歳代で7割台前半、80歳以上で約6割となっている。



経年で比較すると、2019年度は前年度と比べ、40歳代と60歳代を除いた年代で「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合が増加している。

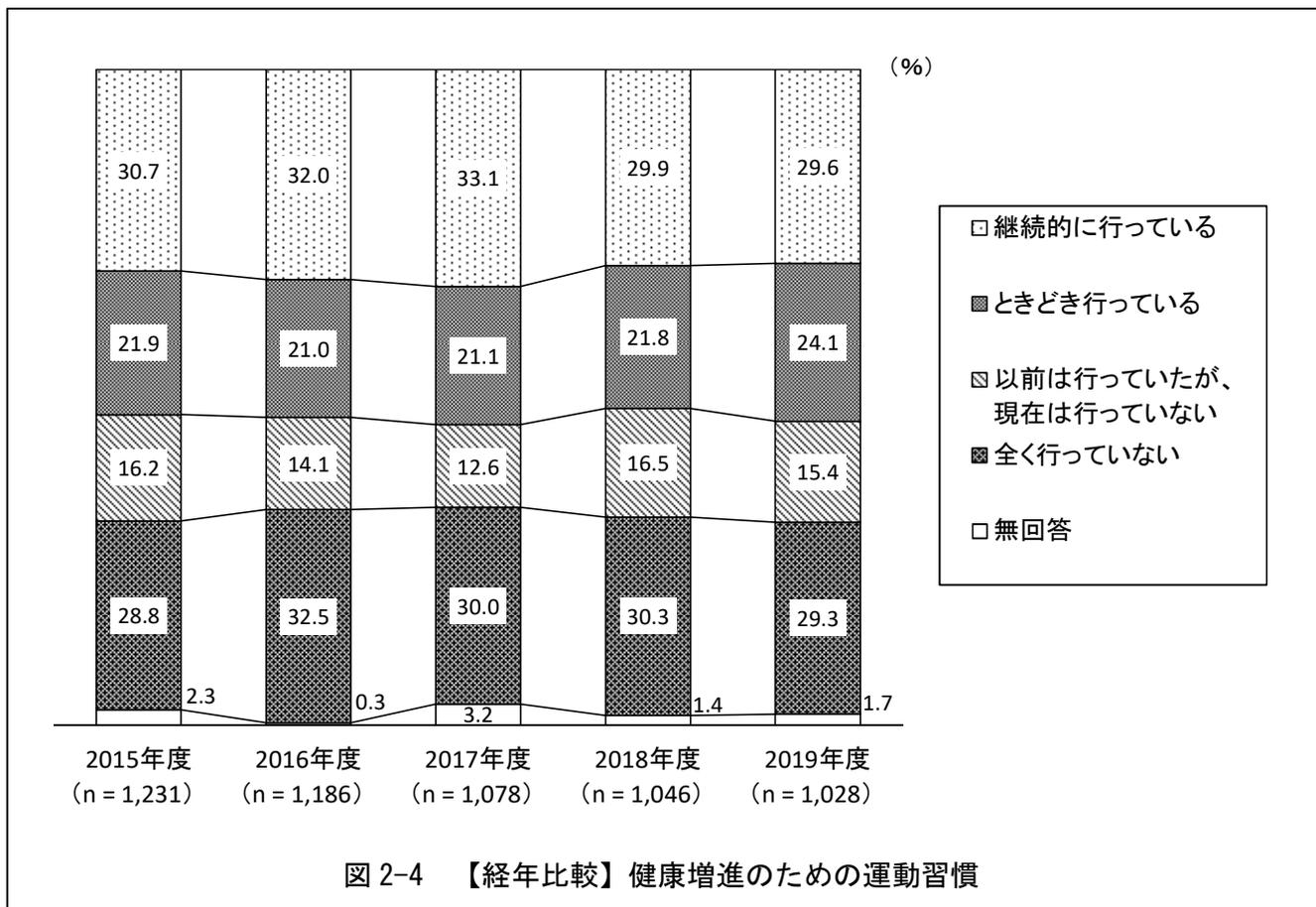
2. 2. 健康増進のための運動習慣

◆ 1回30分以上の運動を週に1～2回以上<行っている>割合が最も高いのは70歳代



1回30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っているかについては、「継続的に行っている」(29.6%)と「ときどき行っている」(24.1%)を合わせた<行っている>で53.7%となっている。性別にみると、<行っている>は男性(57.6%)が女性(50.4%)を約7ポイント上回っている。年代別にみると、<行っている>は70歳代(61.7%)で最も高くなっている。

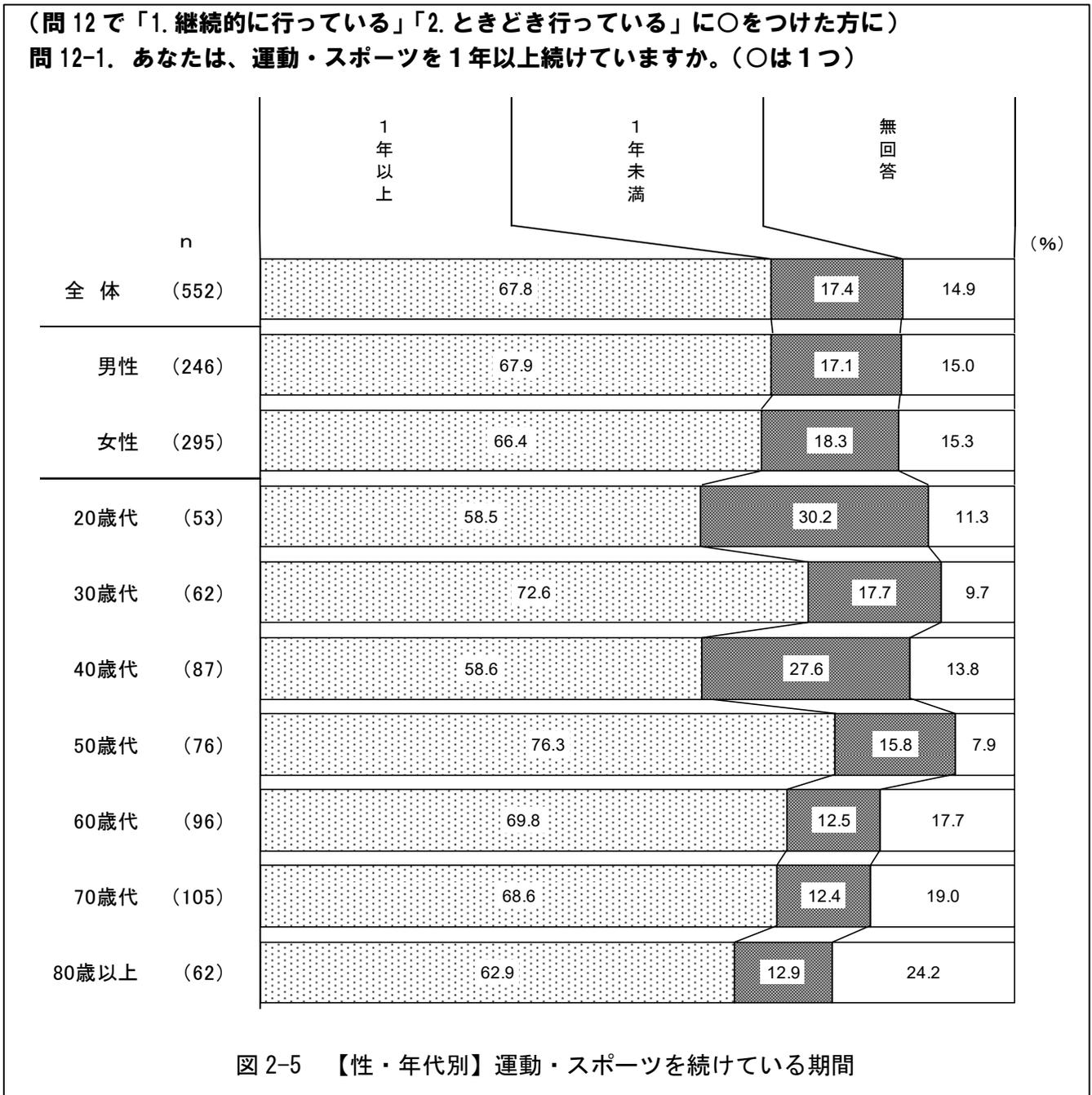
一方、「以前は行っていたが、現在は行っていない」と「全く行っていない」を合わせた<行っていない>を性別にみると、女性(47.6%)が男性(41.2%)を約6ポイント上回っており、年代別にみると、30歳代で5割台後半と高くなっている。



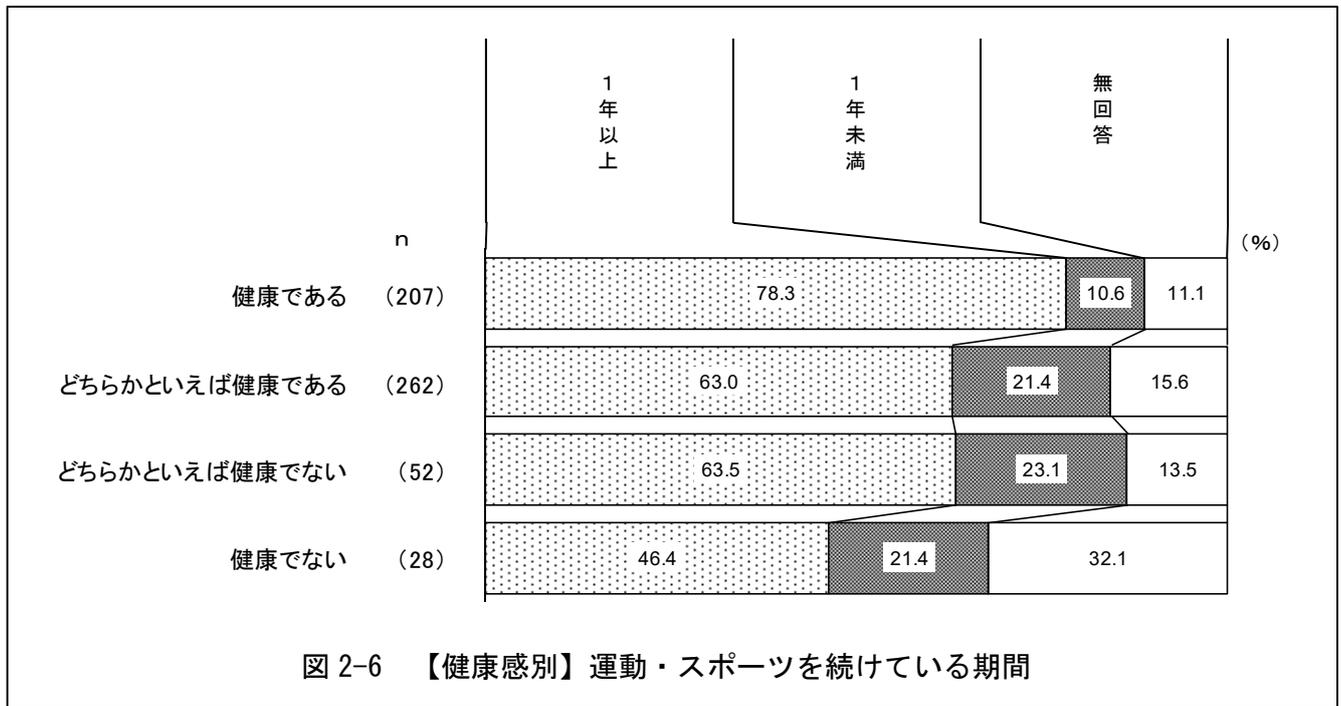
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間

◆運動・スポーツを1年以上継続している人が6割台後半



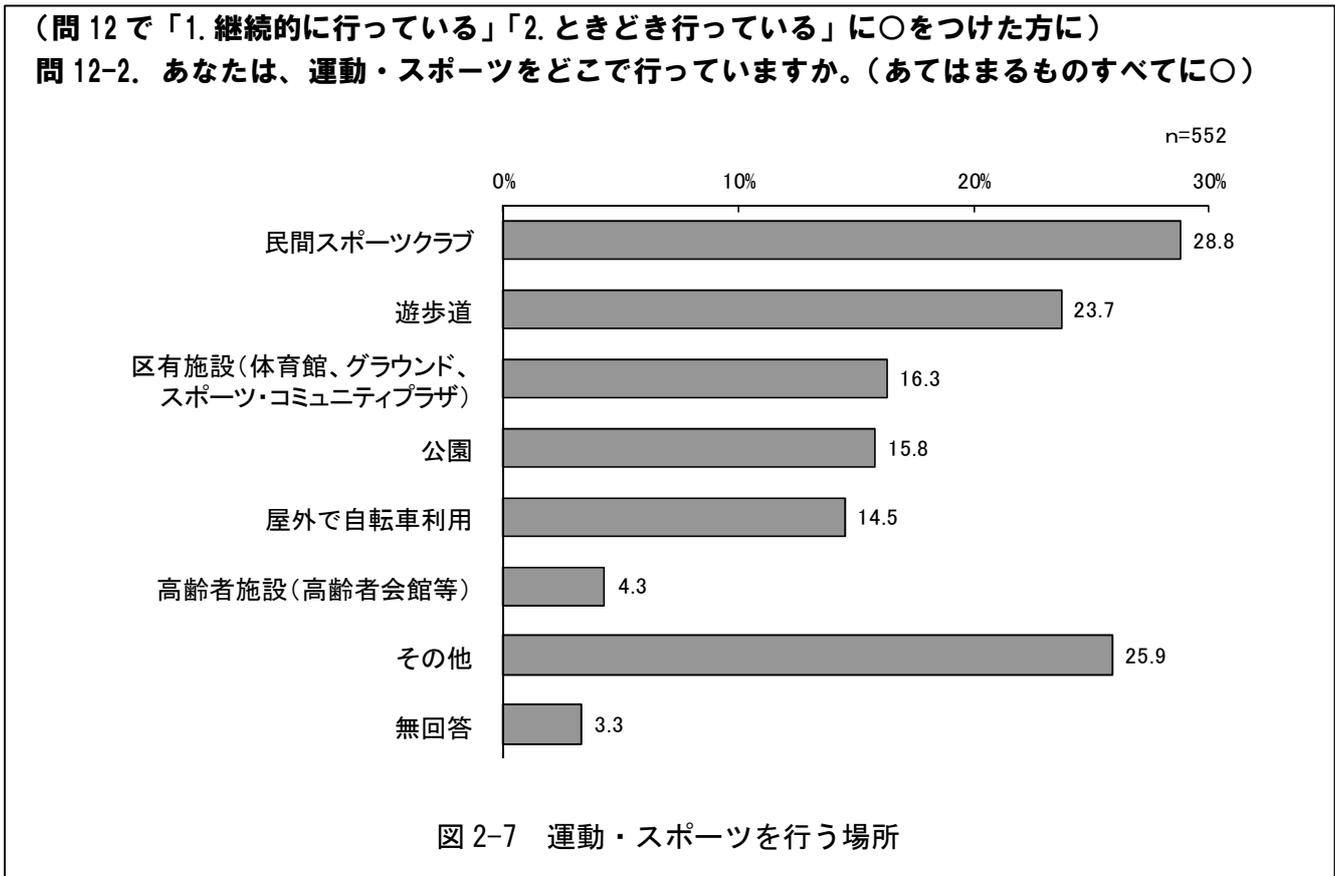
運動・スポーツを1年以上継続しているかについては、「1年以上」が67.8%、「1年未満」が17.4%となっている。性別にみると、差はほとんどみられない。年代別にみると、20歳代と40歳代で「1年以上」が5割台後半となっており、他の年代と比較して低くなっている。



健康感別にみると、運動・スポーツを1年以上続けている割合が、健康であると感じている人の方が、健康でないと感じている人よりも高くなっている。

2.2.2. 運動・スポーツを行う場所

◆運動・スポーツを行う場所は「民間スポーツクラブ」が2割台後半



運動・スポーツを行う場所としては、「民間スポーツクラブ」が28.8%で最も高く、次いで「遊歩道」(23.7%)となっている。

「その他」(25.9%)としては「自宅」、「道路」、「通勤・職場」、「ゴルフ」などがあがっている。

表 2-1 【健康感別】運動・スポーツを行う場所

単位: %

区分	有効回答数(件)	公園	遊歩道	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)	高齢者施設(高齢者会館等)	民間スポーツクラブ	屋外で自転車利用	その他	無回答
全体	552	15.8	23.7	16.3	4.3	28.8	14.5	25.9	3.3
健康である	207	15.9	22.7	23.7	1.9	34.8	15.5	21.7	1.9
どちらかといえば健康である	262	16.4	24.4	13.7	6.1	27.1	13.7	26.7	2.7
どちらかといえば健康でない	52	13.5	32.7	7.7	3.8	21.2	17.3	30.8	5.8
健康でない	28	14.3	10.7	3.6	3.6	14.3	7.1	39.3	14.3

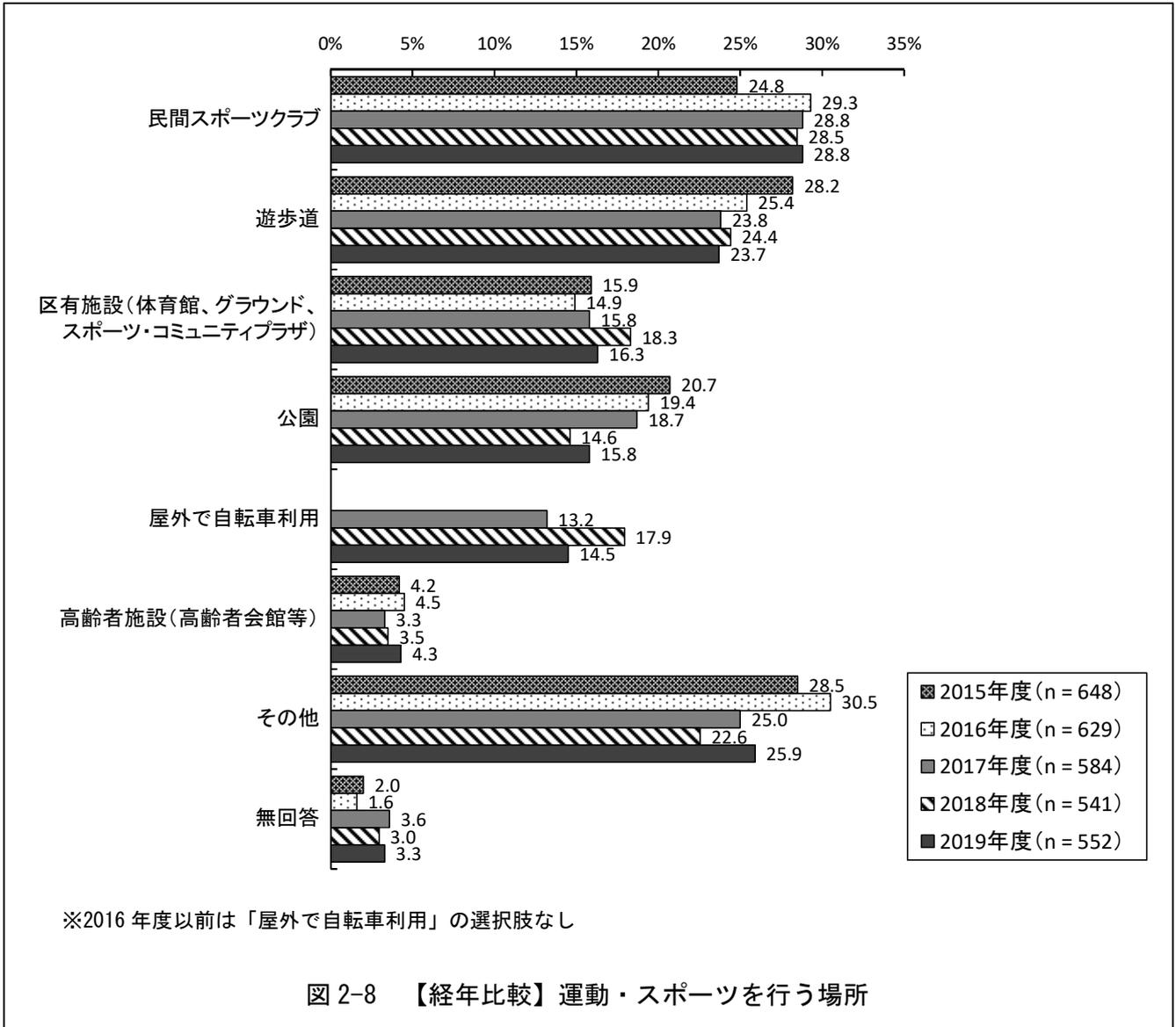
健康感別にみると、「民間スポーツクラブ」は「健康である」の割合が特に高く、3割台半ばとなっている。

表 2-2 【年代別】上位 5 項目 運動・スポーツを行う場所

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=53	遊歩道 24.5	民間スポーツクラブ 22.6	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 18.9	公園／屋外で自転車利用	13.2
30歳代 n=62	民間スポーツクラブ 35.5	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 24.2	公園／屋外で自転車利用	14.5	遊歩道 9.7
40歳代 n=87	遊歩道 29.9	民間スポーツクラブ 28.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 20.7	公園 19.5	屋外で自転車利用 13.8
50歳代 n=76	民間スポーツクラブ 34.2	遊歩道 28.9	屋外で自転車利用 19.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 17.1	公園 13.2
60歳代 n=96	民間スポーツクラブ 39.6	遊歩道 25.0	屋外で自転車利用 18.8	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 13.5	公園 12.5
70歳代 n=105	民間スポーツクラブ 21.9	遊歩道 21.0	公園 19.0	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 14.3	屋外で自転車利用 13.3
80歳以上 n=62	遊歩道 24.2	公園／高齢者施設(高齢者会館等)	17.7	民間スポーツクラブ 16.1	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 8.1

1回30分以上の連続した運動・スポーツを週に1～2回以上行っている方の運動・スポーツを行う場所を年代別にみると、20歳代、40歳代、80歳以上では「遊歩道」、30歳代、50歳～70歳代では「民間スポーツクラブ」が1位となっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由

◆運動・スポーツを行わない理由は「時間がないから」が3割台前半

(問12で「3. 以前は行っていたが、現在は行っていない」「4. 全く行っていない」に○をつけた方に)
 問12-3. 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。
 (○は1つ)

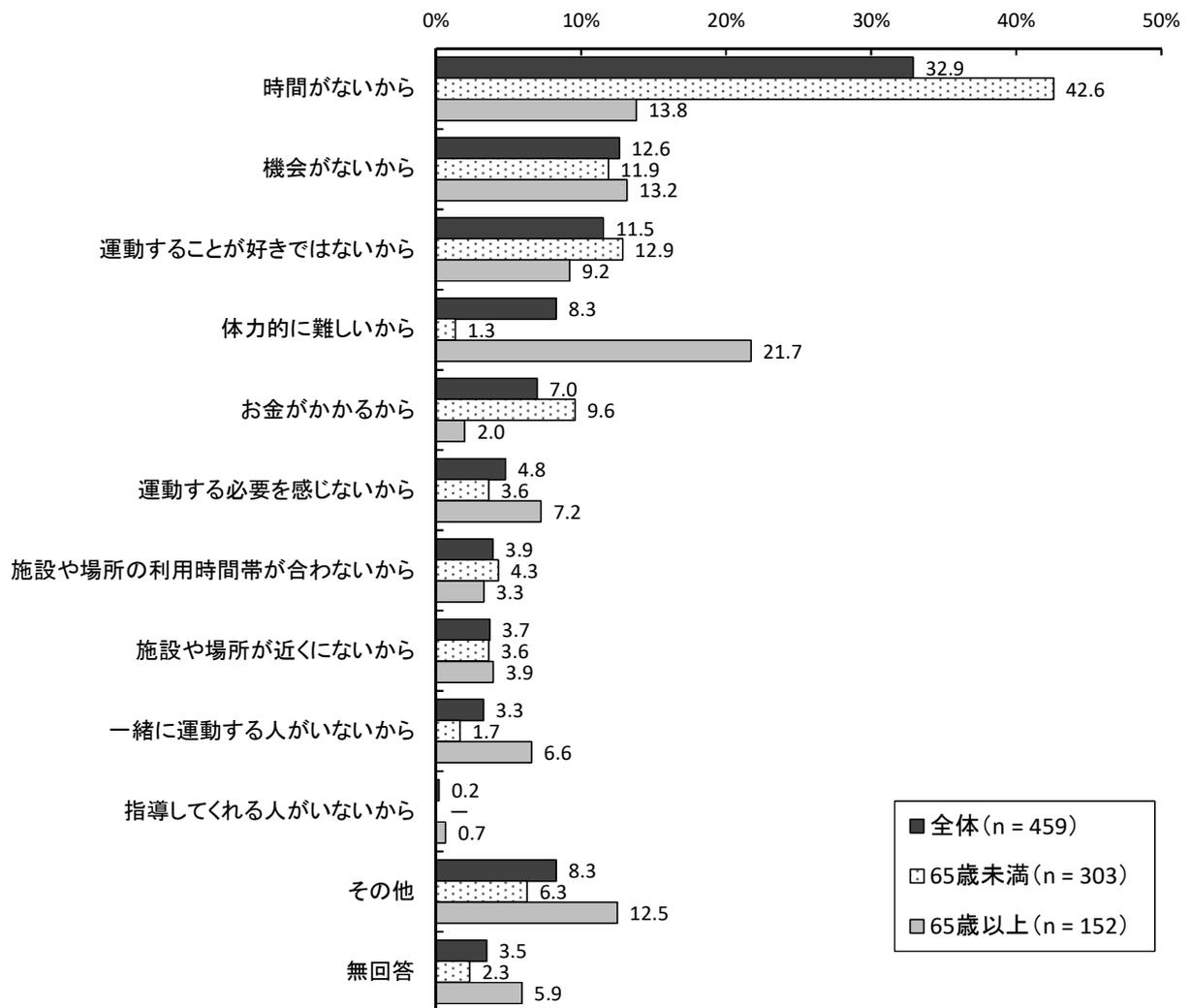


図 2-9 【年代別】運動・スポーツを行わない理由

運動・スポーツを行っていない方にその理由を聞いたところ、「時間がないから」が32.9%で最も高く、次いで「機会がないから」(12.6%)、「運動することが好きではないから」(11.5%)が続いている。

年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(42.6%)が最も高くなっているのに対し、65歳以上では「体力的に難しいから」(21.7%)が最も高くなっている。

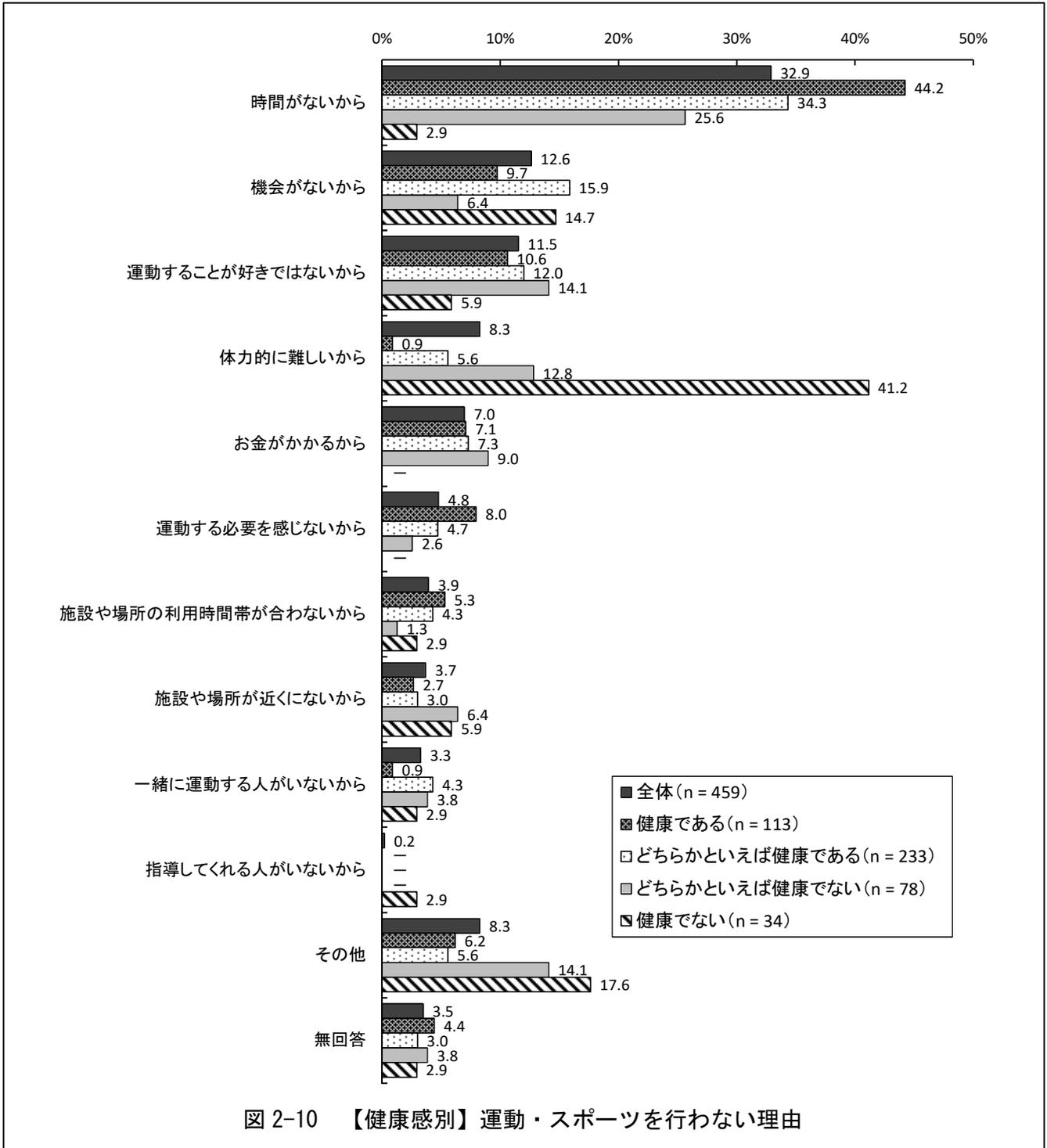
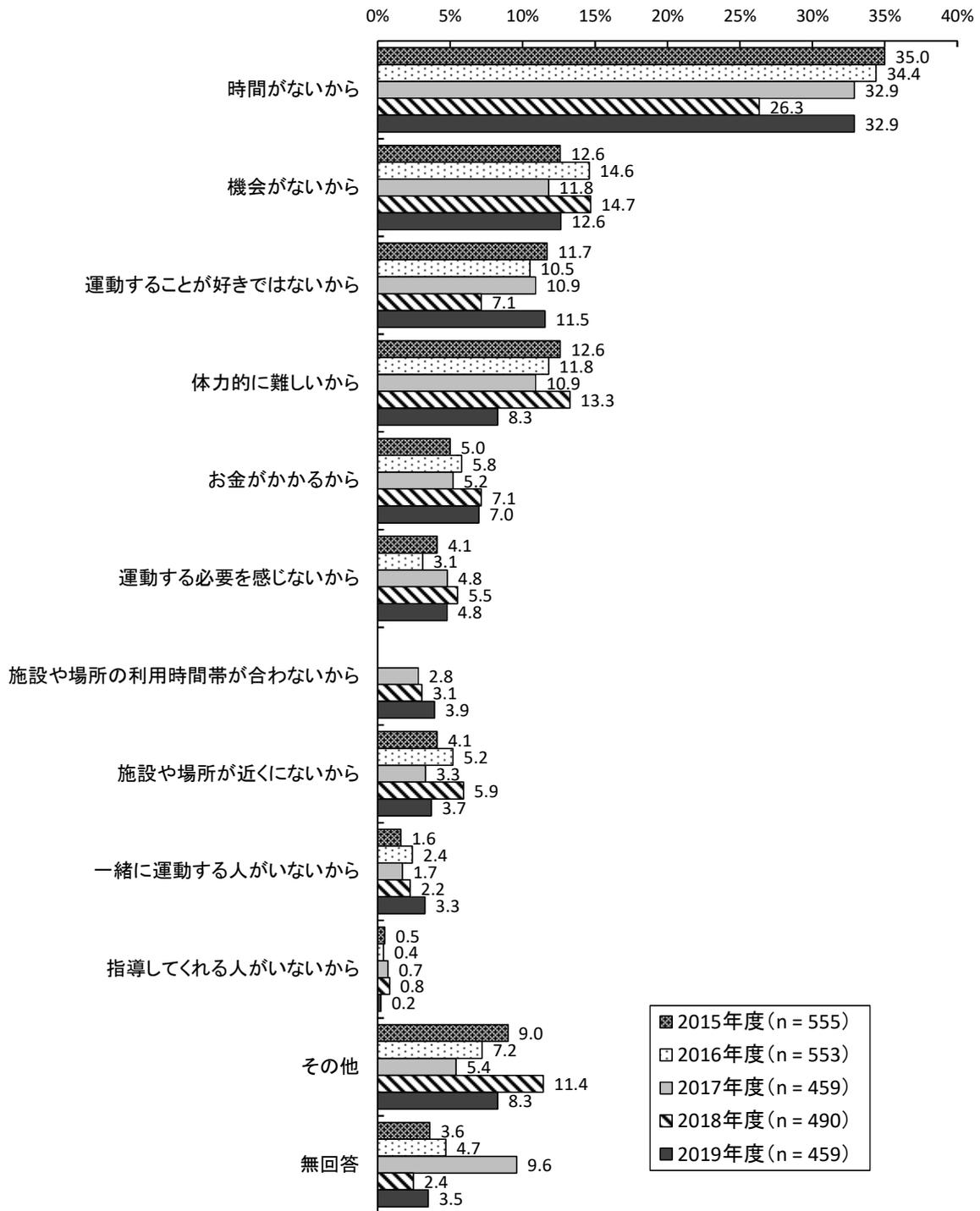


図 2-10 【健康感別】運動・スポーツを行わない理由

健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「時間がないから」の割合が高くなっている一方、健康でないと感じている人ほど「体力的に難しいから」の割合が高くなっている。



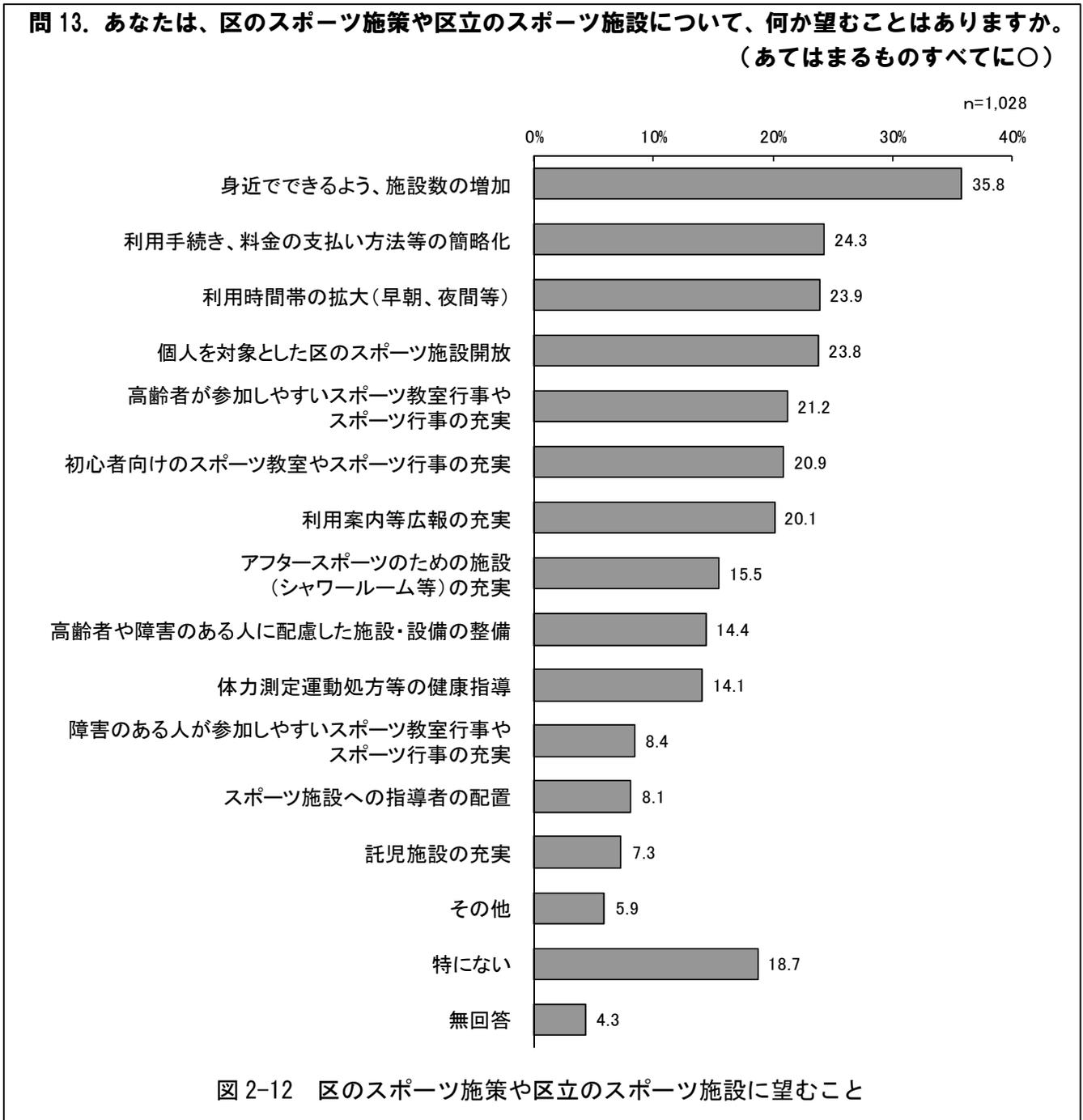
※2016年度以前は「施設や場所の利用時間帯が合わないから」の選択肢はなし

図 2-11 【経年比較】運動・スポーツを行わない理由

経年で比較すると、2019年度は前年度と比べて「時間がないから」、「運動することが好きではないから」が増加し、「体力的に難しいから」が減少した。

2.3. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

◆区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことは、「身近でできるよう、施設数の増加」が3割台半ば



区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこととしては、「身近でできるよう、施設数の増加」が 35.8% で最も高く、次いで「利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化」(24.3%)、「利用時間帯の拡大(早朝、夜間等)」(23.9%)、「個人を対象とした区のスポーツ施設開放」(23.8%) などが続いている。

表 2-3 【年代別】上位 5 項目 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位: %

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位					
20歳代 n=97	身近でできるよう、施設数の増加／利用時間帯の拡大(早朝、夜間等)	45.4	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化	43.3	個人を対象とした区のスポーツ施設開放	33.0	アフタースポーツのための施設(シャワールーム等)の充実	23.7		
30歳代 n=148	身近でできるよう、施設数の増加	42.6	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化	41.9	利用時間帯の拡大(早朝、夜間等)	40.5	個人を対象とした区のスポーツ施設開放	30.4	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	26.4
40歳代 n=172	身近でできるよう、施設数の増加	45.3	利用時間帯の拡大(早朝、夜間等)	37.8	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化	27.9	個人を対象とした区のスポーツ施設開放	27.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	25.6
50歳代 n=140	身近でできるよう、施設数の増加	40.0	利用時間帯の拡大(早朝、夜間等)	28.6	個人を対象とした区のスポーツ施設開放	27.9	利用案内等広報の充実	22.9	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化	20.0
60歳代 n=165	高齢者が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実	32.7	身近でできるよう、施設数の増加	30.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	26.1	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化	24.8	利用案内等広報の充実	24.2
70歳代 n=170	高齢者が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実	37.1	身近でできるよう、施設数の増加	25.3	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	24.7	利用案内等広報の充実	21.2	体力測定運動処方等の健康指導	20.6
80歳以上 n=121	高齢者が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実	35.5	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	26.4	身近でできるよう、施設数の増加	22.3	体力測定運動処方等の健康指導	19.8	利用案内等広報の充実	15.7

区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことを年代別にみると、20歳～50歳代では「身近でできるよう、施設数の増加」が、60歳代以上では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実」が1位となっている。

表 2-4 【健康感別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	身近でできるよう、施設数の増加	個人を対象とした区のスーポーツ施設開放	スーポーツ施設への指導者の配置	体力測定運動処方等の健康指導	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスーポーツ教室行事やスーポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室行事やスーポーツ行事の充実	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化
全体	1,028	35.8	23.8	8.1	14.1	20.9	8.4	21.2	24.3
健康である	323	42.1	26.0	9.3	12.7	19.8	5.9	17.0	28.5
どちらかといえば健康である	499	34.3	23.8	8.0	14.6	23.0	7.4	22.0	24.6
どちらかといえば健康でない	130	35.4	23.8	6.2	16.9	20.8	13.1	29.2	20.0
健康でない	64	17.2	15.6	7.8	7.8	10.9	17.2	17.2	10.9

区分	（利用時間帯の拡大（早朝、夜間等））	利用案内等広報の充実	の施設（シャトルーム等の充実）	アフタースポーツのための施設（シャトルーム等の充実）	高年齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	託児施設の充実	その他	特にない	無回答
全体	23.9	20.1	15.5	14.4	7.3	5.9	18.7	4.3	
健康である	31.3	18.9	16.7	10.5	9.0	9.0	14.2	1.5	
どちらかといえば健康である	22.4	22.8	15.4	13.2	7.0	4.2	20.0	4.8	
どちらかといえば健康でない	19.2	18.5	14.6	24.6	6.9	6.9	20.0	4.6	
健康でない	10.9	10.9	12.5	23.4	3.1	1.6	29.7	12.5	

区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むことを健康感別にみると、「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた＜健康である＞と感じている人は、「身近でできるよう、施設数の増加」、「利用時間帯の拡大（早朝、夜間等）」、「利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化」などの割合が高くなっており、「どちらかといえば健康でない」と「健康でない」を合わせた＜健康でない＞と感じている人は、「身近でできるよう、施設数の増加」、「特にない」、「高年齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備」などの割合が高くなっている。

表 2-5 【居住地域別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	身近でできるよう、施設数の増加	個人を対象とした区のスーポーツ施設開放	スーポーツ施設への指導者の配置	体力測定運動処方等の健康指導	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスーポーツ教室行事やスーポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室行事の充実	利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化
全体	1,028	35.8	23.8	8.1	14.1	20.9	8.4	21.2	24.3
南台	75	33.3	16.0	12.0	14.7	21.3	8.0	20.0	22.7
弥生町	62	33.9	25.8	11.3	9.7	27.4	11.3	17.7	21.0
本町	98	37.8	25.5	11.2	21.4	12.2	7.1	24.5	34.7
中央	80	33.8	18.8	8.8	16.3	21.3	10.0	21.3	12.5
東中野	78	34.6	33.3	7.7	12.8	20.5	6.4	20.5	30.8
中野	85	35.3	27.1	5.9	14.1	17.6	2.4	21.2	21.2
上高田	61	34.4	21.3	1.6	16.4	11.5	9.8	11.5	27.9
新井	67	37.3	22.4	3.0	13.4	23.9	10.4	13.4	25.4
沼袋	32	46.9	18.8	—	6.3	18.8	6.3	31.3	18.8
松が丘	21	28.6	23.8	4.8	4.8	19.0	9.5	19.0	14.3
江原町	22	31.8	18.2	4.5	4.5	13.6	4.5	9.1	18.2
江古田	33	24.2	21.2	12.1	9.1	9.1	—	18.2	24.2
丸山	18	50.0	33.3	5.6	16.7	16.7	11.1	27.8	11.1
野方	47	46.8	17.0	10.6	21.3	25.5	8.5	29.8	29.8
大和町	52	40.4	28.8	7.7	13.5	17.3	13.5	26.9	26.9
若宮	40	45.0	32.5	12.5	15.0	32.5	5.0	27.5	32.5
白鷺	31	22.6	16.1	12.9	16.1	25.8	22.6	22.6	12.9
鷺宮	50	22.0	14.0	6.0	16.0	30.0	8.0	20.0	14.0
上鷺宮	56	39.3	28.6	8.9	8.9	28.6	5.4	25.0	26.8

表 2-5 【居住地域別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと（続き）

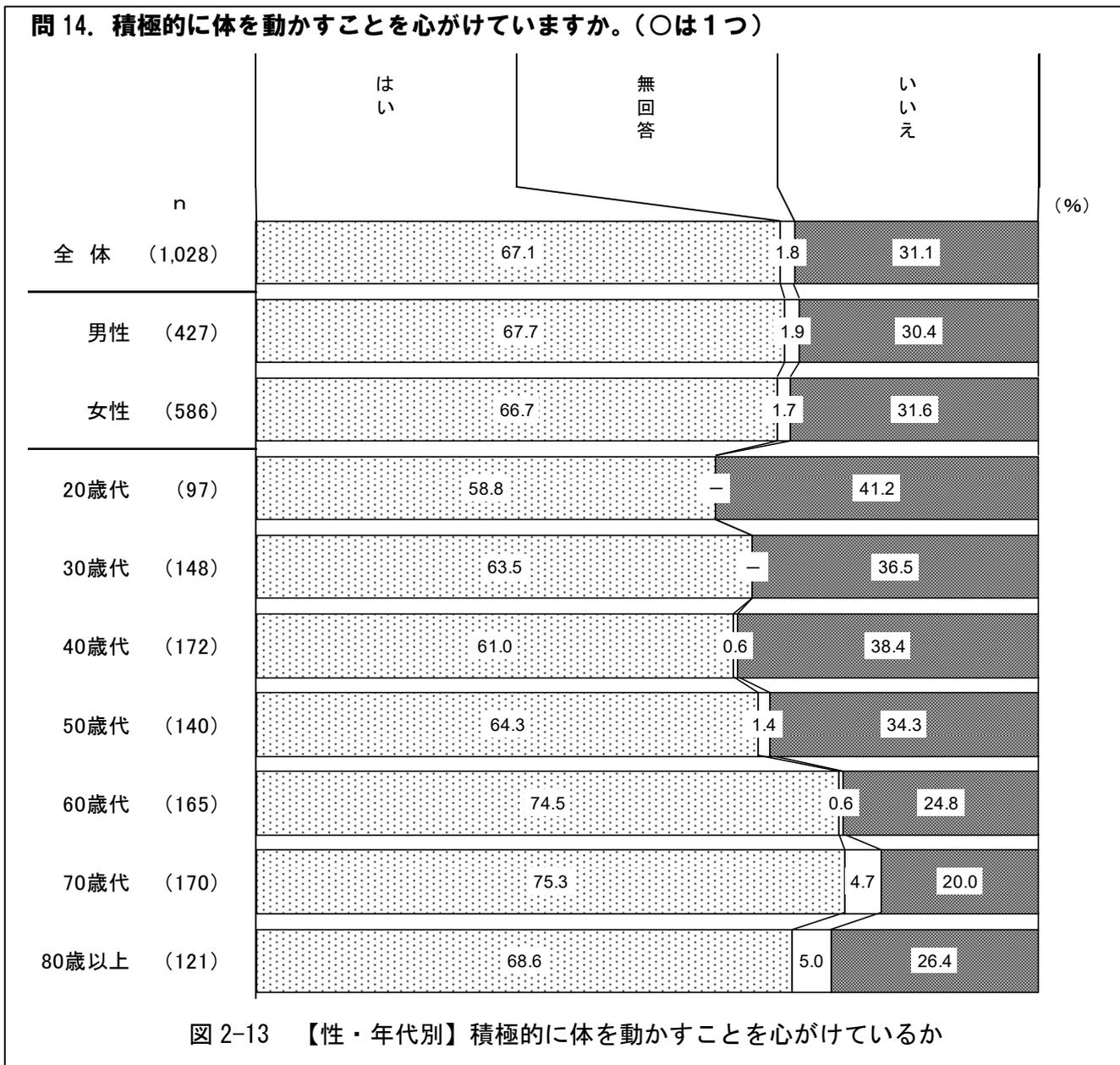
単位：%

区分	利用時間帯の拡大 （早朝、夜間等）	利用案内等広報の充実	施設（シャワールーム等）の充実	アフタースポーツのための施設	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	託児施設の充実	その他	特にない	無回答
全体	23.9	20.1	15.5	14.4	7.3	5.9	18.7	4.3	
南台	26.7	18.7	18.7	18.7	14.7	4.0	14.7	6.7	
弥生町	24.2	29.0	16.1	16.1	4.8	3.2	19.4	3.2	
本町	33.7	25.5	15.3	16.3	4.1	6.1	18.4	2.0	
中央	22.5	22.5	13.8	13.8	8.8	5.0	25.0	3.8	
東中野	21.8	26.9	16.7	6.4	6.4	7.7	17.9	—	
中野	20.0	20.0	14.1	11.8	7.1	5.9	14.1	5.9	
上高田	24.6	14.8	11.5	16.4	1.6	6.6	18.0	3.3	
新井	25.4	17.9	20.9	13.4	11.9	9.0	19.4	4.5	
沼袋	28.1	9.4	12.5	25.0	3.1	6.3	21.9	—	
松が丘	28.6	19.0	23.8	14.3	—	4.8	28.6	—	
江原町	9.1	13.6	4.5	—	—	4.5	36.4	13.6	
江古田	24.2	21.2	12.1	9.1	3.0	3.0	21.2	6.1	
丸山	11.1	5.6	5.6	16.7	—	5.6	33.3	5.6	
野方	14.9	19.1	17.0	25.5	8.5	10.6	14.9	2.1	
大和町	32.7	19.2	19.2	13.5	7.7	1.9	17.3	5.8	
若宮	30.0	15.0	20.0	10.0	7.5	12.5	25.0	5.0	
白鷺	16.1	12.9	12.9	12.9	12.9	3.2	3.2	9.7	
鷺宮	20.0	18.0	14.0	12.0	4.0	10.0	14.0	8.0	
上鷺宮	19.6	26.8	14.3	17.9	16.1	—	14.3	3.6	

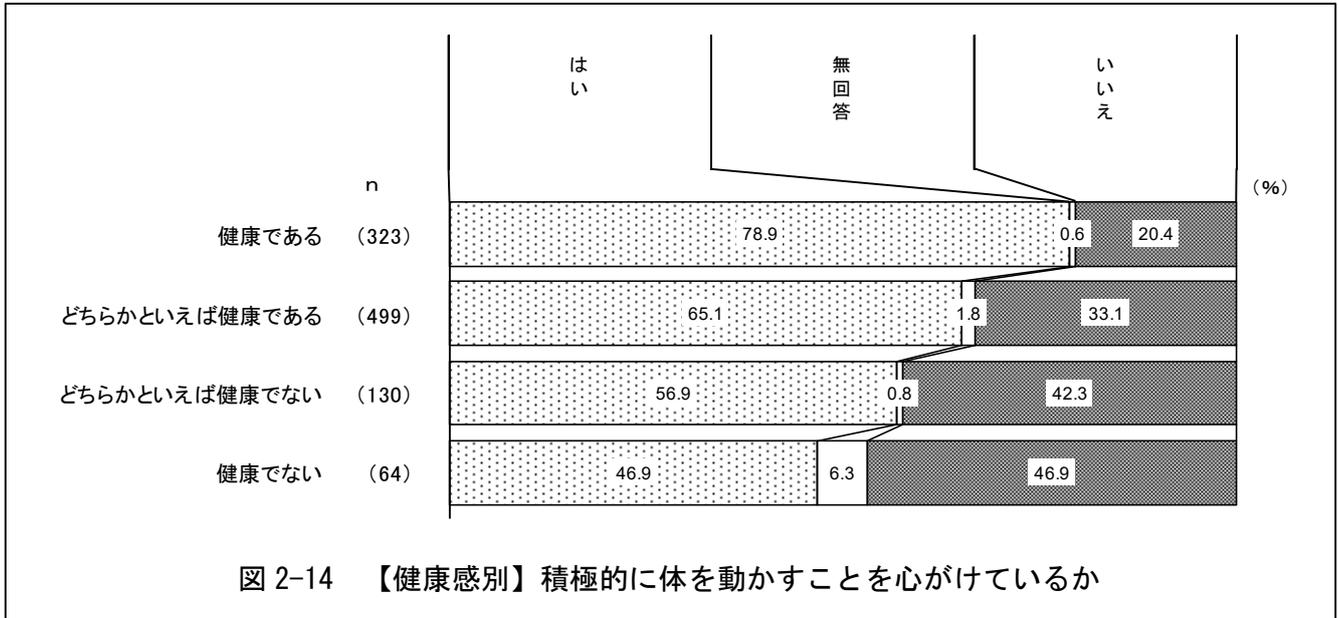
区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むことを居住地域別にみると、多くの地域で「身近でできるよう、施設数の増加」の割合が最も高くなっており、中でも沼袋、丸山、野方、大和町、若宮では4割を超えている。

2. 4. 積極的に体を動かすことを心がけているか

◆積極的に体を動かすことを心がけているのは 60 歳～70 歳代で特に高く 7 割台半ば



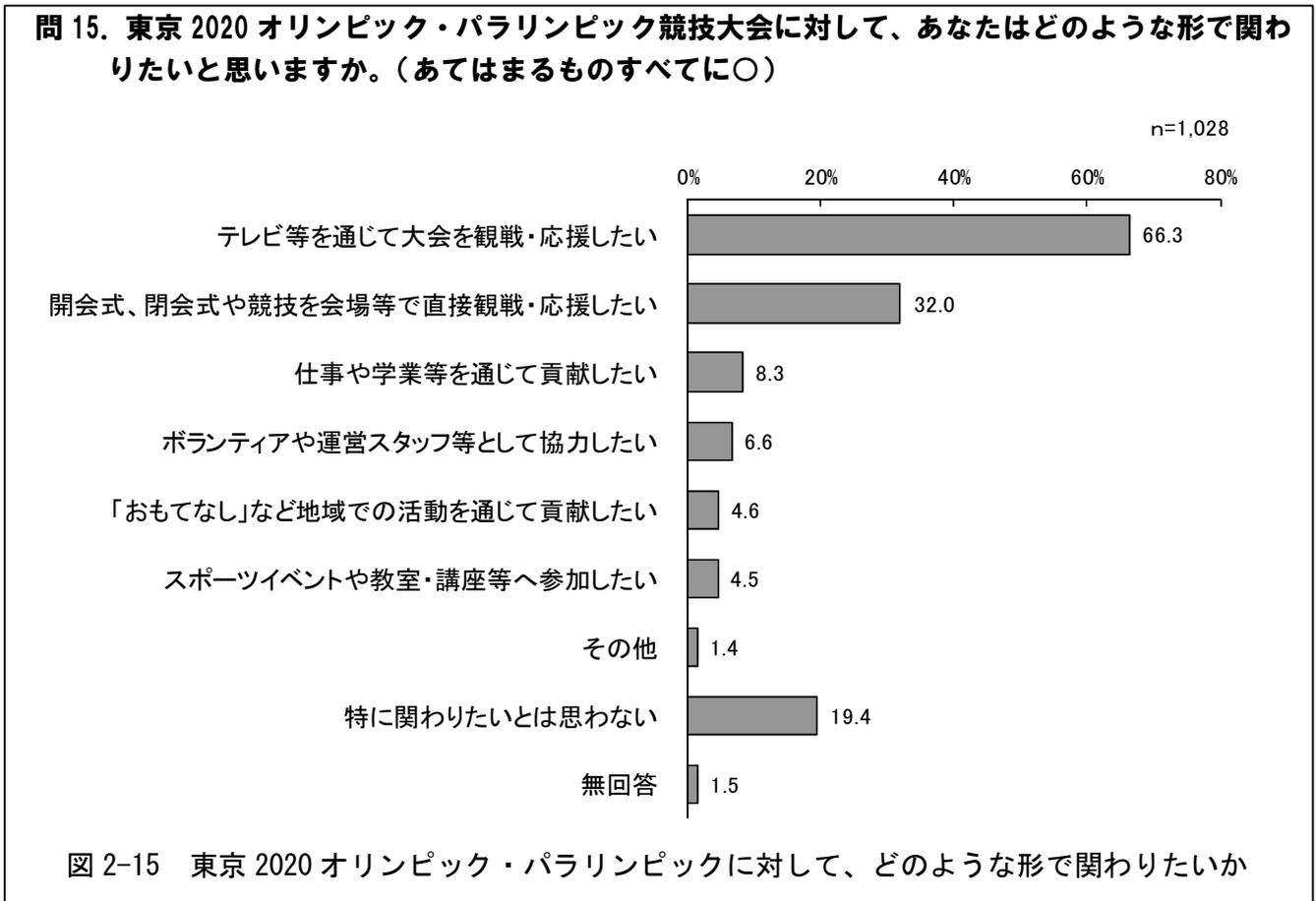
積極的に体を動かすことを心がけているかについては、「はい」が 67.1% で「いいえ」(31.1%) を大きく上回っている。年代別にみると、40 歳代を除き 70 歳代までは年代が上がるにつれて「はい」の割合が増加しており、70 歳代 (75.3%) で最も高くなっている。一方、「はい」の割合が最も低いのは 20 歳代 (58.8%) となっている。



積極的に体を動かすことを心がけているかを健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「はい」の割合が高くなっており、「健康である」で7割台後半となっている。

2.5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して、どのような形で関わりたいか

◆「テレビ等を通じて大会を観戦・応援したい」人が6割台半ば



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方は、「テレビ等を通じて大会を観戦・応援したい」が 66.3%で最も高く、次いで「開会式、閉会式や競技を会場等で直接観戦・応援したい」(32.0%)、「仕事や学業等を通じて貢献したい」(8.3%) などとなっている。

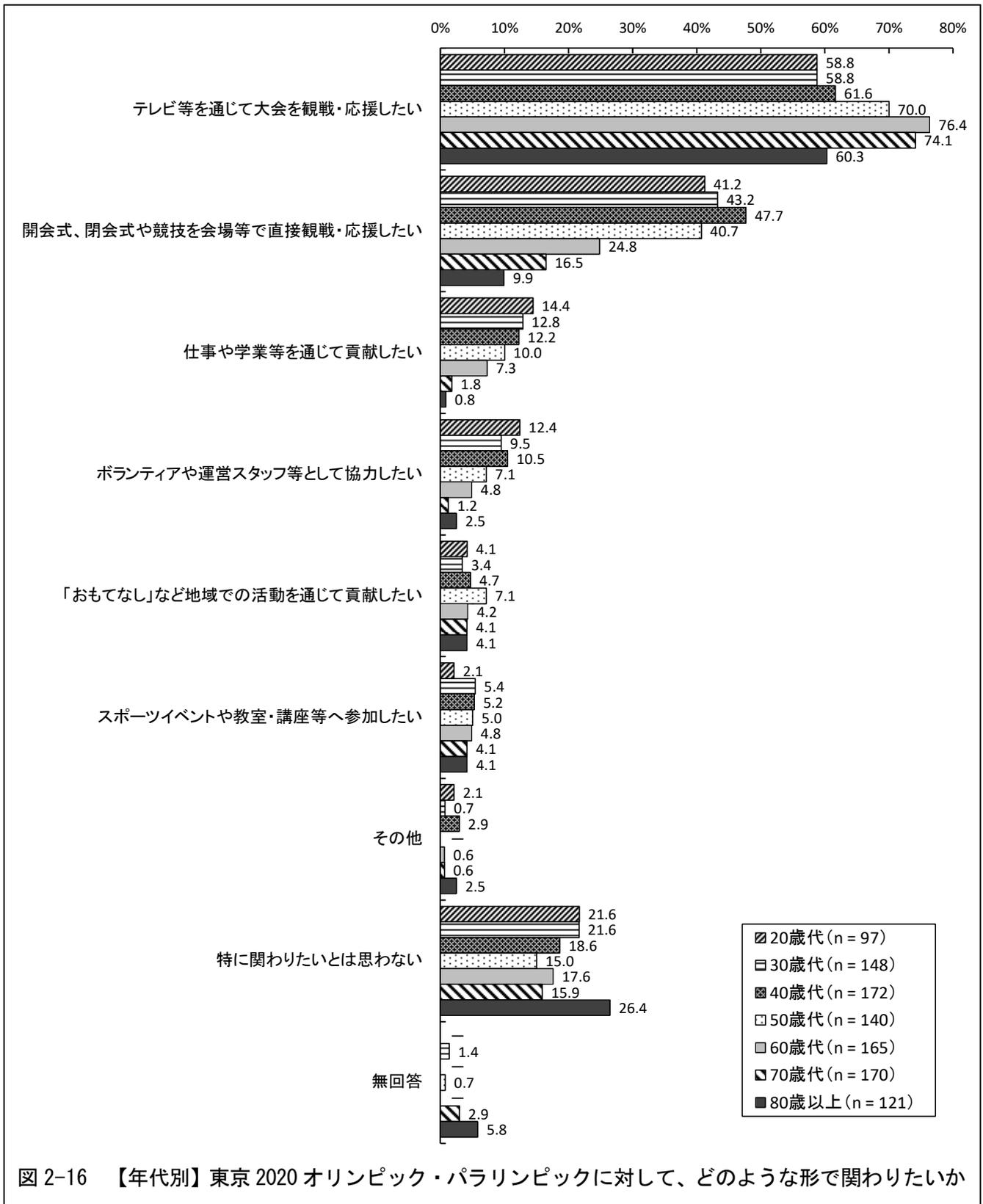


図 2-16 【年代別】東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して、どのような形で関わりたいか

年代別にみると、いずれの年代でも「テレビ等を通じて大会を観戦・応援したい」が最も高くなっており、20歳～50歳代では「開会式、閉会式や競技を会場等で直接観戦・応援したい」の割合が4割を超えている。また、「仕事や学業等を通じて貢献したい」は、若い年代ほど割合が高くなっている。一方、「特に関わりたいとは思わない」は、20歳～30歳代と80歳代以上で2割を超えている。

表 2-6 【街で困っている人の手助けをしたことの有無別】東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して、どのような形で関わりたいか

単位：%

区分	有効回答数 (件)	開会式、閉会式や競技を会場 等で直接観戦・応援したい	テレビ等を通じて大会を 観戦・応援したい	ボランティアや運営スタッフ 等として協力したい	「おもてなし」など地域での 活動を通じて貢献したい	仕事や学業等を通じて貢献 したい	スポーツイベントや教室・ 講座等へ参加したい	その他	特に関わりたいとは思わない	無回答
全体	1,028	32.0	66.3	6.6	4.6	8.3	4.5	1.4	19.4	1.5
困っている人の手助けをしたことがある	482	37.6	69.3	7.1	6.2	10.6	5.2	1.7	16.2	0.8
困っている人の手助けをしたことがない	532	27.3	63.7	6.0	3.0	6.4	3.9	1.1	22.6	1.7

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方を、街で困っている人の手助けをしたことの有無別にみると、「特に関わりたいとは思わない」を除く項目で、困っている人の手助けをしたことがある人の割合が困っている人の手助けをしたことがない人よりも高くなっている。

2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

◆「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」が約5割

問 16. パラリンピックや障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

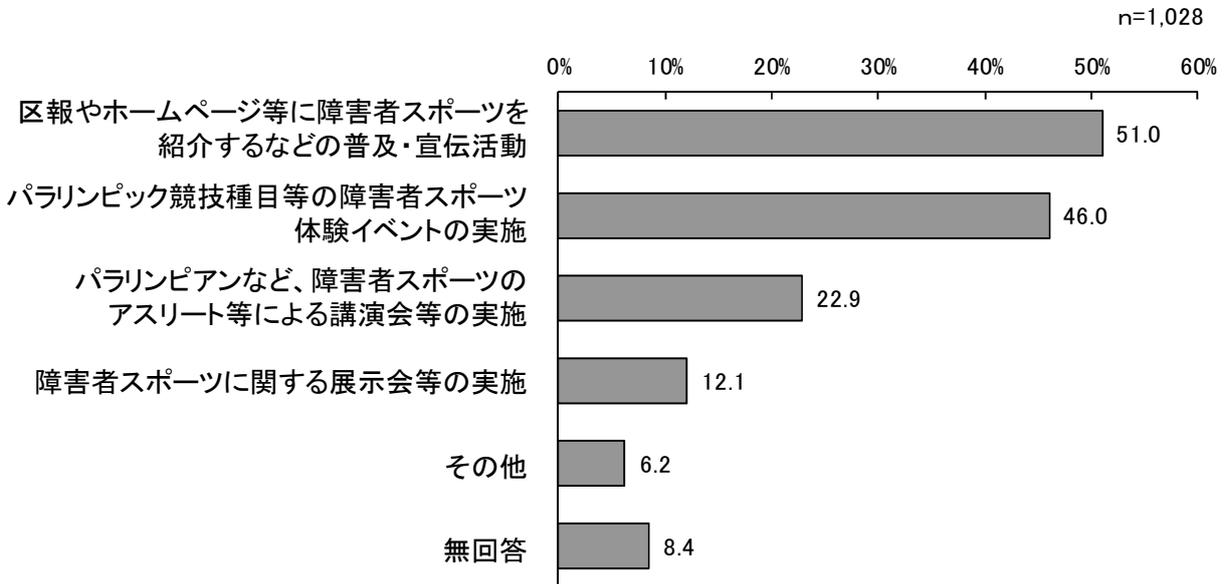


図 2-17 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきことは、「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」が51.0%で最も高く、次いで「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」(46.0%)、「パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施」(22.9%)となっている。

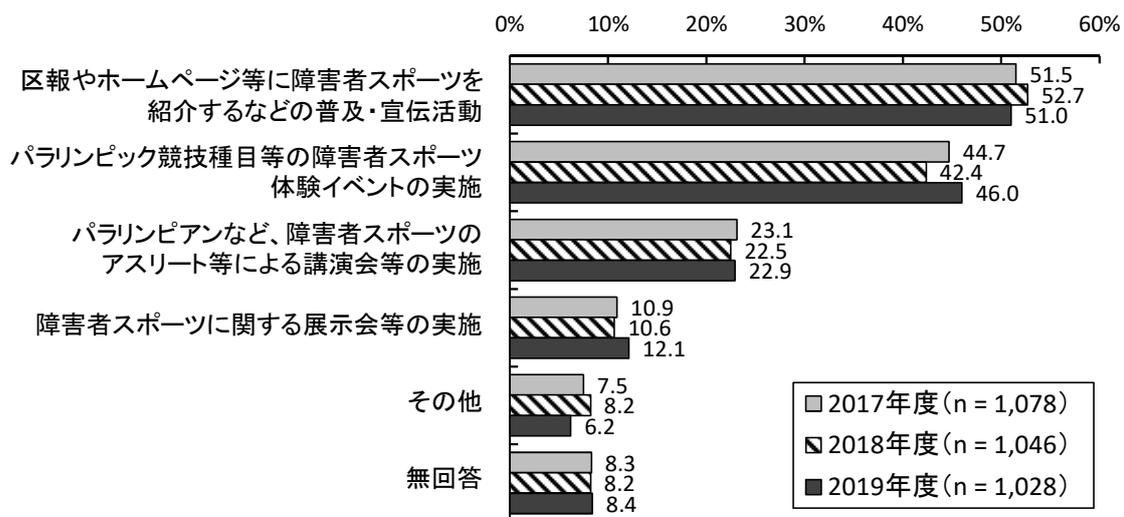
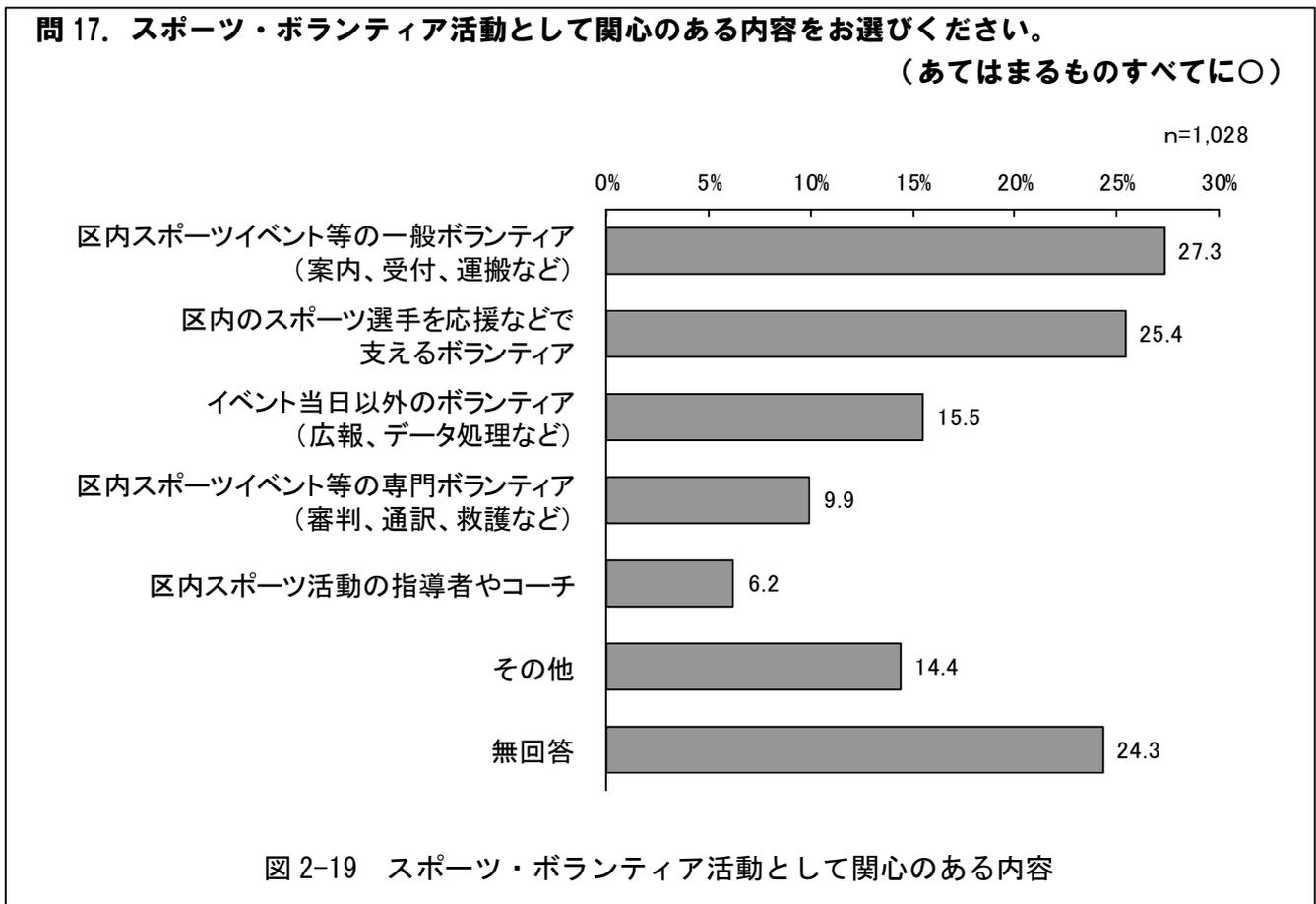


図 2-18 【経年比較】パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

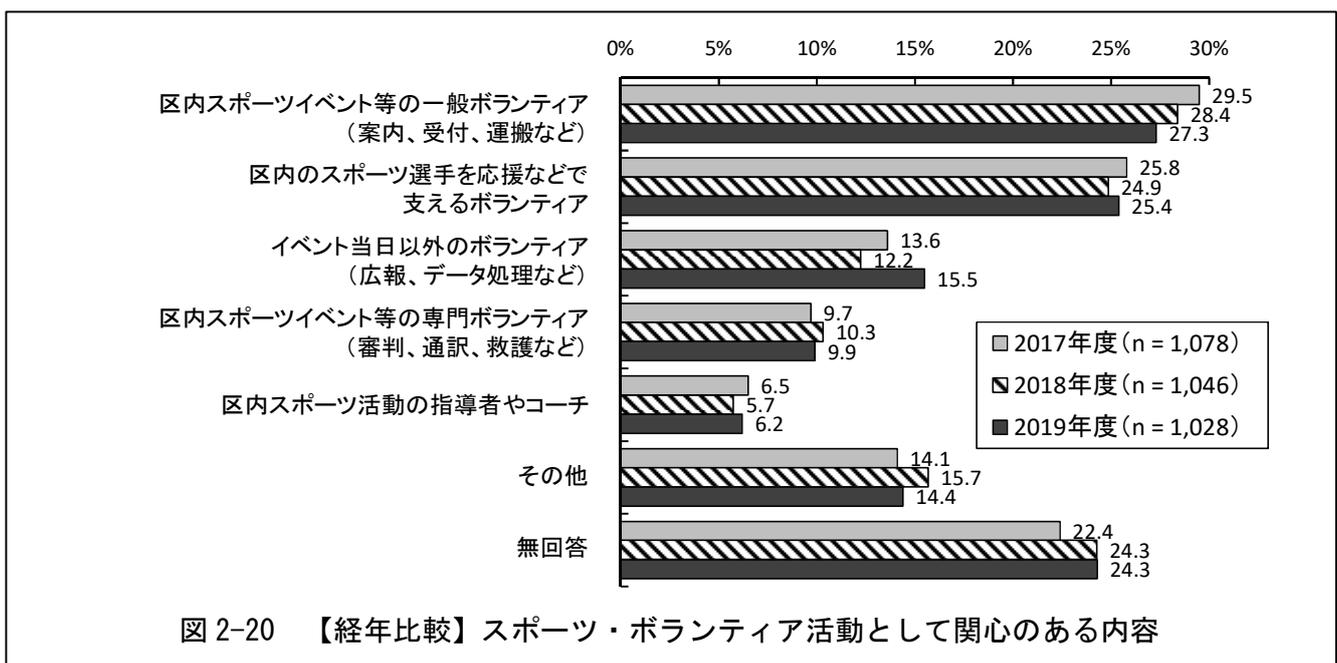
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

◆「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が2割台後半



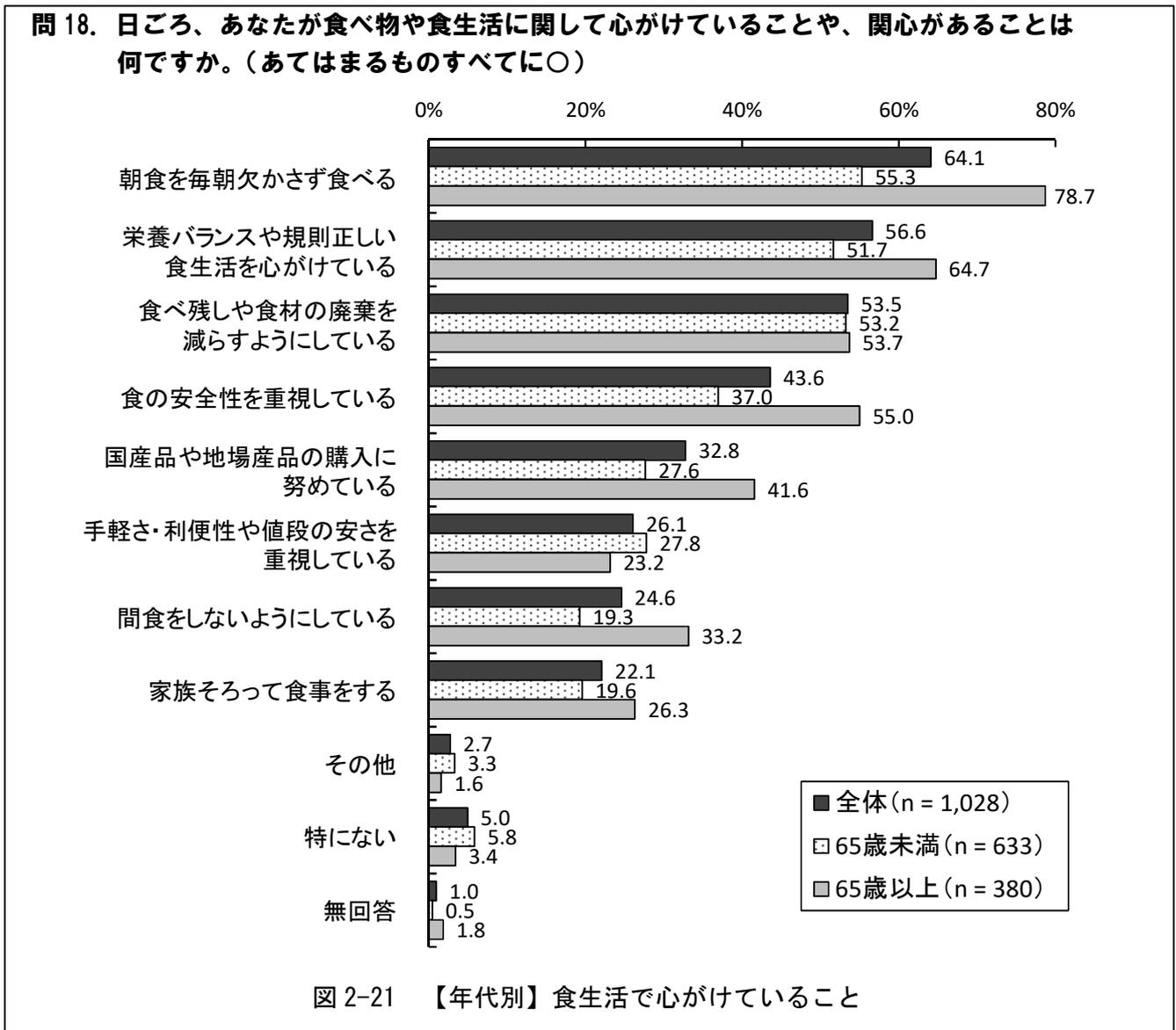
スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容は、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が27.3%で最も高く、次いで「区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア」（25.4%）、「イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など）」（15.5%）となっている。



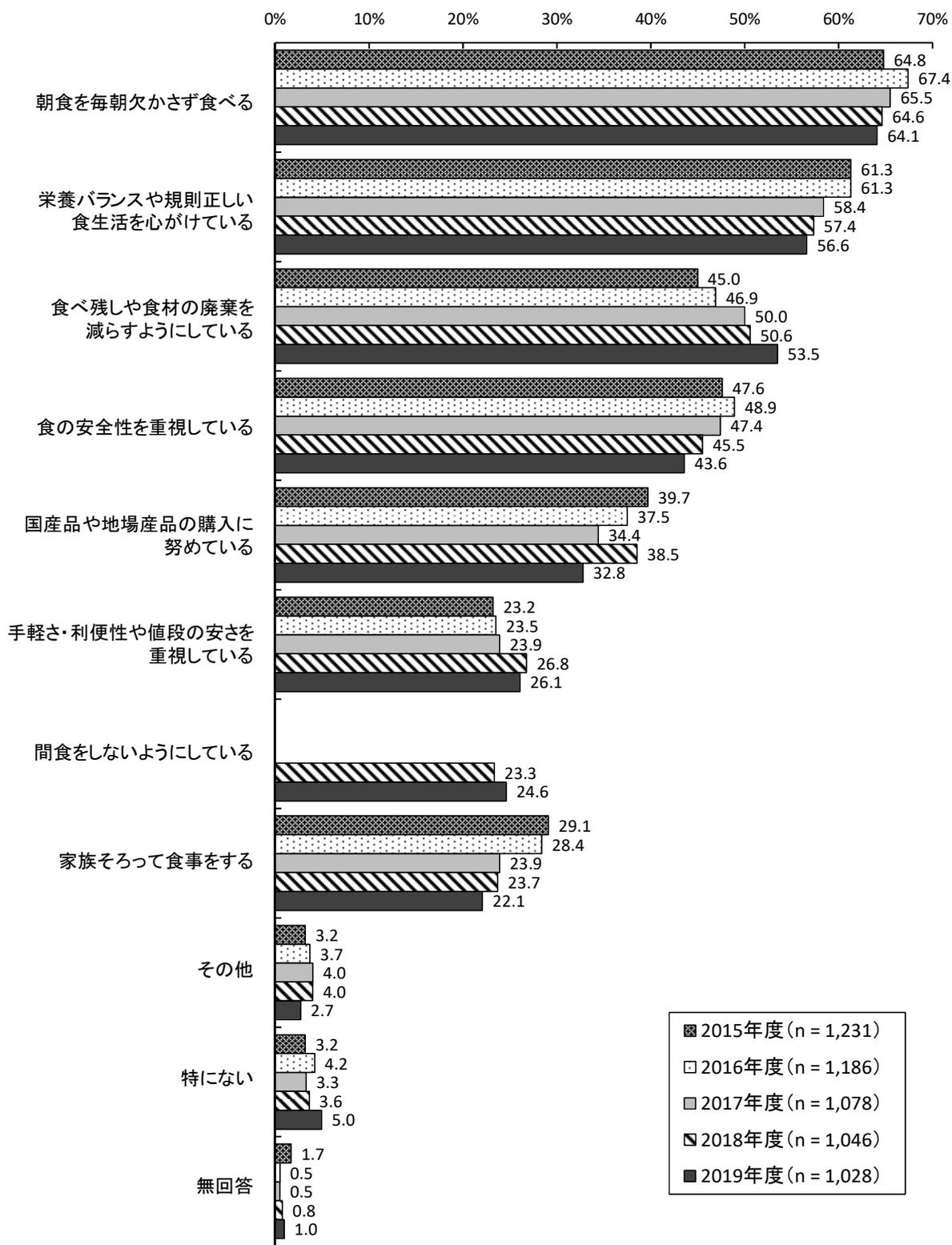
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.8. 食生活で心がけていること

◆食生活で心がけていることは「朝食を毎朝欠かさず食べる」が6割台半ば



食べ物や食生活に関して心がけていることや関心があることは、「朝食を毎朝欠かさず食べる」が64.1%で最も高く、次いで「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」(56.6%)、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」(53.5%)となっている。年代別にみると、65歳以上の方が65歳未満より食べ物や食生活について、「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」、「特にない」、「その他」を除いて関心が高くなっている。



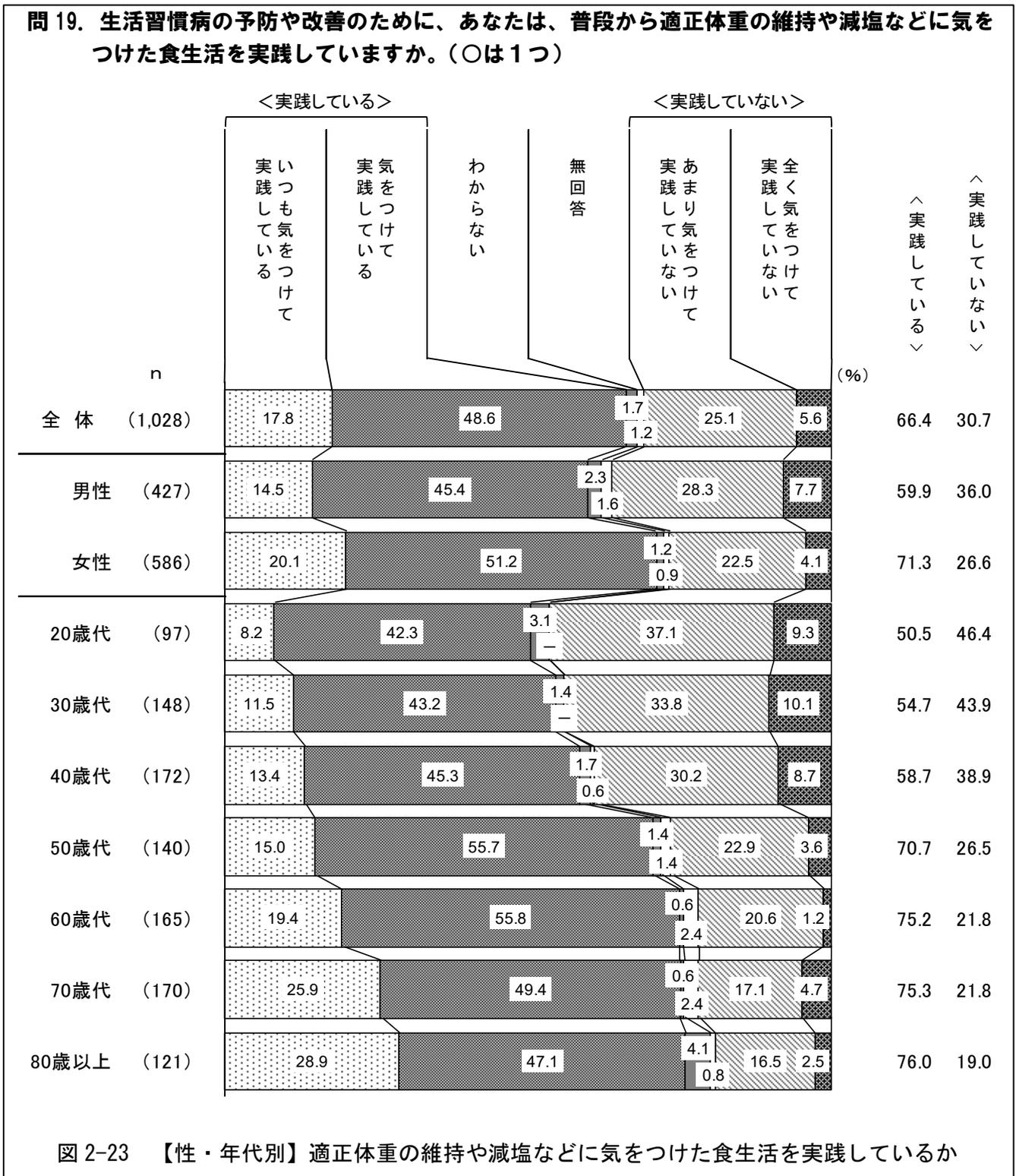
※2017年度以前は「間食をしないようにしている」の選択肢はない

図 2-22 【経年比較】食生活で心がけていること

経年で比較すると、「朝食を毎朝欠かさず食べる」、「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」、「食の安全性を重視している」、「国産品や地場産品の購入に努めている」、「家族そろって食事をする」が減少傾向にあるものの、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」が増加している。

2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

◆適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を<実践している>は6割台半ば



適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」(17.8%)と「気をつけて実践している」(48.6%)を合わせた<実践している>は66.4%となっている。性別にみると、<実践している>は女性(71.3%)が男性(59.9%)を約11ポイント上回っている。年代別にみると、<実践している>は年代が上がるにつれ増加しており、50歳代以上では7割を超えている。

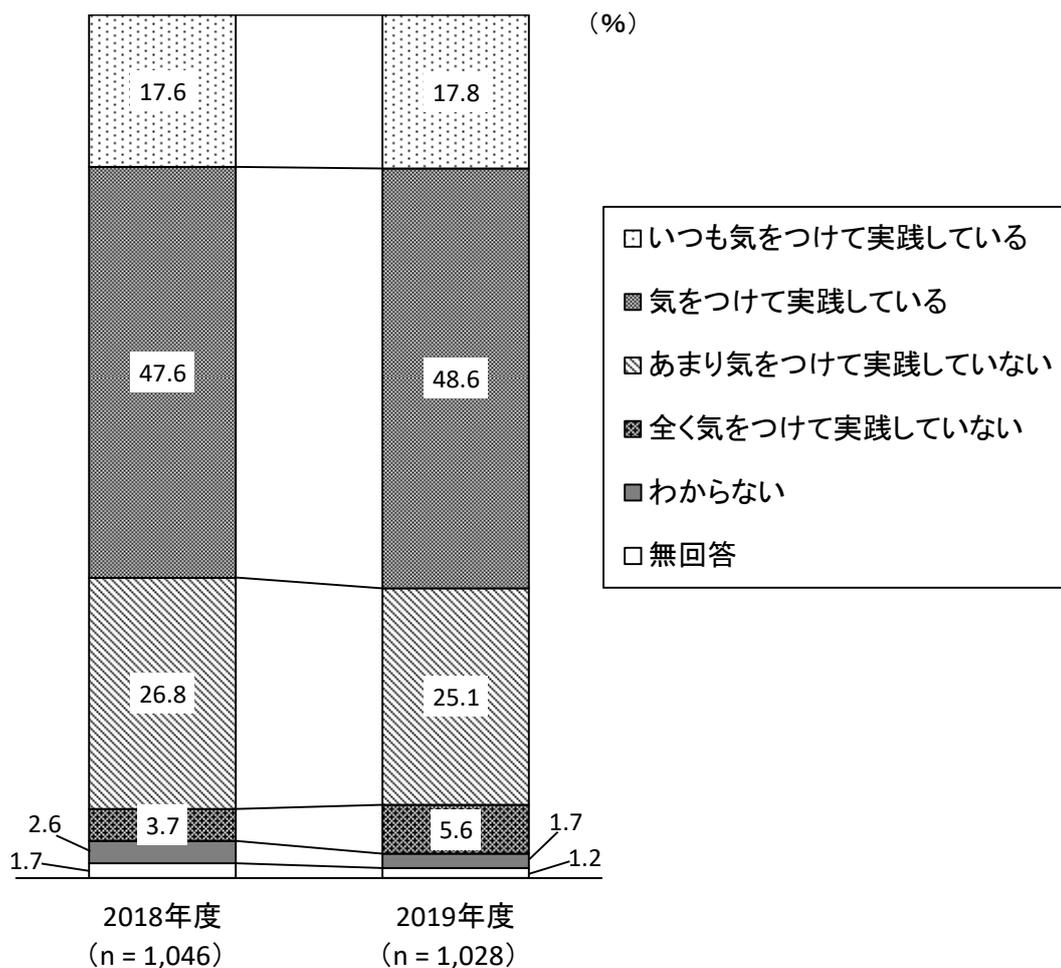
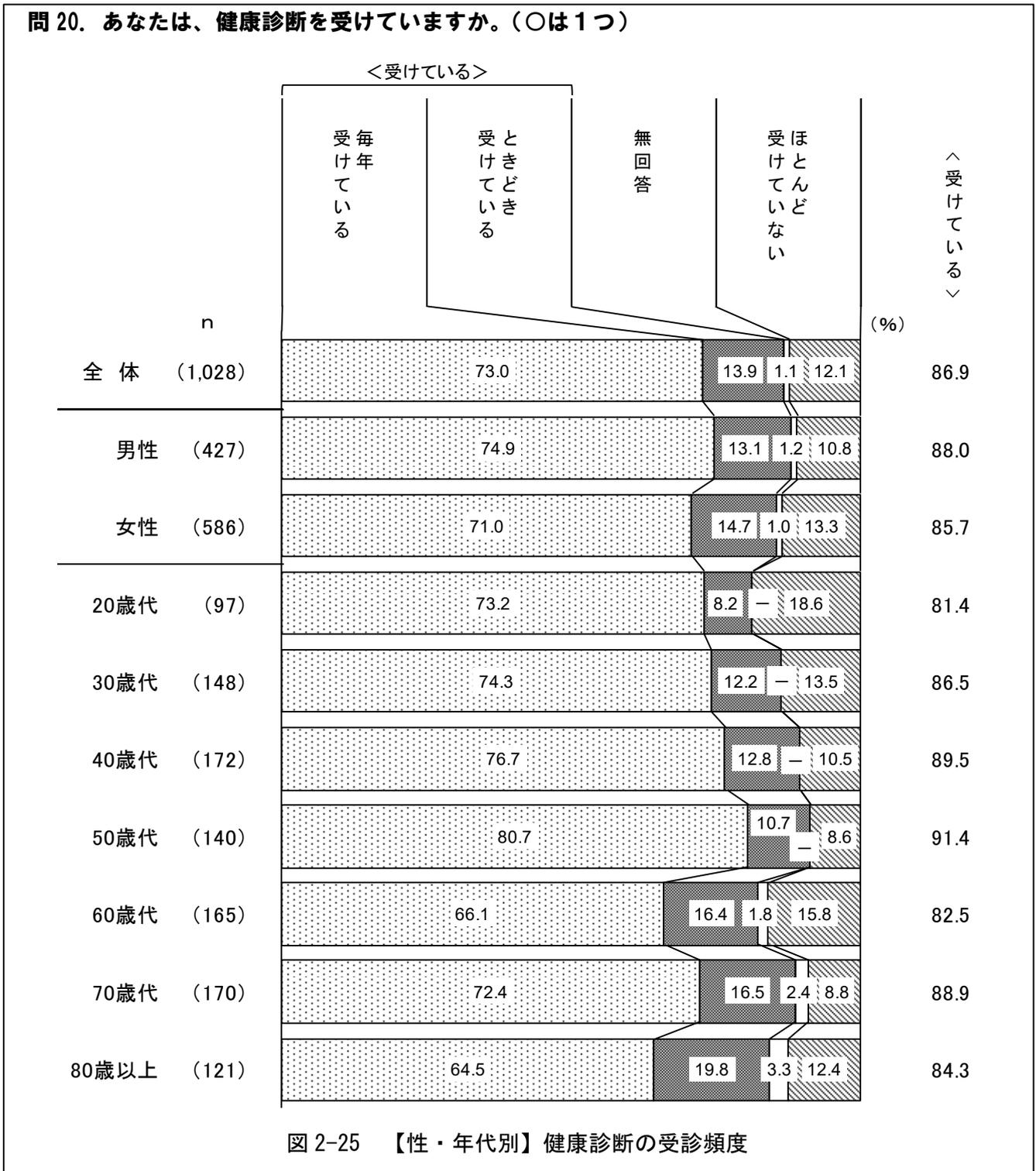


図 2-24 【経年比較】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10. 健康診断の受診頻度

◆健康診断を<受けている>は8割台半ば



健康診断の受診頻度は、「毎年受けている」(73.0%)と「ときどき受けている」(13.9%)を合わせた<受けている>で86.9%となっている。性別にみると、「毎年受けている」は男性(74.9%)が女性(71.0%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、50歳代で<受けている>が9割を超えて高くなっている。一方、「ほとんど受けていない」は20歳代で1割台後半と他の年代と比較して高くなっている。

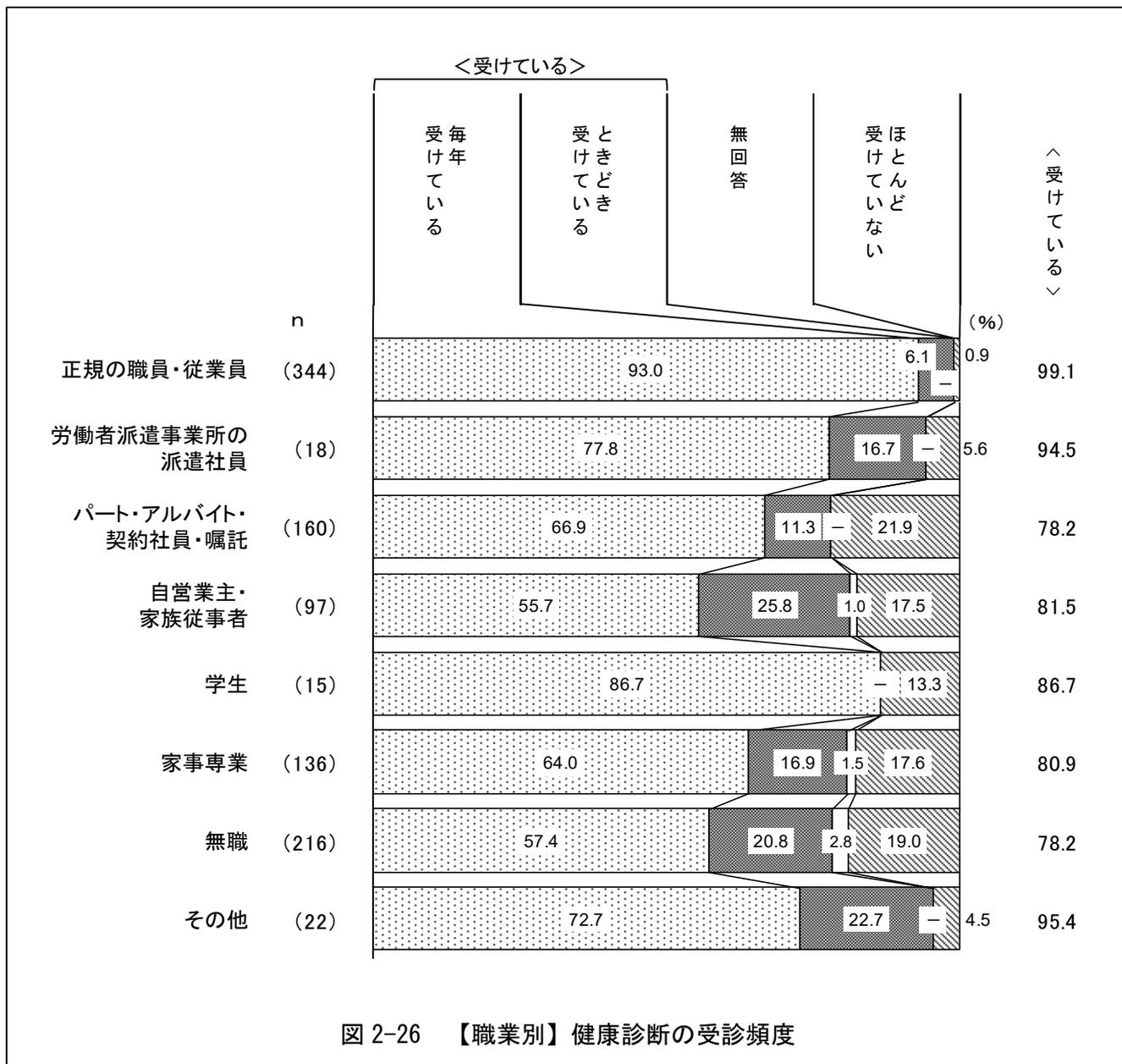
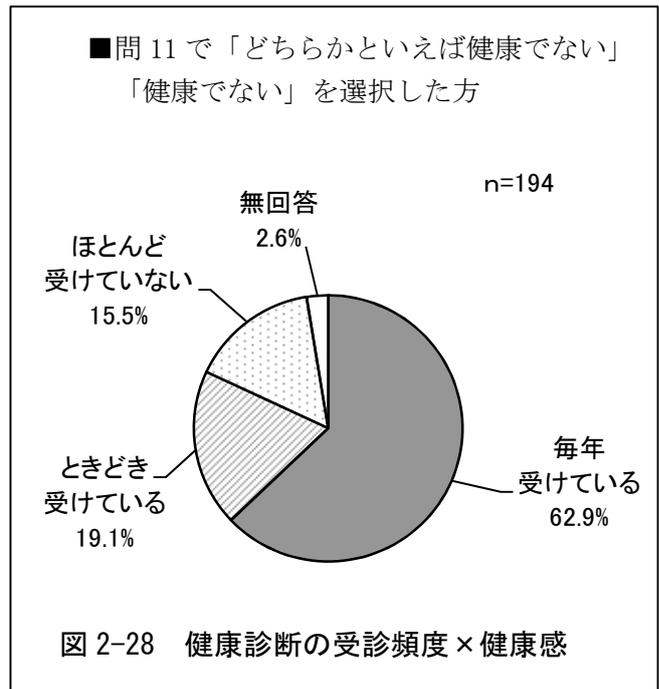
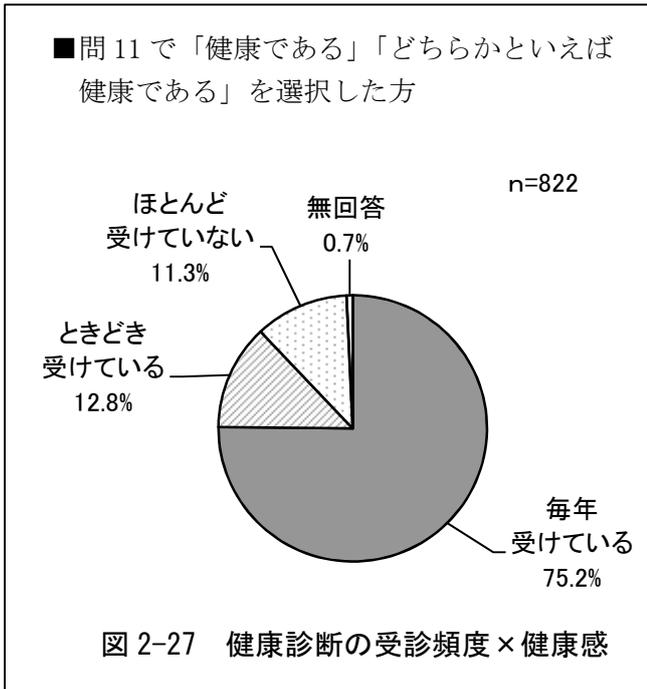


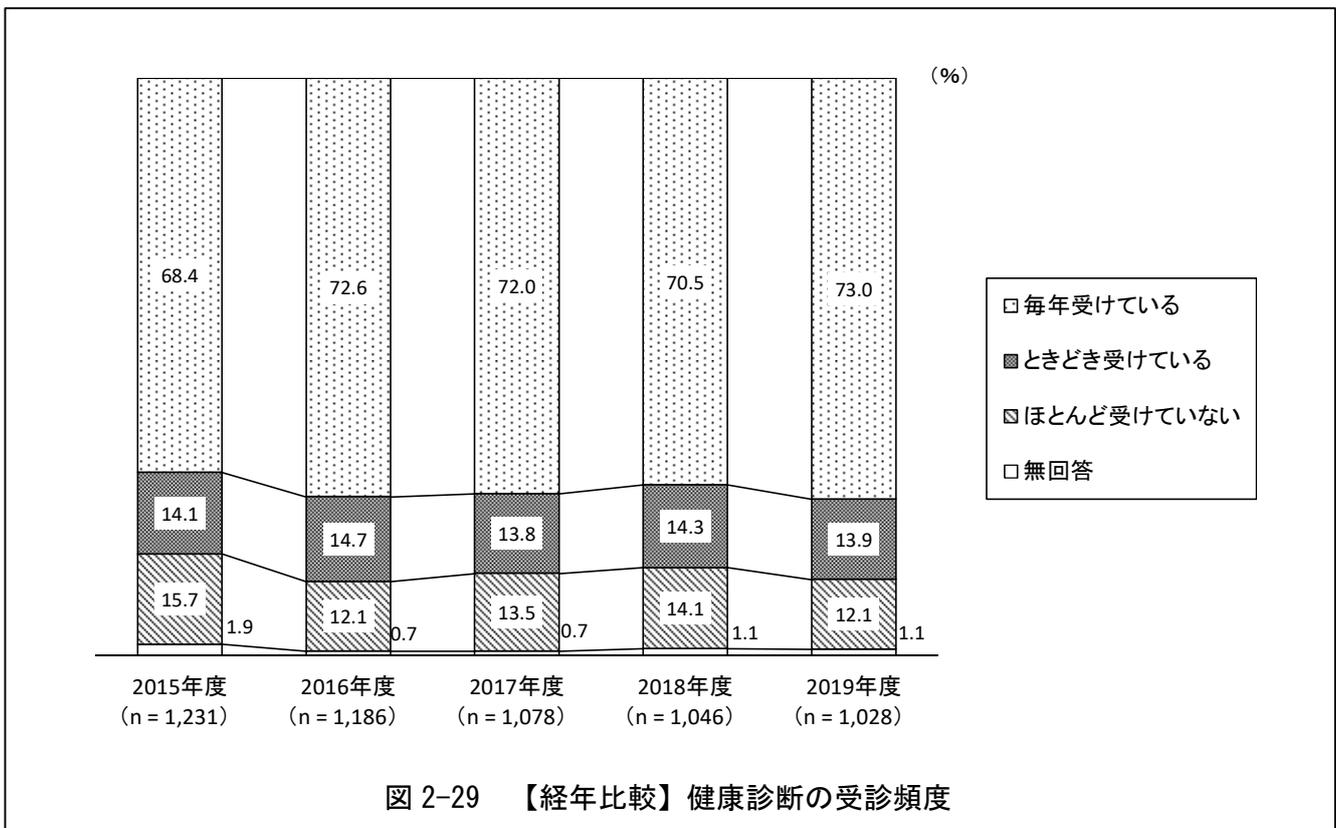
図 2-26 【職業別】健康診断の受診頻度

職業別にみると、＜受けている＞は「正規の職員・従業員」で99.1%と最も高くなっている。一方、「パート・アルバイト・契約社員・嘱託」と「無職」では＜受けている＞が78.2%と低くなっている。

健康診断の受診頻度と健康感の関係



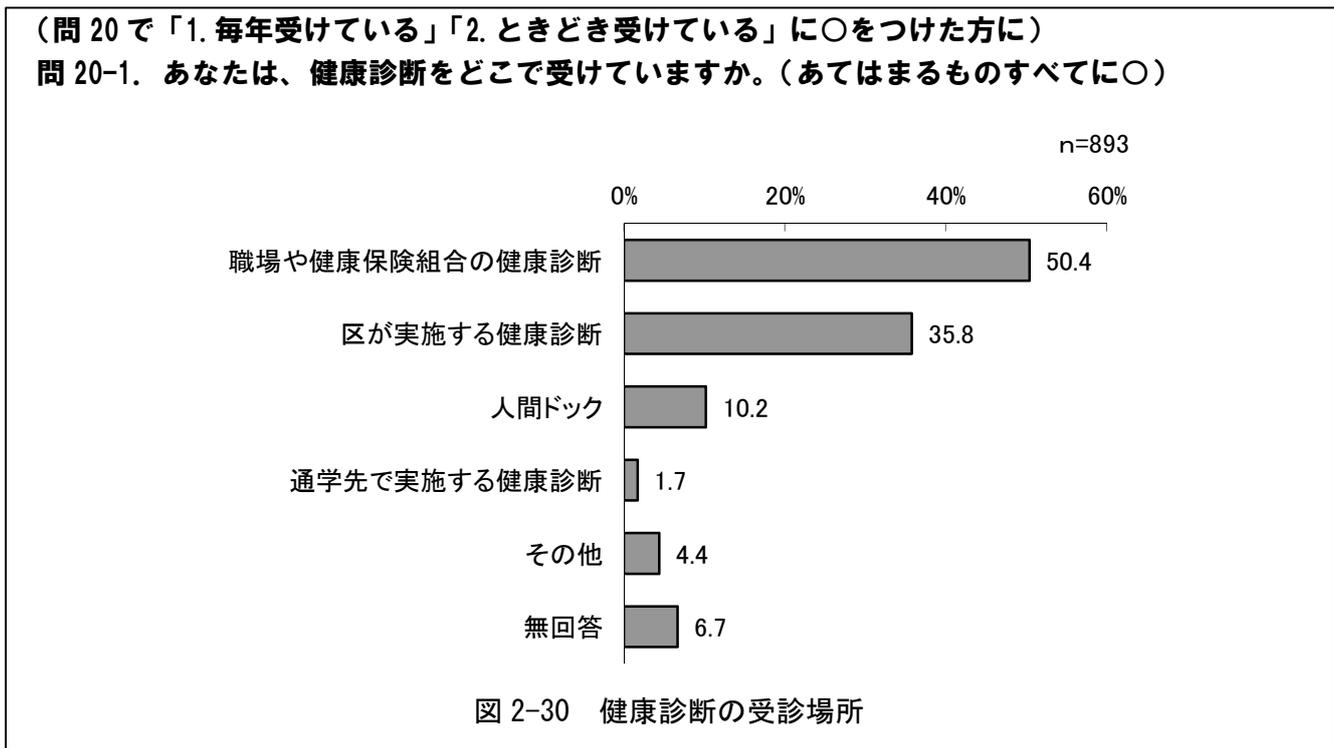
「健康である」「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」「健康でない」よりも毎年健康診断を受診している割合が高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.1. 健康診断の受診場所

◆健康診断の受診場所は「職場や健康保険組合の健康診断」が約5割



健康診断を受けている方に受診場所を聞いたところ、「職場や健康保険組合の健康診断」が50.4%で最も高く、次いで「区が実施する健康診断」(35.8%)となっている。

表 2-7 【性・年代別】健康診断の受診場所

単位: %

区分	有効回答数(件)	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	893	50.4	35.8	1.7	10.2	4.4	6.7
男性	376	54.5	28.2	2.1	11.7	5.6	6.9
女性	502	46.8	41.8	1.4	9.4	3.6	6.6
20歳代	79	75.9	2.5	19.0	2.5	—	3.8
30歳代	128	85.9	7.8	—	9.4	0.8	3.9
40歳代	154	68.8	19.5	—	14.9	1.3	4.5
50歳代	128	68.8	23.4	—	14.8	4.7	3.9
60歳代	136	41.2	44.1	—	14.7	5.1	8.8
70歳代	151	9.9	71.5	—	7.9	7.9	11.3
80歳以上	102	4.9	74.5	—	2.9	10.8	9.8

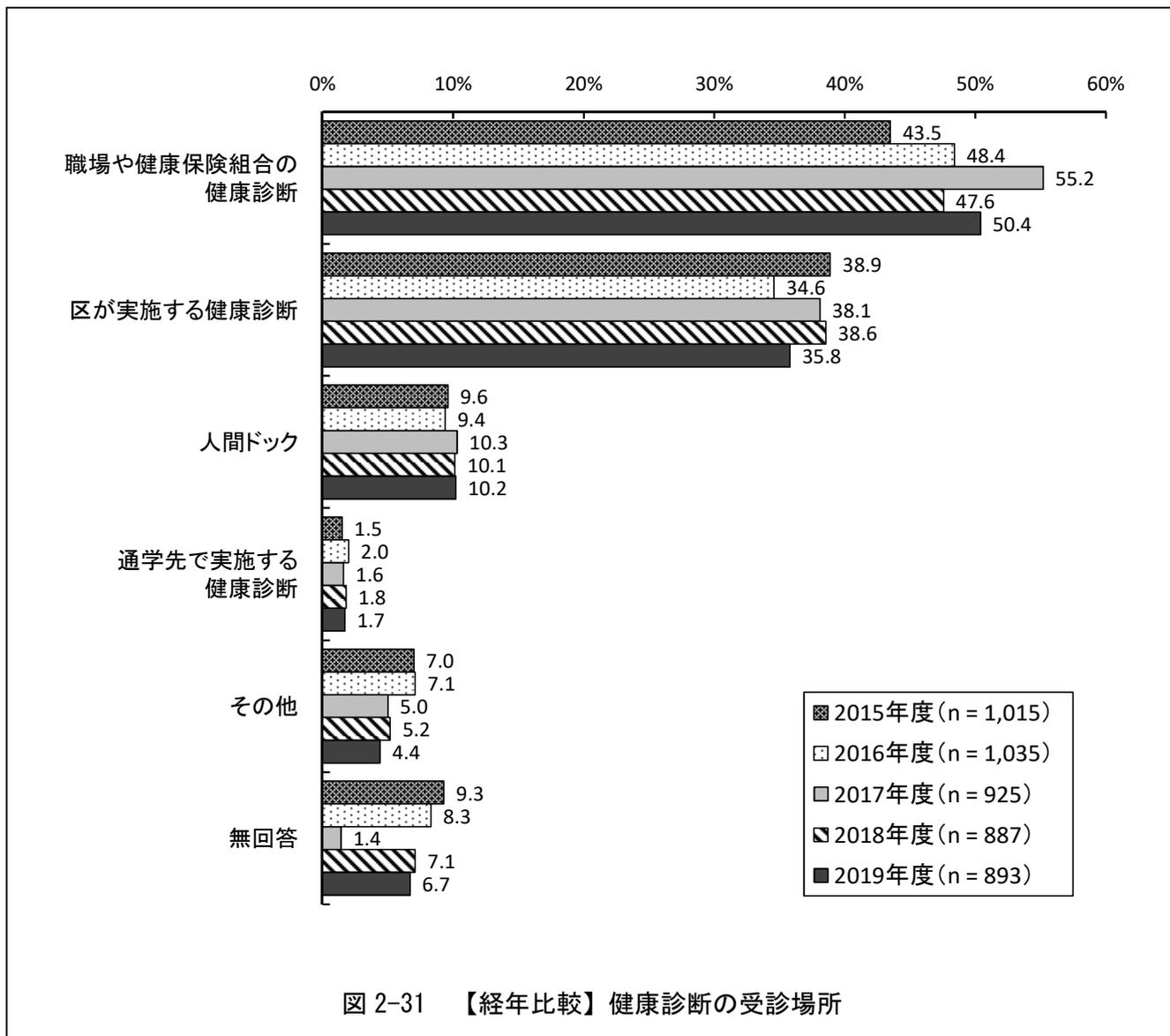
性別にみると、「職場や健康保険組合の健康診断」は男性、「区が実施する健康診断」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～50歳代は「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高いのに対し、60歳代以上では「区が実施する健康診断」が最も高くなっている。また、40歳～60歳代では「人間ドック」の割合が1割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

表 2-8 【居住地域別】健康診断の受診場所

単位：%

区分	有効回答数（件）	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	893	50.4	35.8	1.7	10.2	4.4	6.7
南台	61	47.5	37.7	3.3	8.2	1.6	11.5
弥生町	56	58.9	35.7	—	5.4	5.4	1.8
本町	86	55.8	36.0	1.2	8.1	2.3	3.5
中央	67	53.7	31.3	1.5	16.4	3.0	9.0
東中野	66	59.1	31.8	3.0	15.2	1.5	4.5
中野	75	46.7	30.7	4.0	6.7	10.7	5.3
上高田	51	37.3	39.2	2.0	3.9	3.9	17.6
新井	57	59.6	36.8	1.8	10.5	1.8	7.0
沼袋	26	46.2	38.5	—	19.2	3.8	7.7
松が丘	20	75.0	35.0	—	—	—	—
江原町	21	38.1	42.9	—	14.3	14.3	4.8
江古田	27	51.9	25.9	—	14.8	3.7	7.4
丸山	18	55.6	38.9	—	5.6	5.6	5.6
野方	42	45.2	47.6	2.4	9.5	2.4	2.4
大和町	46	37.0	37.0	—	15.2	2.2	13.0
若宮	32	43.8	46.9	3.1	12.5	6.3	—
白鷺	28	35.7	42.9	—	10.7	7.1	10.7
鷺宮	44	43.2	36.4	2.3	13.6	9.1	2.3
上鷺宮	51	51.0	29.4	2.0	9.8	5.9	9.8

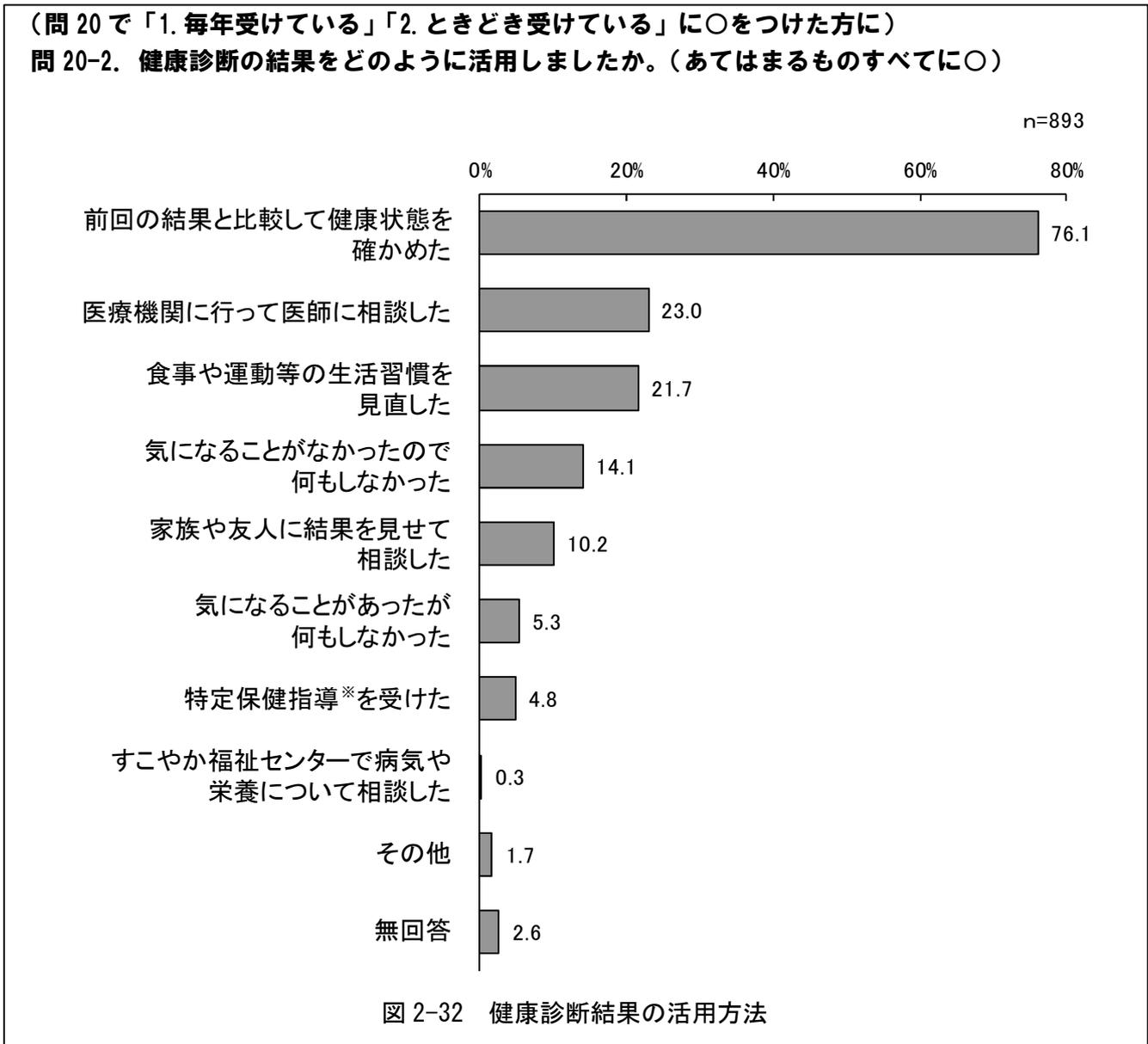
居住地域別にみると、上高田、江原町、野方、若宮、白鷺を除く地域で「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高くなっている。



経年で比較すると、2017年度に「職場や健康保険組合の健康診断」が増加したが、それ以外は大きな差異はみられない。

2.10.2. 健康診断結果の活用方法

◆健康診断結果の活用方法は「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が7割台半ば



※特定保健指導…メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のこと。

健康診断を受けている方に健康診断結果の活用方法を聞いたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が76.1%で最も高く、次いで「医療機関に行って医師に相談した」（23.0%）、「食事や運動等の生活習慣を見直した」（21.7%）が続いている。

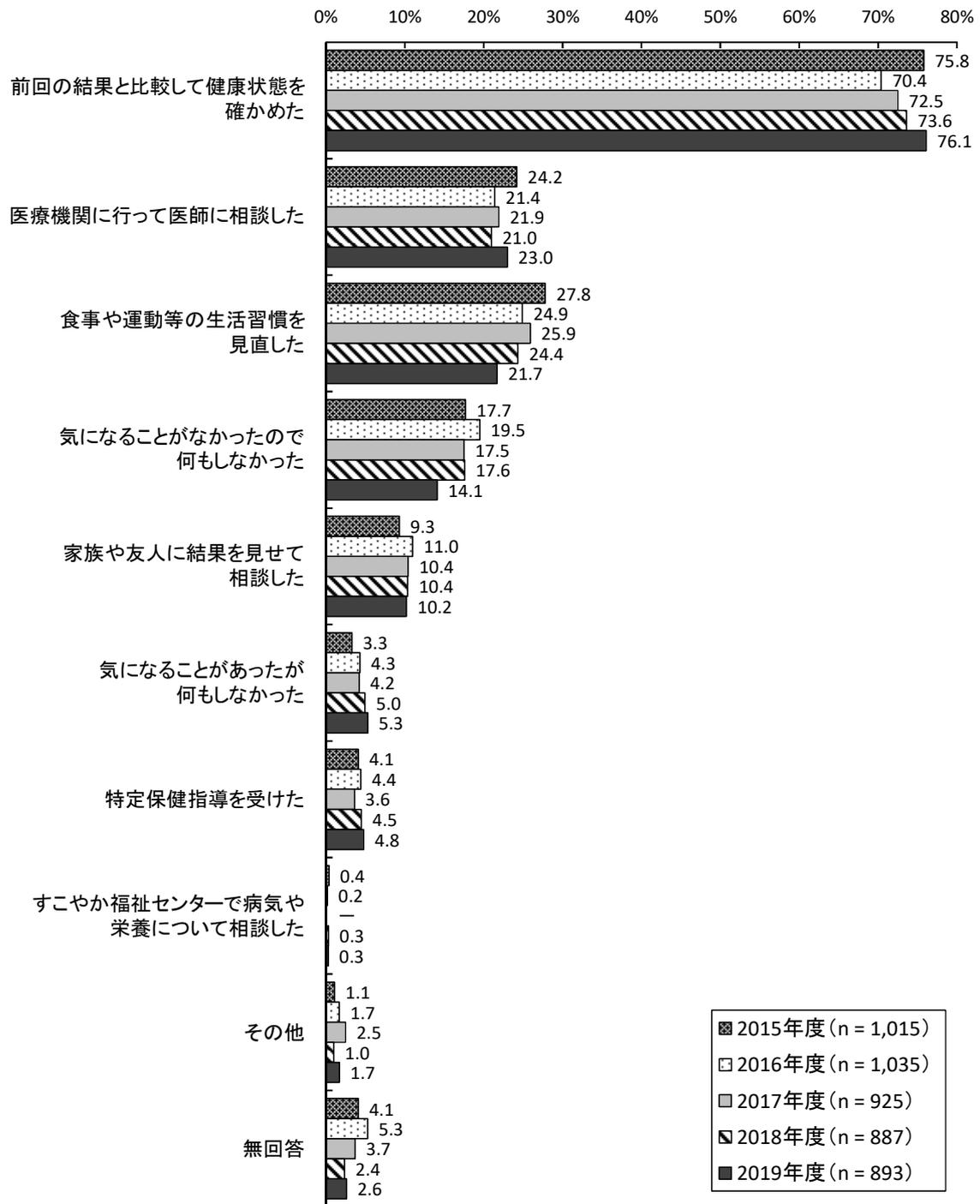
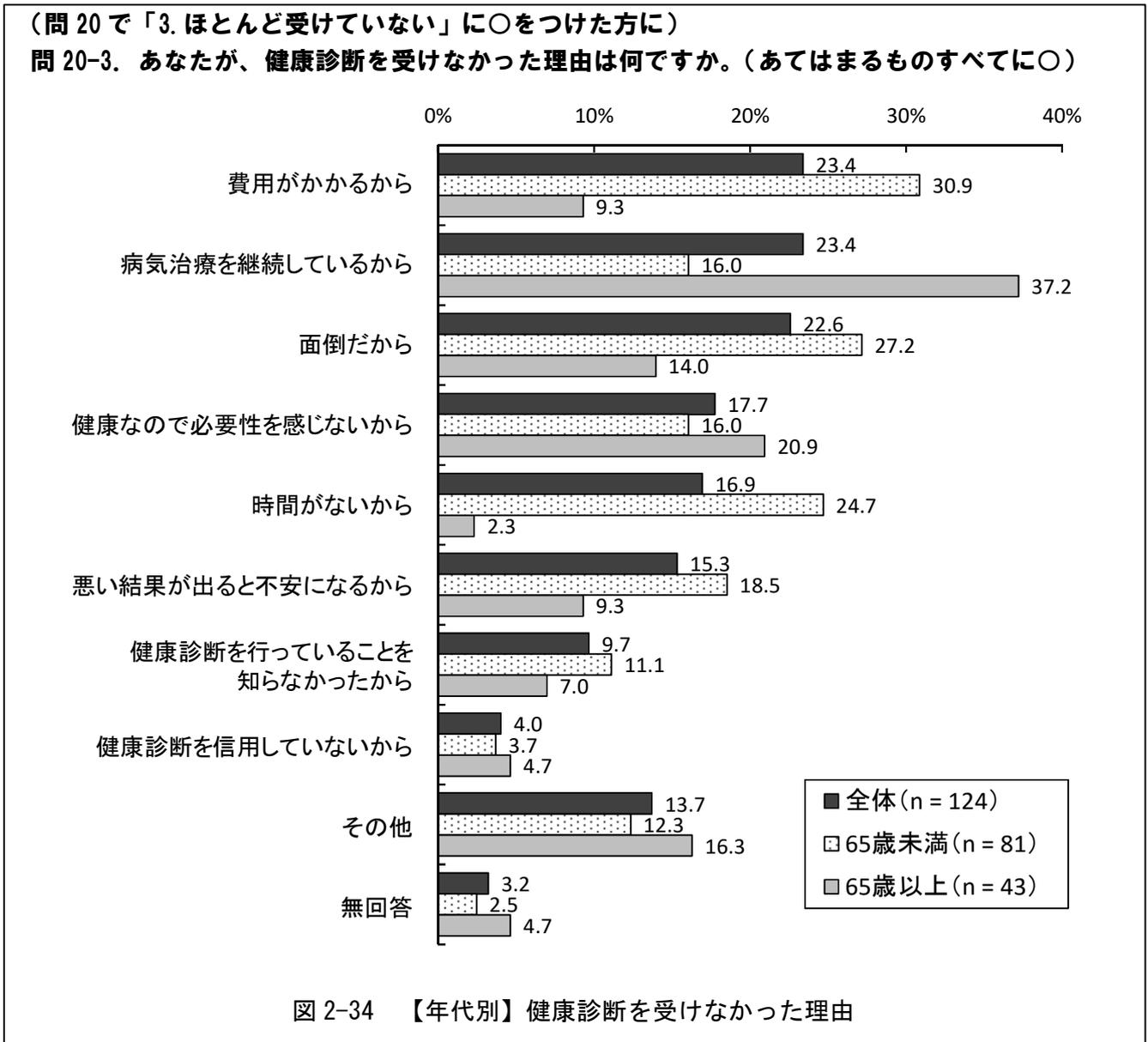


図 2-33 【経年比較】健康診断結果の活用方法

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.3. 健康診断を受けなかった理由

◆健康診断を受けなかった理由は「費用がかかるから」「病気治療を継続しているから」が2割台前半



健康診断を受けなかった方にその理由を聞いたところ、「費用がかかるから」と「病気治療を継続しているから」がともに23.4%で最も高く、次いで「面倒だから」(22.6%)、「健康なので必要性を感じないから」(17.7%)と続いている。年代別にみると、65歳未満では「費用がかかるから」(30.9%)、「面倒だから」(27.2%)、「時間がないから」(24.7%)の順になっているのに対し、65歳以上では「病気治療を継続しているから」(37.2%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないから」(20.9%)となっている。

表 2-9 【居住地域別】健康診断を受けなかった理由

単位：%

区分	有効回答数（件）	時間がないから	費用がかかるから	面倒だから	病気治療を継続しているから	健康診断を行っていないことを知らなかったから	健康診断を信用していないから	悪い結果が出ると不安になるから	健康なので必要性を感じないから	その他	無回答
全体	124	16.9	23.4	22.6	23.4	9.7	4.0	15.3	17.7	13.7	3.2
南台	14	21.4	35.7	21.4	21.4	14.3	7.1	7.1	28.6	14.3	7.1
弥生町	4	—	—	—	50.0	—	—	25.0	—	50.0	—
本町	9	22.2	44.4	11.1	22.2	11.1	—	—	22.2	11.1	—
中央	13	7.7	15.4	23.1	15.4	7.7	7.7	15.4	15.4	30.8	—
東中野	11	18.2	9.1	18.2	18.2	18.2	—	27.3	45.5	—	—
中野	9	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	—	22.2	11.1	—	—
上高田	10	10.0	10.0	20.0	40.0	20.0	—	10.0	20.0	10.0	10.0
新井	10	20.0	20.0	40.0	10.0	—	10.0	10.0	20.0	—	—
沼袋	6	33.3	50.0	33.3	—	16.7	—	33.3	—	—	—
松が丘	1	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—
江原町	1	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—
江古田	6	16.7	33.3	—	—	16.7	16.7	33.3	33.3	—	—
丸山	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
野方	4	25.0	25.0	75.0	—	—	—	50.0	25.0	—	25.0
大和町	6	16.7	50.0	16.7	33.3	—	—	—	—	16.7	16.7
若宮	8	25.0	—	37.5	50.0	—	—	12.5	—	25.0	—
白鷺	2	—	—	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—
鷺宮	5	—	40.0	20.0	20.0	—	20.0	—	20.0	40.0	—
上鷺宮	5	20.0	—	20.0	40.0	—	—	20.0	—	20.0	—

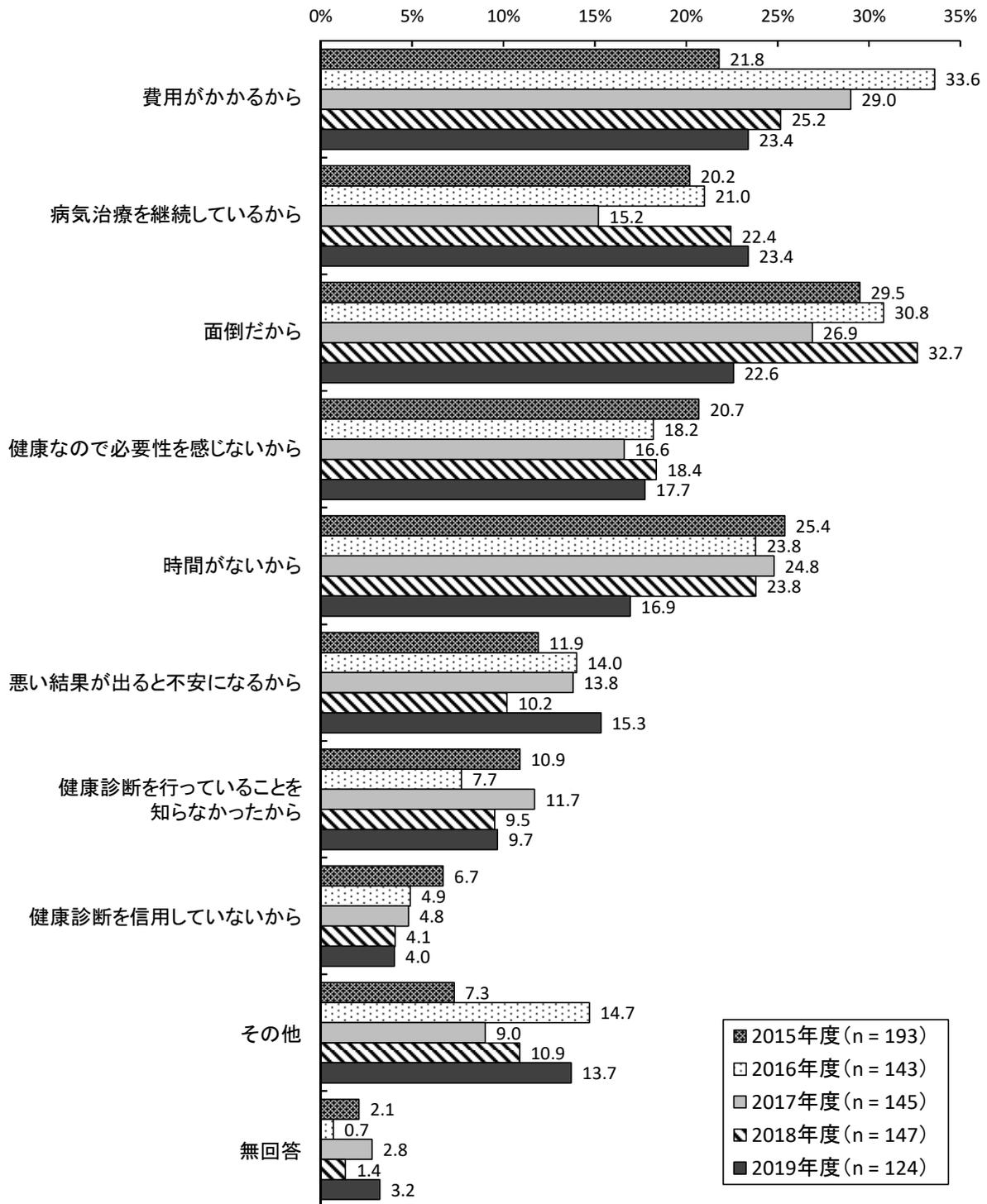
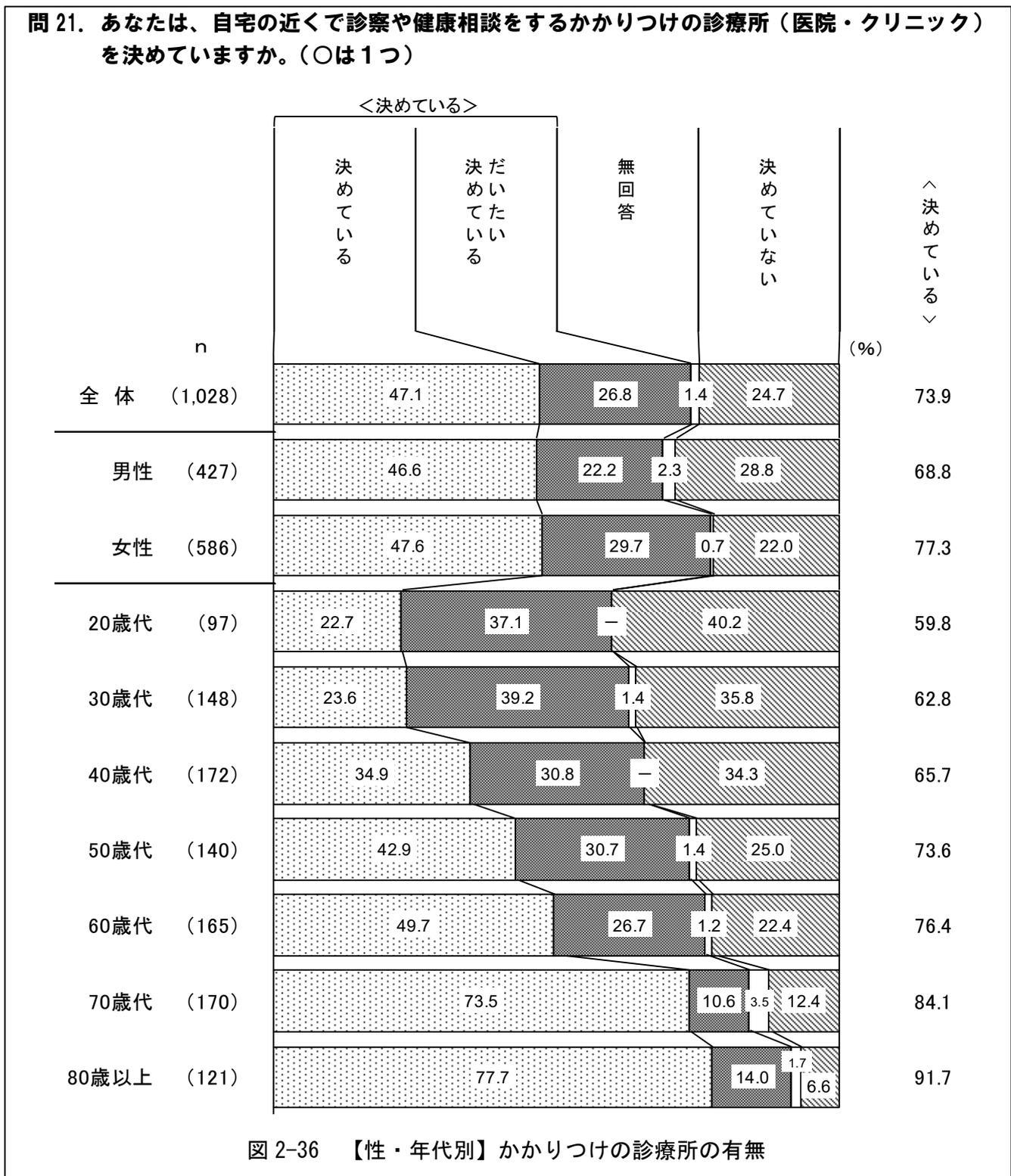


図 2-35 【経年比較】健康診断を受けなかった理由

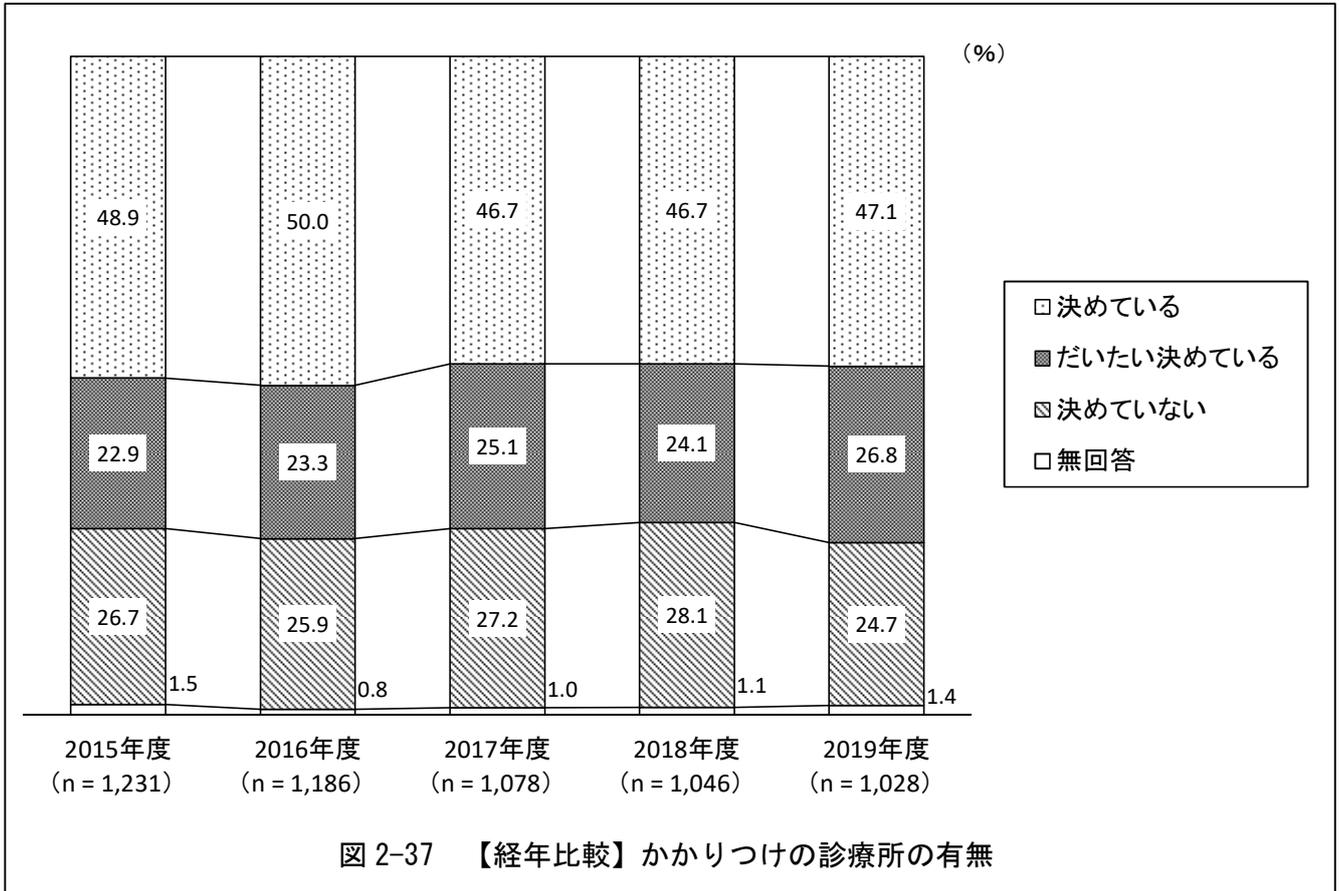
経年で比較すると、2019年度は前年度と比べ「面倒だから」や「時間がないから」が減少し、「悪い結果が出ると不安になるから」が増加している。

2. 11. かかりつけの診療所の有無

◆かかりつけの診療所を<決めている>割合は年代が上がるにつれ増加傾向



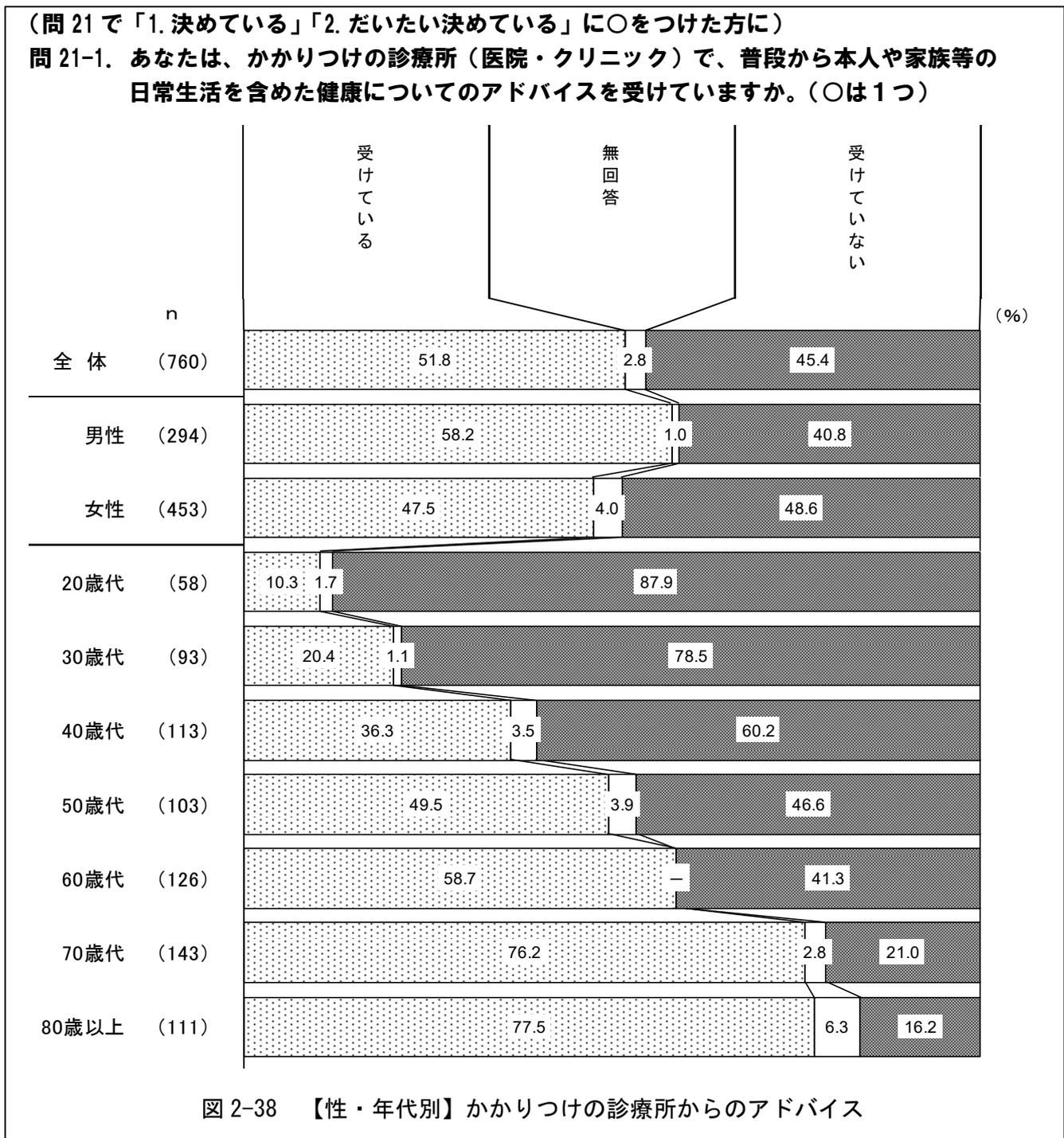
かかりつけの診療所を決めているかについては、「決めている」(47.1%)と「だいたい決めている」(26.8%)を合わせた<決めている>で73.9%となっている。性別にみると、<決めている>では女性(77.3%)が男性(68.8%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は年代が上がるにつれ増加しており、80歳以上では9割を超えている。



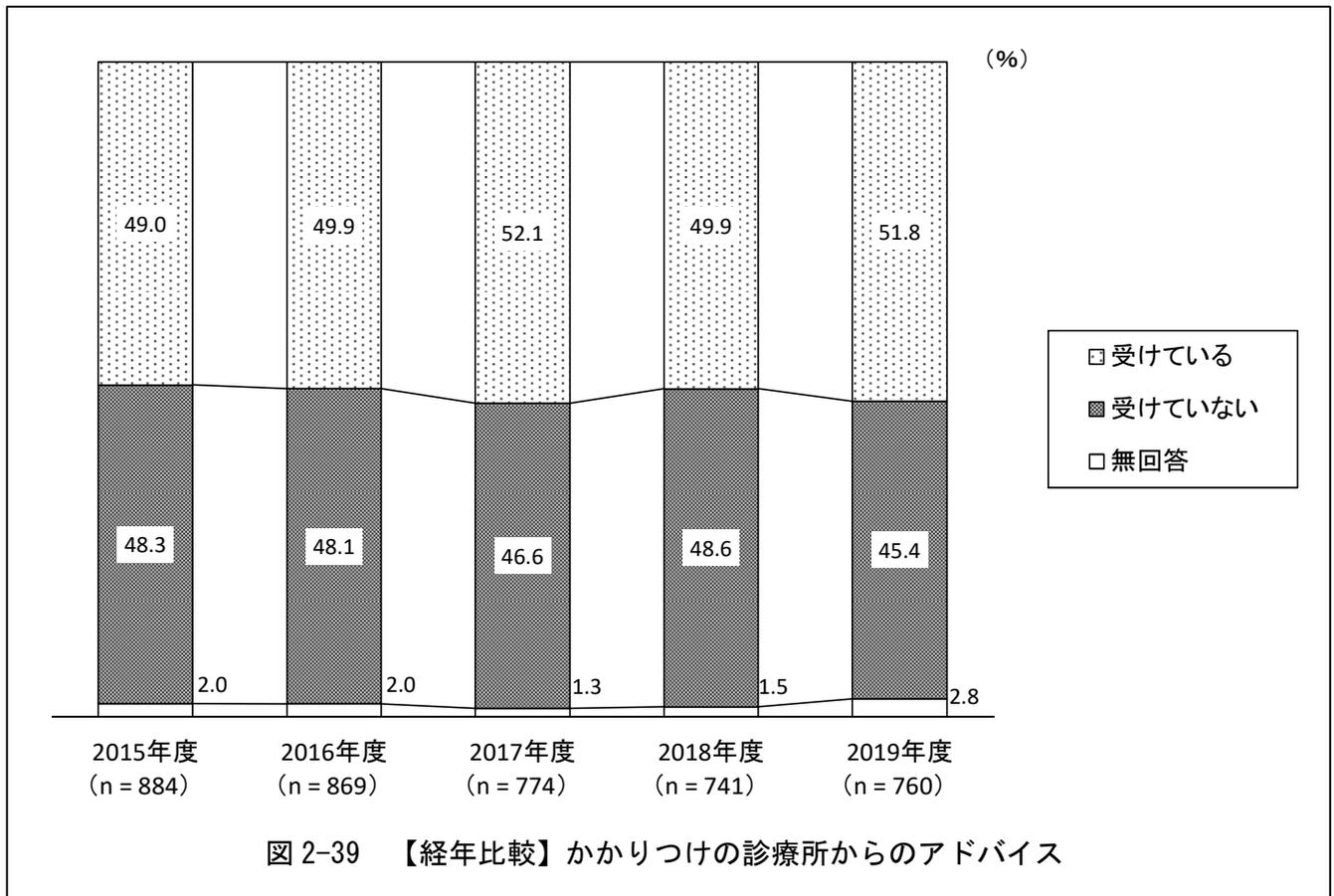
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 11. 1. かかりつけの診療所からのアドバイス

◆かかりつけの診療所で健康についてのアドバイスを「受けている」は約5割



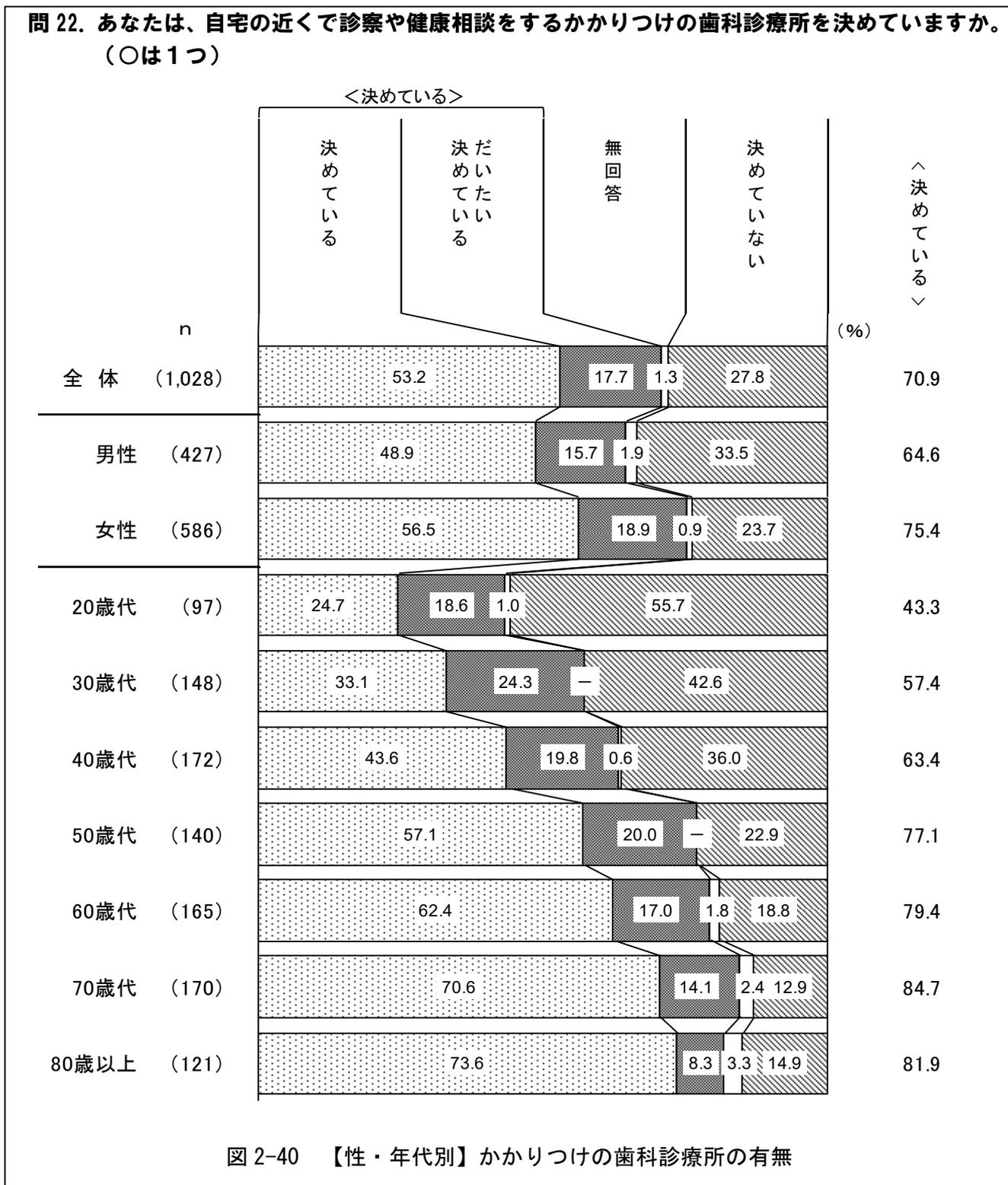
かかりつけの診療所を決めている方にかかりつけの診療所から健康についてのアドバイスを受けているか聞いたところ、「受けている」が 51.8% に対し、「受けていない」は 45.4% となっている。性別にみると、「受けている」では男性 (58.2%) が女性 (47.5%) を約 11 ポイント上回っている。年代別にみると、「受けている」は年代が上がるにつれ増加しており、70 歳代以上では 7 割を超えている。



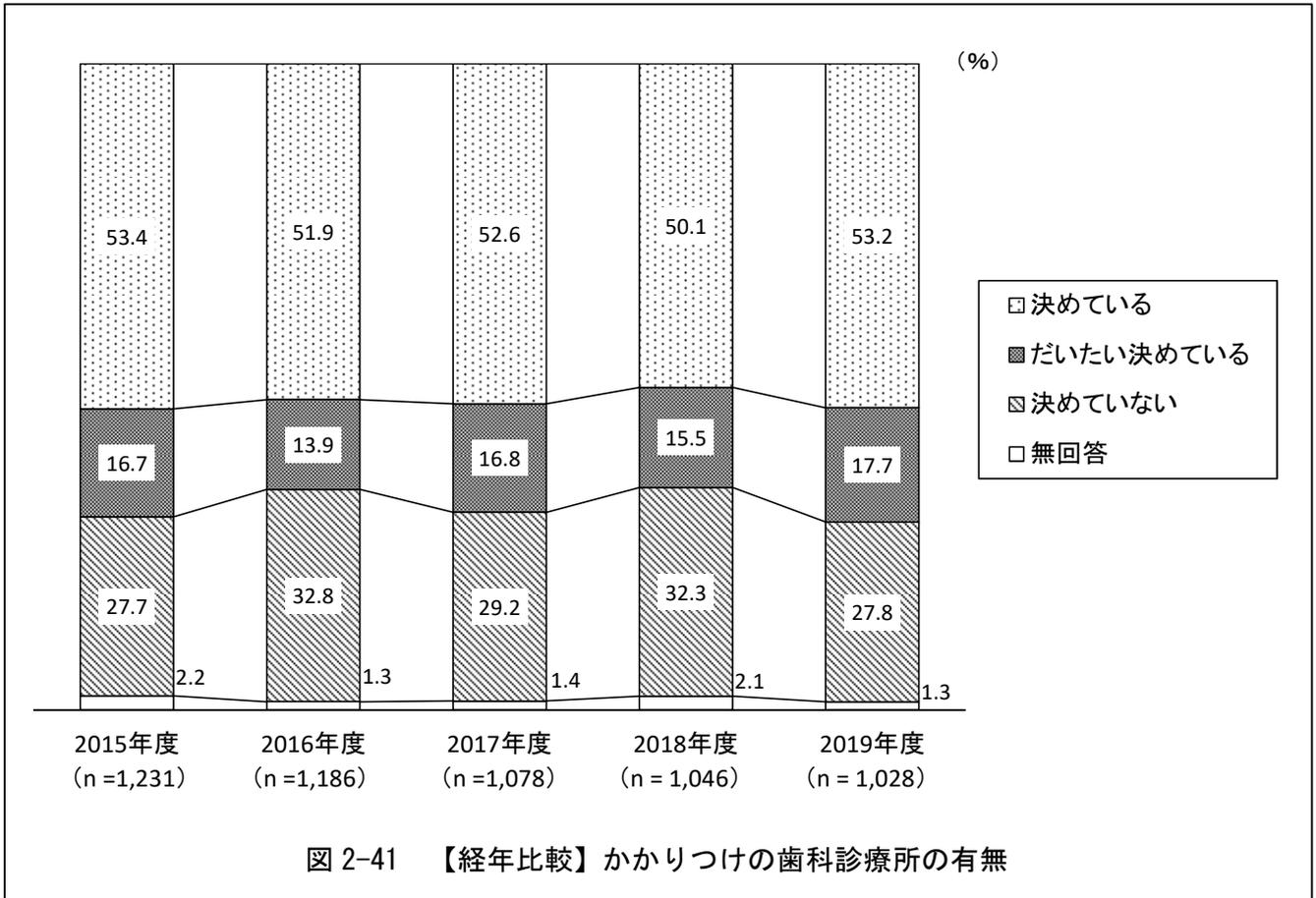
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 12. かかりつけの歯科診療所の有無

◆かかりつけの歯科診療所を<決めている>が約7割



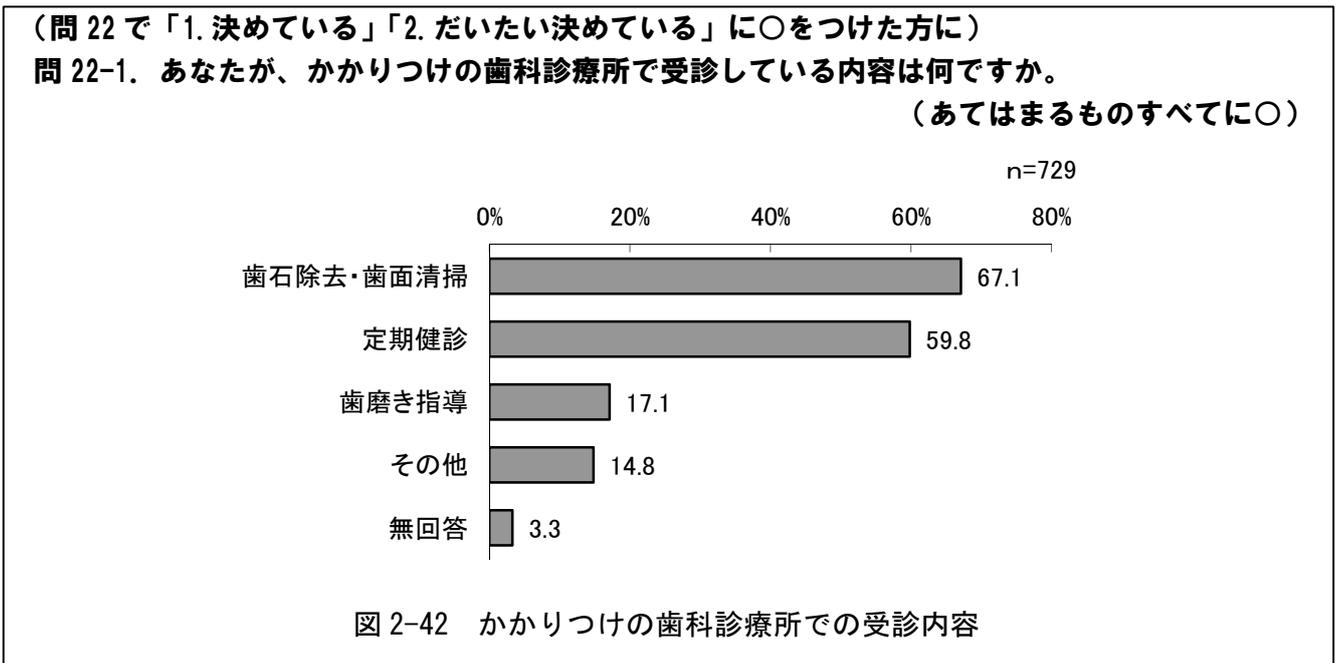
かかりつけの歯科診療所を決めているかについては、「決めている」(53.2%)と「だいたい決めている」(17.7%)を合わせた<決めている>で70.9%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(75.4%)が男性(64.6%)を約11ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は70歳代までは年代が上がるにつれ増加しており、70歳代以上では8割を超えている。



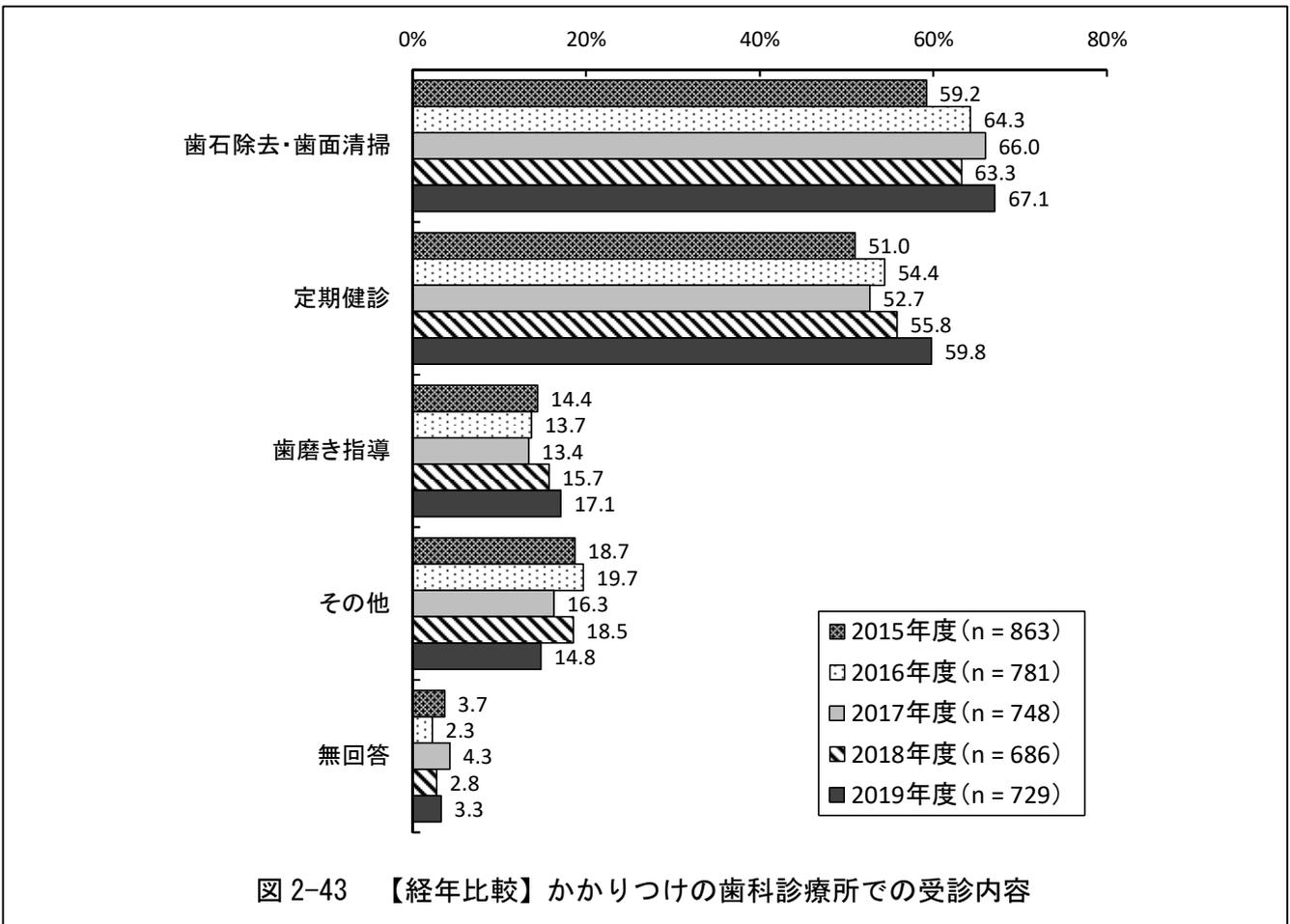
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 12. 1. かかりつけの歯科診療所での受診内容

◆かかりつけの歯科診療所での受診内容は「歯石除去・歯面清掃」が6割台後半



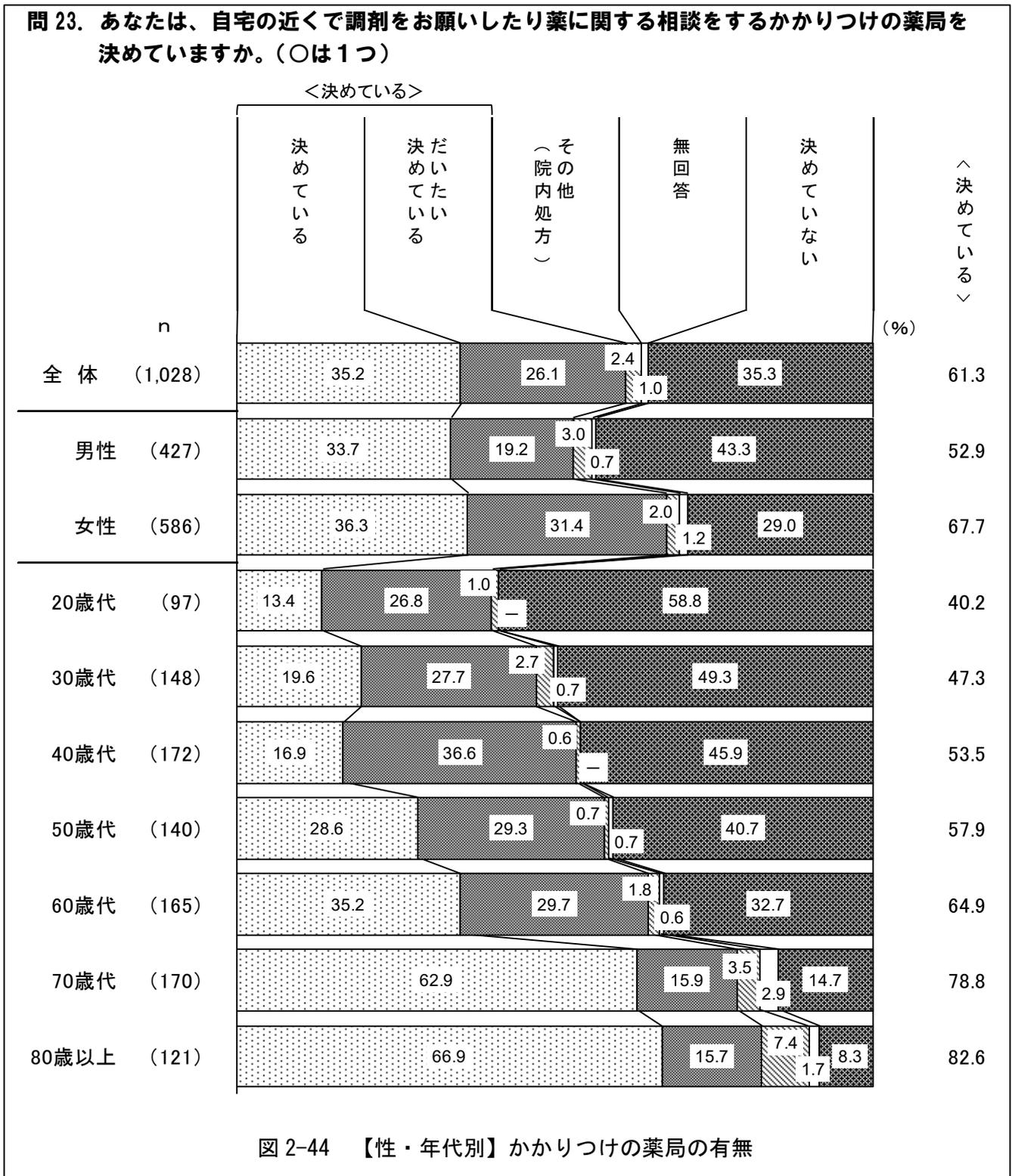
かかりつけの歯科診療所を決めている方に受診内容を聞いたところ、「歯石除去・歯面清掃」が67.1%と最も高く、次いで「定期健診」(59.8%)となっている。「その他」(14.8%)としては「虫歯治療」、「入れ歯の調整」、「歯列矯正」などがあげられている。



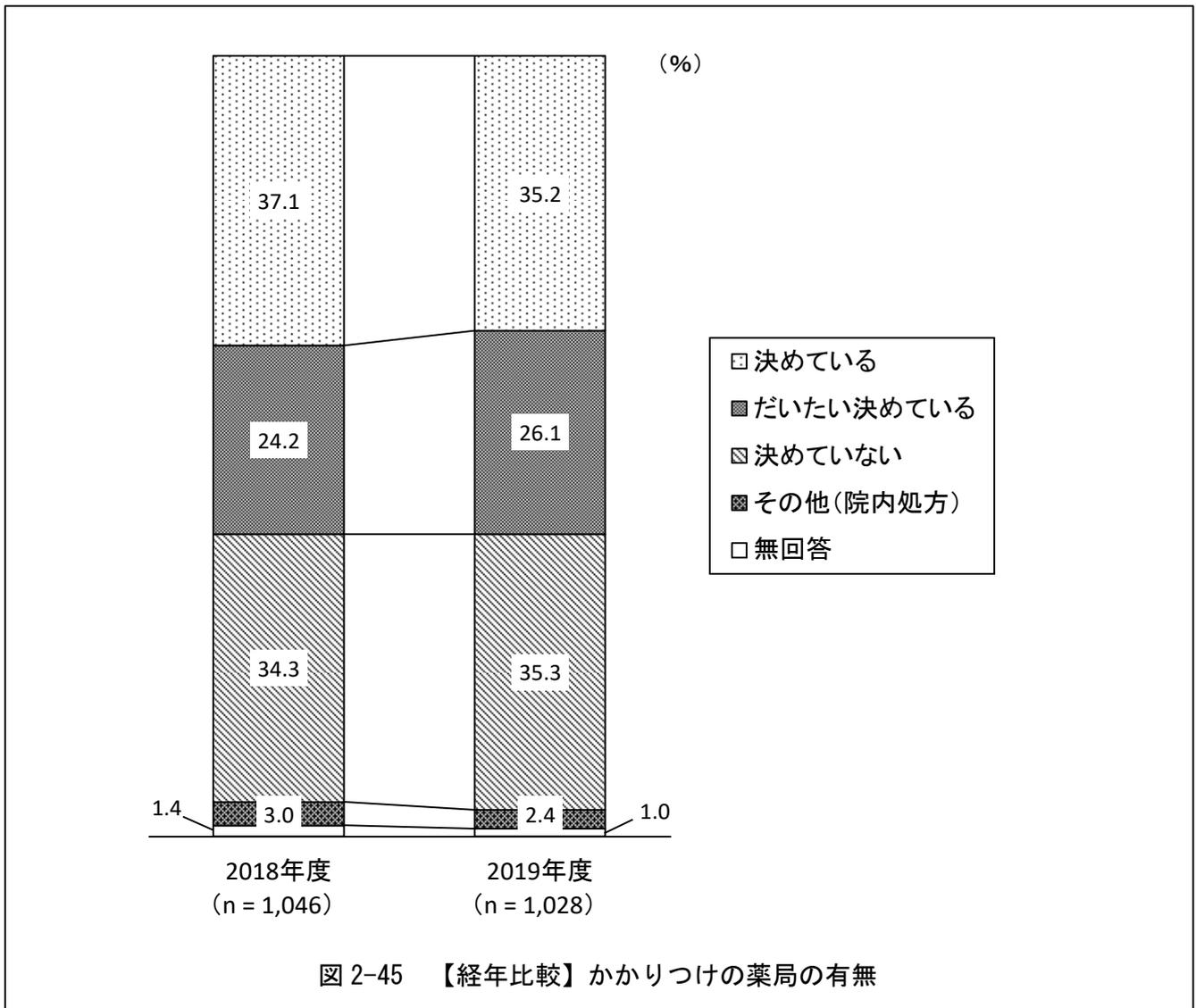
経年で比較すると、「その他」を除き増加傾向にある。

2.13. かかりつけの薬局の有無

◆かかりつけの薬局を<決めている>が約6割



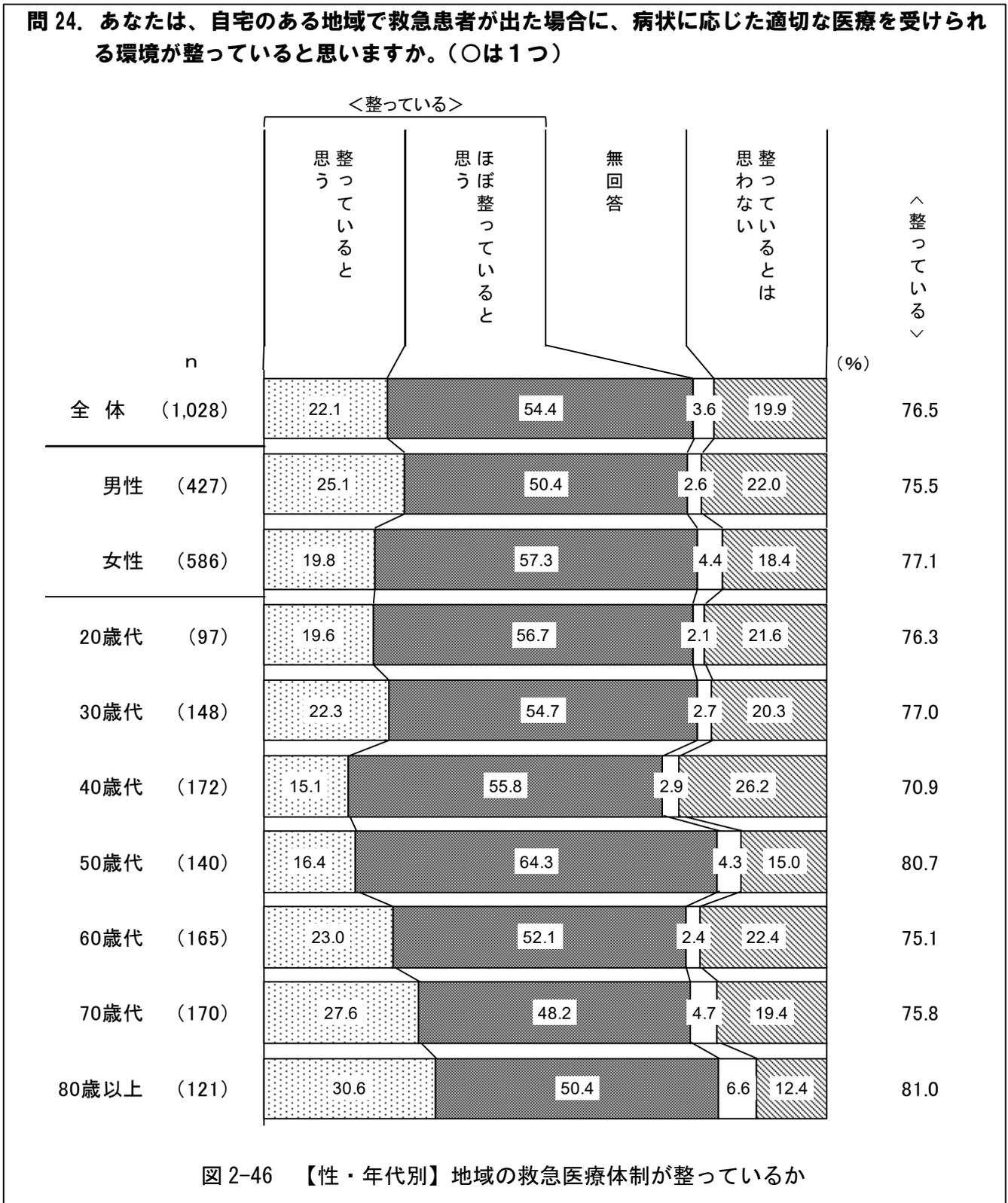
かかりつけの薬局を決めているかについては、「決めている」(35.2%)と「だいたい決めている」(26.1%)を合わせた<決めている>で61.3%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(67.7%)が男性(52.9%)を約15ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は年代が上がるにつれ増加しており、80歳以上では8割を超えている。



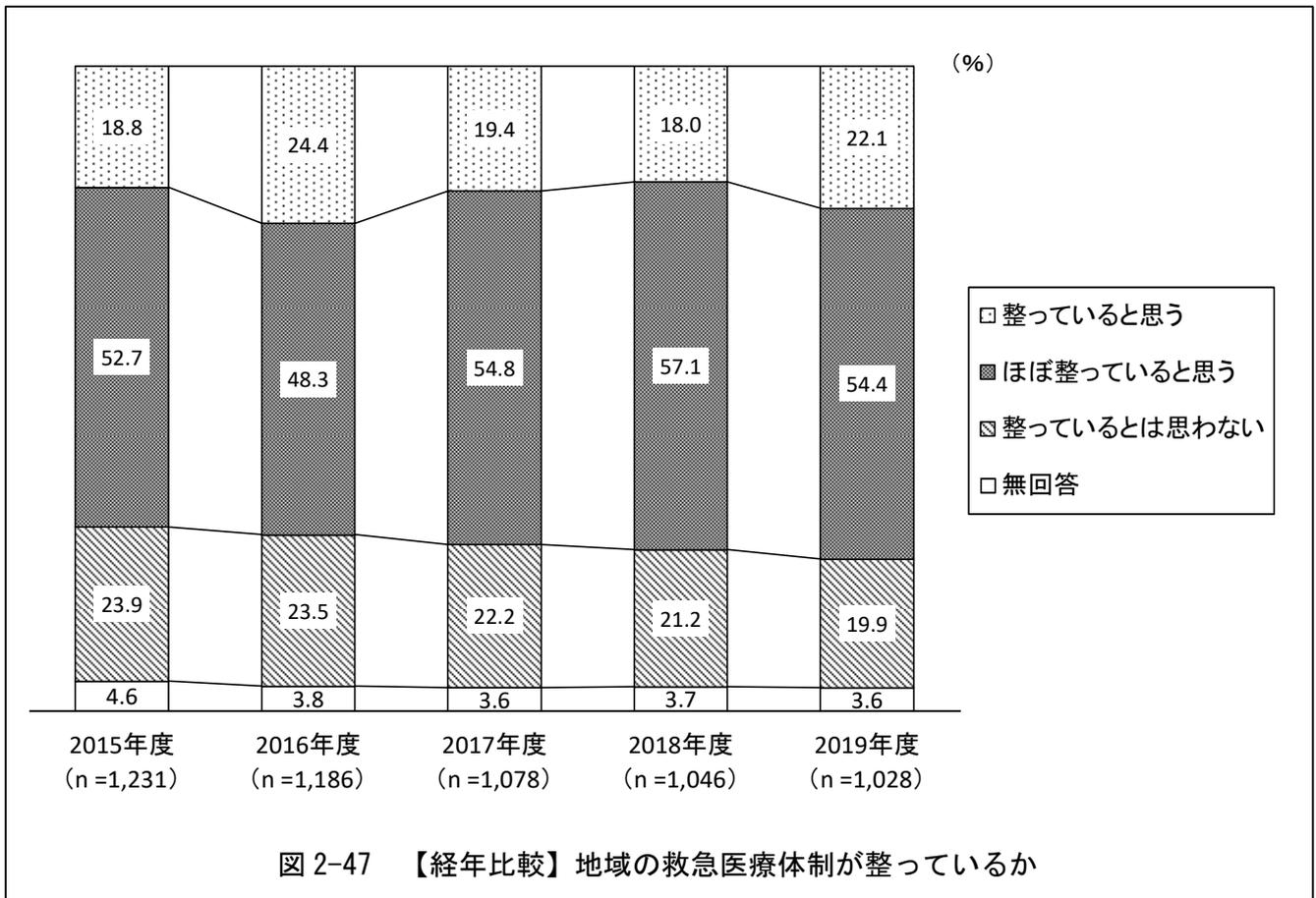
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.14. 地域の救急医療体制が整っているか

◆地域の救急医療体制は<整っている>が7割台半ば



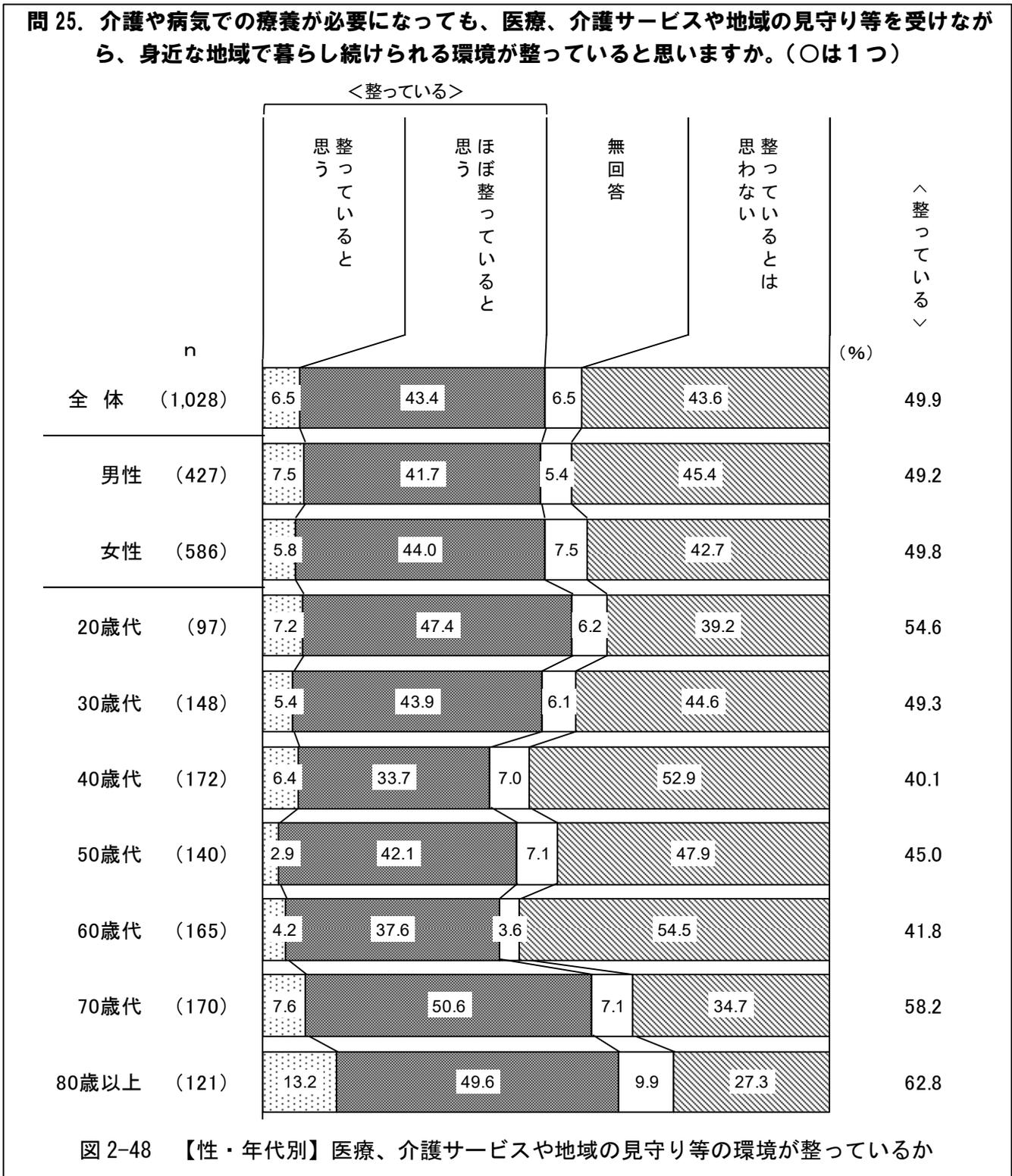
自宅のある地域で救急医療の体制が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(22.1%)と「ほぼ整っていると思う」(54.4%)を合わせた<整っている>で76.5%となっている。性別にみると「整っていると思う」は男性(25.1%)が女性(19.8%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、<整っている>はいずれの年代でも7割を超えており、特に50歳代と80歳以上では8割を超えて高くなっている。



経年で比較すると、「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせた＜整っている＞の割合が増加している。

2.15. 医療・介護サービスや見守り環境の状況

◆医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が<整っている>は約5割



医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(6.5%)と「ほぼ整っていると思う」(43.4%)を合わせた<整っている>で49.9%となっている。年代別にみると、20歳代と70歳代以上で<整っている>が5割を超えて高くなっている。一方、40歳代と60歳代で「整っているとは思わない」が5割を超えて高くなっている。

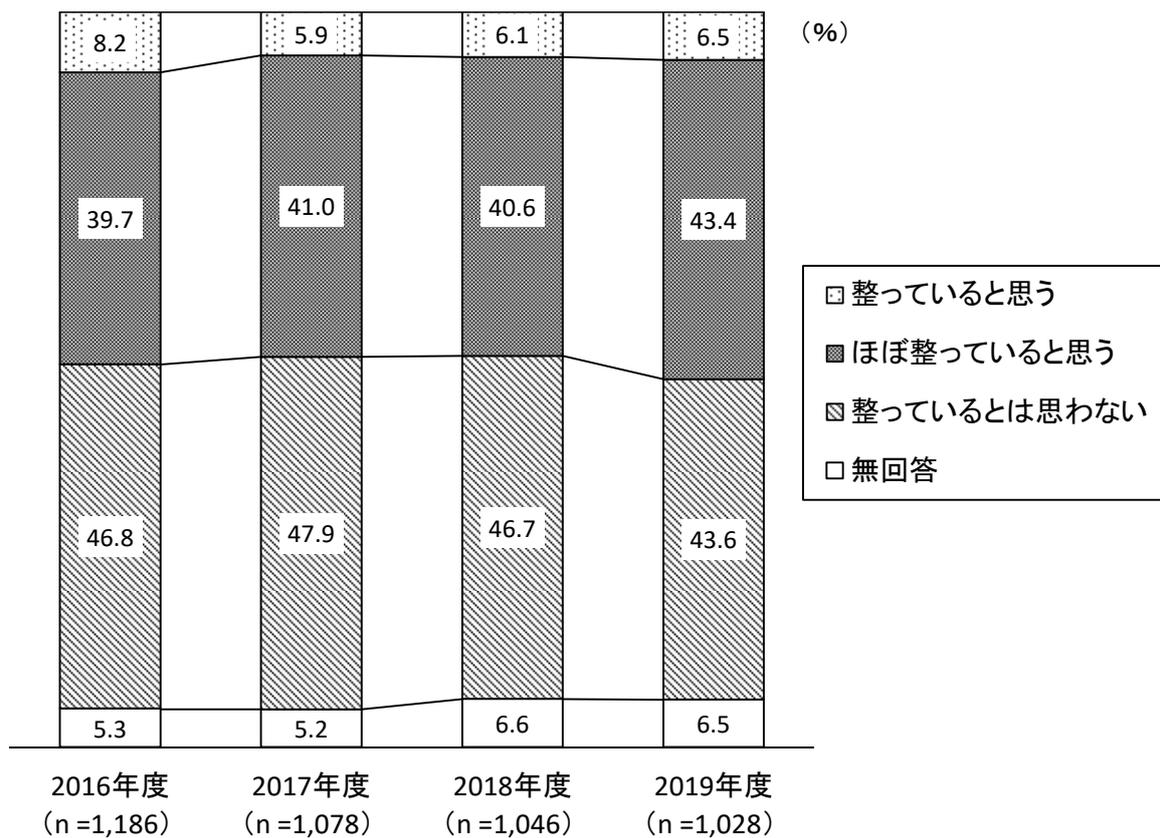
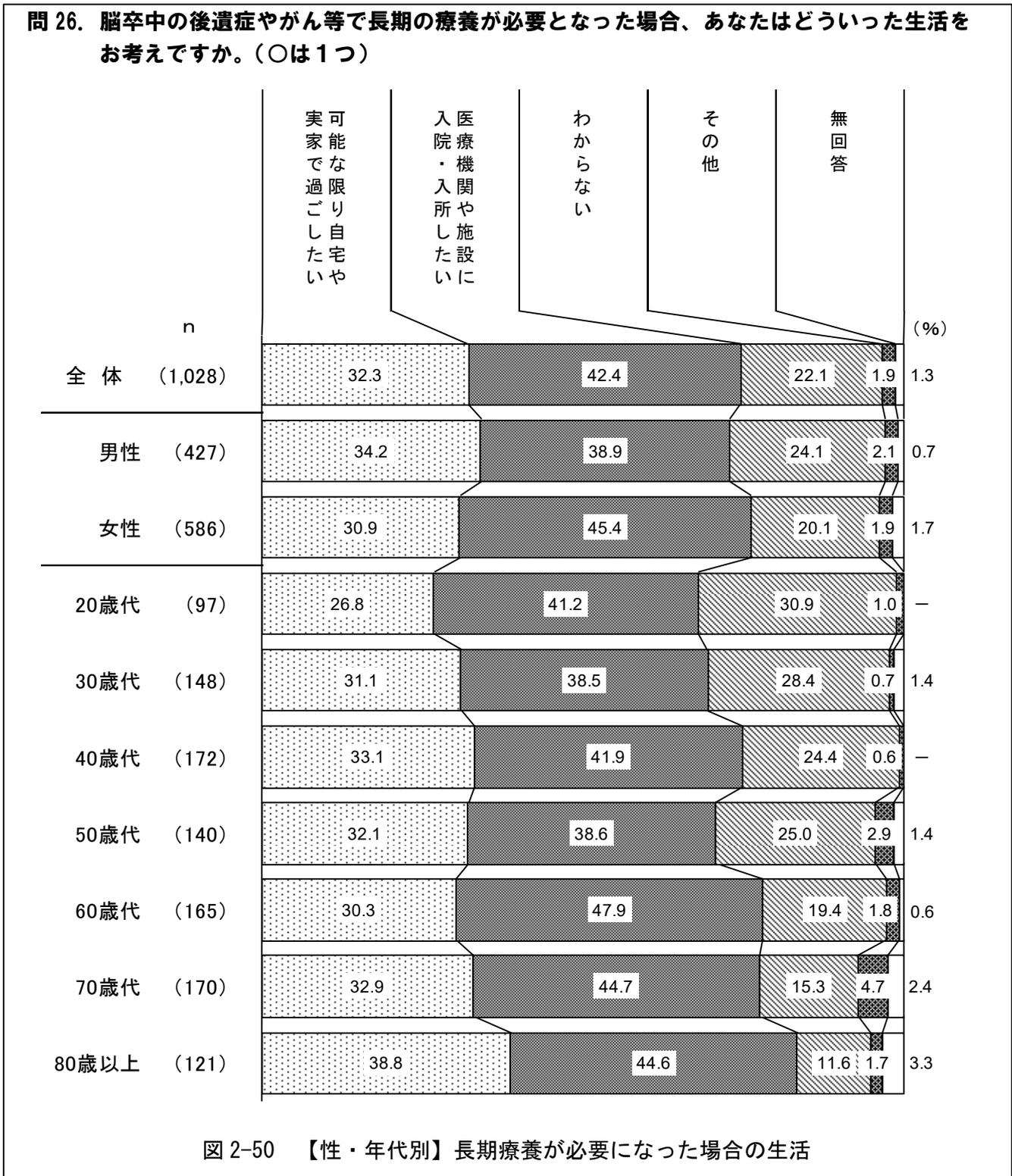


図 2-49 【経年比較】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

経年で比較すると、2019年度は「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせた「整っている」の割合が増加している。

2.16. 長期療養が必要になった場合の生活

◆長期療養が必要になった場合の生活は「医療機関や施設に入院・入所したい」が4割台前半



長期療養が必要になった場合の生活は、「医療機関や施設に入院・入所したい」が42.4%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が32.3%、「わからない」が22.1%となっている。性別にみると、「医療機関や施設に入院・入所したい」は女性(45.4%)が男性(38.9%)を約7ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が最も高くなっている。

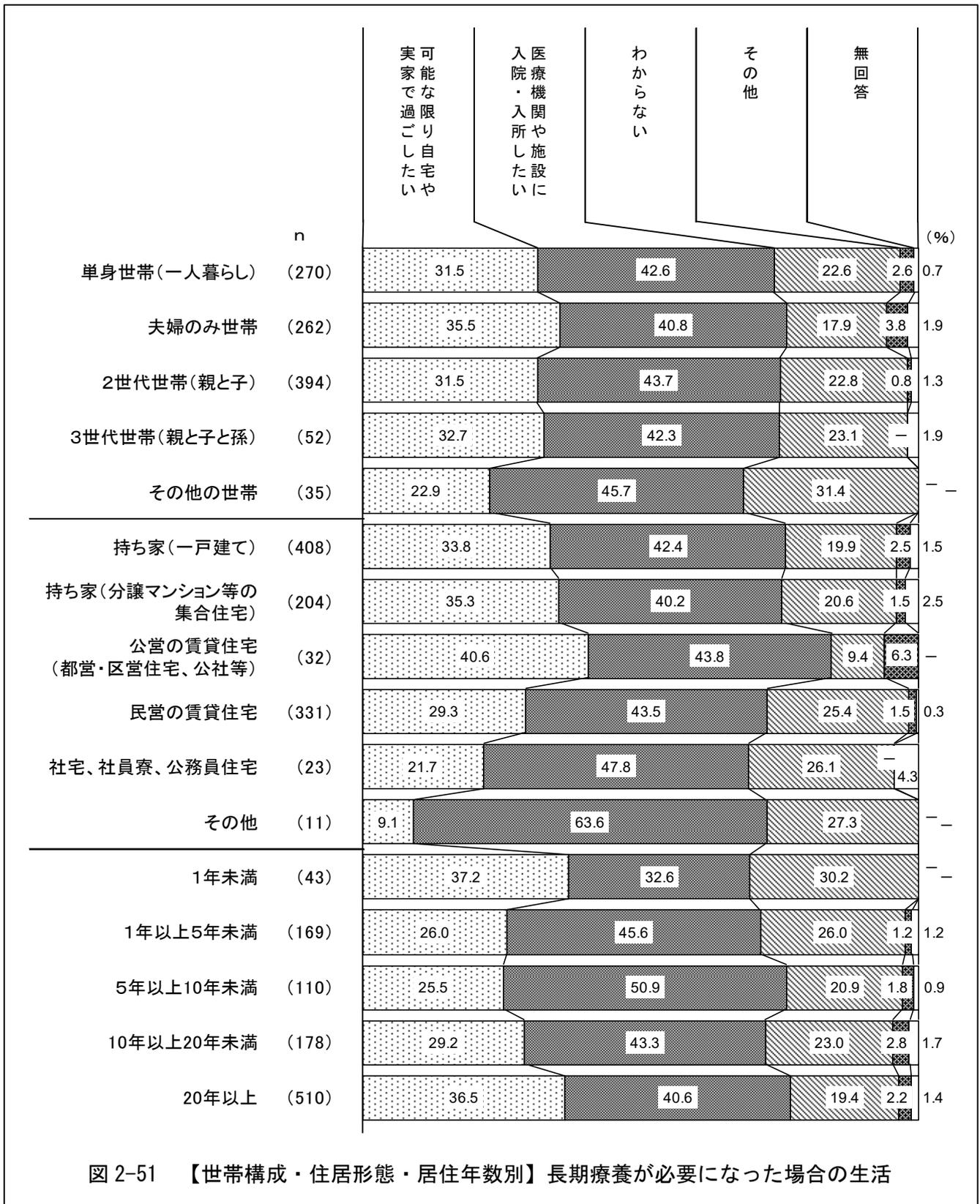


図 2-51 【世帯構成・住居形態・居住年数別】長期療養が必要になった場合の生活

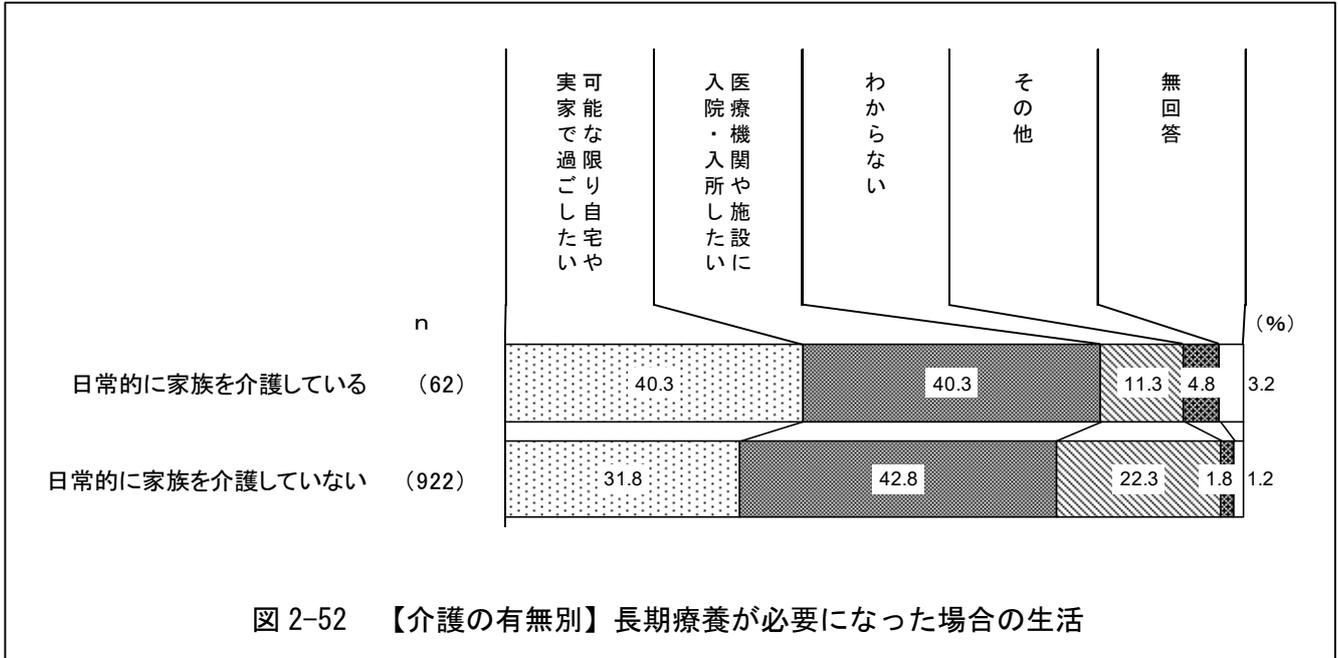


図 2-52 【介護の有無別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を介護の有無別で見ると、日常的に家族を介護している人では「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」と「医療機関や施設に入院・入所したい」が同じ割合であり、一方で日常的に家族を介護していない人では「医療機関や施設に入院・入所したい」が最も高くなっている。

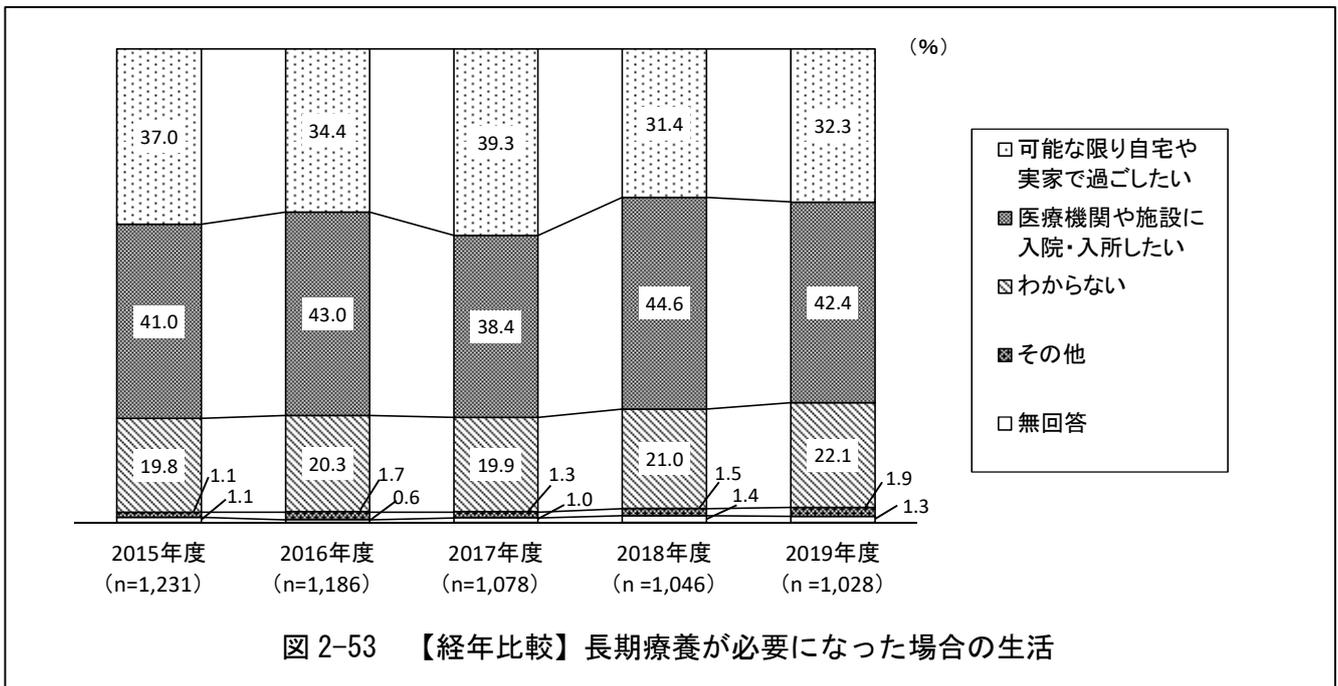
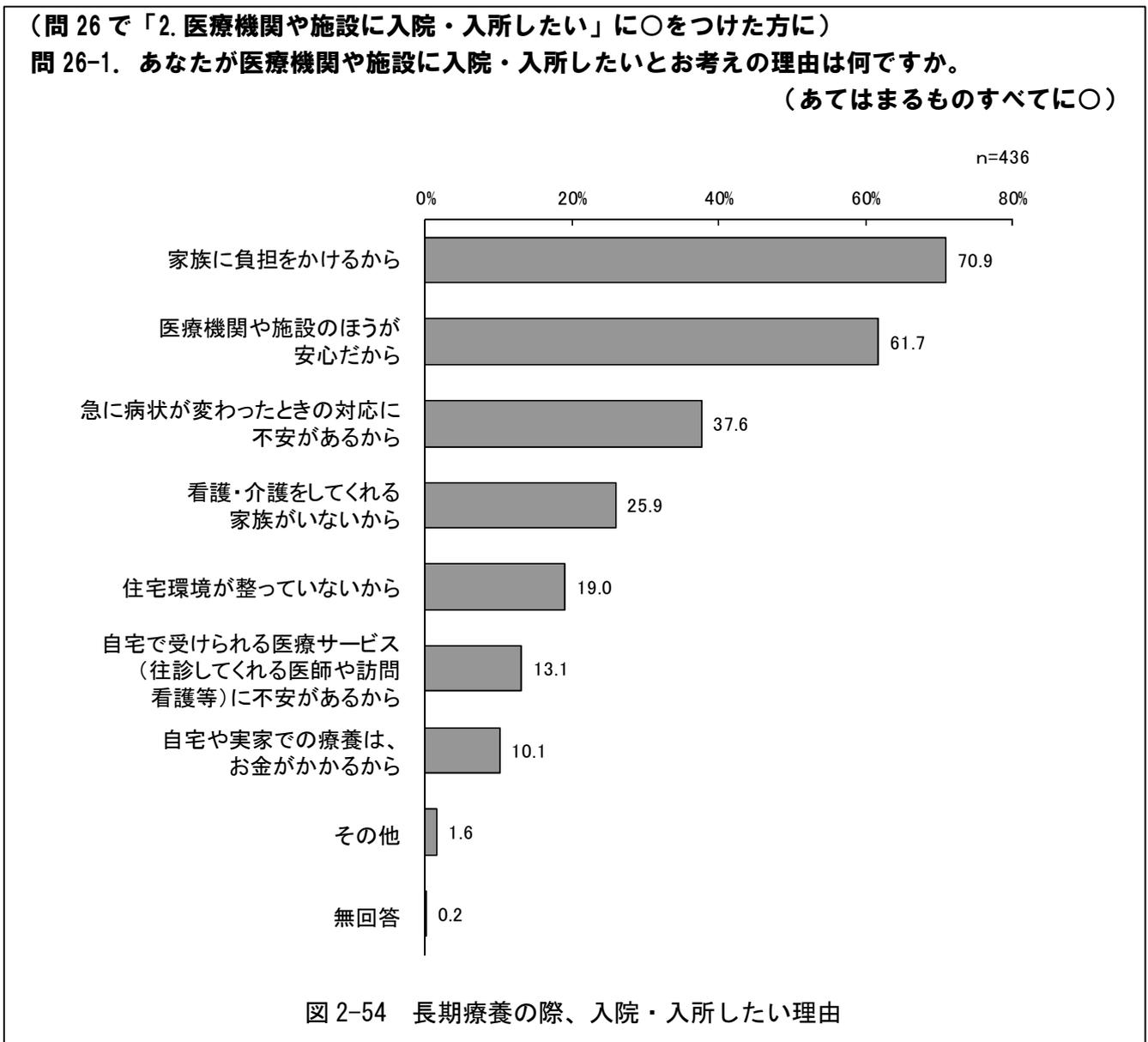


図 2-53 【経年比較】長期療養が必要になった場合の生活

経年で比較すると、2017年度に「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が最も高くなったが、2018年度以降は再び「医療機関や施設に入院・入所したい」が最も高くなっている。

2.16.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由

◆長期療養の際に入院・入所したい理由は「家族に負担をかけるから」が約7割



長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい方にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が70.9%で最も高く、次いで「医療機関や施設のほうが安心だから」(61.7%)が続いている。

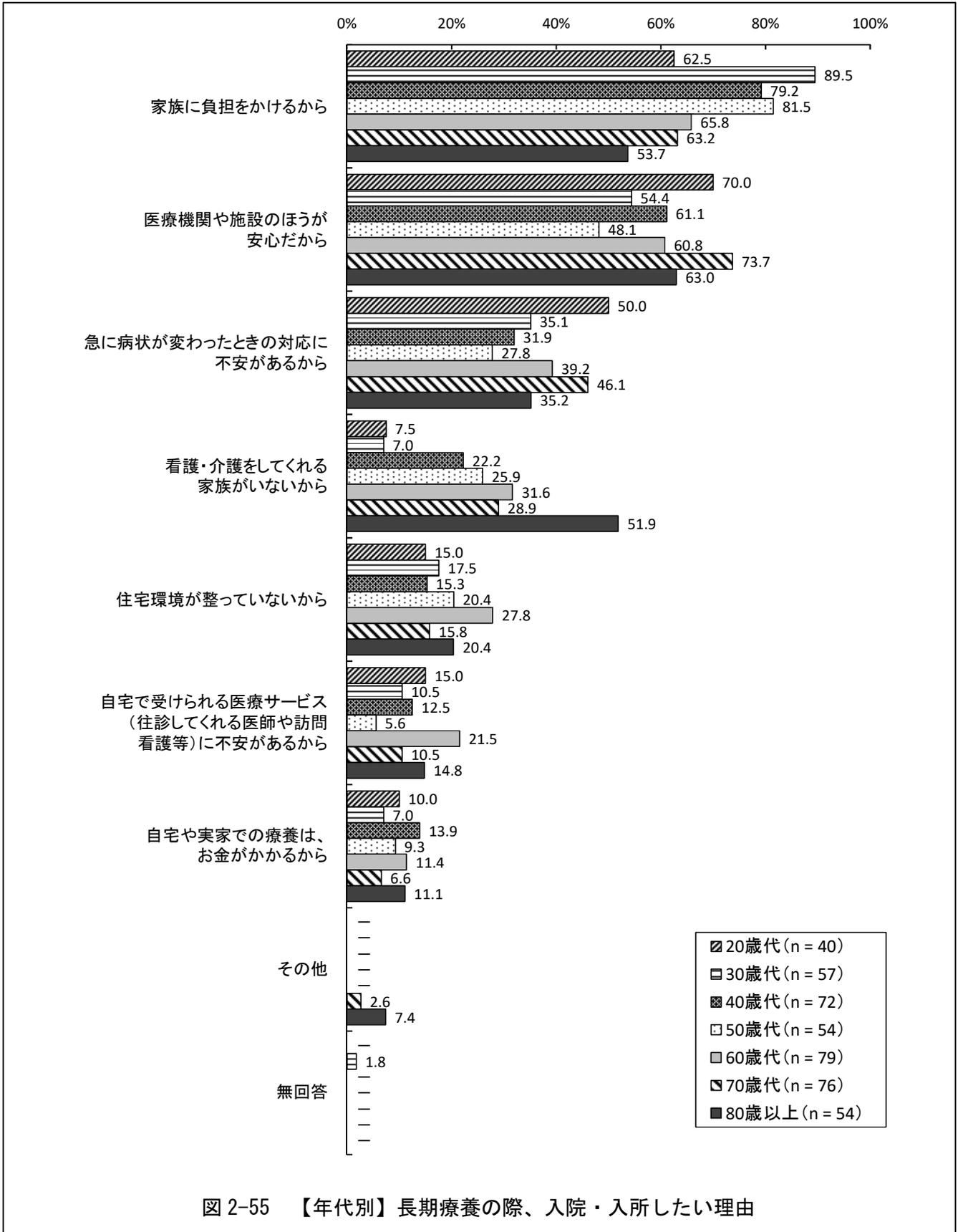
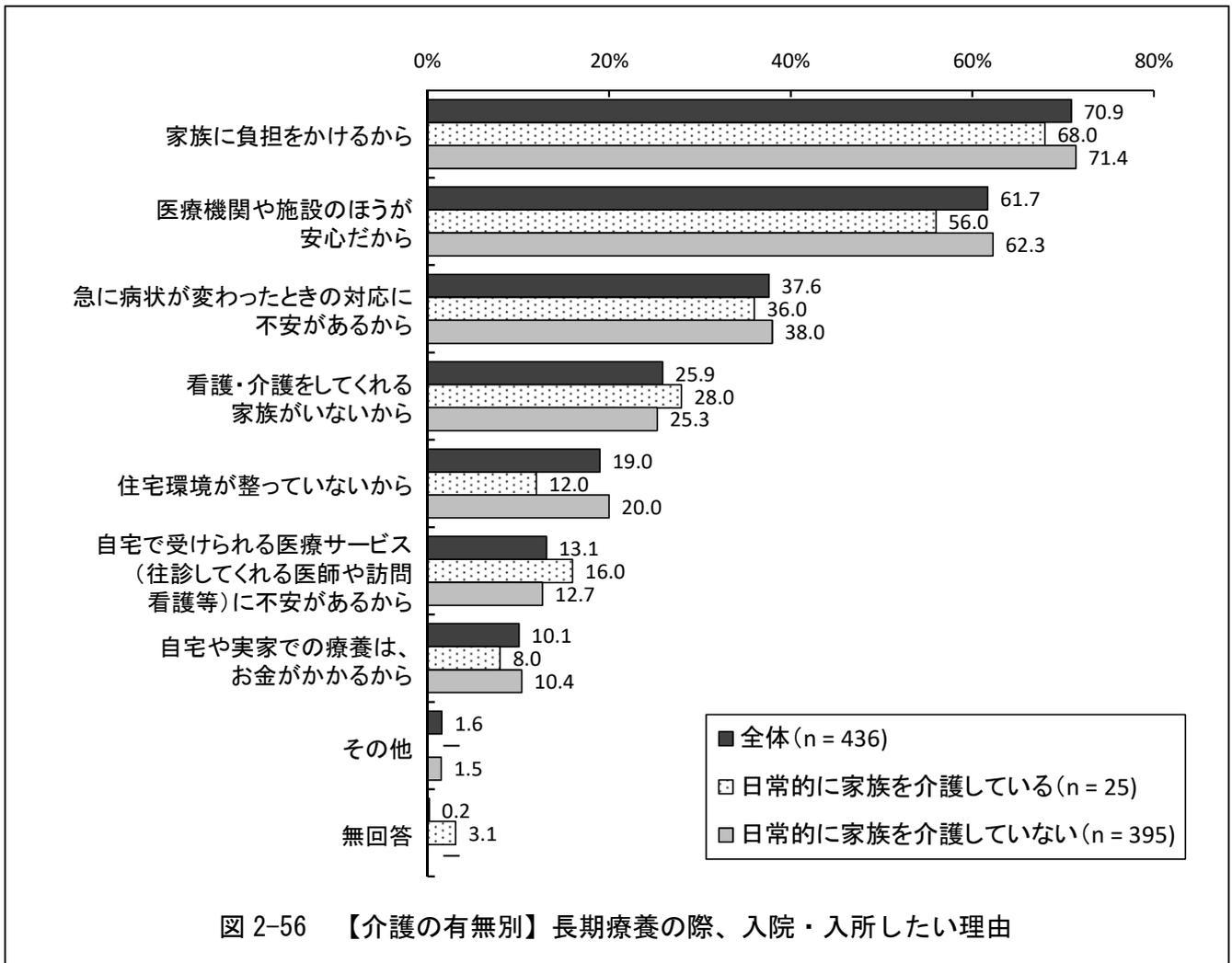


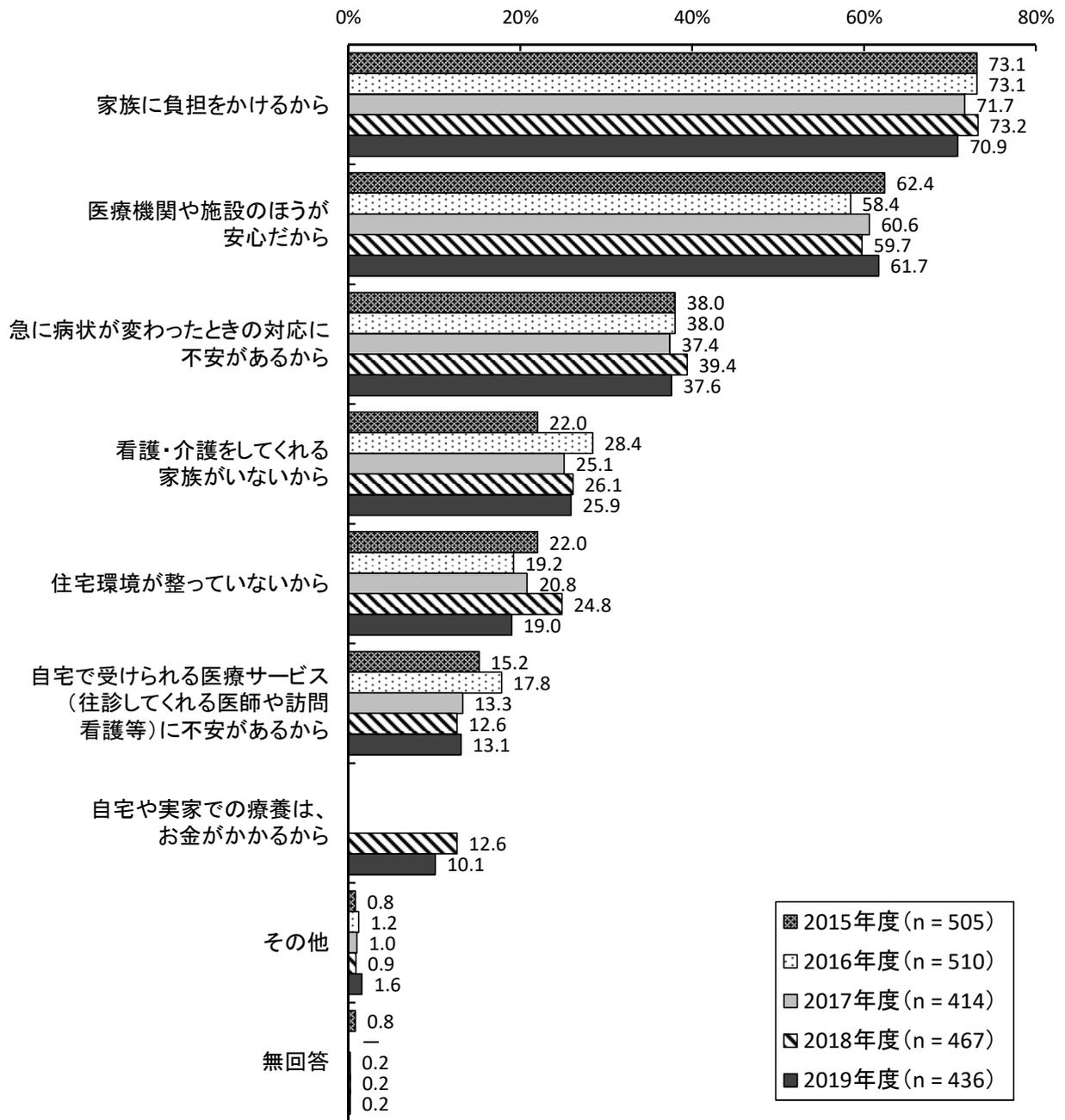
図 2-55 【年代別】長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を年代別にみると、30歳～60歳代では「家族に負担をかけるから」、20歳代と70歳代以上では「医療機関や施設のほうが安心だから」の割合が最も高くなっている。

また、「看護・介護をしてくれる家族がいないから」が80歳以上で5割を超えており、他の年代と比較して高くなっている。



長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を介護の有無別にみると、「医療機関や施設のほうが安心だから」、「住宅環境が整っていないから」で、日常的に家族を介護していない人の割合が、日常的に家族を介護している人の割合を6ポイントを超えて上回っている。



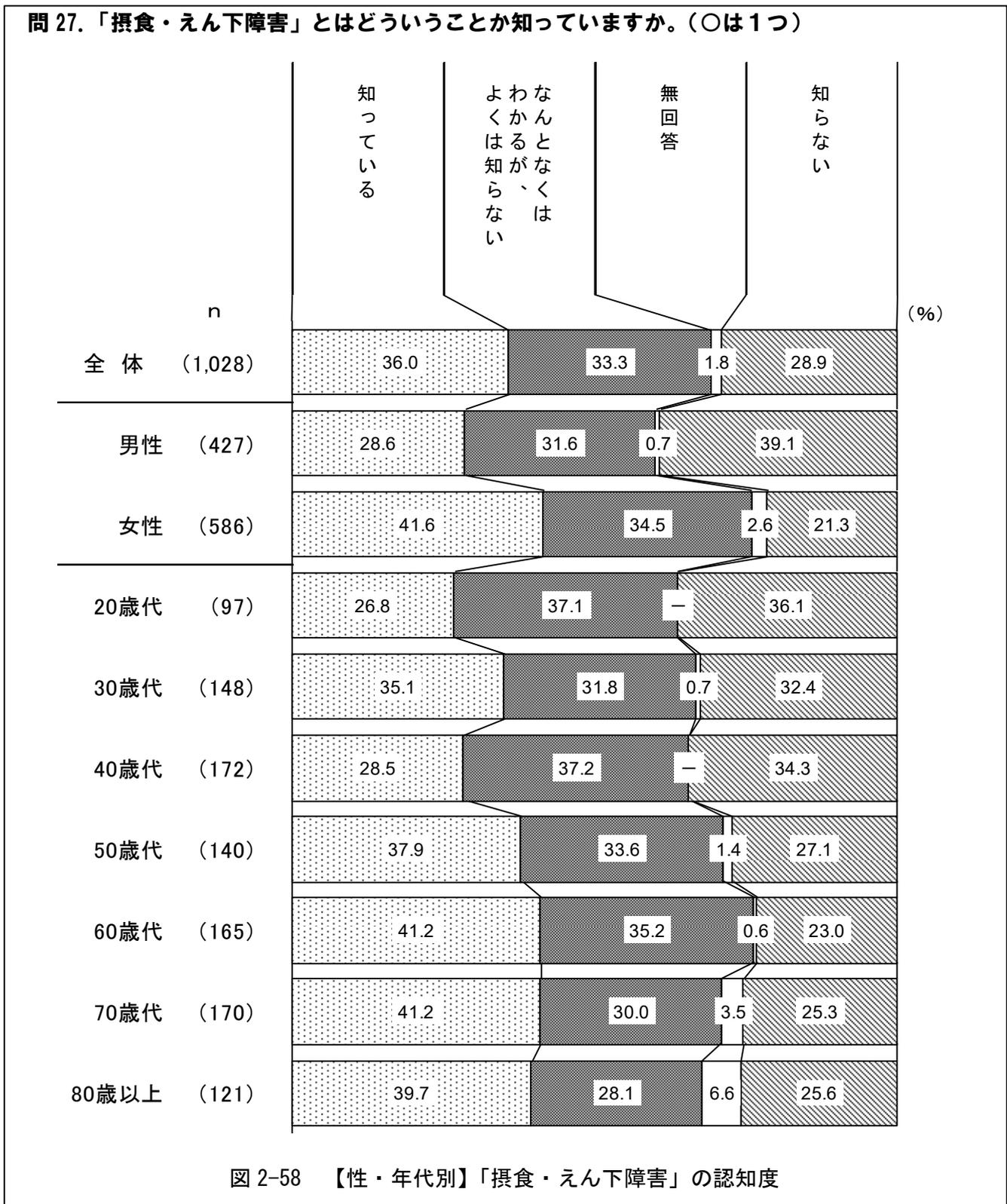
※2017年度以前は「自宅や実家での療養は、お金がかかるから」の選択肢はない

図 2-57 【経年比較】長期療養の際、入院・入所したい理由

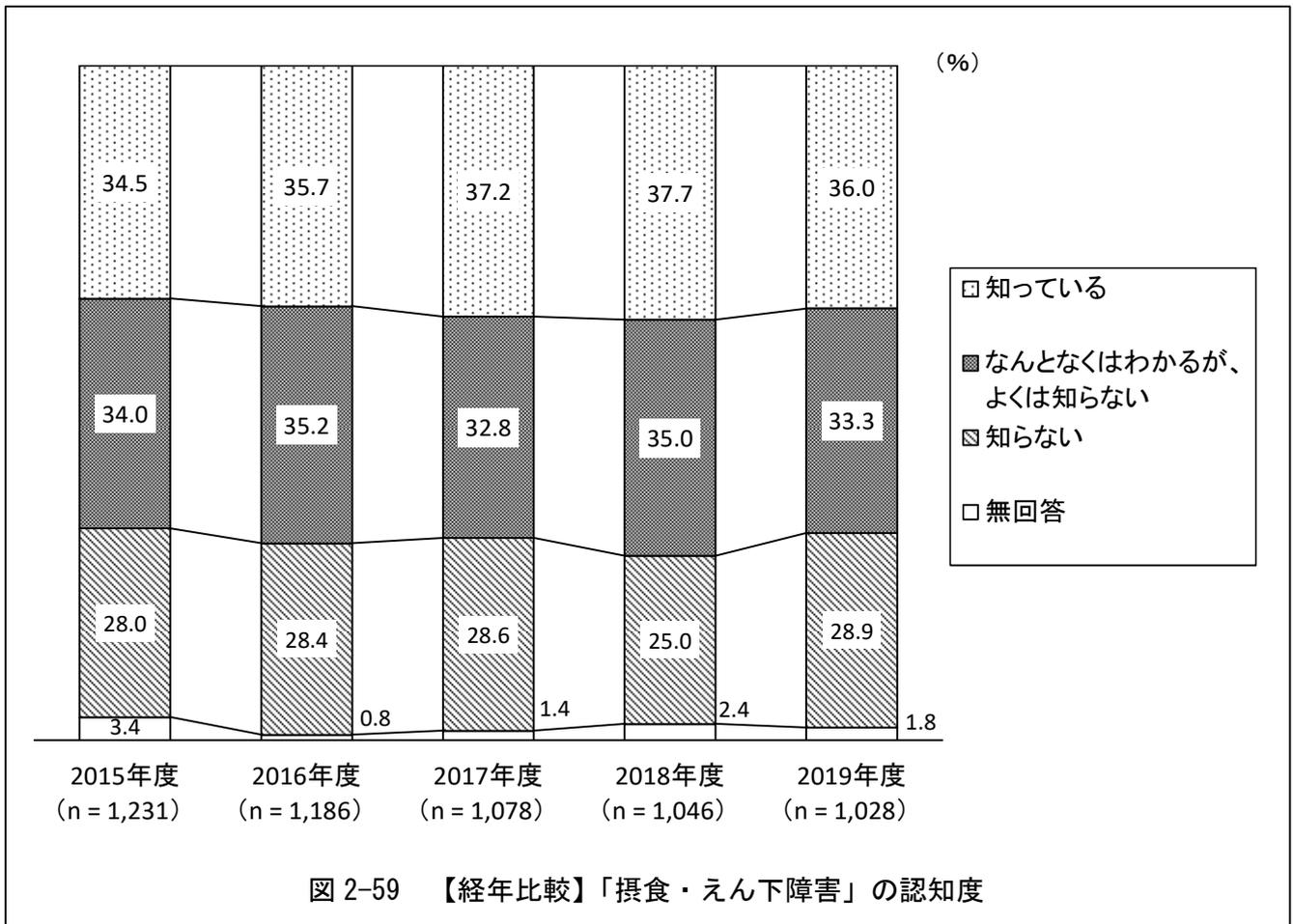
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.17. 「摂食・えん下障害」の認知度

◆ 「摂食・えん下障害」を「知っている」割合は、60歳～70歳代が最も高く約4割



「摂食・えん下障害」の認知度は、「知っている」が36.0%に対し、「知らない」は28.9%となっている。性別にみると、「知っている」で女性（41.6%）が男性（28.6%）を13ポイント上回っている。年代別にみると、「知っている」の割合は60歳～70歳代で4割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 18. 自身や家族がうつ病になった際の相談先

◆「うつ病」になった際は「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が5割台後半

問 28. 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

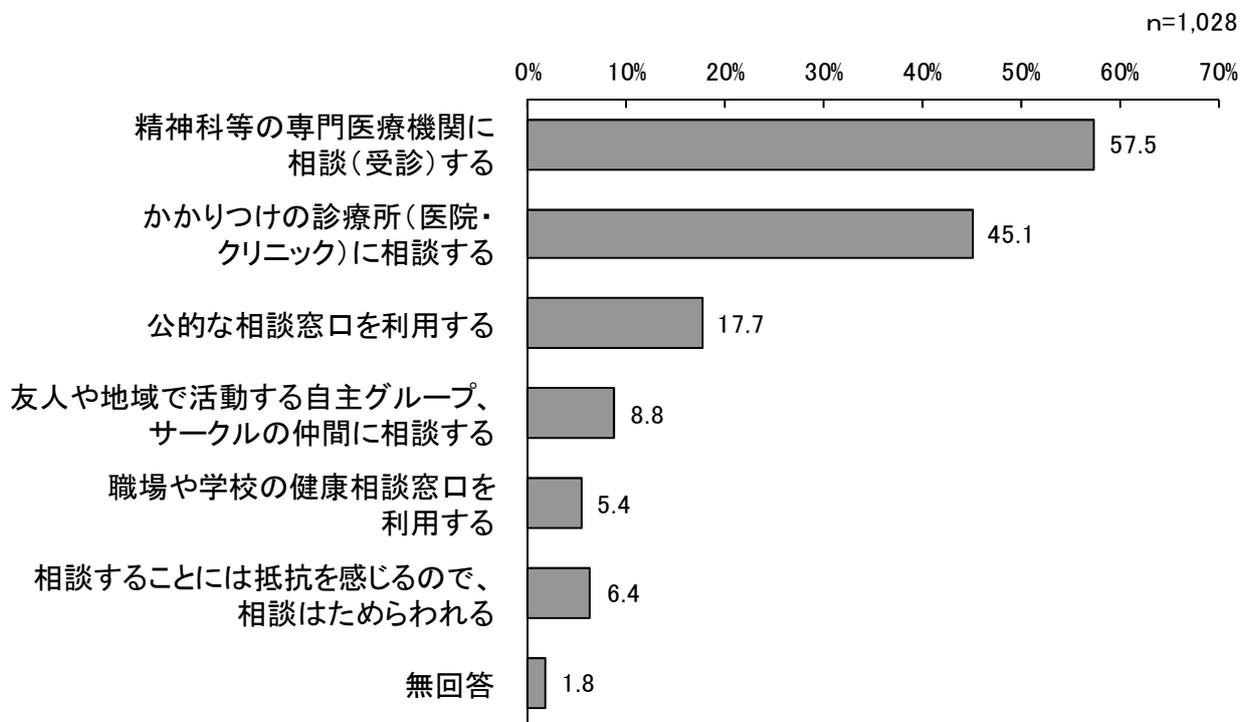
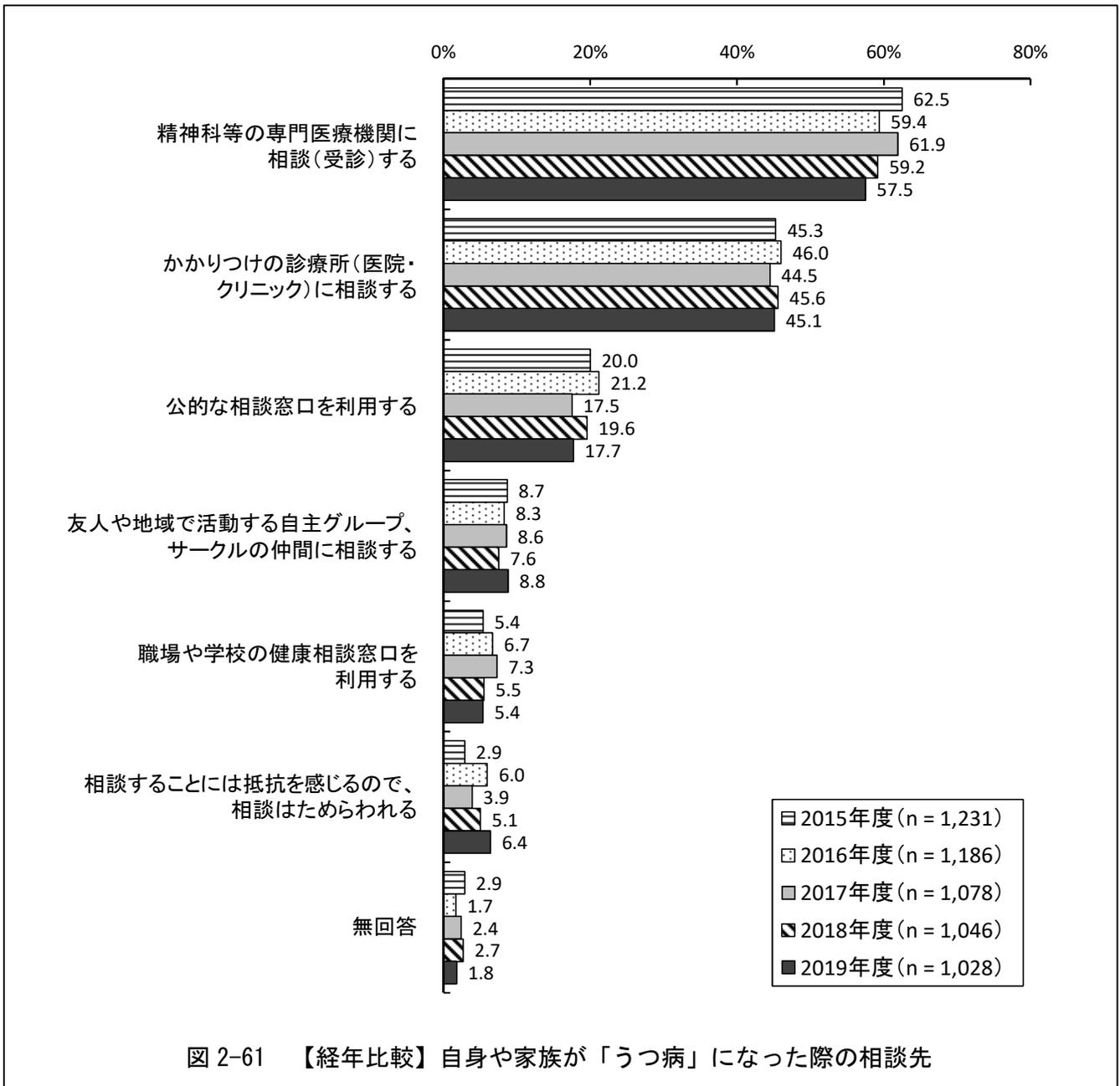


図 2-60 自身や家族が「うつ病」になった際の相談先

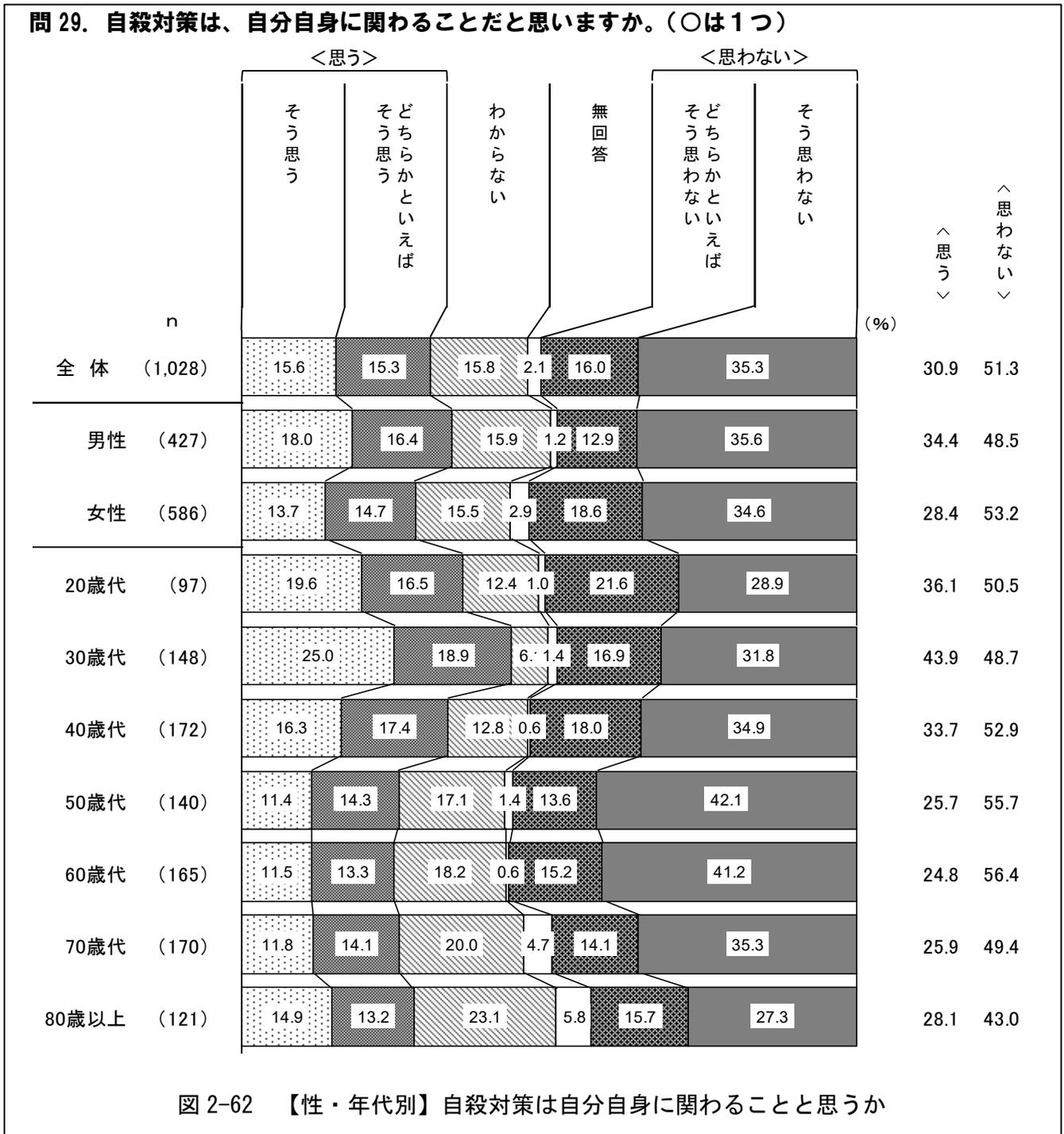
自身や家族が「うつ病」になった際に抵抗なく相談できると考えるのは、「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が57.5%で最も高く、次いで「かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する」（45.1%）となっている。



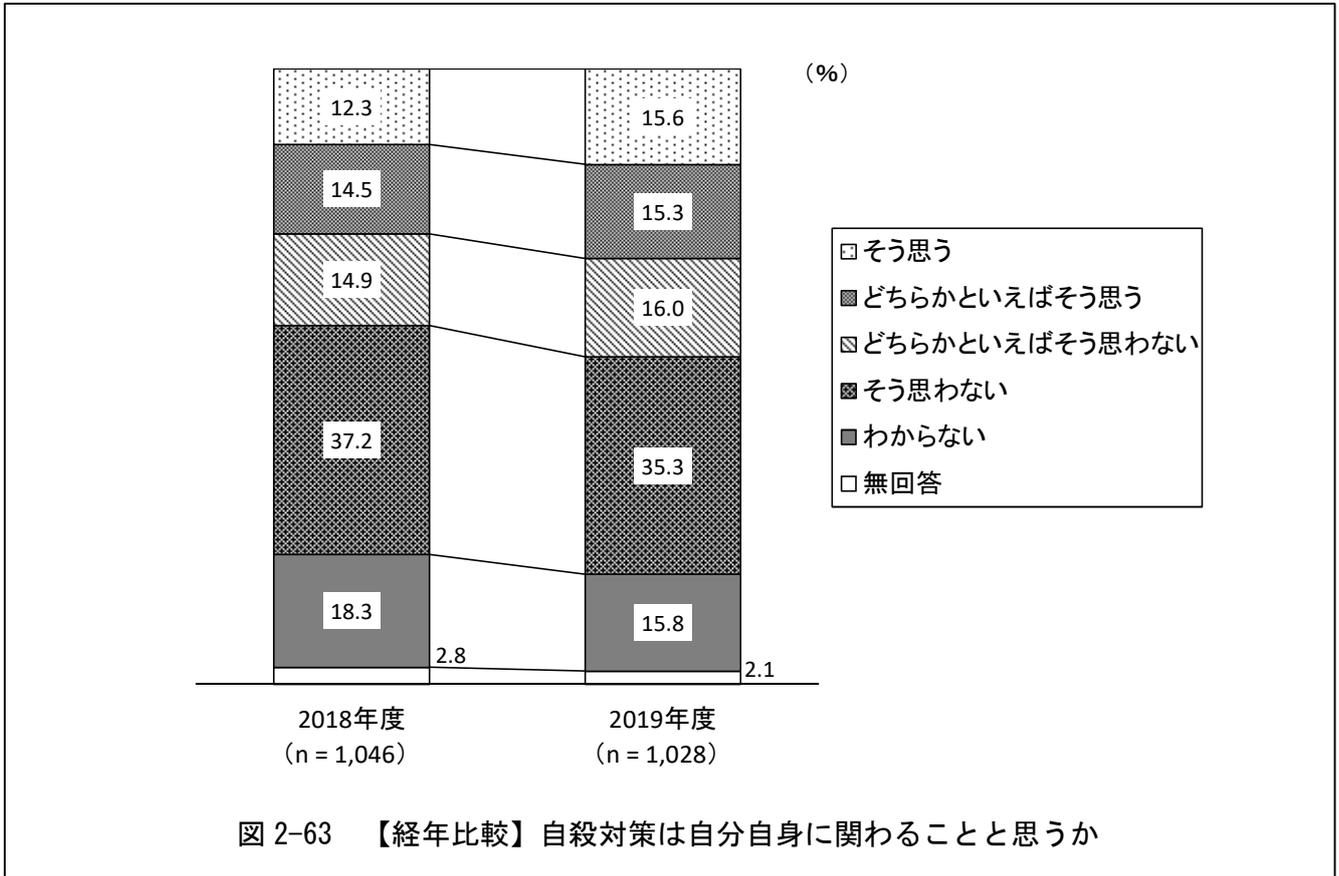
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか

◆自殺対策は自分自身に関わること<思う>が約3割



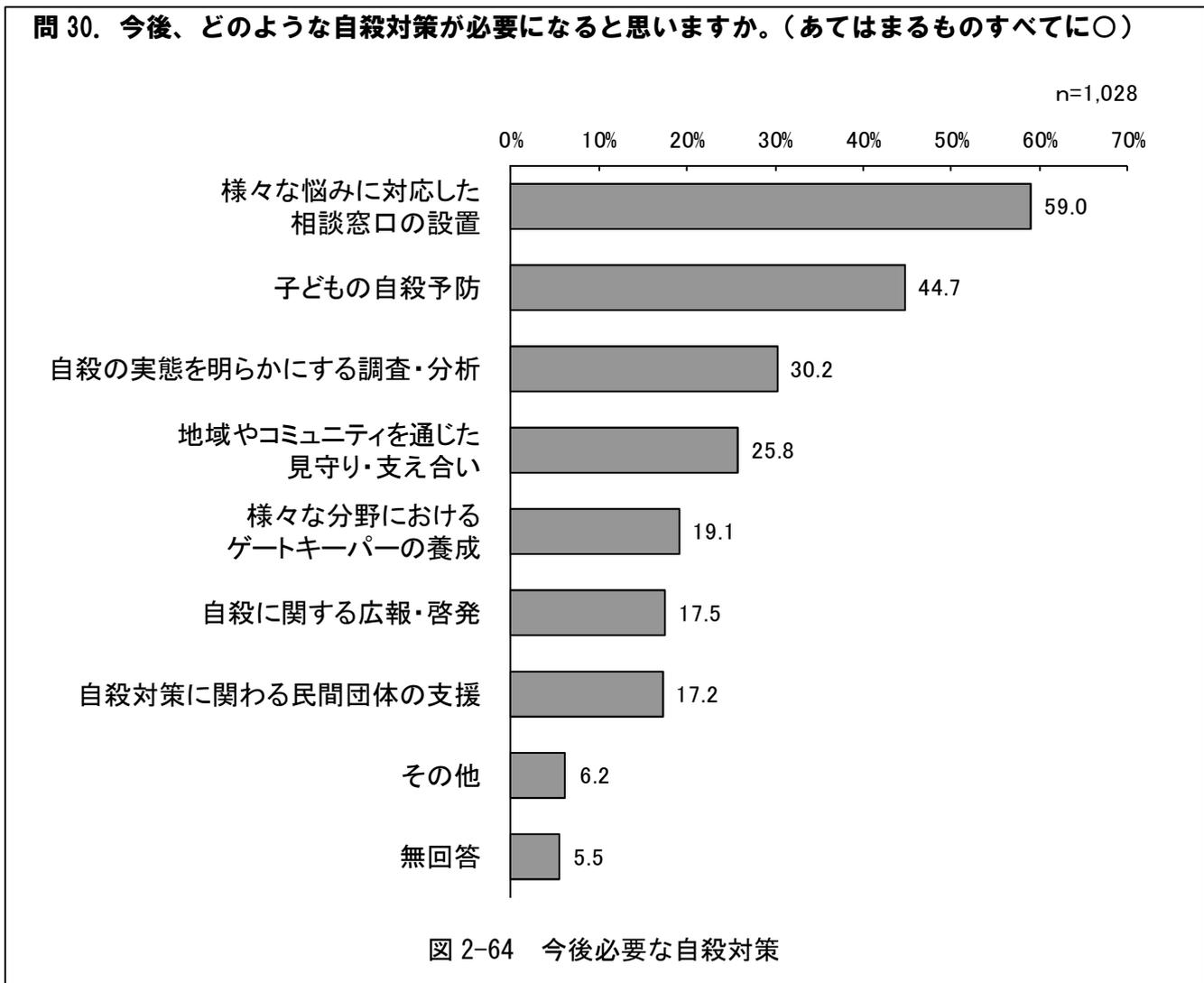
自殺対策は自分自身に関わることと思うかについては、「そう思う」(15.6%)と「どちらかといえばそう思う」(15.3%)を合わせた<思う>が30.9%に対し、「そう思わない」(35.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(16.0%)を合わせた<思わない>は51.3%となっている。性別にみると、<思う>で男性(34.4%)が女性(28.4%)を6ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代で<思う>が4割台前半と他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた<思う>が増加している。

2.20. 今後必要な自殺対策

◆今後必要な自殺対策は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が約6割



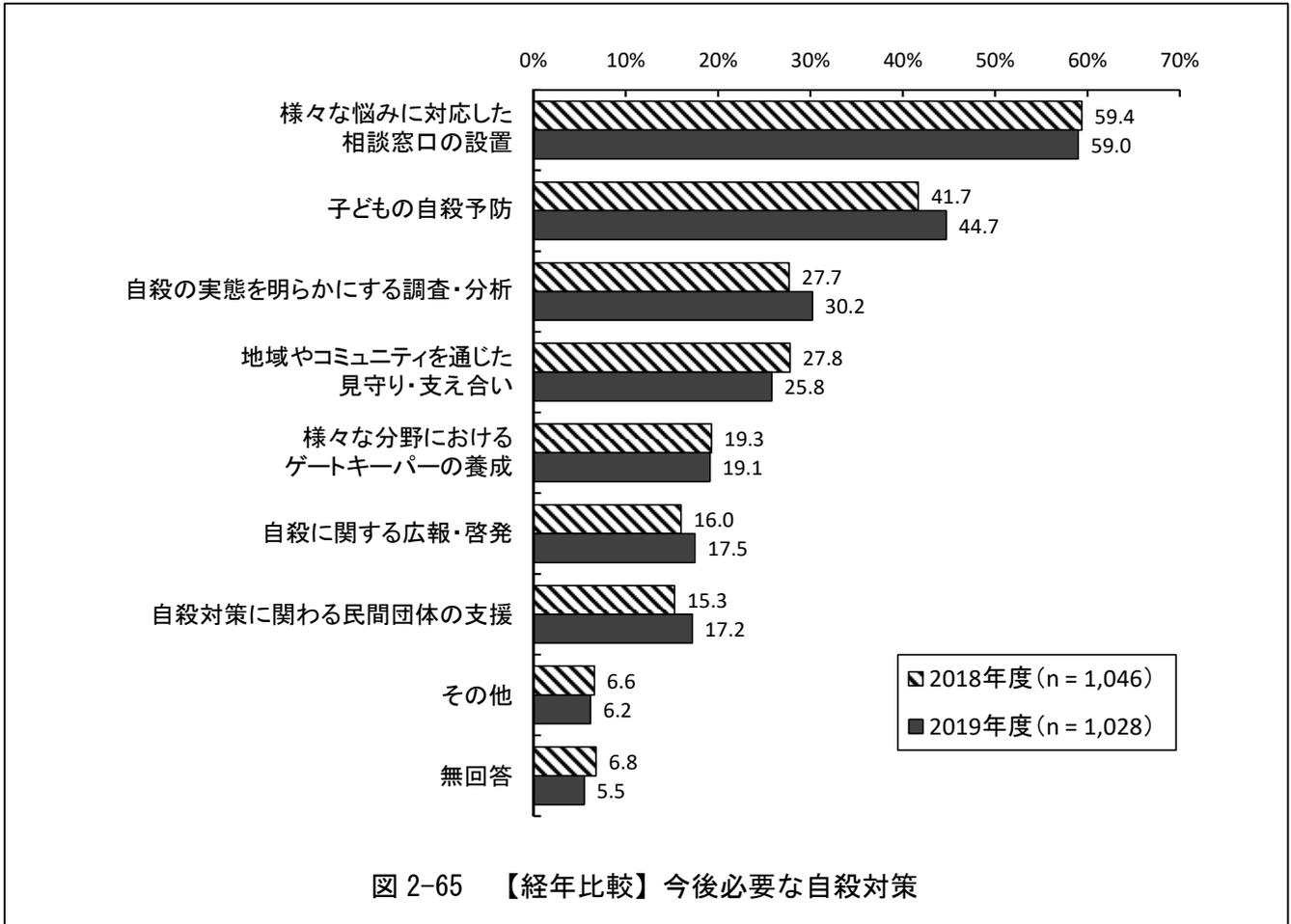
今後必要な自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(59.0%)が最も高く、次いで「子どもの自殺予防」(44.7%)、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」(30.2%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(25.8%)が続いている。

表 2-10 【性・年代別】今後必要な自殺対策

単位:%

区分	有効回答数(件)	自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	民間団体に関わる自殺対策の支援	自殺に関する広報・啓発	子どもの自殺予防	その他	無回答
全体	1,028	30.2	19.1	25.8	59.0	17.2	17.5	44.7	6.2	5.5
男性	427	32.8	18.5	24.8	56.0	16.9	19.2	40.0	6.3	6.1
女性	586	28.0	19.5	26.5	61.3	17.2	16.0	47.8	6.1	5.3
20歳代	97	35.1	20.6	23.7	57.7	15.5	15.5	49.5	6.2	4.1
30歳代	148	31.8	28.4	27.7	52.0	21.6	17.6	58.8	6.8	1.4
40歳代	172	30.2	25.0	27.9	60.5	14.0	12.8	52.3	6.4	1.7
50歳代	140	21.4	18.6	25.0	59.3	20.0	22.1	47.1	7.1	4.3
60歳代	165	36.4	22.4	26.7	67.3	24.8	23.6	43.6	5.5	3.0
70歳代	170	26.5	11.2	23.5	61.8	10.0	19.4	34.1	4.1	10.6
80歳以上	121	29.8	5.0	24.8	51.2	13.2	8.3	24.8	8.3	15.7

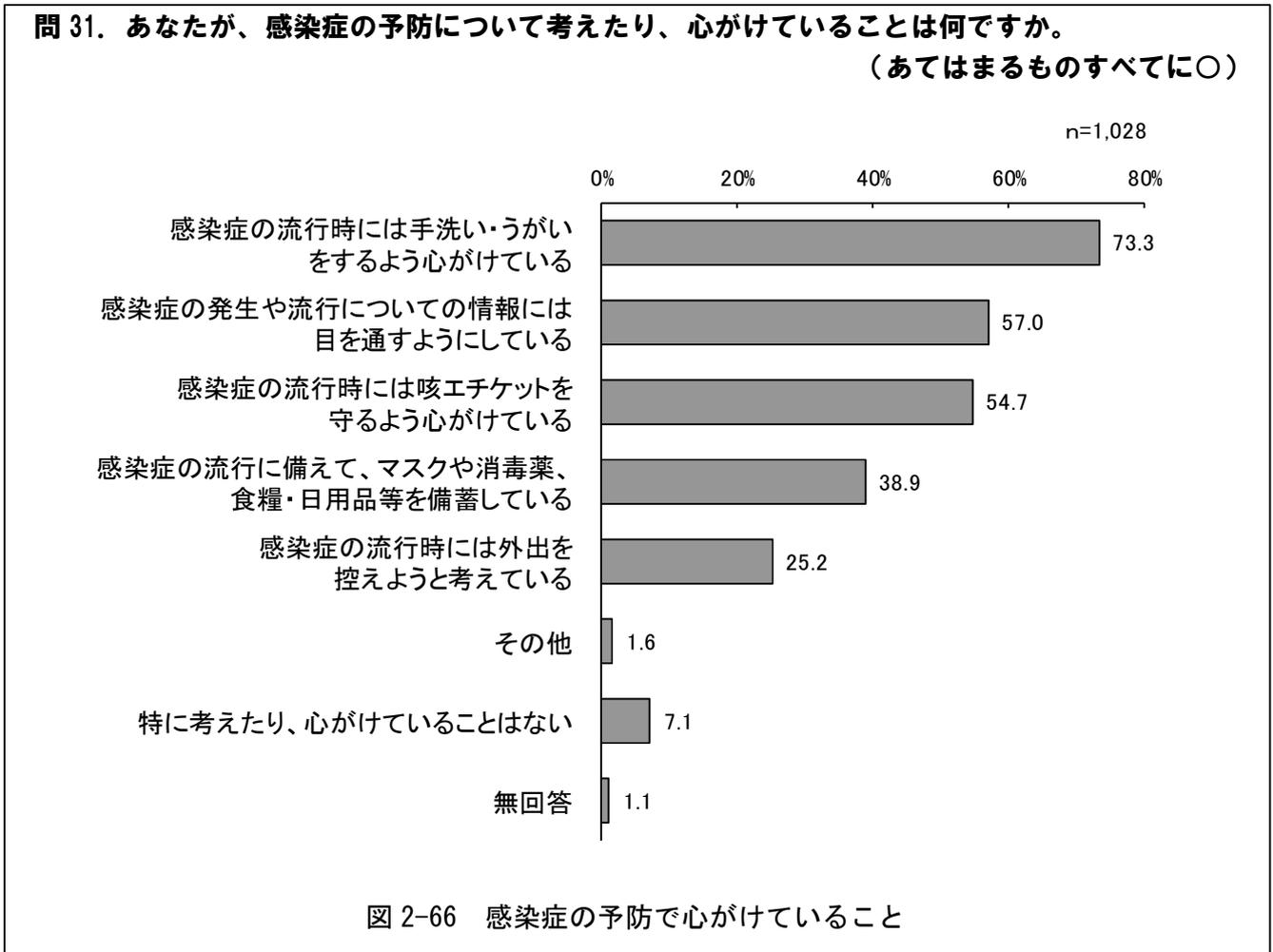
性別にみると、「子どもの自殺予防」で女性（47.8%）が男性（40.0%）を約8ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代で「子どもの自殺予防」が5割台後半と他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.21. 感染症の予防で心がけていること

◆感染症の予防では「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が7割台前半



感染症の予防について考えたり、心がけていることは、「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が73.3%で最も高く、次いで「感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている」(57.0%)、「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」(54.7%)となっている。

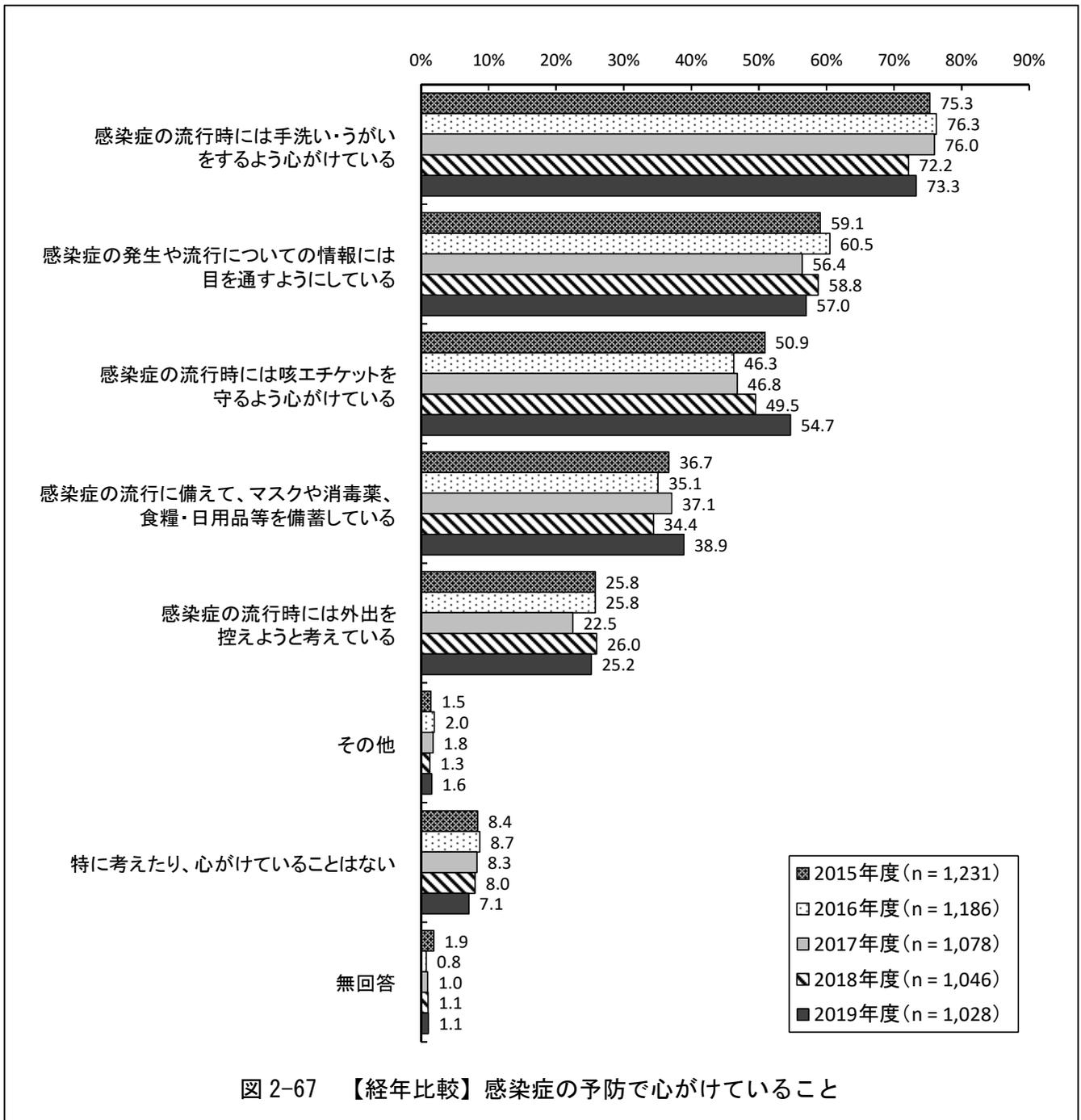


図 2-67 【経年比較】感染症の予防で心がけていること

経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」、「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等を備蓄している」が増加傾向にある。

2.22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

◆何らかの加工食品等の栄養成分表示を＜参考にしている＞が5割台半ば

問 32. 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされていますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

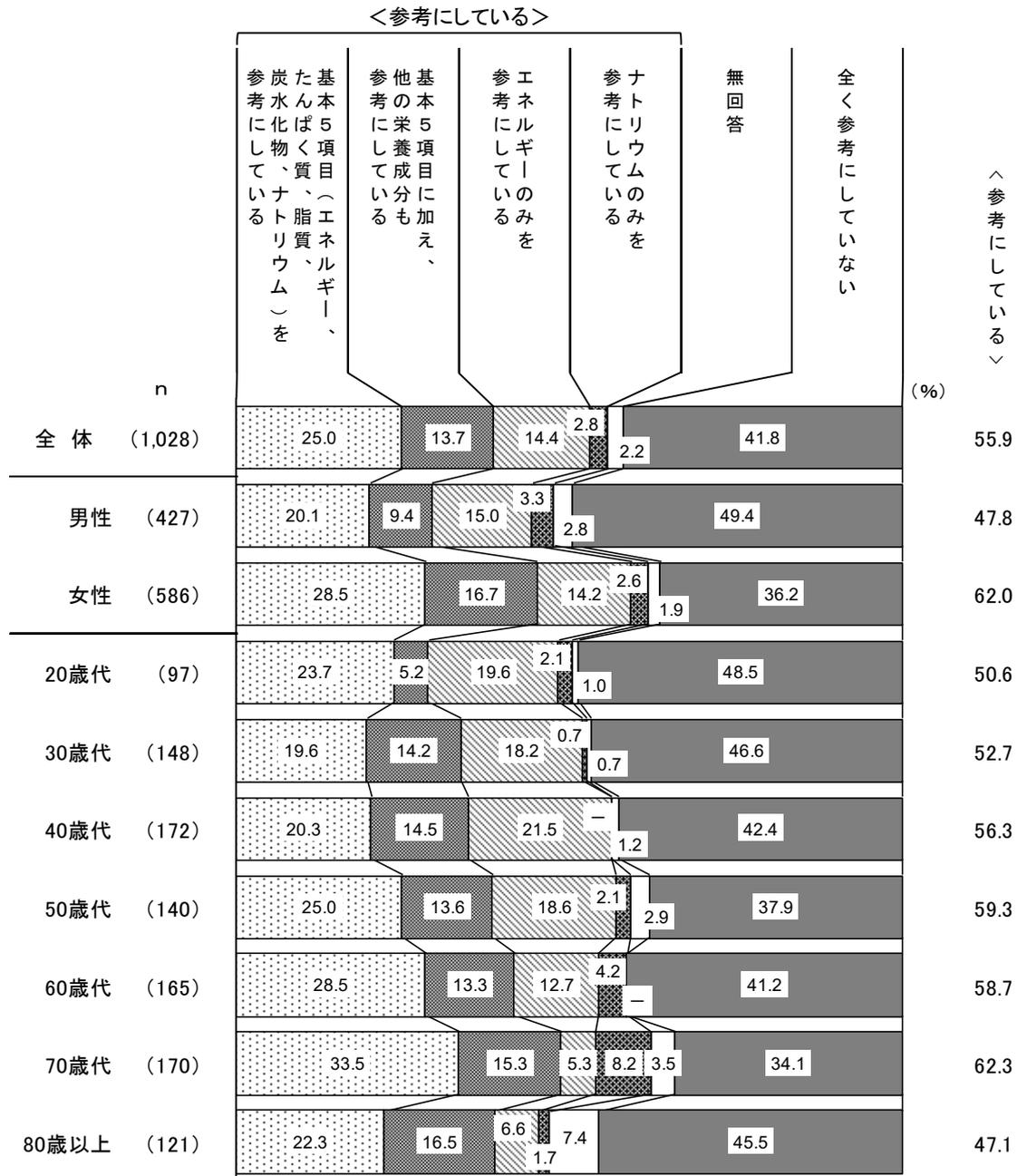
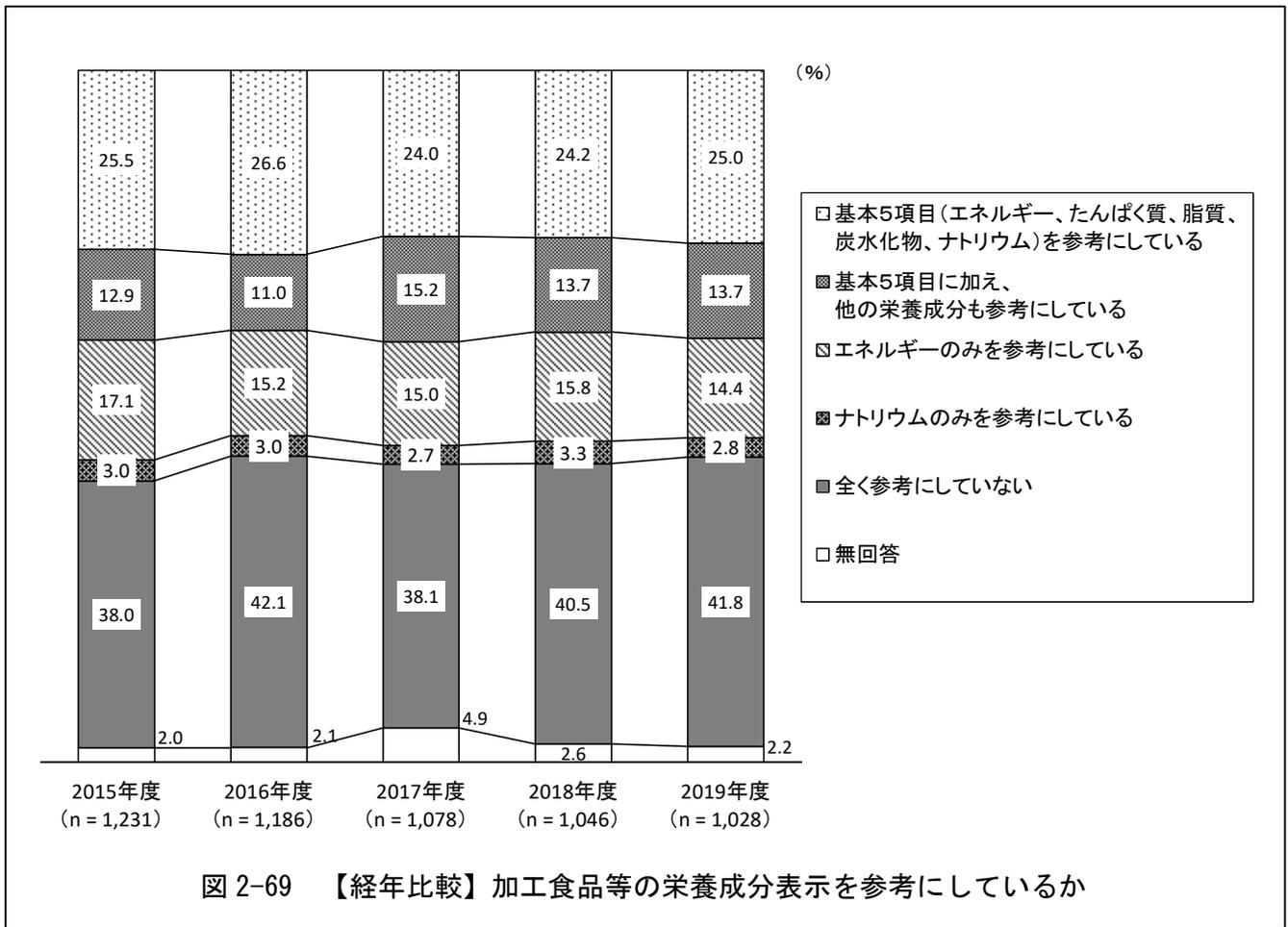


図 2-68 【性・年代別】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

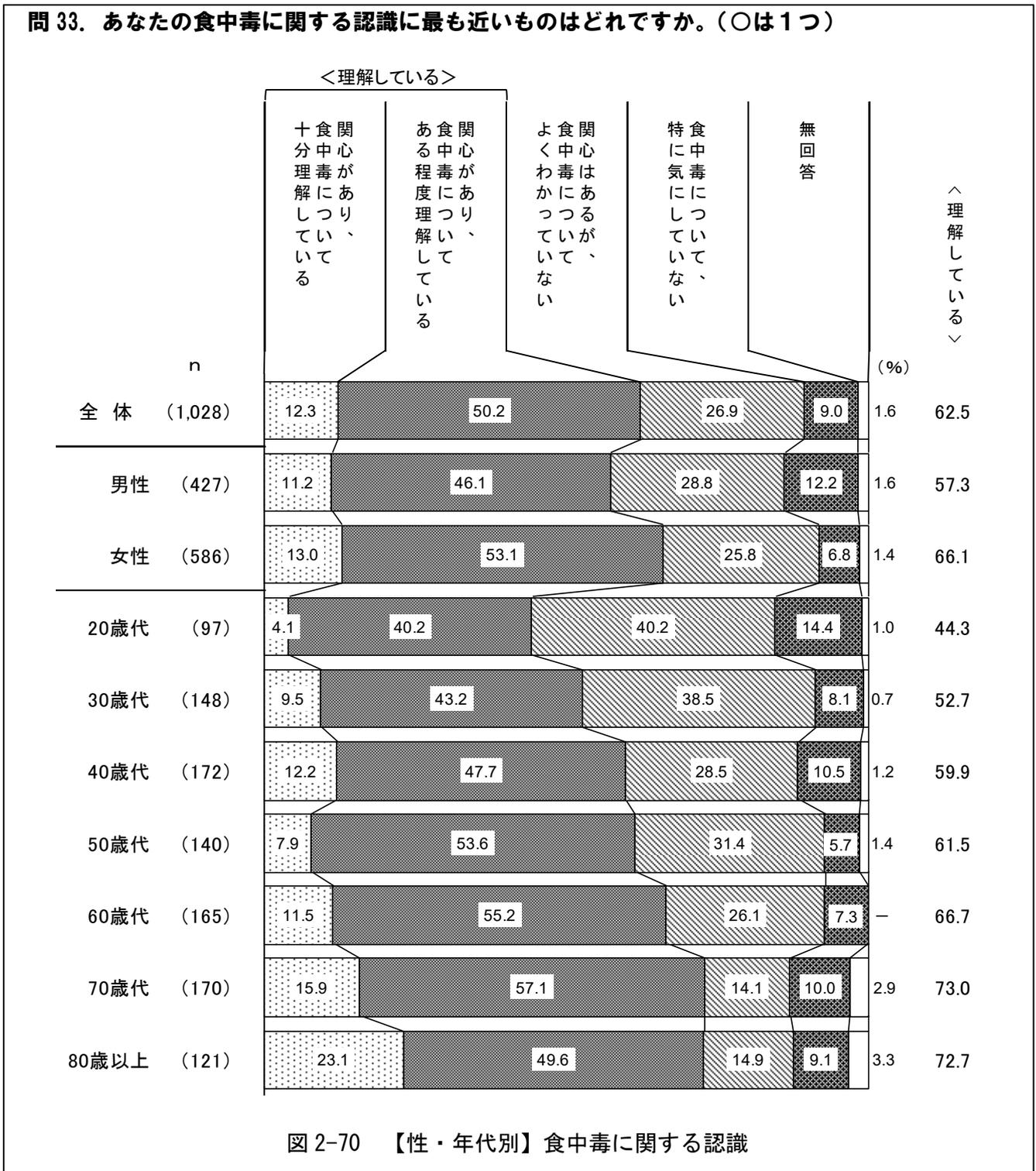
加工食品等の栄養成分表示の参考の度合いは、「全く参考にしていない」が41.8%で最も高く、次いで「基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている」(25.0%)となっている。「基本5項目を参考にしている」から「ナトリウムのみを参考にしている」までを合わせた、何らかの栄養成分表示を＜参考にしている＞は55.9%となっている。性別にみると、＜参考にしている＞は女性(62.0%)が男性(47.8%)を約14ポイント上回っている。年代別にみると、＜参考にしている＞は70歳代で6割台前半と他の年代と比較して高くなっている。



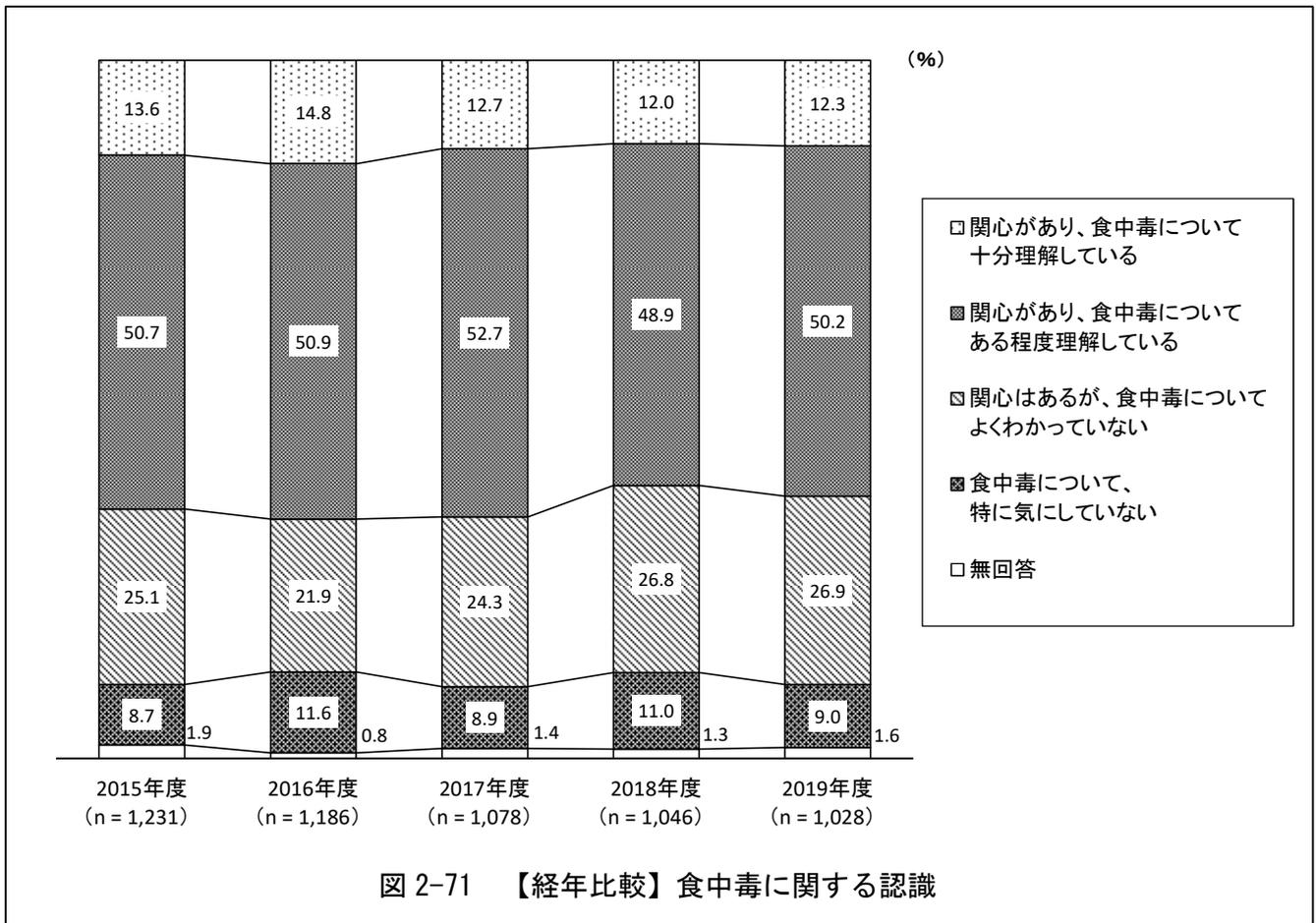
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.23. 食中毒に関する認識

◆食中毒に関する認識は<理解している>が6割台前半



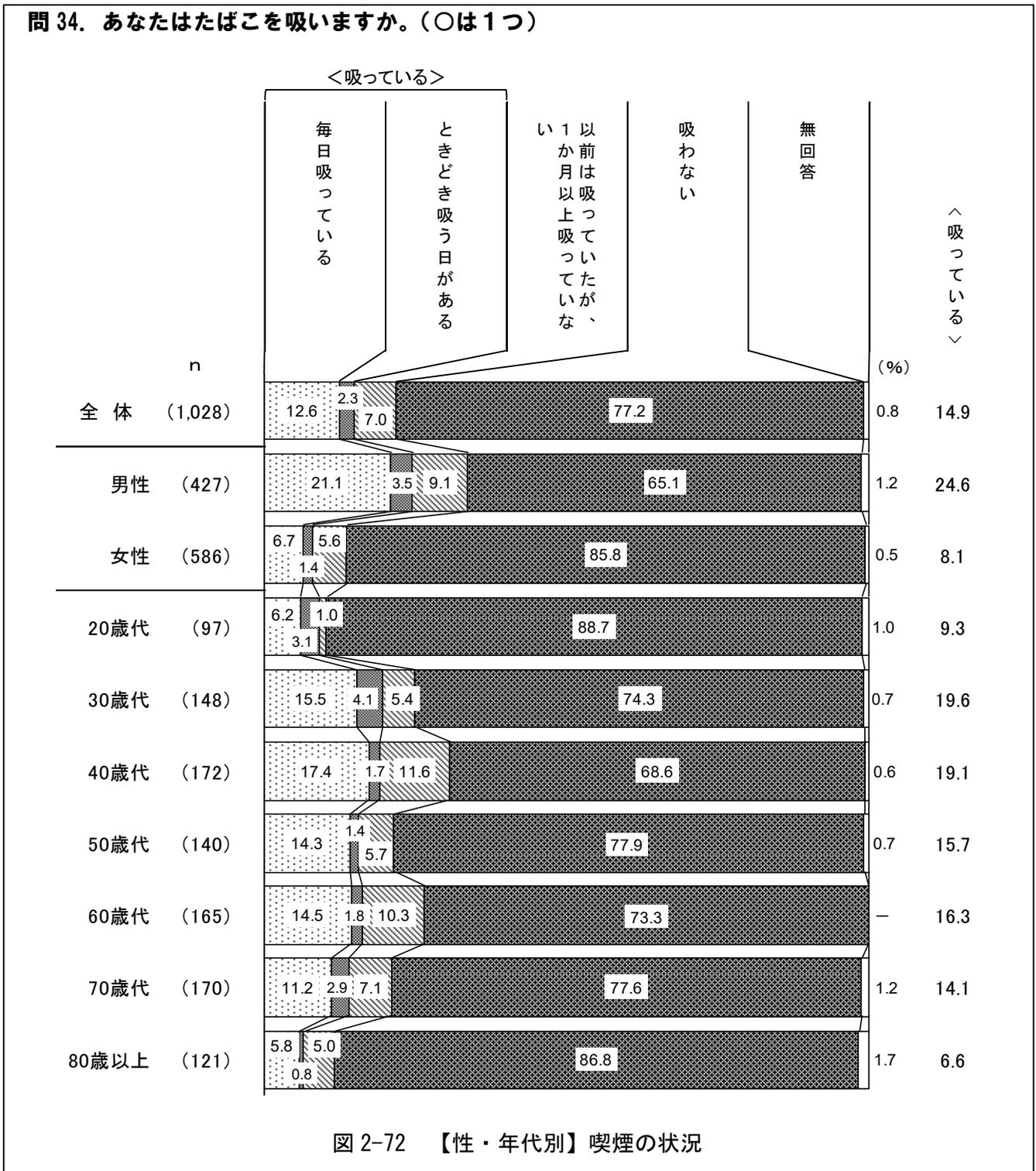
食中毒に関する認識の度合いは、「関心があり、食中毒について十分理解している」(12.3%)と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」(50.2%)を合わせた<理解している>で62.5%となっている。性別にみると、<理解している>は女性(66.1%)が男性(57.3%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、<理解している>は70歳代までは年代が上がるにつれ増加しており、70歳代以上で7割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 24. 喫煙の状況

◆たばこを<吸っている>人は1割台半ば



喫煙の状況は、「毎日吸っている」(12.6%)と「ときどき吸う日がある」(2.3%)を合わせた<吸っている>で14.9%となっている。性別にみると、<吸っている>は男性(24.6%)が女性(8.1%)を約17ポイント上回っている。年代別にみると、<吸っている>は30歳~40歳代で約2割と他の年代と比較して高くなっている。

2. 24. 1. 今後禁煙したいか

◆「禁煙したい」は2割台半ば、「吸う本数を減らしたい」が3割台前半

(問34で「1. 毎日吸っている」「2. ときどき吸う日がある」に○をつけた方に)
問34-1. 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

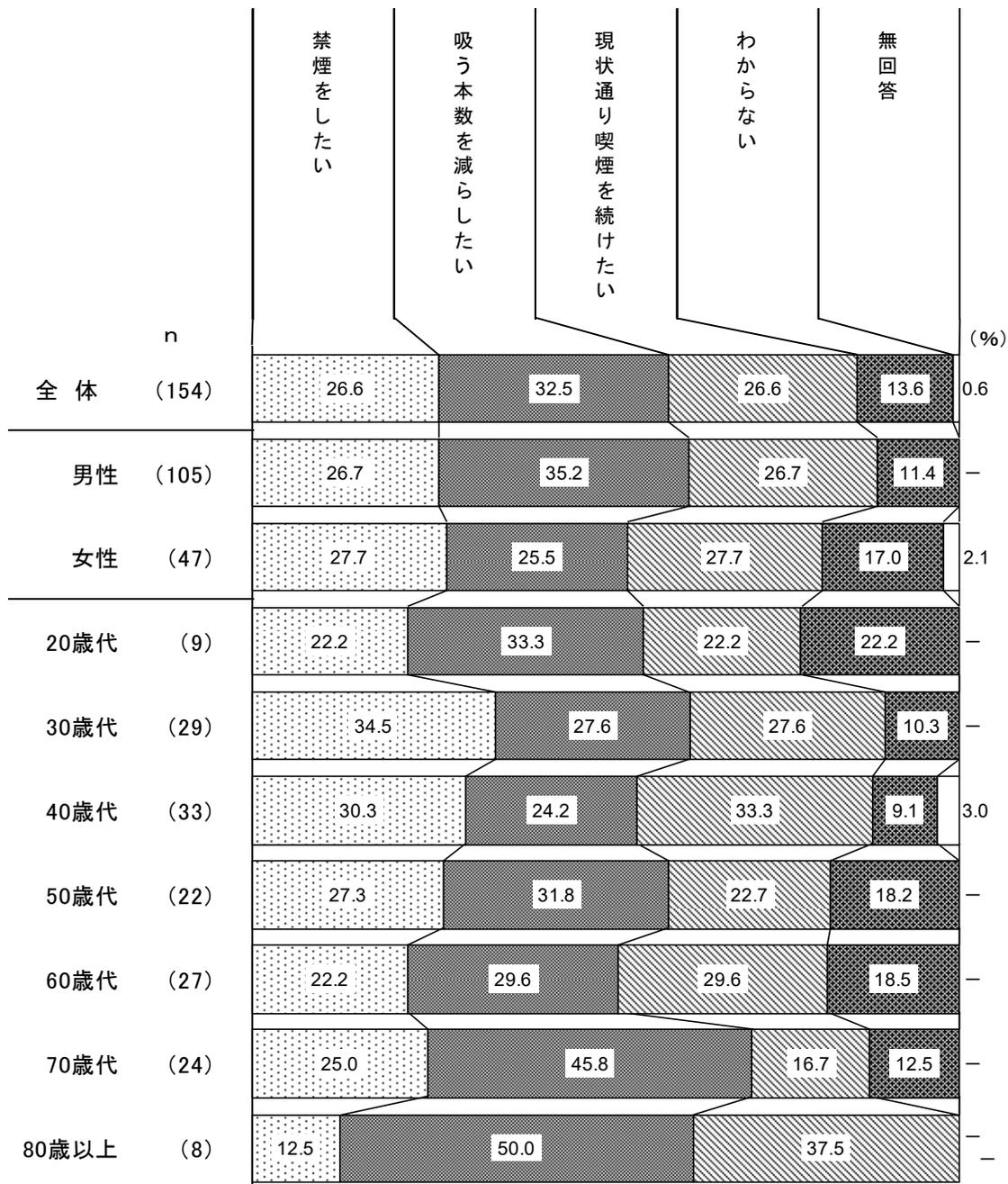


図 2-73 【性・年代別】 今後禁煙したいか

今後禁煙したいかについては、「吸う本数を減らしたい」が32.5%で最も多く、次いで「禁煙をしたい」、「現状通り喫煙を続けたい」がともに26.6%となっている。性別にみると、「吸う本数を減らしたい」は男性(35.2%)が女性(25.5%)を約10ポイント上回っている。年代別にみると、「禁煙をしたい」は30歳代で3割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

3. 制度等について

3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度

◆「障害者差別解消法」について<知っている>人は2割台半ば

問 35. 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(〇は1つ)

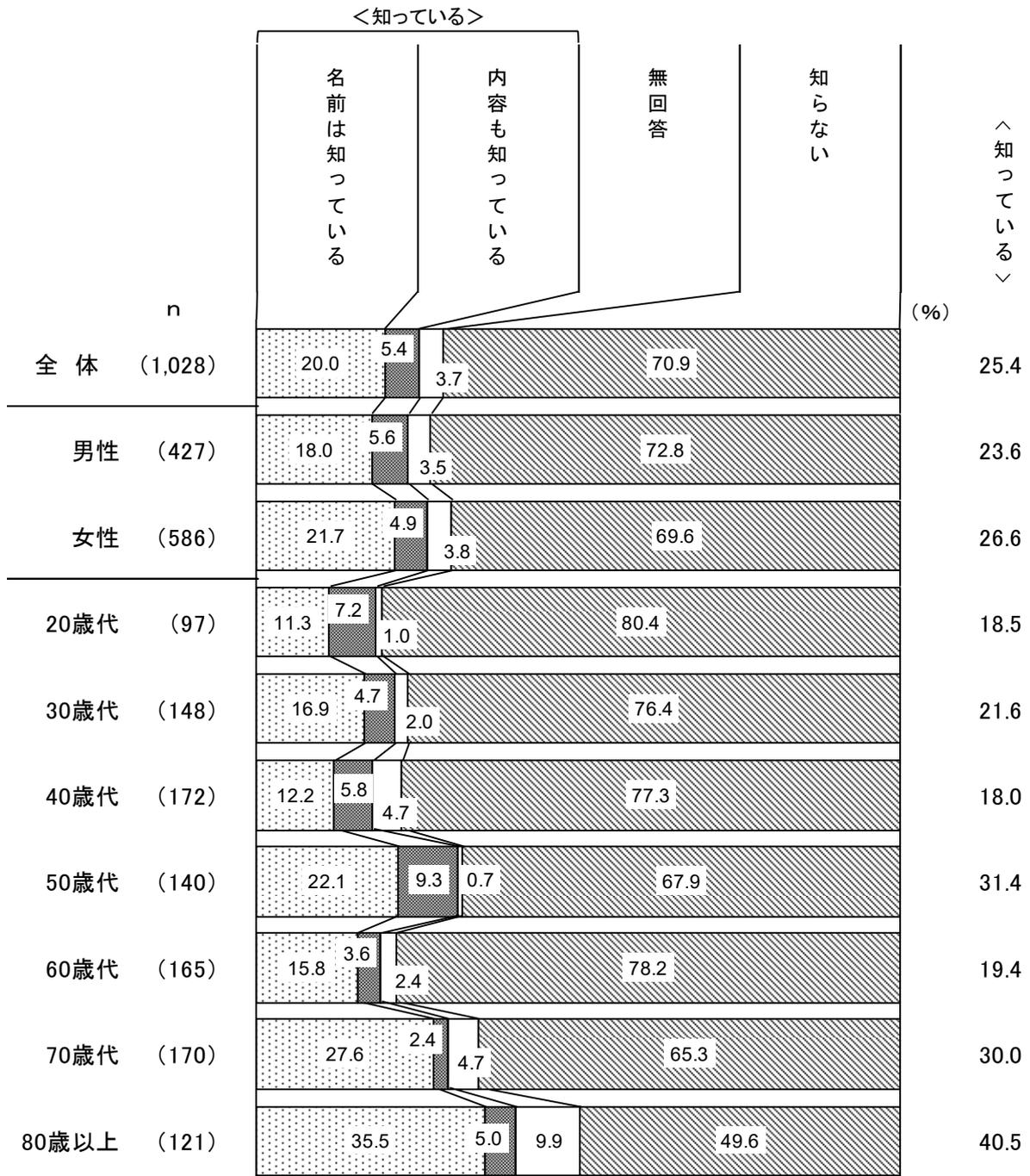


図 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」についての認知度

「障害者差別解消法」についての認知度は、「名前を知っている」(20.0%)と「内容も知っている」(5.4%)を合わせた<知っている>が25.4%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(26.6%)が男性(23.6%)を3ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は80歳以上で4割と他の年代と比較して高くなっている。

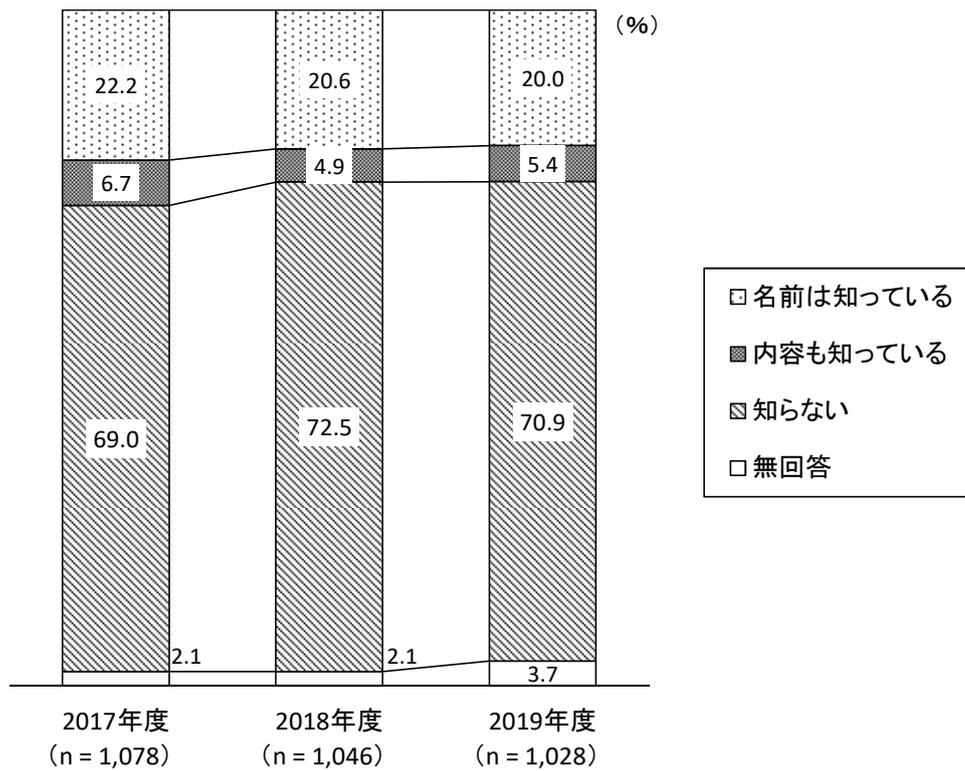


図 3-2 【経年比較】「障害者差別解消法」についての認知度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法

◆「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が6割台後半

(問 35 で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に)

問 35-1. あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。

(あてはまるものすべてに○)

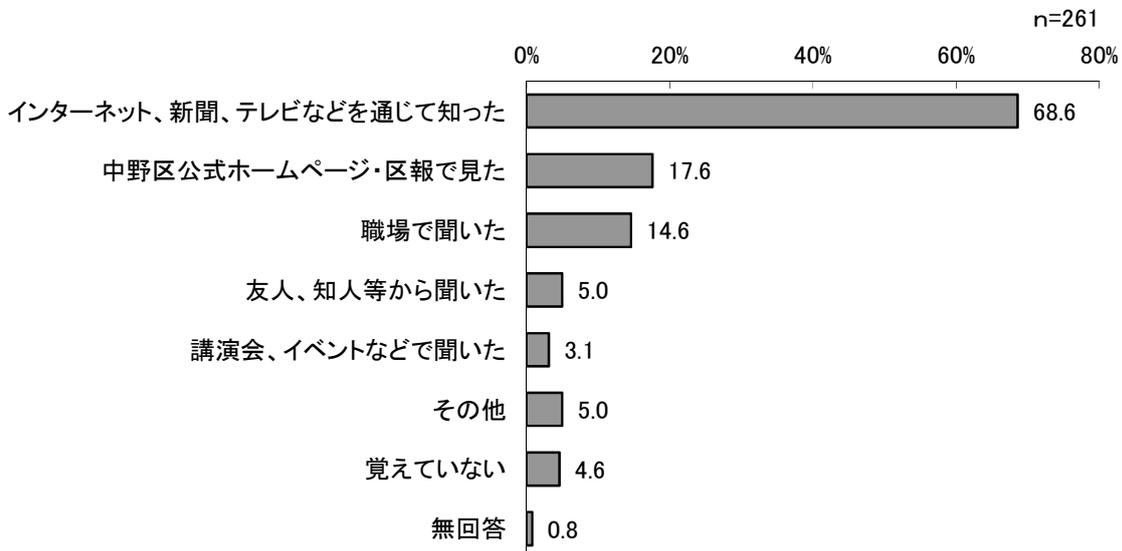


図 3-3 「障害者差別解消法」の認知方法

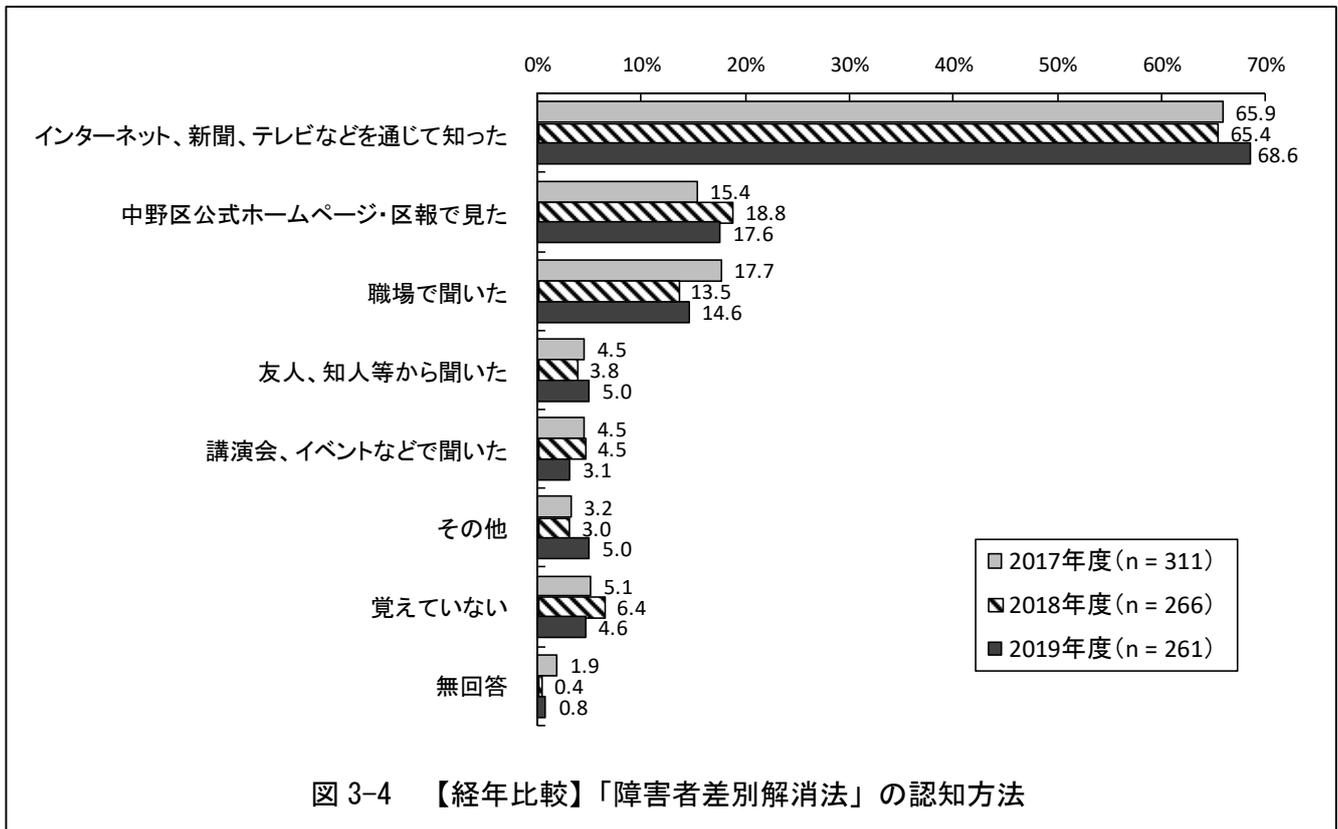
「障害者差別解消法」を<知っている>人に認知方法を聞いたところ、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が68.6%と最も高くなっている。

表 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」の認知方法

単位: %

区分	有効回答数(件)	中野区公式ホームページで見た	インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った	講演会、イベントなどで聞いた	職場で聞いた	友人、知人等から聞いた	その他	覚えていない	無回答
全体	261	17.6	68.6	3.1	14.6	5.0	5.0	4.6	0.8
男性	101	14.9	71.3	2.0	15.8	5.9	5.0	4.0	2.0
女性	156	19.2	67.9	3.2	14.1	3.8	5.1	5.1	—
20歳代	18	—	55.6	—	11.1	5.6	27.8	11.1	5.6
30歳代	32	6.3	59.4	—	31.3	6.3	—	9.4	3.1
40歳代	31	3.2	74.2	3.2	35.5	3.2	3.2	—	—
50歳代	44	18.2	68.2	4.5	18.2	4.5	11.4	2.3	—
60歳代	32	21.9	65.6	6.3	18.8	3.1	6.3	3.1	—
70歳代	51	33.3	78.4	2.0	—	5.9	—	5.9	—
80歳以上	49	20.4	71.4	2.0	2.0	4.1	—	4.1	—

性別にみると、「中野区公式ホームページ・区報で見た」は女性(19.2%)が男性(14.9%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、30歳~40歳代で「職場で聞いた」、70歳代で「中野区公式ホームページ・区報で見た」の割合が3割を超え、他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」の割合が増加傾向にある。

3.2. 障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと

◆障害者差別解消のため中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が約5割

問 36. 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

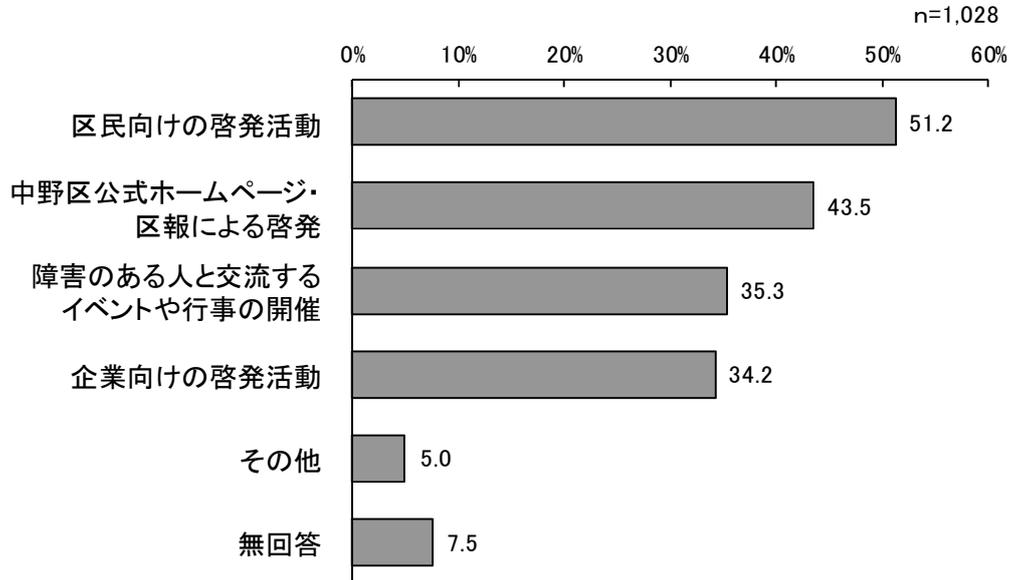


図 3-5 障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと

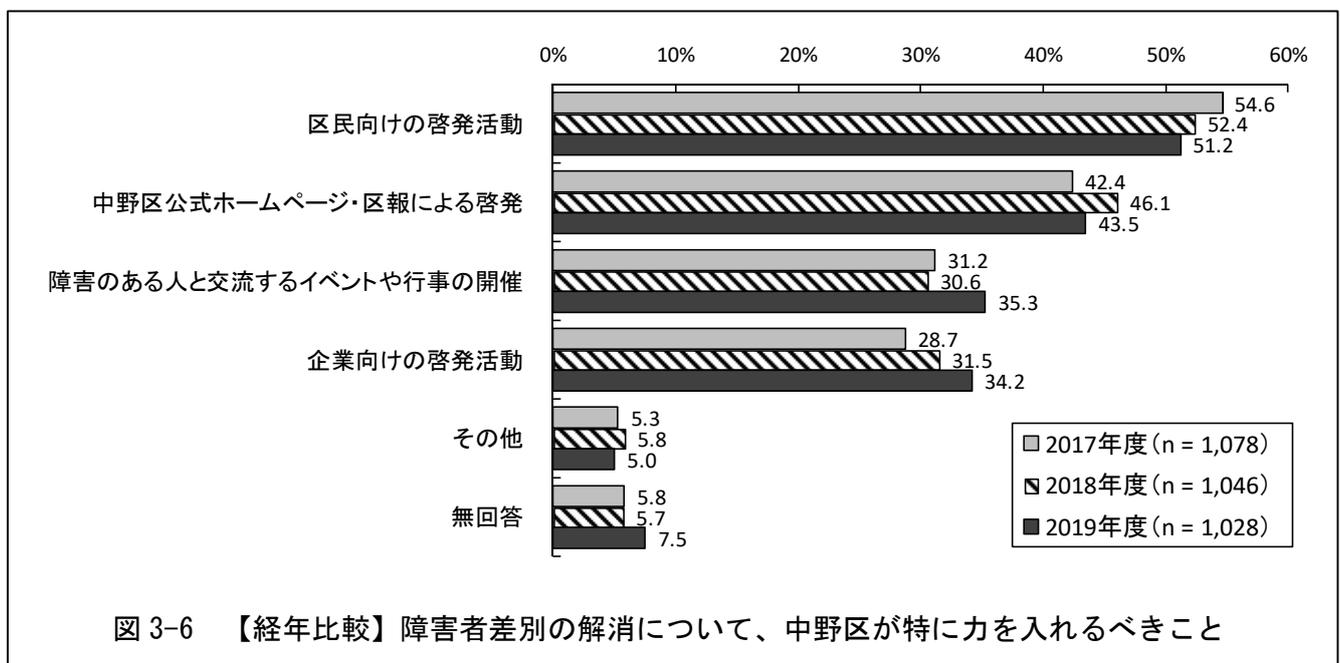
障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が 51.2% で最も高く、次いで「中野区公式ホームページ・区報による啓発」(43.5%) となっている。

表 3-2 【性・年代別】障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと

単位: %

区分	有効回答数(件)	区報による啓発 中野区公式ホームページ・	区民向けの啓発活動	企業向けの啓発活動	障害のある人と交流するイベントや行事の開催	その他	無回答
全体	1,028	43.5	51.2	34.2	35.3	5.0	7.5
男性	427	41.7	50.4	32.3	31.9	6.6	7.7
女性	586	44.4	51.5	35.5	37.7	3.8	7.2
20歳代	97	25.8	49.5	45.4	34.0	2.1	6.2
30歳代	148	37.2	57.4	50.0	29.7	4.1	4.1
40歳代	172	39.5	49.4	40.1	43.0	9.9	4.7
50歳代	140	44.3	55.0	28.6	41.4	5.7	4.3
60歳代	165	47.3	56.4	37.0	37.0	4.8	6.1
70歳代	170	51.2	47.1	21.8	35.9	1.2	10.0
80歳以上	121	52.1	40.5	17.4	21.5	5.8	18.2

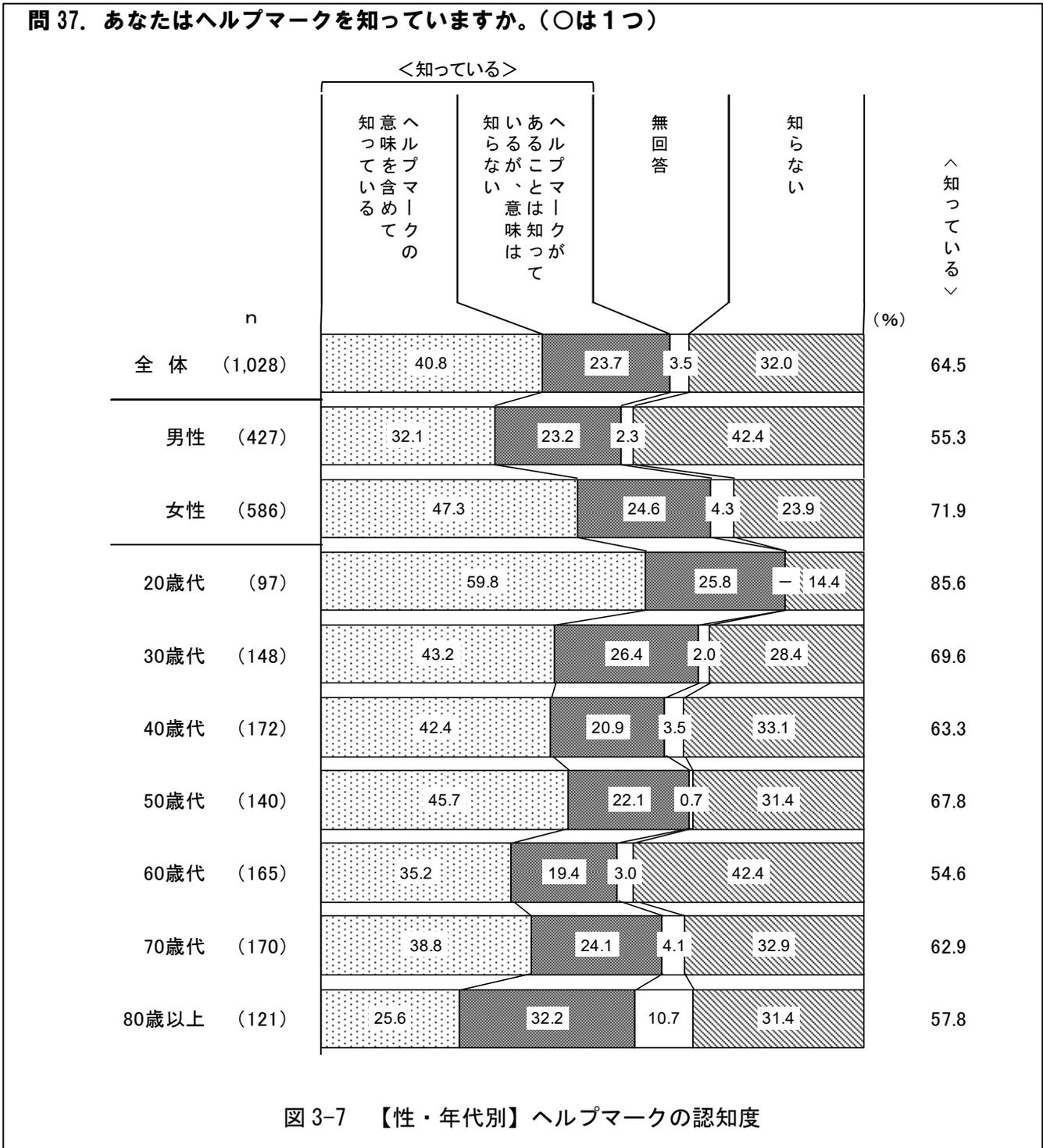
障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきことを性別にみると、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」は女性（37.7%）が男性（31.9%）を約6ポイント上回っている。年代別にみると、20歳～60歳代では「区民向けの啓発活動」の割合が最も高く、70歳代以上では「中野区公式ホームページ・区報による啓発」が最も高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年も「区民向けの啓発活動」が最も高くなっているものの若干減少しており、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」、「企業向けの啓発活動」が増加している。

3.3. ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」は約4割



ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が40.8%で最も高く、「ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない」が23.7%、「知らない」は32.0%となっている。性別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は女性（47.3%）が男性（32.1%）を約15ポイント上回っている。年代別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は20歳代で約6割と他の年代と比較して高くなっている。

3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度

◆介護保険制度の利用の仕方について<知っている>は3割台前半

問 38. あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

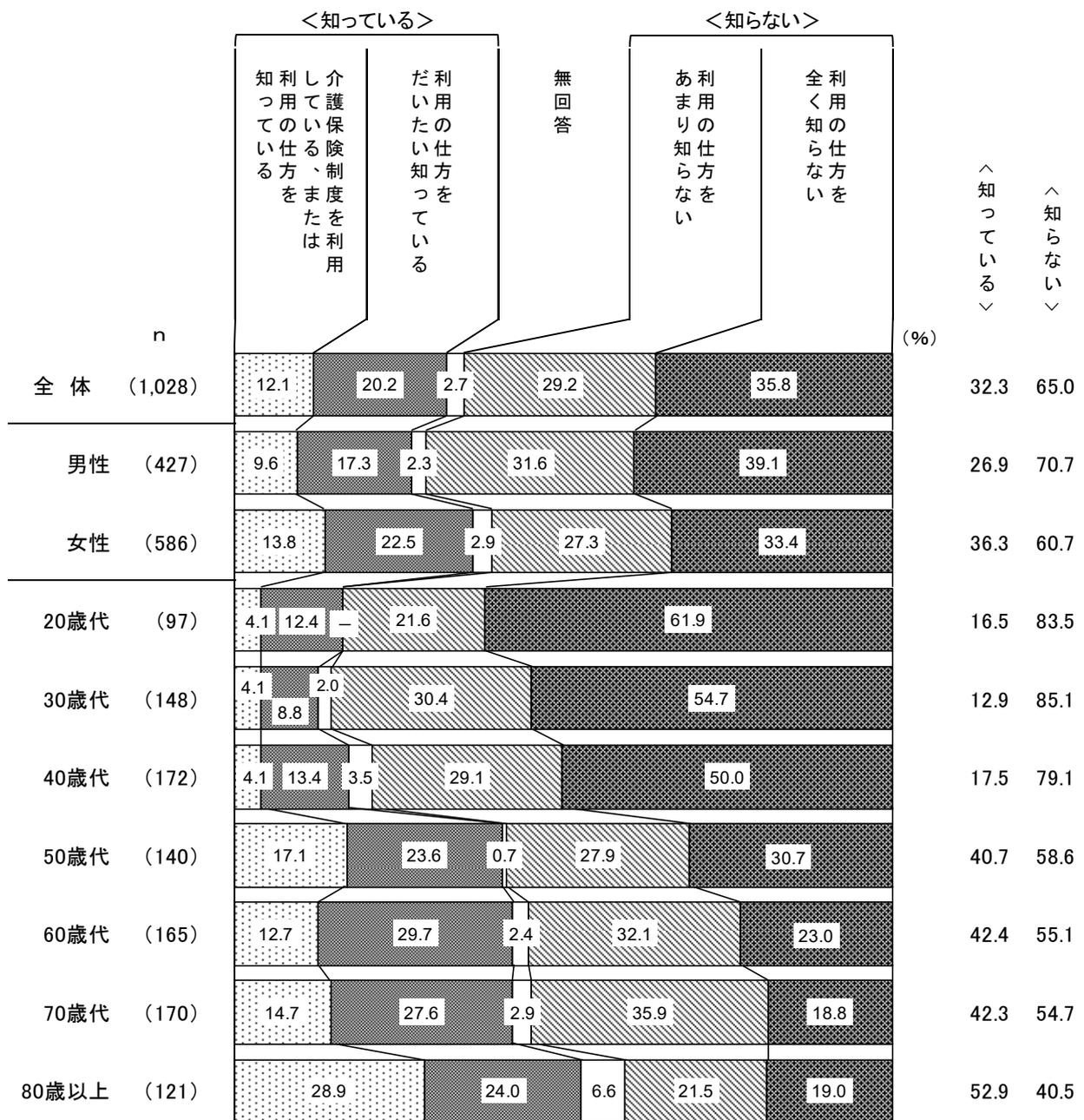


図 3-8 【性・年代別】介護保険制度の利用の仕方についての認知度

介護保険制度を利用できている、または必要となった時の利用の仕方を知っているかについては、「介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている」(12.1%)と「利用の仕方を知りたい知っている」(20.2%)を合わせた<知っている>は32.3%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(36.3%)が男性(26.9%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代と70歳代を除いて<知っている>の割合は年代が上がるほど高くなっており、80歳以上では<知っている>は5割を超えている。

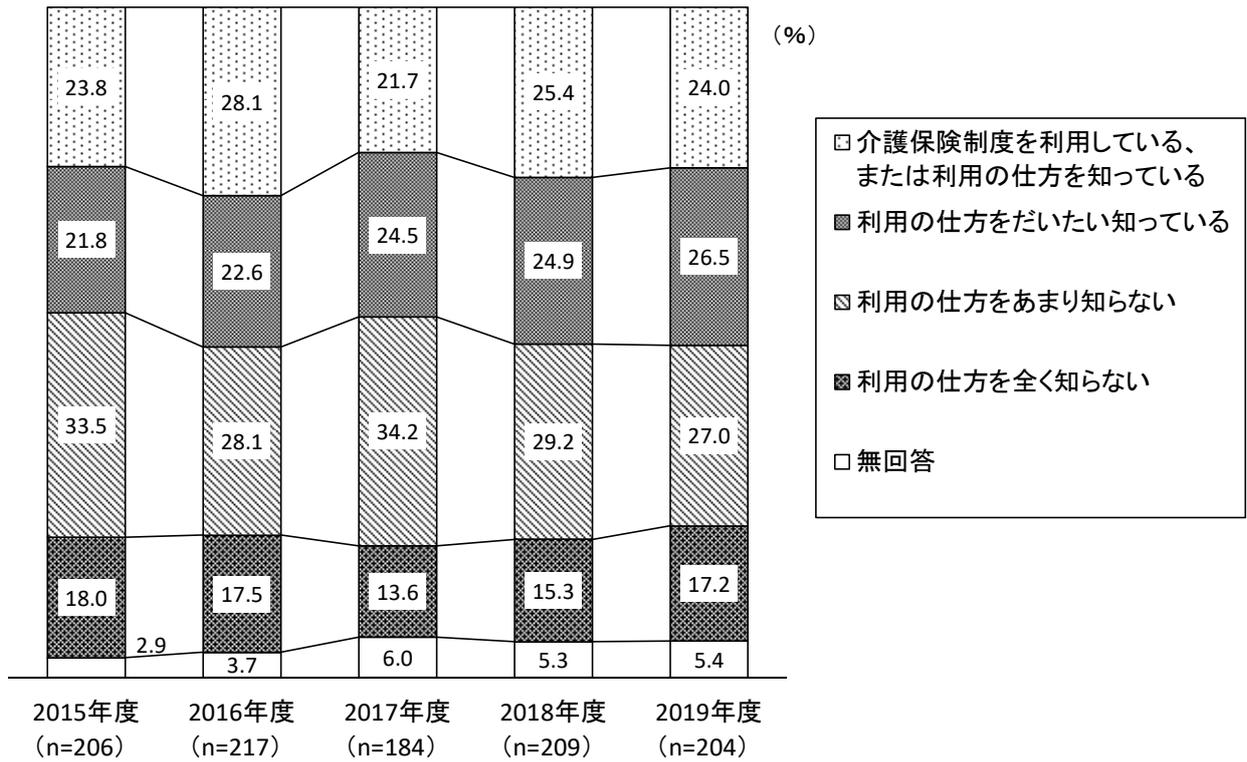
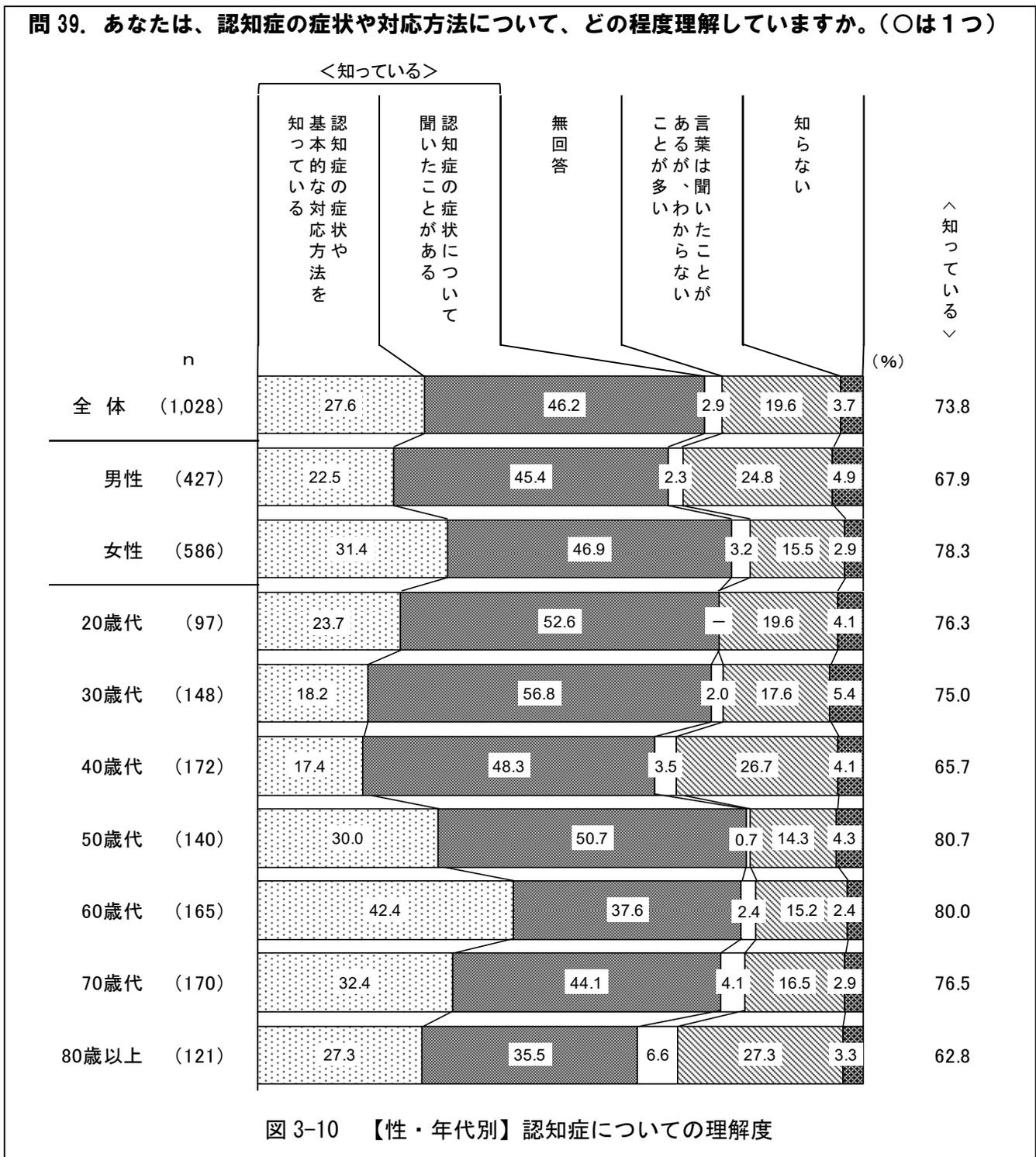


図 3-9 【経年比較】介護保険制度の利用の仕方についての認知度（75 歳以上の方）

75 歳以上の方について経年で比較すると、「介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている」と「利用の仕方をだいたい知っている」を合わせた＜知っている＞の割合は 2017 年度にいったん減少したものの、2018 年度以降は横ばいの状況となっている。

3.5. 認知症についての理解度

◆認知症について<知っている>は7割台前半、そのうち「基本的な対応方法を知っている」は2割台後半



認知症の症状や対応方法についての理解度は、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」(27.6%)と「認知症の症状について聞いたことがある」(46.2%)を合わせた<知っている>で73.8%となっている。性別にみると、女性の方が男性より理解度が高くなっており、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」で女性(31.4%)が男性(22.5%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」が4割台前半と他の年代と比べて高くなっている。

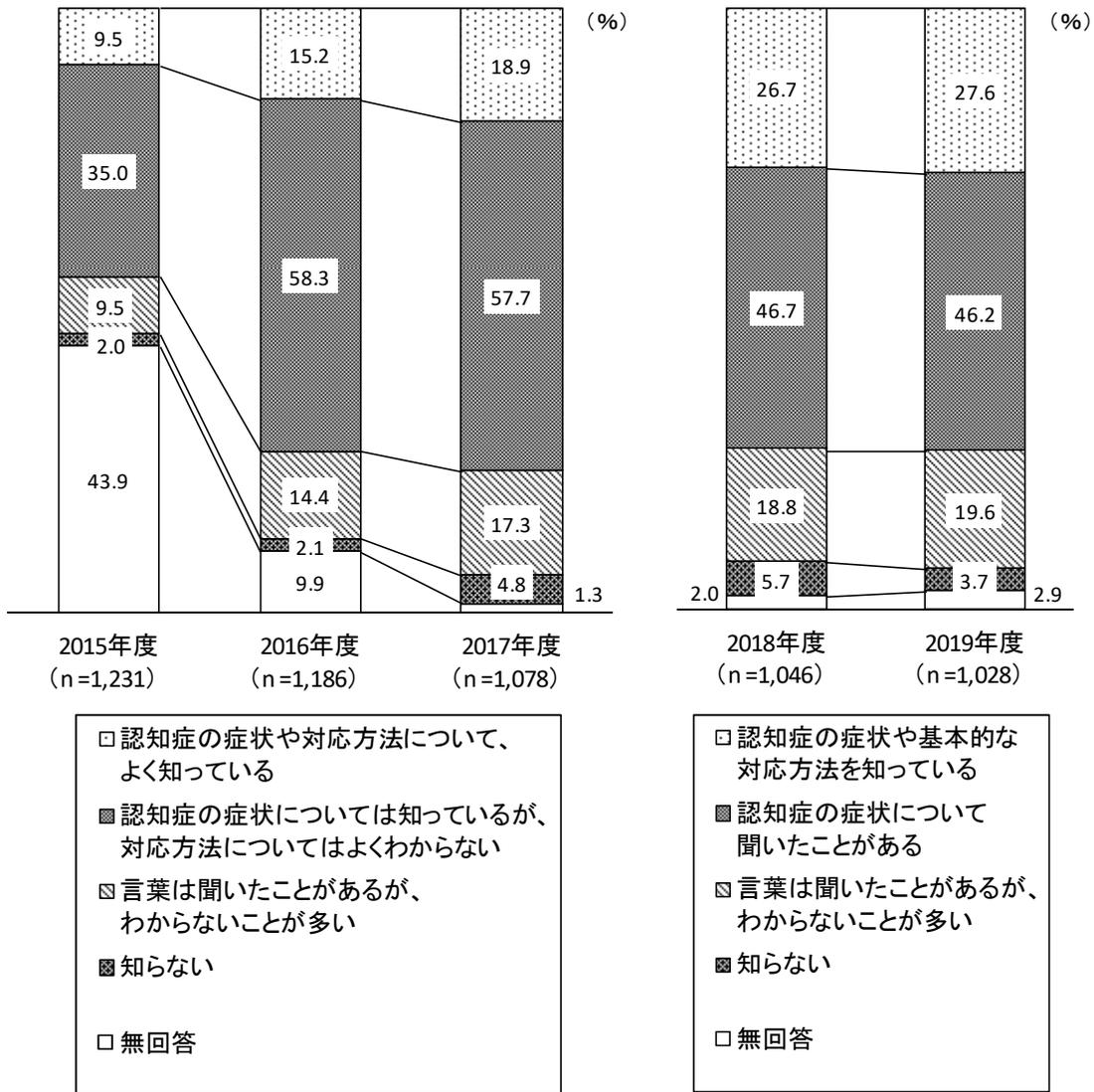
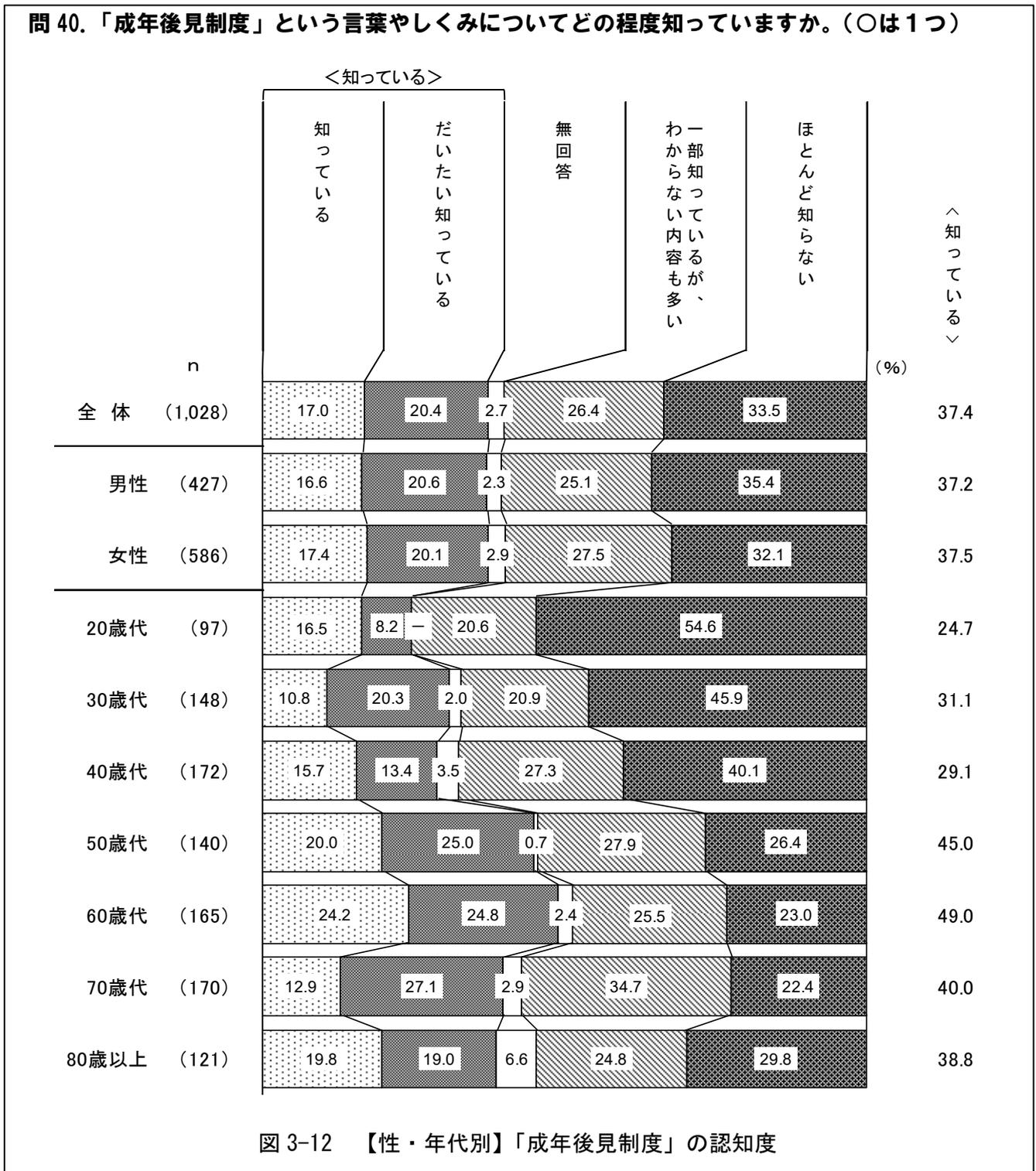


図 3-11 【経年比較】認知症についての理解度

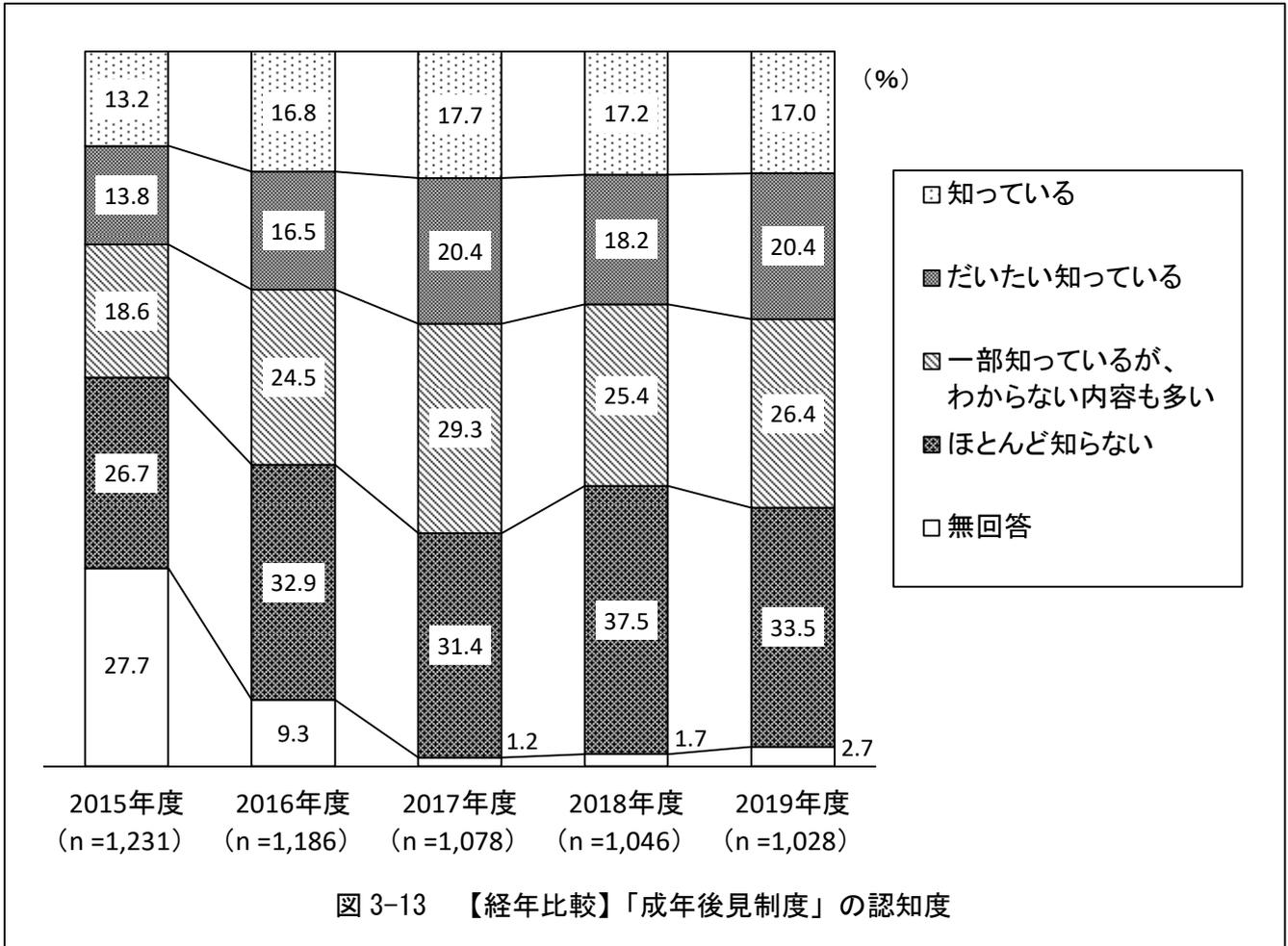
2018年度以降は一部選択肢の内容を変更したため、2015年度から2017年度までの結果は参考として掲載する。2018年度以降は、大きな差異はみられない。

3.6. 「成年後見制度」の認知度

◆「成年後見制度」という言葉やしくみを<知っている>は3割台後半



「成年後見制度」という言葉やしくみについての認知度は、「知っている」(17.0%)と「だいたい知っている」(20.4%)を合わせた<知っている>で37.4%となっている。一方、「ほとんど知らない」は33.5%となっている。年代別にみると、60歳代で<知っている>が約5割と最も高くなっている。



経年で比較すると、2017年度以降、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた<知っている>の割合は横ばいとなっている。

4. 相談窓口について

4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ

◆地域の健康福祉の相談機関について「身近に感じる」と回答した人の割合は1割台半ばかりから約2割

問 41. あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。(それぞれ○は1つ)

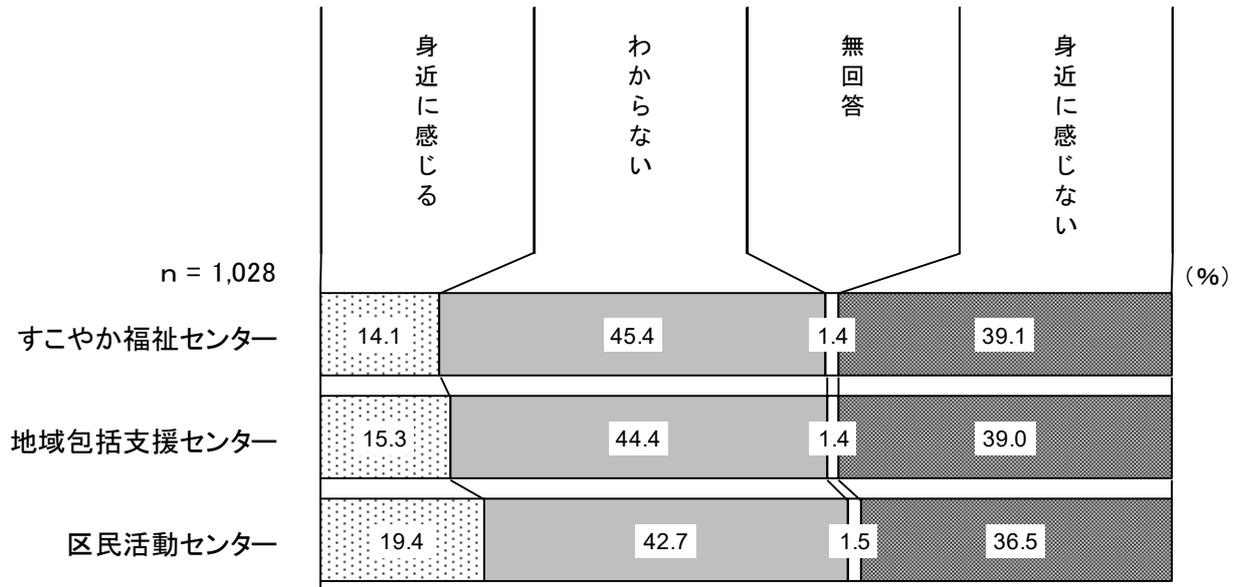


図 4-1 身近に感じるかどうかの割合

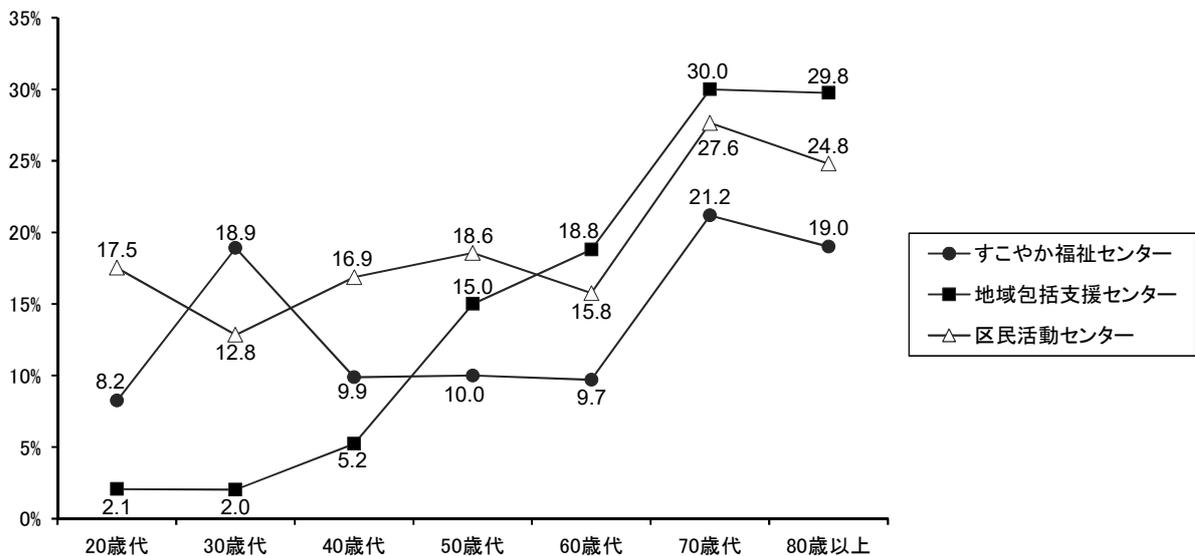
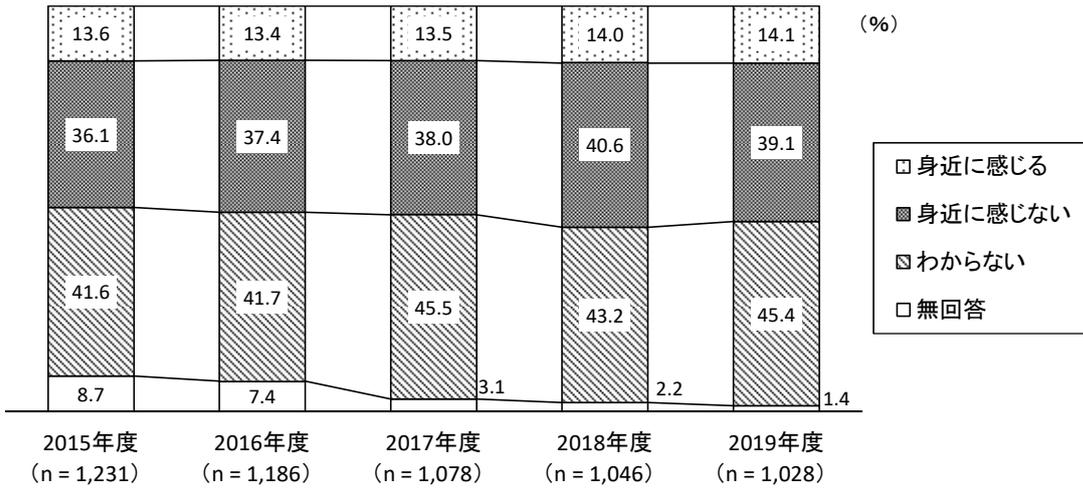


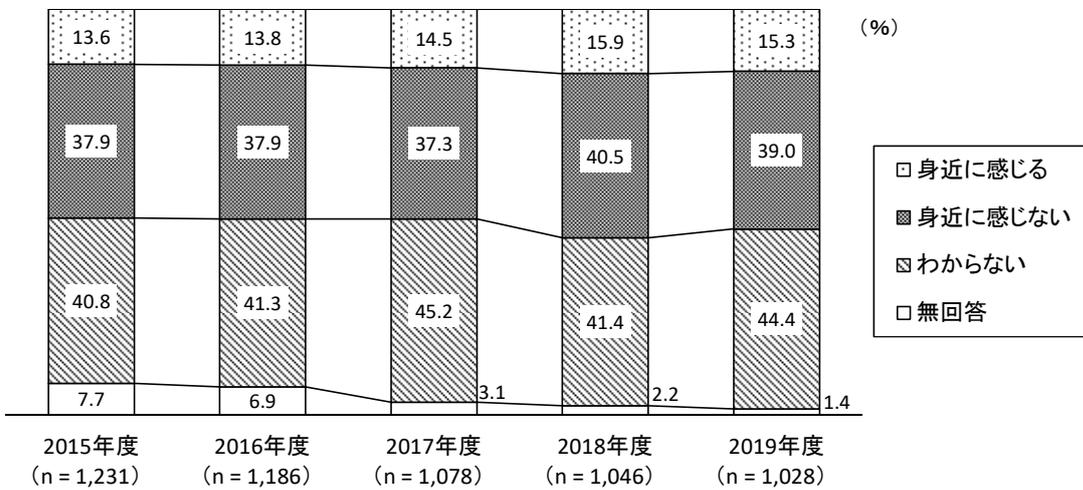
図 4-2 【年代別】身近に感じると回答した人の割合

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別で見ると、20歳代と40歳～50歳代では「区民活動センター」、30歳代では「すこやか福祉センター」、60歳代以上では「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。

【すこやか福祉センター】



【地域包括支援センター】



【区民活動センター】 ※2016年度以前は、区民活動センターの調査は行っていない

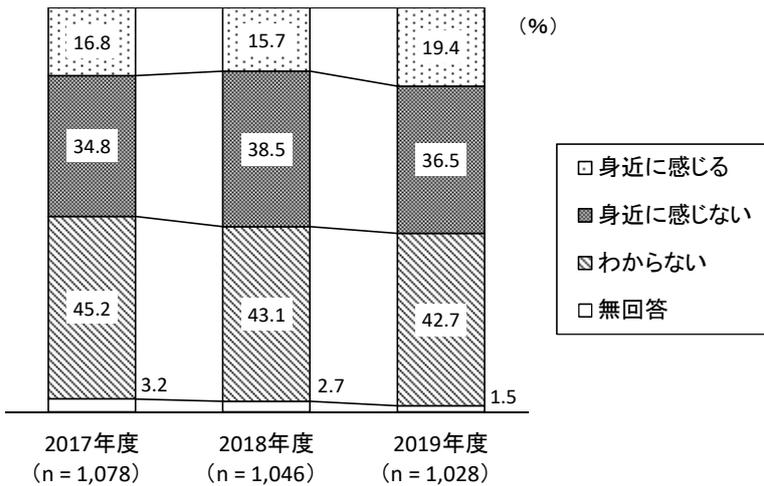
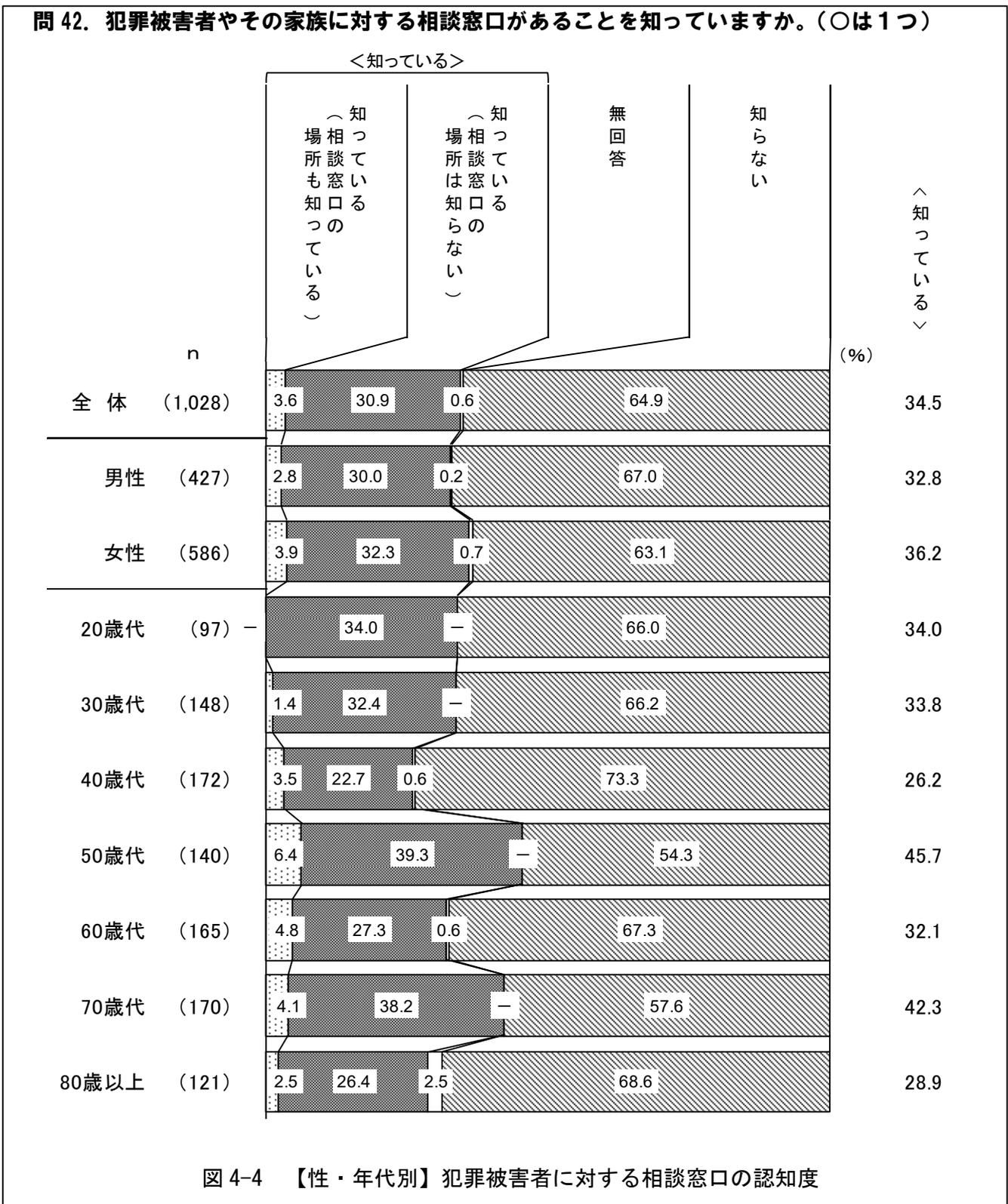


図 4-3 【経年比較】 身近に感じるかどうかの割合

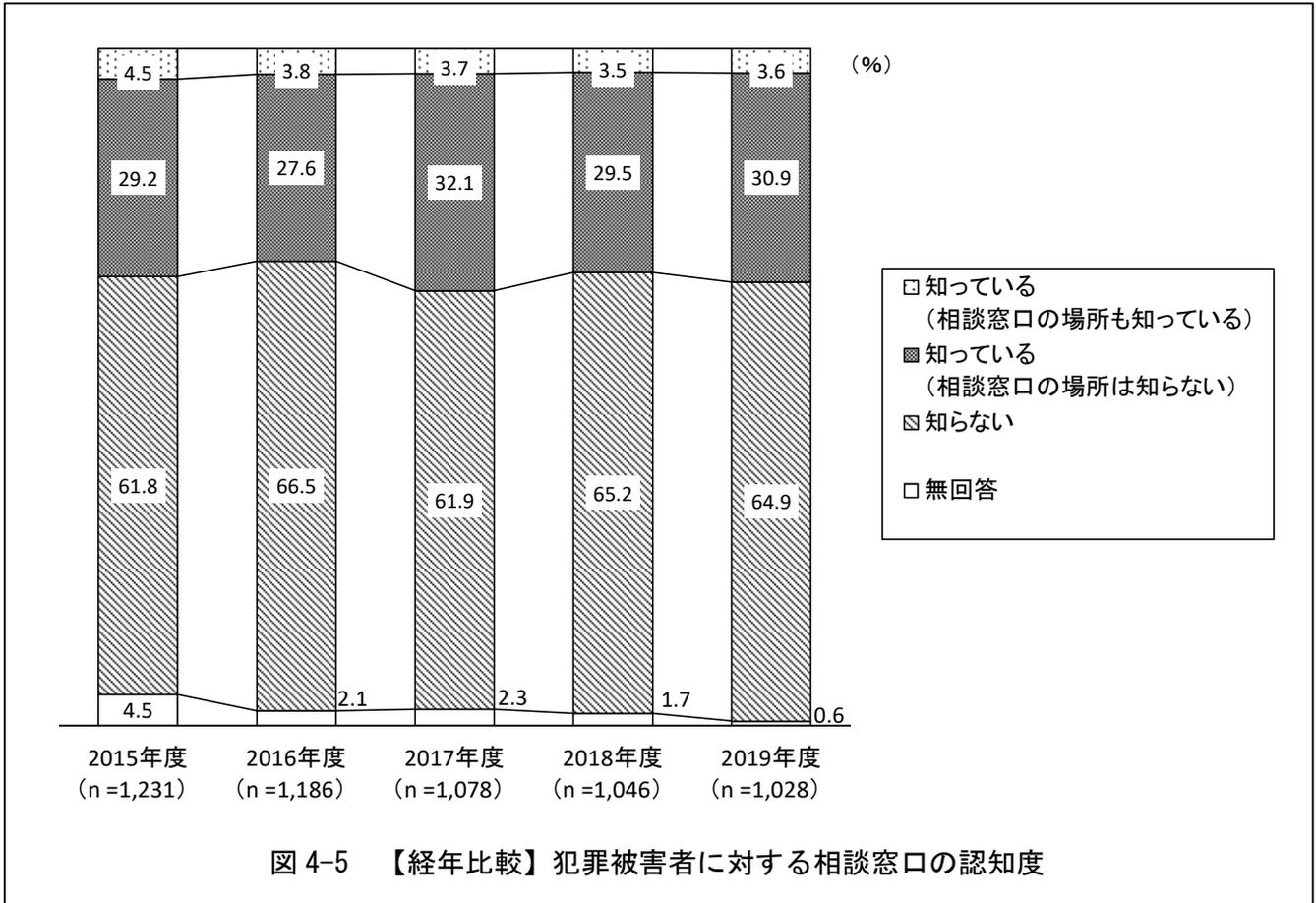
経年で比較すると、すこやか福祉センターと地域包括支援センターでは大きな差異はみられないものの、区民活動センターで「身近に感じる」が増加している。

4. 2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

◆犯罪被害者やその家族に対する相談窓口を<知っている>は3割台半ば



犯罪被害者やその家族に対する相談窓口の認知度は、「知っている（相談窓口の場所も知っている）」（3.6%）と「知っている（相談窓口の場所は知らない）」（30.9%）を合わせた<知っている>で34.5%となっている。年代別にみると、<知っている>は50歳代と70歳代で4割を超え他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

5. その他

5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

問 43. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望・意見を自由に記入していただいたところ、229 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

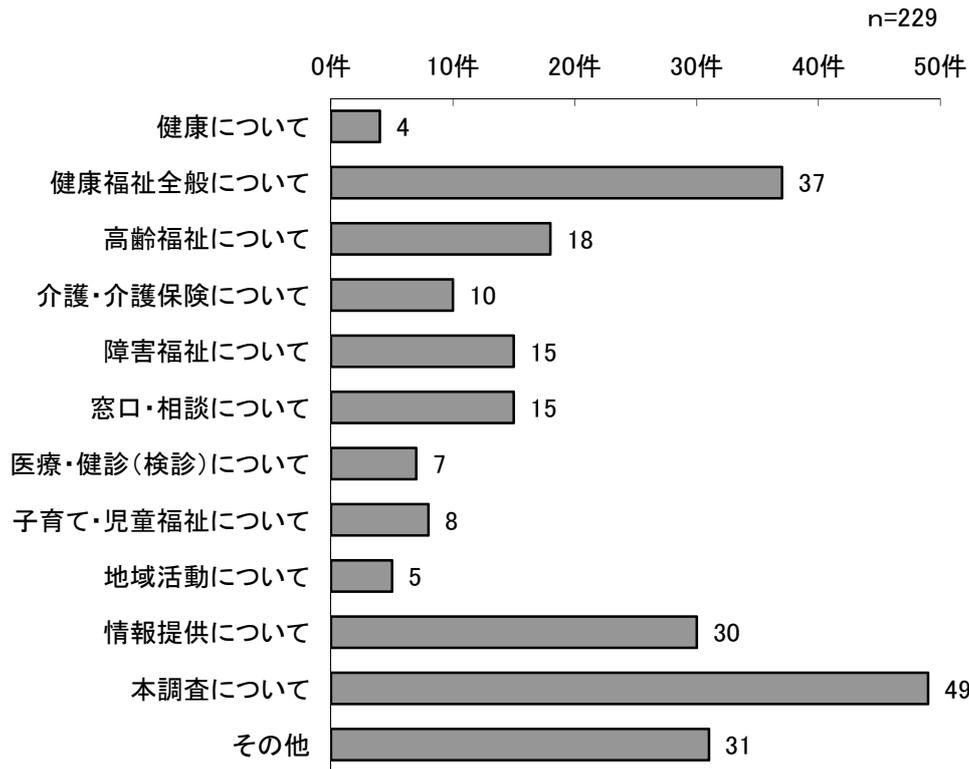


図 5-1 自由回答分類別件数

健康について 4 件

- 加工食品には添加物が多いので全部自分で作って食べています。(女性/70 歳代)
- 体力づくりや健康づくりのイベントはないのですか？平日の日中は仕事で参加出来ないなので休日の日にイベントの開催を望みます。(男性/40 歳代)

健康福祉全般について 37 件

- 社会全体がみんな幸せになる事は難しい事ですが、それでも少しずつ変えていく事は出来ると思います。地域の区民活動センターなど、どんなことをしているか分からないので、これから利用してみたいと思いました。(女性/30 歳代)
- 健康福祉行政は今後ますます重要な行政課題になると思います。それだけに課題、困難が多いと思われるのですが、一層の努力をお願いします。(男性/80 歳以上)
- 今回の調査に関しまして区民に社会福祉をどうしたらよりよく実行できるかを考えてもらう事が

大切だと考えました。区民の一人一人の意識を変え、高齢者、障害者、自殺に対して真剣に考え、人が人を支えるボランティアや環境作りが大切だと考えます。住みやすい素晴らしい中野区になりますように。私もボランティアなどに参加させていただきます。(女性/40歳代)

- タバコについての設問があったので、関連してお伝え申し上げます。タバコの煙がたとえ少量でも息が苦しくなり、においでもひどい頭痛になってしまいます。歩きタバコや路上喫煙の取り締まり強化をはじめ、受動喫煙対策をお願いしたいです。(女性/20歳代)
- 会員制のスポーツ施設も多く存在し利用しているが、登録なしで即日利用出来る施設も増えてほしい。特にテニスコートは無いし、あっても値段が高い。(男性/20歳代)
- 誰でも気軽に参加出来るスポーツ施設があると良いと思います。障がいのある人や少し高齢の方などは、仕事や社会貢献などで充実感を感じられる生活が出来ればと思います。(無回答/無回答)
- 民生委員が活動しているのを見たことがないのです。もっと高齢者の住まいにきめ細かくアポイントを取る等して活動してほしい。(女性/70歳代)
- 練馬区では区民が利用できるスポーツセンターが充実しているのに、中野区では安価で利用できるスポーツセンターが近くに無く非常に困っています。スポーツ施設の充実を希望します。また上鷲地域は中野駅方面の交通の便が悪く、区役所に用事がある時不便です。区役所の出張所やバスを通してください。(女性/20歳代)
- 私は現在会社と家の往復のみで地域行事や地域の福祉についてほとんど何も考えた事はありませんでした。問8その他で回答した様に全てにおいて余裕がありません。これは私だけではなく、周りの人たちも全てそのように思います。それが一番の問題だと思っています。今回このアンケートを通じて行政がまじめに福祉について取り組んでいただいていると感じました。とても嬉しい事だと感じています。これからもがんばって活動を続けていってほしいと思っています。(男性/40歳代)
- 健康や認知予防の体操のお知らせがあるが、65歳以上になっており40代でも参加出来ると嬉しい。(女性/30歳代)
- サポートを必要とされている方を見落とすことなく適切にフォローするには、サポートする側の人数の拡充が必要だと思います。身体的時間的余裕が、目の届く手の届く福祉に繋がるのでは。(女性/60歳代)
- すこやか福祉センターや地域包括支援センターはどのような活動を行っているのか全く分からない。区民活動センターは地域の集会、学校のPTA等で利用頻度が高く身近に感じる。(女性/60歳代)

高齢福祉について

18件

- オリンピックやサンプラザにお金をかけるより、高齢者が一人で安心して暮らせるようお金を使って欲しい。家にいるより勤務先にいる時間の方が長いので、日中の中野区にどれだけのお年寄りが活動しているか分からないが、今後自分を含めて高齢者は増えていくと思うので。(女性/50歳代)
- 年齢的に体が不自由になった場合に介護等をもっと区報でも取り上げて、高齢者に詳しく分かるように取り扱ってほしい。(女性/70歳代)
- 将来独居老人になる事がほぼ確定しています。その時高齢者会館にどうデビューしたらいいのか、そこにはグループが出来ていて単身ではおそらく入り込みづらいのではないかと危惧します。孤立しないように近隣とは挨拶は欠かしません、それはあまりにも不安な保険と感じています。(女性/50歳代)
- 84才なので病院では歳だからと言われます。娘夫婦と生活していますが、給料が少ないので、私自身年金生活年35万の中から家賃を援助という生活です。障害者とか生活保護の人達が羨ましいです。(女性/80歳以上)
- 老人ホーム(特養というのですか)になかなか入居出来ない状態を解消してもらいたい。(男性/80歳以上)

Ⅲ 調査結果の分析

- 以前認知症らしきご老人に道を聞かれて対応に困ったのですが、その時の対応のやり方などプロの方に教えて頂ける機会が欲しいです。(女性/40歳代)
- スポーツ運動施設等の利用について高齢者が利用しやすくしてほしい。(男性/60歳代)
- 幼老院について。赤ちゃんと遊びたい元気な老人と一緒に暮らすホームを考えてみませんか？赤ちゃんはじいちゃんばあちゃんと絵本を読んだり、手遊びをしたりゆったり過ごせるし、老人は赤ちゃんから元気をもらえます。(女性/70歳代)
- 姑が認知症になった時一応の経験をしましたが、私は現在82歳、息子2人と住んでいますが、自分が認知症を発症した時は息子たちがまた慣れるまでは大変な事だろうと覚悟しています。年寄が居る家に声掛け…なんてあればと思います。(女性/80歳以上)
- ピンピンコロリという生活をしたいので、身近に高齢者が参加出来る場があったら良いと思います。(女性/60歳代)

介護・介護保険について 10件

- 介護ですが、今は少子化で4人の両親を一人で見する必要があります、介護では様々な面談がかかまませんが対面だけでなく、TV会議（スカイプ、Facetimeなど）で行うなど普及して欲しい。特養増やして欲しい。家族で見るのは（生活も違うので）難しいです。(女性/50歳代)
- 要介護3の夫と一緒におりますが、1年ごとに負担になり、ヘルパーさんにお話ししています。中野に施設が少ないとの事で不安になる事があります。家に居てほしい気持ちと施設に預けようかと思索しております。(女性/70歳代)
- 区内の施設（介護関連ですが）についてですが、体験に基づく感想を聞いてみるのはいかがでしょうか。増加する高齢者と介護する家族とが追い詰められない関係でいられるために数も増やしたい所ですが、任せて良いのか実態も知りたいです。(男性/70歳代)
- 現在渋谷区のコミュニティセンターで仕事をしています。建物の中にケアハウスがあり、高齢者の生活を見る機会があり、いずれ自分もケアハウスに入所出来たらいいなと思ったりします。中野、南台自宅近くに施設はありません。年金生活で入所できるような施設をもう少し作って欲しいです。(女性/60歳代)
- この意識調査がどのような効果を示すのか不明ですが…。私も母の介護等を経験した者です。仕事を持ちながら親の介護、子育てを無理なく苦なくやれる生き方ができれば。たとえ親の認知機能の低下や障害があっても悲観的にならずむしろ楽しく日々過ごせるにはと皆さんで話し合っしてほしいです。障害者の母の介護でしたが日々笑って過ごしました（要介護3でしたので）(女性/60歳代)
- 区立の介護施設が身近にない。もっと増やして欲しい。母が世話になった施設は遠く、練馬区の施設しかありませんでした。大変困りました。(女性/70歳代)

障害福祉について 15件

- 大規模災害時の避難所が、障害のある人や高齢の方でも利用しやすいものだと良いと思います。(女性/20歳代)
- 知的障害のある息子がいますが、参加出来る運動（日常的に）が少ない。温水プールも近くにあるが、夏以外だと温まるジャグジーがない等で、すぐ風邪をひいたりするのでなかなか使えない。(女性/50歳代)
- 町内の行事の時などに障害者の方との交流の場があれば、理解は深まると思うので補助金などがその為にあたりしても良いと思います。以前パラリンピックのメダリストの方が文京区に居住していた際に、支援学校の施設開放の日いらして、お話ししたりメダルを見せて頂き、子どもと障がいについて話すきっかけになったり、パラリンピックを見るきっかけになったことがありました。(女性/40歳代)
- 障害のある方、特に車いすを利用したりしてる方の事についてなのですが、最近少しだけ話題にな

ったのですが、劇場に入るために車いすの方、ヘルパーさん又は付添い人の方のチケットが2枚無いと中に入れない事実を知り、大変残念でした。何かあってからでは遅い。もっと劇場を障害者の方が気軽に来れる場所にしてほしい。特に車いすの方は付添い人の方含めて一人です。バリアフリーしてない所の方が多いです。(女性/20歳代)

- 10年前脳卒中で倒れ左半身まひが残り、現在車イスでヘルパーと共に行動していますが、不便に感じるのは道路の狭さ、道の不整備で苦勞しております。(女性/70歳代)
- 今回このようなアンケートをして頂いてとても嬉しく思います。障がいのある人もない人も安心して暮らせる街づくり、中野区の福祉を充実してほしいです。私は障害者手帳を持って初めて、障害者の方のご苦勞が分かりました。関東バスはほぼステップがない低い障害者対応になっているので助かります(中村橋⇄阿佐ヶ谷間)。もっと車両を増やして欲しいです(障害者対応の)(女性/50歳代)

窓口・相談について 15件

- 長時間労働の為に時間内に福祉相談窓口相談出来ず、セーフティネットからこぼれている方々が心配。対策して頂きたいと思います。(無回答/無回答)
- 相談機関の利用の仕方が分からないものが多いと感じた。HP(区の)が調べにくく分かりにくい。文章がづらづらと書かれている、という感じで見やすさとか変えてほしい。(女性/40歳代)
- 行政の窓口というところでどうしてもなじめず、敬遠しがちなのでいろいろな相談をしにくいです。チラシなども大きな字で簡潔にお願いしたい。小さな文字で説明が多いと読みたくない。区報等も年に2度くらい1ページ目に相談窓口を大きく見出し的に掲載するのはどうでしょうか。相談する場がある事だけでもアピールできるのでは。(女性/70歳代)
- 困った事何でも初めにこの窓口で、と一か所で聞けばそこから先割り振ってもらえればいいと思う。たらい回しにならないような心がほしいと思います。(女性/80歳以上)

医療・健診(検診)について 7件

- 子どもの病気の時に直ぐに病院が見つかるように、ネット検索等便利なツールがあると良いです。小児科の病院が増えると助かります。(女性/30歳代)
- 区民健診の手続きが杉並区と比べて面倒。胃がん検診(バリウム)も同じ日に出来るようにしてほしい。スポーツはしょせん趣味なので行政が何かをする必要はないと思います。やって楽しくかつ見て楽しければ自然と広まると思います。(男性/40歳代)
- 団塊世代が高齢者となった今、国民健康保険による医療費負担は増えるばかりです。如何にして元気なお年寄りをと考えると病気の予防、早期発見だと思います。よって高齢者は無料で受けられる特定健診にして欲しいと思います。検診による病気の早期発見・治療は医療費の削減、圧縮につながります、現在支払いの僅かな自己負担金を遙かに上回るかと思えます。一人でも多くの方が受診できる環境を！(男性/70歳代)
- ①健康診断に肺がん検診を入れてほしい ②遊歩道の喫煙所を撤去してほしい(女性/60歳代)

子育て・児童福祉について 8件

- 平和の森公園を早く元に戻して欲しい。子どもたちの遊び場が少ない。(男性/30歳代)
- 平日中野区のスポーツ施設を利用したくても仕事で利用出来ない。早朝のグラウンドはラジオ体操をされており、子どもとキャッチボールをする場所を探したがほぼない。バスケットボールも杉並区で行っている。もう少しご検討いただきたい。(男性/40歳代)
- 今私の家族に何も困った状況ではないですが、日々色々な事件が起こるので信用できないのが正直なところです。歩み寄られても少し怖いと思うし、歩み寄ったとしても気を使ってしまう。都会だからというのものもあるかもしれないし、5歳の息子がいるのでとにかく守りたい親の気持ちでも

あります。少なからず信用できない苦しみもあります。(女性/30 歳代)

- 子育て支援について中野区のすこやか福祉センターや、かんがるープラン等のサービスで大変お世話になりました。B P 1 プログラムという勉強会に参加させてもらい、そこで出会った仲間は本当に大切な存在です。良い機会を頂けてありがたいです。かんがるープランの産後ドゥーラさん、助産院のサービス助かりました。(女性/30 歳代)
- 子どもの悲しい事故が多い。大人たちが真剣に子どもと向き合い見守り、助けてほしい。(女性/80 歳以上)
- 老人より若い人向けの施策をお願いします。(男性/40 歳代)
- 出産の時に区のサービスや、すこやか福祉センターにすごくお世話になったので、ありがたかった。同じ区の人にも広めている。(女性/30 歳代)

地域活動について 5 件

- 当事者の活動及び活動団体への助成を充実させて頂ければと思います。(男性/50 歳代)
- ボランティア活動を供給する側、受ける側どちらも組織化を高める必要があると思います。広報は分かりやすい事が一番大事です。(男性/80 歳以上)
- ボランティアなどの活動に参加したいと思っているが、入り口が分からない。(男性/40 歳代)

情報提供について 30 件

- ホームページよりも区報での情報を充実させてほしい。〈調べればわかる!〉というより、〈知らなかったけど知る事が出来た〉のほうが助かります。町内会の回覧板や掲示板なども個人的にはよくチェックしています。(女性/40 歳代)
- 私はまだ幸いに健康を維持していますが、例えば問 41 の①すこやか福祉センター②地域包括支援センター③区民活動センターの違いも分かっていませんでした。何に困った時にどこへ行けばよいか、自分でも学習するようにしたいと思いますが、時々機関誌などで紹介してくれると有り難いです。(女性/50 歳代)
- アンケートを見て思うのは、直接自分に関係していない事柄であると無関心であったり、無知であるということ。なかなか未来に対する備えという事に意識が回らない。「もしもの時どうすればよいか」について防犯ガイドブックの様なものがあれば助かる。区行政が身近なものと感じていなかったことに気付いた。(男性/50 歳代)
- 健康福祉について名前だけ知っていて実態を知らない事が多い。問 41 の「すこやか〜」「地域包括〜」「区民活動センター」など名前や場所は聞いた事があるが何をしている場所なのか、違いは何か正しく答えられる人も少ないと思う。まずはそういう基本的な役割が簡単に分かる様な掲示や案内、広報などをしてほしい。(男性/40 歳代)
- 中野区報も良いが、ネットでもっとお知らせを積極的にするようにした方が良い。受けられる援助も、配信を積極的に。(女性/50 歳代)
- SNS 等を利用してもっと身近な感じでアピールをした方が良いと思う。紙媒体は読むのがめんどくさい。(女性/30 歳代)
- 一部の人しか知らない場合がある。住民、高齢者などが得やすい情報提供の方法が必要と思う。(女性/60 歳代)
- 引越して 4 か月になります。中野区の福祉について知らない事が多い事を、このアンケートを機に気付きました。市民の啓発活動をもっとしていくと良いと思います。(女性/40 歳代)
- 区報やHPはほとんど見ないので今回のようにDMが良い。(男性/40 歳代)
- 必要を今は感じられなく、知識を持とうとは思っているが、きっかけが中々ないのが実情です。(女性/60 歳代)
- ほぼ毎日 8 時間以上パソコンを見て、SNS も利用しておりますが、積極的に福祉の情報を取りに行くタイプだと自分では思っていますが、このアンケートで全然知らない事も多いと感じました。困

った時は焦っていたり、パニックになる事もあると思います。アクセスの良さはもっと向上できるはずですので、区の皆様の対応を期待しております。(女性/30歳代)

本調査について 49件

- アンケート調査を行うと云う事は改善しようという姿勢なので、より良い中野区になるよう期待します。よろしくお願いします。(女性/40歳代)
- 高齢の方にアンケート送付されてもとまどうばかりです。(女性/80歳以上)
- 突然でびっくりしたが協力出来て良かった。もっと多くの事に関心を持ちたい。中野区民の1人として今後もっと関わられたらと思う。(女性/80歳以上)
- このアンケート結果がどのように実際の活動に反映されるのかが気になります。またお役に立てるのならば、この程度の協力なら何度でもしたいと考えております。(男性/30歳代)
- 20歳以上ではなく、中高生くらいから対象にして調査するのも良いのかな?と思いました。(障害や自殺や悩みがある際の相談窓口の存在を知るためや、その方々が大人になった時の意識として) そのためにはネット上やSNS等でアンケートに答えられるのも早いのかなと思いました。(女性/40歳代)
- 今まで区による健康福祉行政について考えることがほとんどありませんでした。そのような中で、今回の調査はそのことに気づく機会になりましたので、私としては感謝しております。もっと積極的に行政に協力したいと考えるようになりました。これからも区民の意見を聞くスタンスを進めていただきたいと思います。(男性/40歳代)
- どの様に生かす、生かしたのか、報告が区報等でほしい。(男性/40歳代)

その他 31件

- 区役所の自転車通行禁止帯をもっと厳格に守らせてほしい。以前危険な運転を注意したところ、逆に怒鳴られました。小さい子供や老人の歩行が危ない目に合うのを何度も見ました。あの道路は自転車通行禁止なのですからもっと知らしめてください。(男性/60歳代)
- 急に病気になった時の公的または民間ヘルパーについての件を知りたい。(女性/80歳以上)
- 益々少子高齢化が進む中、お互いが支え合い、一人一人が気持ちよく生活出来る世の中になったら嬉しいですね。(女性/50歳代)

IV 調査票と単純集計

2019年度 健康福祉に関する意識調査 調査票 中野区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えに
なれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えく
ださい。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入
ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

令和元年（2019年）5月31日（金曜日）までに、

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

8. 調査の内容や記入方法等について、ご不明な点がありましたら、下記までお問い
合わせください。

中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係

TEL. 03-3228-5421 FAX. 03-3228-5662

E-mail fukusisuisin@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます》

（全員の方に）

（1） あなたの性別は、どちらですか。（○は1つ） <回答者数：1,028>

1. 男性 (41.5%)	2. 女性 (57.0%)	無回答 (1.5%)
---------------	---------------	------------

（全員の方に）

（2） あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ） <回答者数：1,028>

1. 20歳代 (9.4%)	2. 30歳代 (14.4%)	3. 40歳代 (16.7%)
4. 50歳代 (13.6%)	5. 60～64歳 (7.4%)	6. 65～69歳 (8.7%)
7. 70～74歳 (8.5%)	8. 75～79歳 (8.1%)	9. 80～84歳 (7.3%)
10. 85～89歳 (2.8%)	11. 90歳以上 (1.7%)	無回答 (1.5%)

（全員の方に）

（3） あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。
（○は1つ。複数ある方は、主なもの1つに○） <回答者数：1,028>

1. 正規の職員・従業員 (33.5%)	2. 労働者派遣事業所の派遣社員 (1.8%)	
3. パート・アルバイト・契約社員・嘱託 (15.6%)	4. 自営業主・家族従事者 (9.4%)	
5. 学生 (1.5%)	6. 家事専業 (13.2%)	
7. 無職 (21.0%)	8. その他 (2.1%)	無回答 (1.9%)

（全員の方に）

（4） あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ） <回答者数：1,028>

1. 単身世帯（一人暮らし） (26.3%)	2. 夫婦のみ世帯 (25.5%)
3. 2世代世帯（親と子） (38.3%)	4. 3世代世帯（親と子と孫） (5.1%)
5. その他の世帯 (3.4%)	無回答 (1.5%)

((4) で、「3. 2世代世帯(親と子)」「4. 3世代世帯(親と子と孫)」「5. その他の世帯」に○をつけた方に)

(5) あなたの世帯に18歳未満の子どもがいますか。(○は1つ) <回答者数: 481>

1. はい (38.5%)	2. いいえ (60.3%)	無回答 (1.2%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

(6) あなたは日常的に家族の介護をしていますか。(○は1つ) <回答者数: 1,028>

1. はい (6.0%)	2. いいえ (89.7%)	無回答 (4.3%)
--------------	----------------	------------

(全員の方に)

(7) お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ) <回答者数: 1,028>

1. 持ち家(一戸建て) (39.7%)	
2. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅) (19.8%)	
3. 公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等) (3.1%)	
4. 民営の賃貸住宅 (32.2%)	
5. 社宅、社員寮、公務員住宅 (2.2%)	
6. その他 (1.1%)	無回答 (1.8%)

(全員の方に)

(8) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(○は1つ) <回答者数: 1,028>

1. 1年未満 (4.2%)	2. 1年以上5年未満 (16.4%)
3. 5年以上10年未満 (10.7%)	4. 10年以上20年未満 (17.3%)
5. 20年以上 (49.6%)	無回答 (1.8%)

(全員の方に)

(9) あなたがお住まいの地域はどこですか。(○は1つ) <回答者数: 1,028>

1. 南台 (7.3%)	2. 弥生町 (6.0%)	3. 本町 (9.5%)
4. 中央 (7.8%)	5. 東中野 (7.6%)	6. 中野 (8.3%)
7. 上高田 (5.9%)	8. 新井 (6.5%)	9. 沼袋 (3.1%)
10. 松が丘 (2.0%)	11. 江原町 (2.1%)	12. 江古田 (3.2%)
13. 丸山 (1.8%)	14. 野方 (4.6%)	15. 大和町 (5.1%)
16. 若宮 (3.9%)	17. 白鷺 (3.0%)	18. 鷺宮 (4.9%)
19. 上鷺宮 (5.4%)		無回答 (1.9%)

《地域活動についておたずねします》

(全員の方に)

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：1,028>

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 町内会・自治会の活動 (12.5%) | 2. ボランティア活動 (4.9%) |
| 3. スポーツ関係の活動 (5.0%) | 4. 趣味関係の活動 (5.6%) |
| 5. 学習・教養サークルの活動 (2.0%) | 6. その他 (2.0%) |
| 7. 参加していない (75.1%) | 無回答 (1.1%) |

(全員の方に)

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

<回答者数：1,028>

- | |
|---|
| 1. 困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている (11.7%) |
| 2. 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう (5.9%) |
| 3. たまに世間話する程度 (21.1%) |
| 4. 顔を合わせたときに会釈する程度 (44.9%) |
| 5. つきあいがほとんどない (15.7%) |
| 無回答 (0.7%) |

(全員の方に)

問3 あなたは、地域で生活していくうえで近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(○は1つ)

<回答者数：1,028>

- | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|
| 1. 必要だと思う (71.0%) | 2. 必要だと思わない (5.5%) | 3. わからない (22.6%) |
| 無回答 (0.9%) | | |

(問3で「1」に○をつけた方に)

問3-1 あなたは、どのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：730>

- | |
|---|
| 1. 日常的な声かけ (64.8%) |
| 2. 生活の様子気配り (ポストに新聞や手紙がたまっていないか等) (46.0%) |
| 3. 異変を感じた時の区役所等への連絡 (48.4%) |
| 4. ちょっとしたお手伝い (ごみ捨て等) (30.7%) |
| 5. わからない (3.4%) |
| 無回答 (0.7%) |

(問3で「1. 必要だと思う」に○をつけた方に)

問4 あなたは、見守り・支えあい活動をしていますか。(○は1つ) <回答者数：730>

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 継続的に活動している (9.5%) | |
| 2. 活動したことがある (14.5%) | |
| 3. 活動していないが、これから活動してみたい (55.1%) | |
| 4. 活動していないし、これからも活動したいと思わない (17.8%) | 無回答 (3.2%) |

(問4で「3」に○をつけた方に)

問4-1 活動をしていない理由はなんですか。(○は1つ) <回答者数：402>

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない (43.8%) | |
| 2. 活動に参加するきっかけがわからない (28.9%) | |
| 3. 具体的な活動内容がわからない (20.1%) | |
| 4. その他 (6.2%) | 無回答 (1.0%) |

(問4-1で「2」「3」に○をつけた方に)

問4-2 どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思いますか。
(あてはまるものすべてに○) <回答者数：197>

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 1. 見守り・支えあい活動に関する講座等への参加 (31.5%) | |
| 2. 活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧 (61.4%) | |
| 3. 活動団体のボランティア募集 (28.4%) | |
| 4. その他 (6.6%) | 無回答 (2.0%) |

(全員の方に)

問5 あなたは、地域の子どもに対する見守り・支えあい活動をしていますか。
(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,028>

- | | |
|--|------------|
| 1. 困っているときに、相談にのったり、子どもを預かったりする等、している (1.9%) | |
| 2. 子どもを対象とした地域の活動にスタッフとして参加している (2.9%) | |
| 3. 通学中の子どもに声かけをしている (6.1%) | |
| 4. あいさつをしている (21.5%) | |
| 5. その他 (3.1%) | |
| 6. 特に何もしていない (69.6%) | 無回答 (2.1%) |

(全員の方に)

問6 地域には、住民同士の交流の場がありますか。(○は1つ) <回答者数：1,028>

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. ある (16.4%) | 2. どちらかといえばある (19.4%) |
| 3. どちらかといえばない (19.6%) | 4. ない (41.9%) 無回答 (2.7%) |

(全員の方に)

問7 あなたは、最近1年間に、街で困っている人の手助けをしたことがありますか。

(○は1つ)

<回答者数：1,028>

- | | | |
|--------------|---------------|------------|
| 1. ある (46.9) | 2. ない (51.8%) | 無回答 (1.4%) |
|--------------|---------------|------------|

(問7で「1」に○をつけた方に)

問7-1 あなたが手助けをしたのはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：482>

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 高齢者 (69.9%) | 2. 障害のある人 (19.5%) |
| 3. 乳幼児を連れた人 (32.2%) | 4. その他 (15.4%) 無回答 (5.8%) |

問7-2 あなたが行った手助けは、どのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：482>

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 荷物を持った (16.8%) | |
| 2. 横断歩道や歩道橋等で手を引いた (8.7%) | |
| 3. 階段の昇り降りの時に手を貸した (12.4%) | |
| 4. 車いすを押したり、持ち上げたりするのを手伝った (13.1%) | |
| 5. 乗り物等で席を譲った (54.6%) | |
| 6. 道を教えた (50.0%) | |
| 7. ドアを開けた (26.6%) | |
| 8. 家族等に連絡をした (3.1%) | |
| 9. その他 (16.2%) | 無回答 (0.4%) |

(全員の方に)

問8 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。

(○は3つまで)

<回答者数：1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. 障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 (28.8%) | |
| 2. ボランティア活動の育成・支援 (13.8%) | |
| 3. 障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 (23.1%) | |
| 4. 職業訓練の充実、就労の機会の確保 (25.0%) | |
| 5. 保健医療サービス・リハビリテーションの充実 (17.0%) | |
| 6. 年金や手当の充実 (17.7%) | |
| 7. 相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 (22.8%) | |
| 8. 福祉機器や情報機器の開発・普及 (5.7%) | |
| 9. 障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 (36.8%) | |
| 10. 点字や手話、字幕放送等による情報提供の充実 (6.7%) | |
| 11. 民間住宅のバリアフリー化の普及促進 (10.2%) | |
| 12. スポーツや文化活動・交流活動の推進 (8.6%) | |
| 13. グループホームやケアホーム等居住の場の整備、入居支援 (17.3%) | |
| 14. 災害時の救出・救護体制の整備 (23.5%) | |
| 15. その他 (3.5%) | |
| 16. 特にない (1.9%) | |
| 17. わからない (4.8%) | 無回答 (1.5%) |

(全員の方に)

問9 身近な相談相手として、民生委員（児童委員も兼ねます）が地域で活動していることをご存じですか。(○は1つ)

<回答者数：1,028>

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 活動内容を知っている (18.7%) | |
| 2. 活動内容は知らないが、委員がいることは知っている (50.5%) | |
| 3. 知らない (29.7%) | 無回答 (1.2%) |

(60歳以上の方に)

問10 高齢者会館を利用したことがありますか。(○は1つ)

<回答者数：456>

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. よく利用している (5.0%) | 2. ときどき利用している (5.7%) |
| 3. あまり利用していない (7.5%) | 4. 全く利用したことがない (78.9%) |
| 無回答 (2.9%) | |

(問10で「3」「4」に○をつけた方に)

問10-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：394>

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 知らなかったから (21.6%) | 2. 行く必要を感じないから (56.9%) |
| 3. 行く時間がないから (15.0%) | 4. 遠いから (2.8%) |
| 5. 参加したい催しや活動がないから (15.2%) | 6. 知り合いがないから (15.5%) |
| 7. その他 (6.6%) | 無回答 (6.9%) |

《医療・健康についておたずねします》

(全員の方に)

問 11 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 健康である (31.4%) | 2. どちらかといえば健康である (48.5%) |
| 3. どちらかといえば健康でない (12.6%) | 4. 健康でない (6.2%) |
| 無回答 (1.2%) | |

(全員の方に)

問 12 1回30分以上の連続した運動や身体活動を週1~2回以上行っていますか。

(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 継続的に行っている (29.6%) | 2. ときどき行っている (24.1%) |
| 3. 以前は行っていたが、現在は行っていない (15.4%) | 4. 全く行っていない (29.3%) |
| 無回答 (1.7%) | |

(問12で「1」「2」に○をつけた方に)

問 12-1 あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ) <回答者数 : 552>

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|
| 1. 1年以上 (67.8%) | 2. 1年未満 (17.4%) | 無回答 (14.9%) |
|-----------------|-----------------|-------------|

問 12-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 552>

- | | |
|--|----------------------|
| 1. 公園 (15.8%) | 2. 遊歩道 (23.7%) |
| 3. 区有施設 (体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) (16.3%) | |
| 4. 高齢者施設 (高齢者会館等) (4.3%) | 5. 民間スポーツクラブ (28.8%) |
| 6. 屋外で自転車利用 (14.5%) | 7. その他 (25.9%) |
| 無回答 (3.3%) | |

(問12で「3」「4」に○をつけた方に)

問 12-3 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。

(○は1つ)

<回答者数 : 459>

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 時間がないから (32.9%) | 2. 機会がないから (12.6%) |
| 3. 施設や場所の利用時間帯が合わないから (3.9%) | 4. 施設や場所が近くにないから (3.7%) |
| 5. お金がかかるから (7.0%) | 6. 体力的に難しいから (8.3%) |
| 7. 運動することが好きではないから (11.5%) | 8. 一緒に運動する人がいないから (3.3%) |
| 9. 指導してくれる人がいないから (0.2%) | 10. 運動する必要を感じないから (4.8%) |
| 11. その他 (8.3%) | 無回答 (3.5%) |

(全員の方に)

問 13 あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. 身近でできるよう、施設数の増加 (35.8%) | |
| 2. 個人を対象とした区のスポーツ施設開放 (23.8%) | |
| 3. スポーツ施設への指導者の配置 (8.1%) | |
| 4. 体力測定運動処方等の健康指導 (14.1%) | |
| 5. 初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (20.9%) | |
| 6. 障害のある人が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実 (8.4%) | |
| 7. 高齢者が参加しやすいスポーツ教室行事やスポーツ行事の充実 (21.2%) | |
| 8. 利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化 (24.3%) | |
| 9. 利用時間帯の拡大(早朝、夜間等) (23.9%) | |
| 10. 利用案内等広報の充実 (20.1%) | |
| 11. アフタースポーツのための施設(シャワールーム等)の充実 (15.5%) | |
| 12. 高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 (14.4%) | |
| 13. 託児施設の充実 (7.3%) | |
| 14. その他 (5.9%) | |
| 15. 特にない (18.7%) | 無回答 (4.3%) |

(全員の方に)

問 14 積極的に体を動かすことを心がけていますか。(○は1つ) <回答者数：1,028>

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| 1. はい (67.1%) | 2. いいえ (31.1%) | 無回答 (1.8%) |
|---------------|----------------|------------|

(全員の方に)

問 15 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に対して、あなたはどのような形で関わりたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,028>

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| 1. 開会式、閉会式や競技を会場等で直接観戦・応援したい (32.0%) | |
| 2. テレビ等を通じて大会を観戦・応援したい (66.3%) | |
| 3. ボランティアや運営スタッフ等として協力したい (6.6%) | |
| 4. 「おもてなし」など地域での活動を通じて貢献したい (4.6%) | |
| 5. 仕事や学業等を通じて貢献したい (8.3%) | |
| 6. スポーツイベントや教室・講座等へ参加したい (4.5%) | |
| 7. その他 (1.4%) | |
| 8. 特に関わりたいたとは思わない (19.4%) | 無回答 (1.5%) |

(全員の方に)

問 16 パラリンピックや障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<回答者数：1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施 (46.0%) | |
| 2. パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施 (22.9%) | |
| 3. 障害者スポーツに関する展示会等の実施 (12.1%) | |
| 4. 区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動 (51.0%) | |
| 5. その他 (6.2%) | 無回答 (8.4%) |

(全員の方に)

問 17 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容をお選びください。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：1,028>

- | | |
|---|-------------|
| 1. 区内スポーツイベント等の専門ボランティア（審判、通訳、救護など） (9.9%) | |
| 2. 区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など） (27.3%) | |
| 3. イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など） (15.5%) | |
| 4. 区内スポーツ活動の指導者やコーチ (6.2%) | |
| 5. 区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア (25.4%) | |
| 6. その他 (14.4%) | 無回答 (24.3%) |

(全員の方に)

問 18 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

<回答者数：1,028>

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 1. 朝食を毎朝欠かさず食べる (64.1%) | |
| 2. 家族そろって食事をする (22.1%) | |
| 3. 栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている (56.6%) | |
| 4. 国産品や地場産品の購入に努めている (32.8%) | |
| 5. 食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている (53.5%) | |
| 6. 食の安全性を重視している (43.6%) | |
| 7. 手軽さ・利便性や値段の安さを重視している (26.1%) | |
| 8. 間食をしないようにしている (24.6%) | |
| 9. その他 (2.7%) | |
| 10. 特にない (5.0%) | 無回答 (1.0%) |

(全員の方に)

問 19 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. いつも気をつけて実践している (17.8%) | 2. 気をつけて実践している (48.6%) |
| 3. あまり気をつけて実践していない (25.1%) | 4. 全く気をつけて実践していない (5.6%) |
| 5. わからない (1.7%) | 無回答 (1.2%) |

(全員の方に)

問 20 あなたは、健康診断を受けていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 毎年受けている (73.0%) | 2. ときどき受けている (13.9%) |
| 3. ほとんど受けていない (12.1%) | 無回答 (1.1%) |

(問 20 で「1」「2」に○をつけた方に)

問 20-1 あなたは、健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 893>

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 職場や健康保険組合の健康診断 (50.4%) | 2. 区が実施する健康診断 (35.8%) |
| 3. 通学先で実施する健康診断 (1.7%) | 4. 人間ドック (10.2%) |
| 5. その他 (4.4%) | 無回答 (6.7%) |

問 20-2 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 893>

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 前回の結果と比較して健康状態を確かめた (76.1%) | |
| 2. 食事や運動等の生活習慣を見直した (21.7%) | |
| 3. 特定保健指導*を受けた (4.8%) | |
| 4. 医療機関に行って医師に相談した (23.0%) | |
| 5. すこやか福祉センターで病気や栄養について相談した (0.3%) | |
| 6. 家族や友人に結果を見せて相談した (10.2%) | |
| 7. 気になることがなかったので何もしなかった (14.1%) | |
| 8. 気になることがあったが何もしなかった (5.3%) | |
| 9. その他 (1.7%) | 無回答 (2.6%) |

*特定保健指導…メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の早期発見を目的とした健康診査(特定健診)の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

(問20で「3」に○をつけた方に)

問20-3 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
 <回答者数：124>

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1. 時間がないから (16.9%) | 2. 費用がかかるから (23.4%) |
| 3. 面倒だから (22.6%) | 4. 病気治療を継続しているから (23.4%) |
| 5. 健康診断を行っていることを知らなかったから (9.7%) | |
| 6. 健康診断を信用していないから (4.0%) | |
| 7. 悪い結果が出ると不安になるから (15.3%) | |
| 8. 健康なので必要性を感じないから (17.7%) | |
| 9. その他 (13.7%) | 無回答 (3.2%) |

(全員の方に)

問21 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(○は1つ)
 <回答者数：1,028>

- | | | |
|-------------------|----------------------|------------|
| 1. 決めている (47.1%) | 2. だいたい決めている (26.8%) | 無回答 (1.4%) |
| 3. 決めていない (24.7%) | | |

(問21で「1」「2」に○をつけた方に)

問21-1 あなたは、かかりつけの診療所(医院・クリニック)で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)
 <回答者数：760>

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 受けている (51.8%) | 2. 受けていない (45.4%) | 無回答 (2.8%) |
|------------------|-------------------|------------|

(全員の方に)

問22 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。(○は1つ)
 <回答者数：1,028>

- | | | |
|-------------------|----------------------|------------|
| 1. 決めている (53.2%) | 2. だいたい決めている (17.7%) | 無回答 (1.3%) |
| 3. 決めていない (27.8%) | | |

(問22で「1」「2」に○をつけた方に)

問22-1 あなたが、かかりつけの歯科診療所で受診している内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
 <回答者数：729>

- | | | |
|------------------|----------------------|------------|
| 1. 定期健診 (59.8%) | 2. 歯石除去・歯面清掃 (67.1%) | 無回答 (3.3%) |
| 3. 歯磨き指導 (17.1%) | 4. その他 (14.8%) | |

(全員の方に)

問 23 あなたは、自宅の近くで調剤をお願いしたり薬に関する相談をするかかりつけの薬局を決めていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 1. 決めている (35.2%) | 2. だいたい決めている (26.1%) |
| 3. 決めていない (35.3%) | 4. その他(院内処方) (2.4%) 無回答 (1.0%) |

(全員の方に)

問 24 あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 整っていると思う (22.1%) | 2. ほぼ整っていると思う (54.4%) |
| 3. 整っているとは思わない (19.9%) | 無回答 (3.6%) |

(全員の方に)

問 25 介護や病気での療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 整っていると思う (6.5%) | 2. ほぼ整っていると思う (43.4%) |
| 3. 整っているとは思わない (43.6%) | 無回答 (6.5%) |

(全員の方に)

問 26 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 可能な限り自宅や実家で過ごしたい (32.3%) | 2. 医療機関や施設に入院・入所したい (42.4%) |
| 3. わからない (22.1%) | 4. その他 (1.9%) 無回答 (1.3%) |

(問 26 で「2」に○をつけた方に)

問 26-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 436>

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. 医療機関や施設のほうが安心だから (61.7%) | 2. 家族に負担をかけるから (70.9%) |
| 3. 看護・介護をしてくれる家族がないから (25.9%) | 4. 住宅環境が整っていないから (19.0%) |
| 5. 急に病状が変わったときの対応に不安があるから (37.6%) | |
| 6. 自宅で受けられる医療サービス(往診してくれる医師や訪問看護等)に不安があるから (13.1%) | |
| 7. 自宅や実家での療養は、お金がかかるから (10.1%) | |
| 8. その他 (1.6%) | 無回答 (0.2%) |

(全員の方に)

問 27 「摂食・えん下障害」とはどのようなことか知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 知っている (36.0%) | 2. なんとなくはわかるが、よくは知らない (33.3%) |
| 3. 知らない (28.9%) | 無回答 (1.8%) |

(全員の方に)

問 28 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. かかりつけの診療所 (医院・クリニック) に相談する (45.1%) | |
| 2. 精神科等の専門医療機関に相談 (受診) する (57.5%) | |
| 3. 公的な相談窓口を利用する (17.7%) | |
| 4. 職場や学校の健康相談窓口を利用する (5.4%) | |
| 5. 友人や地域で活動する自主グループ、サークルの仲間に相談する (8.8%) | |
| 6. 相談することには抵抗を感じるので、相談はためられる (6.4%) | 無回答 (1.8%) |

(全員の方に)

問 29 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いませんか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. そう思う (15.6%) | 2. どちらかといえばそう思う (15.3%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない (16.0%) | 4. そう思わない (35.3%) |
| 5. わからない (15.8%) | 無回答 (2.1%) |

(全員の方に)

問 30 今後、どのような自殺対策が必要になると思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析 (30.2%) | |
| 2. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成 (19.1%) | |
| 3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い (25.8%) | |
| 4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置 (59.0%) | |
| 5. 自殺対策に関わる民間団体の支援 (17.2%) | |
| 6. 自殺に関する広報・啓発 (17.5%) | |
| 7. 子どもの自殺予防 (44.7%) | |
| 8. その他 (6.2%) | 無回答 (5.5%) |

(全員の方に)

問 31 あなたが、感染症の予防について考えたり、心がけていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|--|------------|
| 1. 感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている (57.0%) | |
| 2. 感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等を備蓄している (38.9%) | |
| 3. 感染症の流行時には外出を控えようと考えている (25.2%) | |
| 4. 感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている (73.3%) | |
| 5. 感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている (54.7%) | |
| 6. その他 (1.6%) | |
| 7. 特に考えたり、心がけていることはない (7.1%) | 無回答 (1.1%) |

(全員の方に)

問 32 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. 基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている (25.0%) | |
| 2. 基本5項目に加え、他の栄養成分も参考にしている (13.7%) | |
| 3. エネルギーのみを参考にしている (14.4%) | |
| 4. ナトリウムのみを参考にしている (2.8%) | |
| 5. 全く参考にしていない (41.8%) | 無回答 (2.2%) |

(全員の方に)

問 33 あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 関心があり、食中毒について十分理解している (12.3%) | |
| 2. 関心があり、食中毒についてある程度理解している (50.2%) | |
| 3. 関心はあるが、食中毒についてよくわかっていない (26.9%) | |
| 4. 食中毒について、特に気にしていない (9.0%) | 無回答 (1.6%) |

(全員の方に)

問 34 あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 1. 毎日吸っている (12.6%) | 2. ときどき吸う日がある (2.3%) |
| 3. 以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない (7.0%) | |
| 4. 吸わない (77.2%) | 無回答 (0.8%) |

(問 34 で「1」「2」に○をつけた方に)

問 34-1 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 154>

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 禁煙をしたい (26.6%) | 2. 吸う本数を減らしたい (32.5%) |
| 3. 現状通り喫煙を続けたい (26.6%) | 4. わからない (13.6%) |
| | 無回答 (0.6%) |

《制度等についておたずねします》

(全員の方に)

問 35 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 名前は知っている (20.0%) | 2. 内容も知っている (5.4%) |
| 3. 知らない (70.9%) | 無回答 (3.7%) |

(問 35 で「1」「2」に○をつけた方に)

問 35-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 261>

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報で見た (17.6%) | |
| 2. インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った (68.6%) | |
| 3. 講演会、イベントなどで聞いた (3.1%) | |
| 4. 職場で聞いた (14.6%) | |
| 5. 友人、知人等から聞いた (5.0%) | |
| 6. その他 (5.0%) | |
| 7. 覚えていない (4.6%) | 無回答 (0.8%) |

(全員の方に)

問 36 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報による啓発 (43.5%) | |
| 2. 区民向けの啓発活動 (51.2%) | |
| 3. 企業向けの啓発活動 (34.2%) | |
| 4. 障害のある人と交流するイベントや行事の開催 (35.3%) | |
| 5. その他 (5.0%) | 無回答 (7.5%) |

(全員の方に)

問 37 あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 1. ヘルプマークの意味を含めて知っている (40.8%) | |
| 2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない (23.7%) | |
| 3. 知らない (32.0%) | 無回答 (3.5%) |

ヘルプマーク



(全員の方に)

問 38 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---|------------|
| 1. 介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている (12.1%) | |
| 2. 利用の仕方をだいたい知っている (20.2%) | |
| 3. 利用の仕方をあまり知らない (29.2%) | |
| 4. 利用の仕方を全く知らない (35.8%) | 無回答 (2.7%) |

(全員の方に)

問 39 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 認知症の症状や基本的な対応方法を知っている (27.6%) | |
| 2. 認知症の症状について聞いたことがある (46.2%) | |
| 3. 言葉は聞いたことがあるが、わからないことが多い (19.6%) | |
| 4. 知らない (3.7%) | 無回答 (2.9%) |

(全員の方に)

問 40 「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1. 知っている (17.0%) | |
| 2. だいたい知っている (20.4%) | |
| 3. 一部知っているが、わからない内容も多い (26.4%) | |
| 4. ほとんど知らない (33.5%) | 無回答 (2.7%) |

《相談窓口についておたずねします》

(全員の方に)

問 41 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。

(1) すこやか福祉センター (○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 身近に感じる (14.1%) | 2. 身近に感じない (39.1%) |
| 3. わからない (45.4%) | 無回答 (1.4%) |

(2) 地域包括支援センター (○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 身近に感じる (15.3%) | 2. 身近に感じない (39.0%) |
| 3. わからない (44.4%) | 無回答 (1.4%) |

(3) 区民活動センター (○は1つ) <回答者数 : 1,028>

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 身近に感じる (19.4%) | 2. 身近に感じない (36.5%) |
| 3. わからない (42.7%) | 無回答 (1.5%) |

(全員の方に)

問 42 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,028>

- | | |
|---------------------------------|------------|
| 1. 知っている (相談窓口の場所も知っている) (3.6%) | |
| 2. 知っている (相談窓口の場所は知らない) (30.9%) | |
| 3. 知らない (64.9%) | 無回答 (0.6%) |

《その他》

(全員の方に)

問 43 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

令和元年度（2019 年度）
健康福祉に関する意識調査
報告書

発行日／令和元年（2019 年）9 月

印刷登録番号／31 中健福第 1071 号

発行／中野区健康福祉部福祉推進課 健康福祉企画係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-5421（直通）

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1 富澤ビル 7 F

電話 03-3357-7181（代表）